

つ く ば 市

島名本田遺跡3

島名・福田坪一体型特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXX

上 巻

令 和 7 年 3 月

茨 城 県
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第476集

つくば市

しまなほんでん

島名本田遺跡3

島名・福田坪一体型特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXX

上巻

令和7年3月

茨城県
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者からの委託を受けて埋蔵文化財の調査と整理事業を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の調査を実施し、その成果として調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県土浦土木事務所つくば支所による島名・福田一体型特定土地区画整理事業に伴って実施した、つくば市島名本田遺跡の調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、縄文時代から江戸時代にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡、井戸跡、区画溝、土坑墓などが多数確認でき、集落跡と墓域の一端が明らかになりました。特に、室町時代から江戸時代の屋敷跡の広がりを明確にでき、当時の集落構造を解明する上で貴重な資料となりました。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として、広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県土浦土木事務所つくば支所に対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和7年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 森 作 宜 民

例 言

1 本書は、茨城県の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成23・29～31年度、令和2年度に調査を実施した、茨城県つくば市鳥名字本田1092番地ほかに所在する鳥名本田遺跡（しりあきほんでん）の調査報告書である。

2 調査期間と整理期間は以下のとおりである。

調査	平成23年9月1日～3月31日	平成31年4月1日～令和元年11月30日
	平成29年4月1日～9月30日	令和2年4月1日～5月31日、7月1日～8月31日
	平成30年4月1日～平成31年3月31日	
整理	令和5年1月1日～3月31日	令和6年4月1日～令和7年3月31日
	令和5年4月1日～令和6年3月31日	

3 調査は、平成23年度が調査課長櫻村宣行、平成29～31年度は副参事兼調査課長白田正子、令和2年度は調査課長酒井雄一のもと、以下の者が担当した。

平成23年度		
首席調査員兼班長	稲田義弘	主任調査員 兼子博史 平成23年10月1日～平成24年3月31日
首席調査員	荒蒔克一郎 平成23年9月1日～30日	
主任調査員	櫻井完介 平成23年9月1日～30日	副主任調査員 清水哲
平成29年度		
首席調査員兼班長	奥沢哲也	調査員 矢ノ倉正男 平成29年4月1日～6月30日
次席調査員	塙厚宜	調査員 近江屋成陽 平成29年7月1日～9月30日
平成30年度		
首席調査員兼班長	駒沢悦郎	調査員 根本佑 平成30年10月1日～3月31日
首席調査員	獅子内一成 平成31年2月1日～3月31日	調査員 笠原佳真 平成30年4月1日～7月31日
次席調査員	江原美奈子 平成30年4月1日～7月31日	調査員 皆川貴之 平成31年2月1日～3月31日
	平成31年2月1日～28日	調査員 見越広幸 平成31年3月1日～31日
次席調査員	大武宣隆 平成30年8月1日～3月31日	嘱託調査員 仙波亨 平成30年9月1日～30日
調査員	萩原宏季	
平成31年度（令和元年度）		
首席調査員兼班長	櫻井完介	調査員 倉橋裕真 平成31年4月1日～30日
次席調査員	野内智一郎	調査員 近藤洋 令和元年8月1日～11月30日
令和2年度		
首席調査員兼班長	塙厚宜	調査員 荒井保雄 令和2年8月1日～8月31日
次席調査員	田村雅樹	調査員 植木貴志 令和2年4月1日～5月31日
		令和2年7月1日～7月31日

- 4 整理と本書の執筆・編集は、令和4・5年度が整理課長本橋弘巳、令和6年度が整理課長櫻井完介のもと、以下の者が担当した。

次席調査員	田村雅樹	令和5年4月1日～令和7年3月31日
次席調査員	江原美奈子	令和5年4月1日～8月31日
次席調査員	柳瀬彬	令和5年4月1日～5月31日
調査員	近江屋成陽	令和5年1月1日～3月31日、令和5年10月1日～10月31日
調査員	植木貴志	令和5年9月1日～9月30日
調査員	根本佑	令和5年10月1日～10月31日
調査員	市毛美津子	令和5年11月1日～11月30日、令和6年1月1日～3月31日
調査員	天野早苗	令和6年4月1日～4月30日
調査員	櫻井明理	令和6年7月1日～8月31日

- 5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

次席調査員	田村雅樹	第3章第3節3(2)・4(3)～(6)・(8)・03・5(4) 第4章
次席調査員	江原美奈子	第3章第3節1・2(1)(2)・3(1)(5)・4(1)(2)(3)・5(1)(2)(3)
次席調査員	柳瀬彬	第3章第3節3(5)・403
調査員	近江屋成陽	第1章～第3章第2節・第3節3(1)・(4)・4(1)～(3)(6)～(8)(3)・5(2)(3)
調査員	根本佑	第3章第3節403
調査員	植木貴志	第3章第3節403
調査員	市毛美津子	第3章第3節403
調査員	天野早苗	第3節40002
調査員	櫻井明理	第3節3(3)・4(9)(0004)

- 6 本書の作成にあたり、木製品の保存処理と樹種同定、金属製品の保存処理、植物遺体の同定は、株式会社吉田生物研究所に委託した。銭貨の剥離作業と保存処理は、株式会社イビソクに委託した。出土人骨の分析は、国立科学博物館人類研究部の中山なな氏、梶ヶ山真里氏、坂上和弘氏に委託した。樹種同定と植物遺体の同定、出土人骨の分析結果については付章で掲載した。また、室町時代から江戸時代の集落跡や屋敷跡については、葛飾区郷土と天文の博物館学芸員永越信吾氏にご教示をいただいた。

- 7 当遺跡の出土遺物と実測図・写真などは、茨城県埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、X = + 7,160 m、Y = + 20,080 mの交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

この基準点を基に県遺跡地図(2022)に基づく、遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」のように呼称した。

- 2 実測図、遺構・遺物一覧などで使用した記号は次のとおりである。

遺構 FP - 炉跡 HT - 方形竪穴遺構 P - ビット PG - ビット群 SA - 柱穴列 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡・堀跡 SE - 井戸跡 SF - 道路跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 TP - 陥し穴 UP - 地下式坑
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

道路跡・焼土・赤彩・施釉陶器・溶解ガラス化 火床面・炉床面・黒色処理・赤漆・茶漆
竪穴材・粘土・炭化材・炭化物・黒漆 整地遺構・柱痕跡・柱あたり・煤・油煙・金泥 須恵器断面
● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 ■ 瓦 ▲ 木製品 - - - - 硬化面

- 4 土層解説と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物の量、粘性・締まりの表示は、次のとおりである。

ローム・ロームブロック 焼土・焼土ブロック 粘土・粘土ブロック

A - 多量 B - 中量 C - 少量 D - 微量 O' - 極めて

サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

粘・粘性 締・締まり

A - 強い B - 普通 C - 弱い O' - 極めて

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、現存値は()を、推定値は[]を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、遺物一覧、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号とその他必要と思われる事項を記した。

- 6 遺構の「主軸」は、長軸(径)を通る軸線とし、主軸方向は、軸線が堰標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

- 7 本書の作成にあたり、遺構名を変更、欠番にしたものは、以下のとおりである。

変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後
SG30	→ 欠番	SR21P9	→ SR21P 6	PG19P218	→ SR21P10B	SR22P 4	→ SR22P 2	SR22P 2	→ SR22P 8
SR21P 4	→ SR21P 1	SR21P10	→ SR21P 7	SR21P 1	→ SR21P11A	SR22P 5	→ SR22P 3	SR23P 5	→ SR23P 1
SR21P 5	→ SR21P 2	SR21P11	→ SR21P 8	SR19P124	→ SR21P11B	SR22P 6	→ SR22P 4	SR23P 6	→ SR23P 2
SR21P 6	→ SR21P 3	SR21P12	→ SR21P 9A	SR19P41	→ SR21P12	SR22P 7	→ SR22P 5	SR23P 7	→ SR23P 3
SR21P 7	→ SR21P 4	PG19P37	→ SR21P 9B	SR21P 3	→ SR21P13	SR22P 8	→ SR22P 6	SR23P 8	→ SR23P 4
PG19P89	→ SR21P 5	SR21P13	→ SR21P10A	SR22P 3	→ SR22P 1	SR22P 1	→ SR22P 7	SR23P 9	→ SR23P 5

変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後
SE32P10	→ SE32P 6	SB31P14	→ SB31P 3	PG47P465	→ SE32P33	SK2540	→ SE32P 9	SD26	→ SD12
SE32P11	→ 欠番	SB31P12	→ SB31P 4	PG47P253	→ SE32P34	SK2669	→ SE32P10	SD27	→ SD22
SE32P12	→ SE32P 7	SB31P13	→ SB31P 5	PG47P252	→ SE32P35	SK2325	→ SE32P11	SD30	→ SE323
SE32P13	→ SE32P 8	SB31P11	→ SB31P 6	PG47P464	→ SE32P36	SK38P 1	→ SE38P 1	SD63	→ SD63A・ SD63B
SE32P14	→ SE32P 9	SB31P10	→ SB31P 7	PG47P36	→ SE32P37	SK38P 2	→ SE38P 2	SD69	→ SD70
SE32P15	→ SE32P10	SB31P 9	→ SB31P 8	PG47P347	→ SE32P38	SK38P 3	→ SE38P 3	SD70	→ SD69
SE32P 1	→ SE32P11	SB31P 6	→ SB31P 9	PG47P230	→ SE32P39	SK38P 5	→ SE38P 4	SD81	→ SD81A・ SD81B
SE32P 2	→ SE32P12	SB31P 1	→ SB31P10	PG47P465	→ SE32P40	SK38P 6	→ SE38P 5	SD86	→ SD86A・ SD86B
SE32P 3	→ SE32P13	SB31P 2	→ SB31P11	SK32P 4	→ SE32P41	SK38P 7	→ SE38P 6	SD87	→ SD73
SE32P 4	→ SE32P14	PG38P44	→ SB31P12	SK32P 5	→ SE32P42	SK38P 8	→ SE38P 7	SD89	→ SD69
SE24P 5	→ SE34P 1	PG38P187	→ SB31P13	SK32P 6	→ SE32P43	SK38P 9	→ SE38P 8	SD94	→ 欠番
SE24P 6	→ SE34P 2	PG38P63	→ SB31P14	PG47P157	→ SE32P44	SK38P10	→ SE38P 9	SD96	→ SD96A・ SD96B
SE24P 7	→ SE34P 3	PG38P65	→ SB31P15	PG47P255	→ SE32P45	SK39	→ 欠番	SD107	→ SD107A・ SD107B
SE24P 8	→ SE34P 4	PG38P50	→ SB31P16	SK33P 5	→ SE33P 1	SB40P 1	→ SB40P 1	SD119	→ SD96A・B
SE24P 9	→ SE34P 5	PG38P99	→ SB31P17	SK33P13	→ SE33P 2	SB40P 7	→ SB40P 2	SD120	→ 欠番
SE34P10	→ SE34P 6	PG38P97	→ SB31P18	SK33P18	→ SE33P 3	SB41P 2	→ SB40P 3	SD157	→ 第6号 整理通帳
SE24P11	→ SE34P 7	PG38P98	→ SB31P19	SK33P23	→ SE33P 4	SB42P 6	→ SB40P 4	SD161	→ SD161A・ SD161B
SE24P12	→ SE34P 8	PG38P24	→ SB31P20	SK33P21	→ SE33P 5	SB43P 3	→ SB40P 5	SD162	→ SD162A・ SD162B
SE24P 1	→ SE34P 9	PG38P140	→ SB31P21	SK33P19	→ SE33P 6	SB44P 8	→ SB40P 6	SD164	→ SD149
SE34P 2	→ SE34P10	PG38P57	→ SB31P22	SK33P14	→ SE33P 7	SB45P 4	→ SB40P 7	SD165	→ SD300
SE24P 3	→ SE34P11	PG38P107 108	→ SB31P23	SK33P 9	→ SE33P 8	SK46P 5	→ SB40P 8	SD167	→ 欠番
SE24P 4	→ SE34P12	PG38P 1	→ SB31P24	SK33P 3	→ SE33P 9	HT10	→ SK1221	SD168	→ SD149
SE25P 1	→ PG20P487	PG38P101 102	→ SB31P25	SK33P 4	→ SE33P10	HT11	→ SK1374	SD175	→ SD190
SE25P 2	→ PG20P488	PG38P340	→ SB31P26	SK33P11	→ SE33P11	HT12	→ HT12A・B	SD176	→ SD63A
SE25P 3	→ PG20P489	PG38P341	→ SB31P27	SK33P16	→ SE33P12	HT15	→ SK2160	SD179	→ SD63A
SE25P 4	→ PG20P490	PG38P25	→ SB31P28	PG44P122	→ SE33P13	HT16	→ SK1344	SD182	→ SD63A
SE25P 5	→ PG20P491	PG38P 6 21	→ SB31P29	PG41P23	→ SE34P 2	HT17	→ SK2952	SD183	→ 第3号 整理通帳
SE25P 6	→ PG20P492	PG38P45	→ SB31P30	PG41P172	→ SE34P 3	HT18	→ SK2951	SD184	→ SD63A
SE25P 7	→ PG20P505	PG47P217	→ SE32P 1	PG41P37	→ SE34P 4	HT19	→ SK2217	SD186	→ SD63A
SE25P 8	→ PG20P506	PG47P159	→ SE32P 2	PG41P54	→ SE34P 5	HT21	→ SK2950	SD187	→ SD187A・ SD187B
SE25P 9	→ PG20P507	SK32P18	→ SE32P 3	PG41P355	→ SE34P 6	HT22	→ SK2227	SD188	→ SK1702
SE25P10	→ PG20P496	SK32P42	→ SE32P 5	PG41P231	→ SE34P 7	HT24	→ SK2949	SD197	→ SD185
SE25P11	→ PG20P497	SK32P43	→ SE32P 6	PG41P164	→ SE34P 8	HT25	→ SK2159	SD205	→ SD68
PG19P257	→ SB36P 1	SK32P43	→ SE32P 6	PG41P127	→ SE34P 9	HT26	→ SK2234	SD207	→ SK2953
SE26P 4	→ SE36P 2	PG47P21	→ SE32P 7	PG41P40	→ SE34P10	HT27	→ SK2238	SD210	→ SD80
SE26P 5	→ SE36P 3	PG47P207	→ SE32P 8	PG47P313	→ SE32P 1	HT28	→ SK2239	SD226	→ SD217
SE26P 6	→ SE36P 4	PG47P486	→ SE32P 9	PG47P78	→ SE32P 2	HT29	→ SK2240	SD230	→ SD225
SE26P 7	→ SE36P 5	PG47P424	→ SE32P10	PG47P19	→ SE32P 3	HT30	→ SK2241	SD231	→ SD225
SK1066	→ SE36P 6	PG47P131	→ SE32P11	PG47P26	→ SE32P 4	HT37	→ SK2874	SD234	→ 第6号 整理通帳
SE26P 8	→ SE36P 7	PG47P42	→ SE32P12	PG47P 4	→ SE32P 5	UP13	→ SK2947	SD237	→ 第6号 整理通帳
SE36P 9	→ SE36P 8	PG47P213	→ SE32P13	PG47P 8	→ SE32P 6	UP16	→ SK2906・ 2908・2943	SD242	→ SD162A
SE36P10	→ SE36P 9	PG47P209	→ SE32P14	PG47P32	→ SE32P 7	UP18	→ SK2145	SD265	→ SD166
SE36P11	→ 欠番	PG47P186	→ SE32P15	PG47P 2	→ SE32P 8	UP22	→ SK2940・ 2941	SD287	→ 欠番
SE36P12	→ SE36P10	PG47P185	→ SE32P16	SK36P11	→ SE36P 1	UP23	→ SK2907・ 2909	SD288	→ 欠番
SE36P13	→ SE36P11	PG47P184	→ SE32P17	SK36P 2	→ SE36P 2	UP24	→ SK2945・ 2946	SD295	→ SD166
SE36P 2	→ SE36P12	SK32P 3	→ SE32P18	SK36P 3	→ SE36P 4	UX 7	→ SK2944	PG44P51	→ SA 7 P 1
SE36P 3	→ 欠番	PG47P489	→ SE32P19	SK36P 4	→ SE36P 5	UX11	→ 欠番	PG44P52	→ SA 7 P 2
SE37P 1	→ SE37P 4	PG47P490	→ SE32P20	SK36P 7	→ SE36P 8	UX12	→ 第7号 整理通帳	PG44P78	→ SA 7 P 3
SE37P 2	→ SE37P 5	PG47P349	→ SE32P21	SK36P 8	→ SE36P 9	UX13	→ 第4号 整理通帳	PG44P161	→ SA 7 P 4
SE37P 3	→ SE37P 6	PG47P446	→ SE32P22	SK36P 9	→ SE36P10	UX14	→ 欠番	FP 3	→ FP 3 A・B
SE37P 4	→ SE37P 7	PG47P445	→ SE32P23	SK36P10	→ SE36P11	UX15	→ 欠番	FP 5	→ 欠番
SE37P 5	→ SE37P 8	PG47P413	→ SE32P24	SK2320	→ SE37P 1	UX16	→ SE37P 1	FP 6	→ 欠番
SE37P 6	→ SE37P 9	PG47P415	→ SE32P25	SK2399	→ SE37P 2	SE30	→ SK2862	FP 7	→ 欠番
SE37P 7	→ SE37P10	PG47P220	→ SE32P26	SK2222	→ SE37P 3	SE116	→ SE224	FP11	→ 欠番
SE37P 8	→ SE37P 1	PG47P484	→ SE32P28	SK2668	→ SE37P 4	SE196	→ SK2244	FP12	→ 欠番
SE37P 9	→ SE37P 2	PG47P460	→ SE32P29	SK2456	→ SE37P 5	SF 8	→ 欠番	FP13	→ 欠番
SE37P10	→ SE37P 3	PG47P61	→ SE32P30	SK2457	→ SE37P 6	SF 9	→ 欠番	FP14	→ 欠番
SB31P 6	→ SB31P 1	PG47P423	→ SE32P31	SK2453	→ SE37P 7	SF10	→ 欠番	SK791	→ SK794
SB31P 8	→ SB31P 2	PG47P496	→ SE32P32	SK2693	→ SE37P 8	SF14	→ SD66	SK801	→ SK799

SK809 → SK807	SK2536 → SA19P 5	SD63AP 4 → PG41P419	PG46P31 → PG47P534	PG47P463 → PG48P28
SK811 → SK817	SK2537 → SA19P 4	SD63AP 5 → PG41P420	PG46P32 → PG47P535	PG48P75 → 欠番
SK815 → 欠番	SK2603 → SA18P 2	PG41P228 → PG42P44	PG46P33 → PG47P536	PG48P76 → 欠番
SK818 → SK838	SK2702 → 欠番	PG41P229 → PG42P45	PG46P34 → PG47P537	PG41P431 → PG53P19
SK824 → 欠番	SK2766 → 第30号 土坑掘	PG41P238 → PG42P46	PG46P35 → PG47P538	PG41P432 → PG53P20
SK836 → SK835	SK2767 → 第31号 土坑掘	PG41P239 → PG42P47	PG46P36 → PG47P539	PG41P433 → PG53P21
SK844 → 欠番	SK2768 → 第32号 土坑掘	PG41P240 → PG42P48	PG46P37 → PG47P540	PG41P434 → PG53P22
SK850 → 欠番	SK2769 → 第33号 土坑掘	PG41P241 → PG42P49	PG46P38 → PG47P541	PG41P435 → PG53P23
SK863 → SK849	SK2770 → 第34号 土坑掘	PG41P242 → PG42P50	PG46P39 → PG47P542	PG41P436 → PG53P24
SK873 → SE38	SK2771 → 第35号 土坑掘	PG41P243 → PG42P51	PG46P40 → PG47P543	PG41P437 → PG53P25
SK889 → SK880	SK2853 → 第36号 土坑掘	PG41P244 → PG42P52	PG46P41 → PG47P544	PG41P438 → PG53P26
SK1222 → SK1378	SK2790 → 第37号 土坑掘	PG41P104 → PG42P53	PG46P42 → PG47P545	PG41P439 → PG53P27
SK1247 → 第1号 大巻地掘	SK2836 → PG27P 8	PG41P304 → PG42P54	PG46P43 → PG47P546	PG41P440 → PG53P28
SK1291 → SK1374	SK2853 → 第38号 土坑掘	PG41P305 → PG42P55	PG46P44 → PG47P547	PG41P441 → PG53P29
SK1329 → 欠番	SK2913 → 欠番	PG41P391 → PG42P56	PG46P45 → PG47P548	PG41P442 → PG53P30
SK1360 → 欠番	SK2941 → UP26	PG41P392 → PG42P57	PG46P46 → PG47P549	PG53P29 → 欠番
SK1376 → 欠番	SK2942 → UP26	PG41P393 → PG42P58	PG46P47 → PG47P550	PG75 → 欠番
SK1393 → 欠番	SK2955 → FP13	PG41P394 → PG42P59	PG46P48 → PG47P551	
SK1395 → SK1394	PG 7 → PG29	PG41P395 → PG42P60	PG46P49 → PG47P552	
SK1399 → 欠番	PG 9 → PG80	PG41P397 → PG42P61	PG46P50 → PG47P553	
SK1414 → SK1415	PG16P 1 → PG14P151	PG41P398 → PG42P62	PG46P51 → PG47P554	
SK1425 → SK1401	PG16P 2 → PG14P152	PG41P399 → PG42P63	PG46P52 → PG47P555	
SK1450 → SK1415	PG16P 3 → PG14P153	PG41P400 → PG42P64	PG46P53 → PG47P556	
SK1452 → 欠番	PG16P 4 → PG14P154	PG41P401 → PG42P65	PG46P54 → PG47P557	
SK1453 → 欠番	PG16P 5 → PG14P155	PG41P402 → PG42P66	PG46P55 → PG47P558	
SK1454 → SK1454A B	PG16P 6 → PG14P156	PG41P403 → PG42P67	PG46P56 → PG47P559	
SK1485 → PG32P51	PG16P 7 → PG14P157	PG41P405 → PG42P69	PG46P57 → PG47P560	
SK1505 → SI 116P5	PG18 → 欠番	PG41P408 → PG42P70	PG46P58 → PG47P561	
SK1506 → SI 116P4	SD180P27 → PG39P25	PG41P252 → PG42P71	PG46P59 → PG47P562	
SK1521 → SI 116P3	SD180P 1 → PG39P34	PG41P403 → PG42P72	PG46P60 → PG47P563	
SK1539 → 欠番	SD180P 2 → PG39P35	PG46P 1 → PG47P564	PG46P61 → PG47P564	
SK1627 → 欠番	SD180P 3 → PG39P36	PG46P 2 → PG47P565	PG46P62 → PG47P565	
SK1660 → FP14	SD180P 4 → PG39P37	PG46P 3 → PG47P566	PG46P63 → PG47P566	
SK1671 → 欠番	SD180P 5 → PG39P38	PG46P 4 → PG47P567	PG46P64 → PG47P567	
SK1672 → SD178	SD180P 6 → PG39P39	PG46P 5 → PG47P568	PG46P65 → PG47P568	
SK1678 → 欠番	SD180P 7 → PG39P40	PG46P 6 → PG47P569	PG46P66 → PG47P569	
SK1748 → PG41P128	SD180P 8 → PG39P42	PG46P 7 → PG47P570	PG46P67 → PG47P570	
SK1870 → 欠番	SD180P 9 → PG39P47	PG46P 8 → PG47P571	PG46P68 → PG47P571	
SK1885 → 欠番	SD180P10 → PG39P48	PG46P 9 → PG47P572	PG46P69 → PG47P572	
SK1886 → 欠番	SD180P11 → PG39P49	PG46P10 → PG47P573	PG46P70 → PG47P573	
SK1901 → 欠番	SD180P12 → PG39P50	PG46P11 → PG47P574	PG46P71 → PG47P574	
SK1911 → 欠番	SD180P13 → PG39P51	PG46P12 → PG47P575	PG46P72 → PG47P575	
SK1933 → SD196	SD180P14 → PG39P52	PG46P13 → PG47P576	PG46P73 → PG47P576	
SK1936 → SD196	SD180P15 → PG39P53	PG46P14 → PG47P577	PG46P74 → PG47P577	
SK1938 → SD196	SD180P16 → PG39P54	PG46P15 → PG47P578	PG46P75 → PG47P578	
SK1940 → SD196	SD180P17 → PG39P55	PG46P16 → PG47P579	PG46P76 → PG47P579	
SK1945 → PG41P410	SD180P18 → PG39P56	PG46P17 → PG47P580	PG46P77 → PG47P580	
SK1950 → 欠番	SD180P19 → PG39P57	PG46P18 → PG47P581	PG46P78 → PG47P581	
SK2005 → SK2003	SD180P20 → PG39P58	PG46P19 → PG47P582	PG46P79 → PG47P582	
SK2025 → 欠番	SD180P21 → PG39P59	PG46P20 → PG47P583	PG46P80 → PG47P583	
SK2037 → 欠番	SD180P22 → PG39P60	PG46P21 → PG47P584	PG46P81 → PG47P584	
SK2054 → 欠番	SD180P23 → PG39P61	PG46P22 → PG47P585	PG47P369 → PG48P116	
SK2162 → SK1344	SD180P24 → PG39P62	PG46P23 → PG47P586	PG47P381 → PG48P118	
SK2232 → SD38P 2	SD180P25 → PG39P63	PG46P24 → PG47P587	PG47P384 → PG48P119	
SK2285 → PG33P19	SD180P26 → PG39P64	PG46P25 → PG47P588	PG47P385 → PG48P120	
SK2287 → PG41P425	SD63AP28 → PG39P64	PG46P26 → PG47P589	PG37P386 → PG48P121	
SK2291 → 欠番	SD63AP 1 → PG41P416	PG46P27 → PG47P590	PG37P389 → PG48P122	
SK2299 → PG41P426	SD63AP 2 → PG41P417	PG46P28 → PG47P591	PG37P390 → PG48P123	
SK2450 → SA18P 1	SD63AP 3 → PG41P418	PG46P29 → PG47P592	PG47P461 → PG48P26	
SK2525 → SA19P 6		PG46P30 → PG47P593	PG47P462 → PG48P27	

目 次

- 上巻 -

序

例 言

凡 例

目 次

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	2
第2章 位置と環境	3
第1節 位置と地形	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
(1) 堅穴建物跡	11
(2) 陥し穴	12
2 古墳時代の遺構と遺物	13
(1) 堅穴建物跡	13
(2) 土 坑	33
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	36
(1) 堅穴建物跡	36
(2) 井戸跡	60
(3) 道路跡	64
(4) 溝 跡	66
(5) 土 坑	67
4 室町時代から江戸時代の遺構と遺物	76
(1) 掘立柱建物跡	76
(2) 方形堅穴遺構	104
(3) 地下式坑	115
(4) 段切状遺構	137
(5) 整地遺構	139
(6) 井戸跡	143
(7) 道路跡	282

—中巻—

(8) 溝跡・堀跡	285
(9) 柱穴列	418
(10) 炬跡	423
(11) 土坑墓	427
(12) 火葬施設	449
(13) 土坑	452

—下巻—

(14) ビット群	649
5 時期不明の遺構と遺物	734
(1) 竪穴建物跡	734
(2) 井戸跡	735
(3) 土 坑	737
(4) 遺構外出土遺物	743
第4章 総 括	745
付 章	763
写真図版	PL 1～100
抄 録	
付 図	

第1章 調 査 経 緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長あてに鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取扱いについて照会した。これを受けて、茨城県教育委員会は、平成6年9月19日から27日に現地踏査を、平成21年12月15・16日、平成22年8月10・11日、9月1日、11月17日、平成27年11月10・11日、12月25日、平成28年11月29日と令和元年12月3日、茨城県教育委員会は試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成22年12月28日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県つくばまづくりセンター長あてに、事業地内に鳥名本田遺跡が所在すること、その取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成28年1月29日と平成29年1月4日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、事業地内に鳥名本田遺跡が所在すること、その取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

令和2年1月14日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所つくば支所長あてに、事業地内に鳥名本田遺跡が所在すること、その取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成23年2月14日、茨城県つくばまづくりセンター長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成23年3月1日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県つくばまづくりセンター長あてに、現状保存が困難であることから記録保存のための調査が必要であると決定し、工事着手前に調査を実施するように通知した。

平成28年1月29日と平成30年2月27日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成28年2月3日と平成30年2月27日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、現状保存が困難であることから記録保存のための調査が必要であると決定し、工事着手前に調査を実施するように通知した。

平成23年7月21日、平成29年2月27日、平成30年2月28日、平成31年2月22日、令和2年1月29日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係わる埋蔵文化財調査の実施について協議書を提出した。平成23年7月21日の変更協議時と平成29年2月28日、平成30年2月28日、平成31年2月25日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、鳥名本田遺跡について、発掘調査の範囲とその面積などについて回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団（平成23年度まで財団法人茨城県教育財団）を紹介した。平成2年2月26日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所つくば支所長あてに、鳥名本田遺跡について、発掘調査の範囲とその面積などについて回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財調査事業について委託を受け、平成23年9月1日から平成24年3月31日まで調査を実施した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財調査事業について委託を受け、平成29年4月1日から9月30日、平成30年4月1日から平成31年3月31日、平成31年4月1日から令和元年11月30日、令和2年4月1日から5月31日と7月1日から8月31日まで調査を実施した。

第2節 調 査 経 過

鳥名本田遺跡の調査は、平成23年9月1日から3月31日までの7か月間、平成29年4月1日から9月30日までの6か月間、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの7か月間、平成31年4月1日から令和元年11月30日までの8か月間、令和2年4月1日から5月31日までの2か月間と7月1日から8月31日までの2か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成23年度

工程	期間	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除却 遺構確認		■	■					
遺構調査		■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注写真整理		■	■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収								■

平成29年度

工程	期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月
調査準備 表土除却 遺構確認		■					
遺構調査		■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注写真整理			■	■	■	■	■
補足調査 撤収							■

平成30年度

工程	期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除却 遺構確認		■	■	■									
遺構調査			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注写真整理			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収													■

平成31年度

工程	期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
調査準備 表土除却 遺構確認		■	■	■			■		
遺構調査			■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注写真整理			■	■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収									■

令和2年度

工程	期間	4月	5月	6月	7月	8月
調査準備 表土除却 遺構確認		■	■		■	
遺構調査			■	■	■	■
遺物洗浄 注写真整理			■	■	■	■
補足調査 撤収						■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

鳥名本田遺跡は、茨城県つくば市鳥名字本田 1092 番地ほかに所在している。

つくば市は、筑波山を北端として、その南東へ延びる標高 20～25 m の平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦へ流入する桜川、西は利根川に合流する小貝川によって区切られている。両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、谷田川、西谷田川などの中小河川が北から南に向かって流れているため、台地は複雑に開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は、貝化石を含む海成層の成田層を基盤として、さらにその上に黄褐色砂や黄褐色荒沙層である竜ヶ崎層、さらに灰白色の粘土層である常総粘土層、そして表土下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

つくば市南西部の鳥名地区は、谷田川と西谷田川に開析された、狭長な台地上の中央部に位置している。当遺跡は、谷田川から延びた谷津に面した標高 20～23 m の台地に立地し、遺跡の範囲は南北約 500 m、南西約 250 m である。

第2節 歴史的環境

鳥名本田遺跡周辺の台地には、縄文時代から近世にかけての遺跡が数多く存在している²⁾。特に谷田川・西谷田川流域の遺跡のうち、旧石器時代から古代の遺跡については、『鳥名本田遺跡』(茨城県教育財団文化財調査報告第 454 集)³⁾の中で触れているので、ここでは中・近世の遺跡について概観してみたい。

鳥名地区周辺は、平安時代末期に八条院領として立荘された田中荘に組み込まれ、鎌倉時代以降は小田氏の支配下となる。鎌倉時代から戦国時代まで小田氏の居城となった小田城跡は、筑波山地南端の宝鏡山南裾、桜川左岸低地内より 1.5 m ほど高い段丘上に位置している⁴⁾。3 重の堀と曲輪が良好に残る平城で、昭和 10 年に国の史跡に指定されている。室町時代には小田氏支配下の平井出氏が「面野井城」(28)を構えて、当地域を治めたと言われている。鳥名本田遺跡は、5 世紀中葉から集落が営まれはじめ、8 世紀前葉にピークを迎える。その後は集落規模を縮小しながら 10 世紀中葉まで継続するが、それ以降は土器焼成遺構などのわずかな遺構が確認できるのみで、集落的には一度衰退する⁵⁾。

この流れは谷を挟んで東に対峙し、嶋名郷で公的な役割を果たしたと考えられる鳥名熊の山遺跡(2)でも概ね同様で、集落規模を縮小しながら 11 世紀代まで集落が営まれている。永仁五年(1297 年)には当遺跡の谷を挟んだ東方に妙徳寺が開山する。鳥名熊の山遺跡では、妙徳寺のある台地西側を中心に、中・近世の遺構が数多く確認されている。当遺跡と同様に溝や堀によって小区画がなされているが、特筆されるのは 13 世紀末から 14 世紀初頭の梵鐘製造遺構や、15 世紀後半の土塁を伴う方形区画である。方形区画は幅 3.5 m の薬研堀で囲まれた方半町(一辺約 60 m)の区画で、内部に建物跡などは確認できなかったが、中世の中心的な屋敷跡である可能性がある。また、妙徳寺正面から延びる 16 世紀代の参道と推定される側溝跡があり、この周辺では墓域が形成されている⁶⁾。当遺跡と鳥名熊の山遺跡は、古墳時代以降から近世に至るまで、谷を挟んで

関連し合う道跡として捉えられる。

関東地方では、13 世紀から 14 世紀にかけて、複数の居住区画が集合する集落跡が見られるようになり、つくば市域でも多くの集落跡が確認されている。当道跡から南東約 1 km に位置する鳥名前野東道跡〈8〉では、方一町に巡る方形区画と掘立柱建物群からなる 2 つの方形居館跡が確認されている。時期は 13 世紀後半から 15 世紀で、掘立柱建物跡の中には中門廊の施設を有するものと礎盤石を持つものなどがみられる。方形居館が廃絶したあとは、地下式坑と火葬土坑などからなる墓域へと変遷したようである⁷⁾。また梶内向山道跡でも、13 世紀から 14 世紀にかけての区画溝と礎石建物を含む掘立柱建物群が数期にわたって変遷している。16



第 1 図 鳥名本田道跡周辺道跡分布図 (国土地理院 25,000 分の 1「谷田部」)

世紀後半以降は区画溝を伴う墓域となっている⁸⁾。桜川右岸低地の小泉館跡では15世紀に堀に囲まれた3か所の曲輪があり、曲輪Ⅰからは礎石を持つ大型の掘立柱建物跡が確認されている⁹⁾。関東地方の中世集落について研究されている永越信吾氏によると、14世紀後半までに成立した集落は、多くが15世紀前半にその多くが廃絶し、15世紀後半になって新たに成立した集落が目立つことから、15世紀代に集落の再編があったことを指摘されている¹⁰⁾。つくば市域においても、15世紀後半から16世紀にかけて方形かL字型の区画溝と堀

第1表 鳥名本田遺跡周辺遺跡一覧

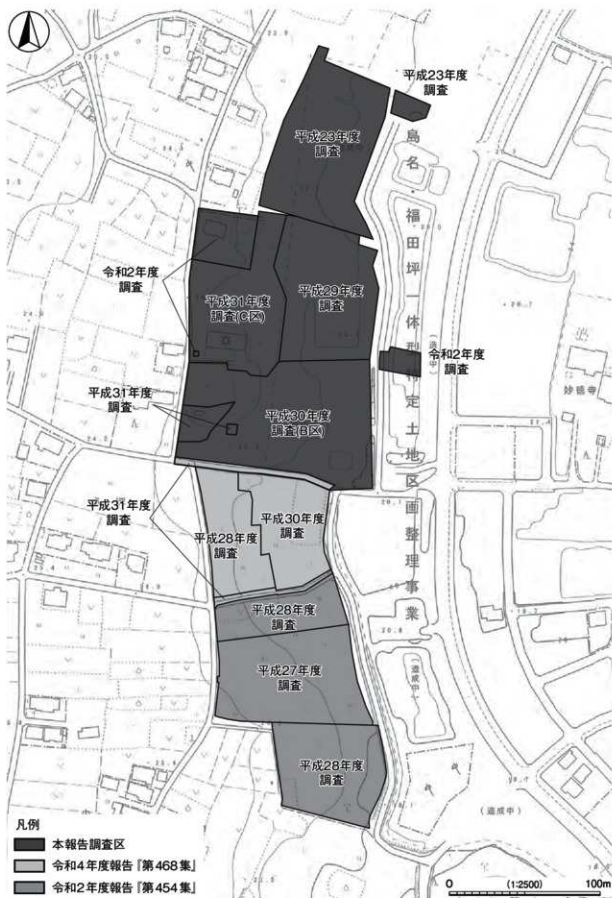
遺跡番号	遺跡名	時代						遺跡番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・桃山			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・桃山
①	鳥名本田遺跡		○		○	○	○	34	水堀遺後前遺跡					○		
2	鳥名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	35	大和田氏屋敷跡					○	○	
3	鳥名熊の山古墳群				○			36	平北田遺跡				○			
4	鳥名八幡前遺跡	○	○		○	○	○	37	平後遺跡				○		○	○
5	鳥名薬師遺跡				○			38	大白谿西ノ裏遺跡				○			
6	鳥名中代遺跡		○		○	○	○	39	大白谿松下遺跡				○			
7	鳥名前野遺跡		○		○			40	大白谿民部山遺跡				○			
8	鳥名前野東遺跡				○	○	○	41	小白谿民部山遺跡				○			
9	鳥名前野古墳				○			42	小白谿水表遺跡				○			
10	鳥名一町田遺跡	○	○		○		○	43	真瀬西原塚						○	○
11	鳥名一町田西遺跡		○					44	真瀬中畑遺跡	○		○				○
12	鳥名境松遺跡	○	○		○			45	真瀬新田谷津遺跡		○					
13	鳥名タカドロ遺跡		○		○			46	真瀬新田古墳群				○			
14	鳥名榎内南遺跡	○			○	○		47	真瀬中道古墳	○		○				
15	鳥名榎内古墳群				○			48	真瀬堀附南遺跡		○		○			
16	鳥名榎内西古墳				○			49	真瀬山田遺跡	○		○	○			
17	鳥名榎内遺跡				○			50	真瀬堀附北遺跡				○			
18	鳥名ツバタ遺跡	○	○		○		○	51	真瀬山田北遺跡		○		○			
19	鳥名関ノ台遺跡				○			52	鍋沼新田長峰遺跡		○		○			
20	鳥名関ノ台古墳群				○			53	下河原崎高山遺跡		○	○	○			
21	鳥名関ノ台塚						○	54	下河原崎高山古墳群				○			
22	鳥名関ノ台南A遺跡				○	○		55	下河原崎高山竈跡				○			
23	鳥名関ノ台南B遺跡	○	○			○	○	56	下河原崎谷中台遺跡	○	○	○	○		○	
24	高田和田台遺跡							57	下河原崎古墳群							
25	高田遺跡					○	○	58	元宮本前山遺跡				○	○		
26	高田原山遺跡				○	○		59	元中北東藤四郎遺跡	○	○		○			
27	面野井西ノ台塚						○	60	上河原崎前山遺跡	○						
28	面野井城跡						○	61	元中北鹿島明神古墳				○			
29	面野井古墳群				○			62	上河原崎本田遺跡				○	○		○
30	面野井南遺跡				○	○	○	63	上河原崎小山台古墳				○			
31	水堀下道遺跡				○	○		64	上河原崎八幡脇遺跡				○	○		
32	水堀遺跡							65	中別府宮前遺跡				○	○	○	○
33	水堀屋敷添遺跡		○		○											

立柱建物跡、井戸跡、土坑などで構成される屋敷跡を伴う集落跡が確認できる。つくば市東部の金田西坪B遺跡では、複数の区画溝を伴う屋敷跡が15世紀中葉から16世紀代に4期にわたる変遷が捉えられている¹¹⁾。同じく桜川右岸の上野古屋敷遺跡は、複数次にわたる調査で、舌状台地上の集落跡の大部分を調査した例である。一辺30～40mの小区画による複数の屋敷跡からなる集落であるが、掘立柱建物跡では桁行2間、梁間1間から桁行5間、梁間1間の小規模なものが多く、前段階にあるような礎石を有する建物や居館を思わせる区画は確認されていない¹²⁾。また出土する陶磁器類、土器類のうち、嗜好品的なものは僅かで日用品が多いことなどから、永越氏は「土豪クラスの居住していない集落」と考えている¹³⁾。当遺跡と金田西坪B遺跡も、遺構の種類と配置、遺物の構成などは、上野古屋敷遺跡に類似している部分があり、参考となる。

萱丸地区にある古屋敷遺跡は、17世紀後葉を中心とした溝で区画された屋敷跡で、区画内には掘立柱建物跡と井戸跡などがみられる。遺物は15世紀末に比定できる陶磁器類も出土しており、15世紀後半に再編された中世集落から近世集落への連続的な移行を示している¹⁴⁾。小野川左岸の新牧田遺跡では、15世紀後半から19世紀前半の区画溝を伴う大規模な墓域が確認されている¹⁵⁾。つくば市域において、これらの中世に成立した集落は、近世以前に廃絶する集落と近世まで継続する集落があり、その社会背景を視野に入れながら消長を検討していく必要がある。

註

- 1) 大山年次監修 1977年『茨城県 地質のガイド』コロナ社
日本の地質「関東地方」編集会 2007年『日本の地質3 関東地方』共立出版
- 2) 茨城県教育庁文化課編 2001年『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会
- 3) 江原美奈子ほか 2021年『島名本田遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第454集
- 4) 石橋充 1999年『史跡小田城跡-第29・31次調査(本丸跡確認調査1)概要報告-』つくば市教育委員会
- 5) 江原美奈子ほか 2023年『島名本田遺跡2』茨城県教育財団文化財調査報告第468集
- 6) 酒井雄一ほか 2007年『島名熊の山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第280集
早川麗司 2009年『島名熊の山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第322集
仲村浩一郎ほか 2012年『島名熊の山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第360集
- 7) 寺門千勝ほか 2000年『島名前野東遺跡 島名境松遺跡 谷田部漆遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第191集
- 8) 川村満博ほか 2003年『堀内山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第199集
- 9) 山本賢一郎ほか 1989年『小泉館跡-発掘調査概報-』つくば市教育委員会
矢ノ倉正男 1995年『小泉館跡』茨城県教育財団文化財調査報告第97集
- 10) 永越信吾 2014年『関東における中世集落の再編-15世紀代を中心として-』『総研大学文化科学研究』第10号
- 11) 野田良直 2020年『金田西坪B遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第443集
- 12) 三谷正ほか 2007年『上野古屋敷遺跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第285集
- 13) 10)と同じ
- 14) 白田正子ほか 1998年『三度山遺跡 古屋敷遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第132集
- 15) 小川和博ほか 2014年『新牧田遺跡』エム・ケー株式会社 (有) 日考研茨城 つくば市教育委員会



第2図 島名本田道跡調査区(発掘調査)区割図(つくば都市計画図2,500分の1から作成)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

島名本田遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高20～23mの台地上に立地している。当遺跡は平成23年度から令和2年度までに断続的に7次の調査が行われており、今回報告する調査区は、遺跡の北部に位置する平成23年度、平成29年度、平成30年度北部(B区)、平成31年度北部(C区)、令和2年度にそれぞれ調査が行われた区域である。調査面積は、平成23年度が7,486㎡、平成29年度が5,052㎡、平成30年度北部(B区)が7,438㎡、平成31年度北部(C区)が4,689㎡、令和2年度が2,109㎡で、調査前の現況は畑地、田、用水路、山林、荒地、市道、宅地である。なお、報告にあたっては、区割りを再編成した(第3図)。

調査の結果、竪穴建物跡20棟(縄文時代1、古墳時代9、奈良・平安時代9、時期不明1)、掘立柱建物跡17棟(室町から江戸時代)、方形竪穴遺構11棟(室町から江戸時代)、地下式坑24基(室町から江戸時代)、段切状遺構1か所(室町から江戸時代)、整地遺構4か所(室町から江戸時代)、井戸跡174基(奈良・平安時代5、室町から江戸時代166、時期不明3)、道路跡2条(奈良・平安時代1、室町から江戸時代1)、溝跡・堀跡183条(奈良・平安時代1条、室町から江戸時代182条)、柱穴列10条(室町から江戸時代)、炉跡12基(室町から江戸時代)、土坑墓34基(江戸時代)、火葬施設3基(室町時代)、陥し穴1基(縄文時代)、土坑1,935基(古墳時代14、奈良・平安時代25、室町から江戸時代1,864、時期不明32)、ピット群50か所(室町から江戸時代)を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に306箱出土している。遺物は、縄文土器(深鉢)、土師器(坏・高台付皿・鉢・甕・瓶)、須恵器(坏・高台付坏・蓋・捏鉢・長頸瓶・甕・瓶)、灰釉陶器(壺)、土師質土器(皿・搦鉢・香炉・風炉・内耳鍋・甕)、瓦質土器(搦鉢・火鉢)、陶器(碗・天目茶碗・皿・水滴・花瓶・鉢・搦鉢・甕)、磁器(碗・皿)、土製品(羽口・土鈴)、石器・石製品(砥石・硯・石臼・茶臼・五輪塔・宝篋印塔・板碑)、木製品(椀・皿・曲物・羽子板・鍬・臼・桶・下駄・杓文字・包丁柄・杭)、金属製品(包丁・櫛・鉄砲玉・釘・煙管)、銭貨(永楽通寶・寛永通寶・文久通寶)、自然遺物(馬骨・種子)などである。

第2節 基本層序

調査区A区の台地平坦部(E4a1区)に設定したテストピットと、調査区D区の台地緩斜面部に所在する第211号井戸跡の掘り方調査時に基本層序(第4図)の観察を行った。

第Ⅰ層は、黒褐色を呈する表土である。層厚は18～26cmである。

第Ⅱ層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強く、層厚は8～14cmである。

第Ⅲ層は、暗褐色を呈するハードローム層で、第Ⅱ層黒色帯に相当する。粘性は普通で締まりは極めて強く、赤色粒子と黒色粒子を微量含む。層厚は24～36cmである。

第Ⅳ層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは第Ⅲ層同様極めて強く、層厚は14～17cmである。

第Ⅴ層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性と締まりがともに強く、クラックが発達している。層厚は24～55cmである。

第VI層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性と締まりがともに強く、上層にクラックが発達している。層厚は6～33cmである。

第VII層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性と締まりがともに強く、層厚は14～29cmである。

第VIII層は、にぶい黄褐色を呈する粘土漸移層である。粘性と締まりがともに強く、粘土小ブロックを中量含む。層厚は8～22cmである。

第IX層は、黄褐色を呈する粘土層である。粘性と締まりがともに極めて強く、粘土小ブロックを中量含む。層厚は16～24cmである。

第X層は、灰白色を呈する常総粘土層である。粘性と締まりがともに極めて強く、粘土小ブロックを多量に含み、黄褐色の粒子が斑状に入る。層厚は8～20cmである。

第XI層は、にぶい黄褐色を呈する常総粘土層と考えられる。粘性と締まりがともに極めて強く、黄褐色の粒子が斑状に入る。層厚42～44cmである。

第XII層は、青灰色を呈する砂質粘土層である。粘性と締まりがともに強く、グライ化している。層厚は21～25cmである。

第XIII層は、黄灰色を呈する砂質粘土層である。粘性と締まりがともに強く、粘土粒子を微量に含んでいる。層厚は19～24cmである。

第XIV層は、青灰色を呈する砂質粘土層である。粘性と締まりがともに強く、グライ化している。褐色の細砂粒がラミナ状に堆積する。層厚は24～26cmである。

第XV層は、黄灰色を呈する砂質粘土層である。粘性と締まりがともに強く、褐色の細砂粒がラミナ状に堆積する。層厚は30～34cmである。

第XVI層は、黄灰色を呈する砂粒混じりの砂質粘土層である。粘性は普通で締まりは強く、褐色の細砂粒や鉄粒子を中量含んでいる。層厚は14～16cmである。

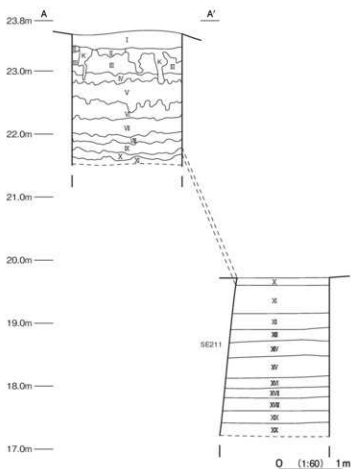
第XVII層は、灰色を呈する砂質粘土層である。粘性は弱く締まりは強い。褐色の細砂粒や鉄粒子を中量含んでいる。層厚は14～16cmである。

第XVIII層は、緑灰色を呈する砂層である。粘性は弱く締まりは普通である。層厚は18～20cmである。

第XIX層は、緑灰色を呈する砂層である。粘性は弱く締まりはやや弱い。貝殻の小片を微量に含む。層厚は17～20cmである。

第XX層は、明緑灰色を呈する砂層である。粘性は弱く締まりはやや強い。層厚は20cmまでを確認した。

遺構は、第II～X層の上面で確認した。



第4図 基本土層図（全体図参照）

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

堅穴建物跡1棟、陥し穴1基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 堅穴建物跡

第128号堅穴建物跡（第5・6図 第2表 PL 7・53）

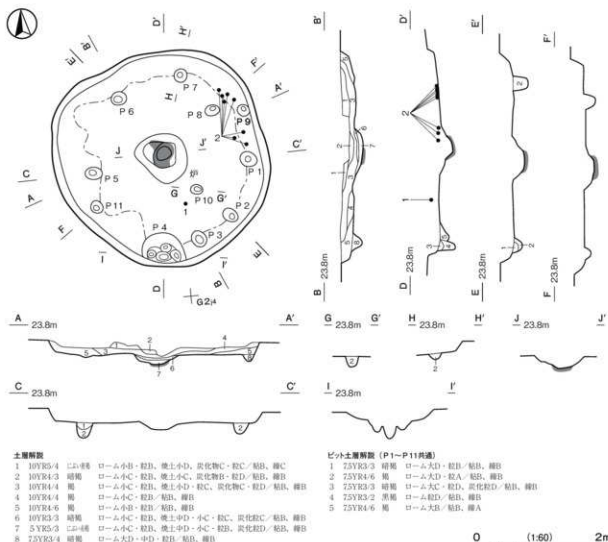
位置 調査区C区北西部のG23区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径3.60m、短径3.40mの不整形円で、主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ14～27cmで、外傾している。

床 ほほ平坦で、炉の周辺からビットで囲まれた部分が硬化している。

炉 中央部に位置している。長径80cm、短径70cmの不整楕円形で、深さ15cmほどの皿状を呈した地床炉である。

炉床面は、赤変硬化している。



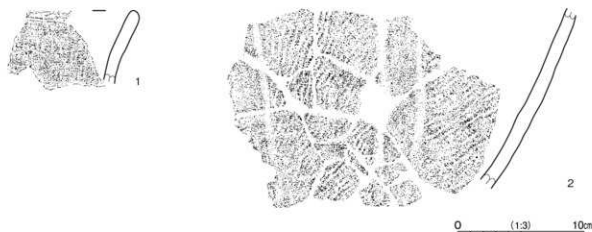
第5図 第128号堅穴建物跡実測図

ピット 11か所。P1～P3・P5～P9・P11は、径20～30cm、深さ10～30cmで、位置と形状から主柱穴である。南壁際に位置するP4は、長径70cm、短径60cm、深さ20cmの楕円形で、底面に深さ15～30cmの小ピット状の凹凸がある。位置と形状から、出入口施設に伴うピットである。P10は径20cm、深さ16cmで、性格不明である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック、炭化物などを含む褐色土が周囲から流入しており、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢）が出土している。1は中央部南壁寄りの覆土下層から出土している。2は東壁際中央部の床面上に分散して出土したものが接合している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉の加曾利EⅢ式期と考えられる。



第6図 第128号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2表 第128号竪穴建物跡出土遺物一覧（第6図 PL53）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	長石・石英・黒色砂子・細礫	にぶい橙	普通	内外面磨き	覆土下層	5% PL53
2	縄文土器	深鉢	—	(14.3)	—	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	地文縦位別、単節縄文、幅広い滑消縄文	床面	10% PL53

(2) 陥し穴

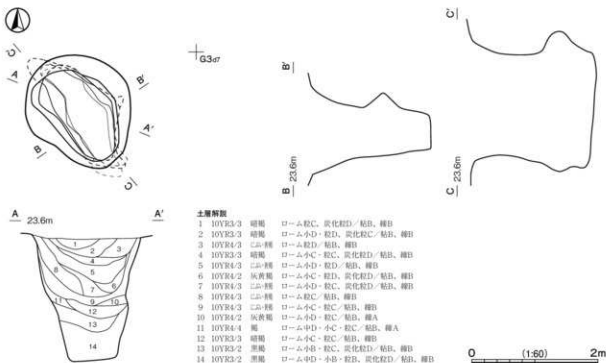
第1号陥し穴（第7図 PL7）

位置 調査区A区南部のG3d6区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.97m、短径1.68mの楕円形で、長径方向はN-35°-Wである。深さは196cmで、壁上部はやや外傾し、中部はほぼ直立している。また、下部は北西壁の一部と、北東壁と南東壁の3か所は、奥行12～30cmほど内凹している。底面は平坦で、平面形はやや不整な長楕円形を呈している。

覆土 14層に分層できる。第1～3層は、周囲の流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第4層以下はロームブロックを含んでいることから、人為堆積である。

所見 出土遺物がないため、時期は不明であるが、特徴的な形状から、縄文時代の陥し穴と考えられる。



第7図 第1号陥し穴実測図

2 古墳時代の遺構と遺物

堅穴建物跡9棟、土坑14基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 堅穴建物跡

第112号堅穴建物跡（第8・9図 第3表 PL 7・53）

位置 調査区C区西部のJ2c5区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1334・1350・1375・1434～1437号土坑、第300号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.03m、短軸4.67mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ10cmほどで、ほぼ直立している。

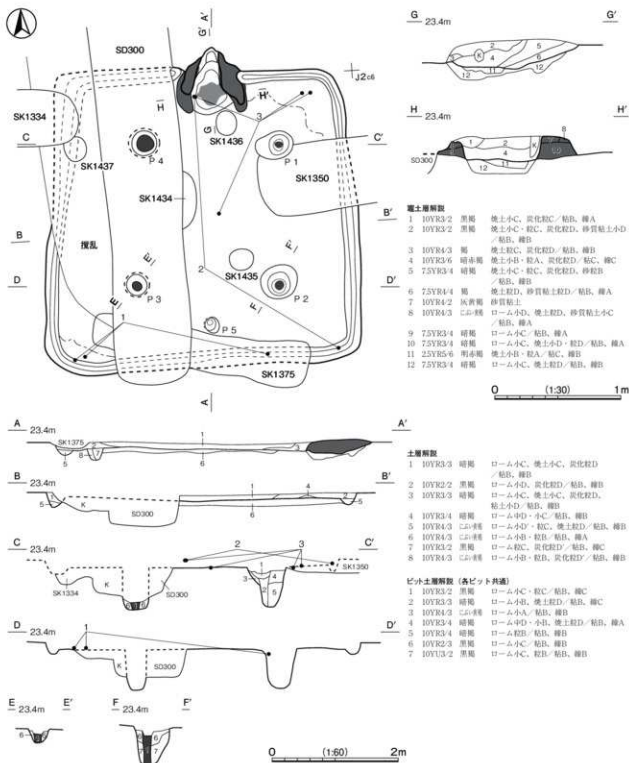
床 ほぼ平坦で、コーナー部付近を除いて硬化している。貼床は、ロームブロックを含む第6層を5～10cm埋土して構築している。壁溝は確認できた範囲で全周している。

竈 北壁中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで110cmで、燃焼部幅は50cmである。竈は地山を10cmほど楕円形に掘りくぼめ、ロームブロックと焼土粒子を含む第11・12層を埋土して整地している。袖部は、地山上に第7～10層を積み上げて構築している。火床部は床面を僅かに掘りくぼめている。火床面は第11層上面で、不整形に赤変硬化している。煙道部は壁外に30cmほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 5か所。P1・P2は深さ63・67cmで、配置から主柱穴と考えられる。P3・P4は第165号溝に掘り込まれているが、床面からの深さは60・68cmと推定でき、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ20cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土はP2～P4の第

1層は柱痕跡、第3～7層は掘方の埋土である。いずれの底面からも硬化した径12～30cmの柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。P1・P5の覆土は、柱抜き取り後の流入土である。

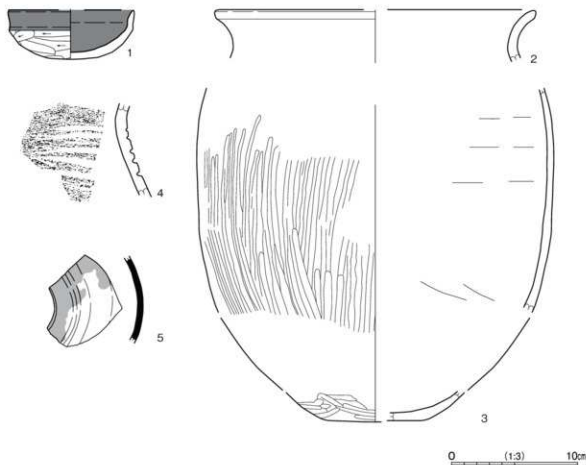
覆土 5層に分類できる。ロームブロックを含む暗褐色土が主体で、周辺からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。第7・8層はP5の堆積土である。



第8図 第112号竈穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 19 点 (坏 2、甕 17)、須恵器片 1 点 (長頸瓶) が出土している。ほかに混入した土師質土器片 1 点が出土している。遺物は全体的に少量で、後世の遺構に掘り込まれていないコーナー部を中心に出土している。1 は南壁際の床面付近に、3 は北東コーナー部から竈前面の床面付近に散在した 4 点が接合したものである。2 は南東コーナー部の覆土上層と竈上面から出土した 2 点が接合している。4 は P 1 の覆土中から出土したもので、土師器甕の体部片を砥石に転用している。5 は南東部の覆土中から出土したもので、東海系の長頸瓶の一部である。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前半と考えられる。



第 9 図 第 112 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 3 表 第 112 号堅穴建物跡出土遺物一覧 (第 9 図 PL53)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[9.8]	3.9	—	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部横ナデ 外面黒色処理 体部外面ヘラ削り 内面横ナデ 黒色処理	床面	50% PL53
2	土師器	甕	[25.2]	(4.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部縦い横まみ上げ 内外面横ナデ	覆土上層	5%
3	土師器	甕	—	(26.3)	(8.4)	長石・雲母	黒	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	40%
4	土師器	甕	—	(7.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面横ナデ 刃物痕 内面ヘラナデ	P 1 覆土	5% PL53 砥石転用
5	須恵器	長頸瓶	—	(6.8)	—	長石	灰黄	直好	口クロナデ 輪暗オリブ	南東部 覆土	5% PL53 東海系

第113号竪穴建物跡 (第10・11図 PL 7・8)

位置 調査区C区西部のI28区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.43m、短軸3.12mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁は高さ7~24cmで、ほぼ直立している。

床 は平坦で、竈前面から主柱穴で囲まれた範囲が硬化している。貼床は、南東コーナー部を一段深く土坑状に掘り込み、ロームブロックを含む第9・10層を5~15cm埋土して構築している。壁溝は全周している。

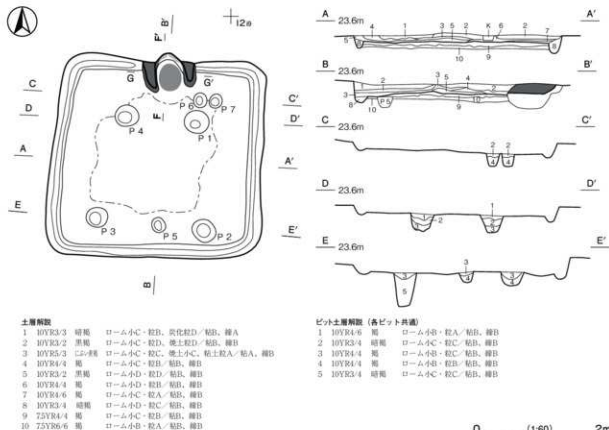
竈 北壁中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで86cmで、燃烧部幅は40cmである。竈は地山を50cmほど円形に掘りくぼめ、ロームブロックを含む第7~10層を埋土して整地している。袖部は、整地面の上に第5・6層を積み上げて構築している。火床部は床面とはほぼ同じ高さである。火床面は第8層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に20cmほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 7か所。P1~P4は深さ22~54cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ20cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ20cmで、性格は不明である。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

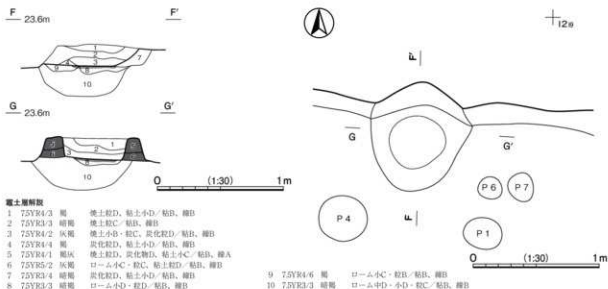
覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含む褐色土や粘土粒子を多く含む黄褐色土と、黒褐色土が不規則に堆積していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片4点(坏1、甕3)が出土している。ほかに混入した土師質土器片1点が出土している。遺物は少量で、細片のため図示できないが、土師器の坏片が北西部の覆土上層から、甕片が竈掘方内から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前半と推定できる。



第10図 第113号竪穴建物跡実測図(1)



第11図 第113号竪穴建物跡実測図(2)

第115号竪穴建物跡 (第12図 PL 8)

位置 調査区C区西部のJ2b9区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1331・1403・1426・1444・1447・1451・1462・1487号土坑、第34号ピット群のP8～P11・P15に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.64m、短軸5.44mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁は高さ10～20cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、東・西壁際を除いた中央部が硬化している。壁溝は確認できた範囲で全周している。

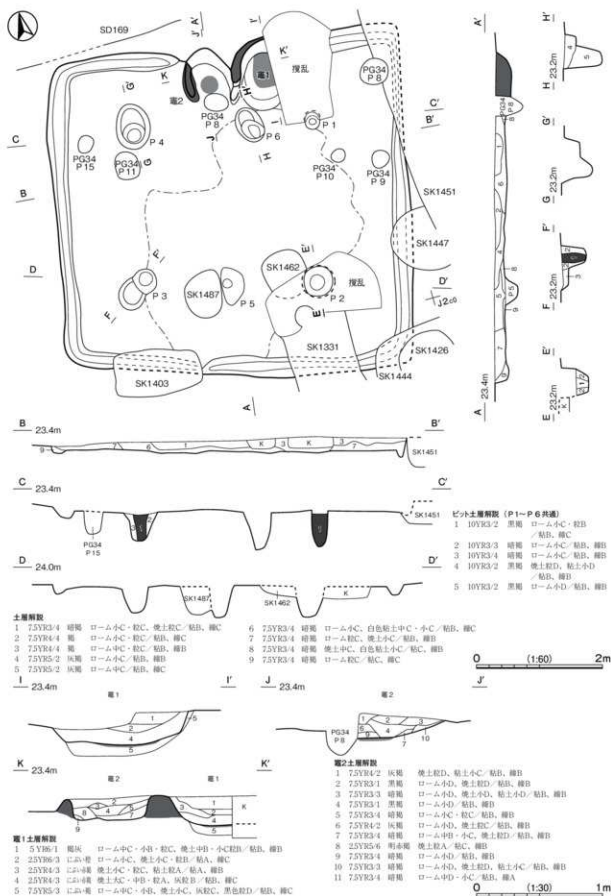
竈 2か所。遺存状態から、竈1から竈2へ作り替えている。竈1は北壁中央部やや東寄りに位置し、攪乱と竈2への作り替えのため、袖部は遺存していなかった。規模は焚口部から煙道部まで110cmで、確認できた燃焼部幅は50cmである。地山を10cmほど楕円形に掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロック・灰粒などを含む第5層を埋土して整地している。火床部は床面から10cmほど皿状に掘りくぼめている。火床面は第5層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に10cmほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている。煙道部の上部に沿って、幅5～10cmの白色粘土が残存している。竈2は北壁中央部に位置し、規模は焚口部から煙道部まで100cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は地山上に白色粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第4・9層の下で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に10cmほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 6か所。P1～P4は深さ40～60cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ50cmで、竈に對峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。竈1の前に位置するP6は深さ60cmで、性格は不明である。覆土は第1層が柱痕跡、第2・3層が掘方埋土、第4・5層が柱抜き取り後の流入土である。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック、粘土ブロックを含む暗褐色土や灰褐色土が主体で、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。

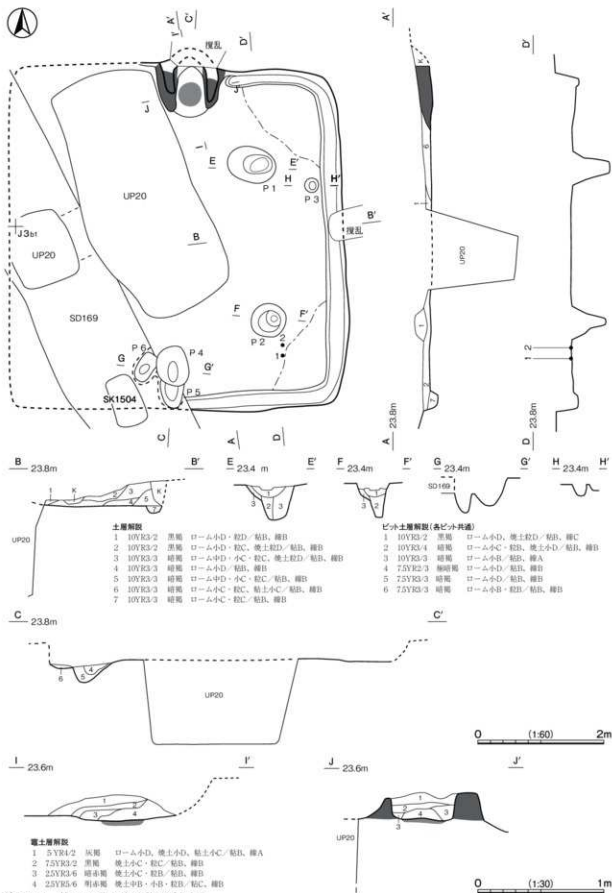
遺物出土状況 土師器片34点(坏8、甕26)、須恵器片1点(坏)が出土している。ほかに混入した土師質土器片3点が出土している。遺物は少量で、細片のため図示できないが、覆土の全体に散在している。土師器の坏片が竈2の袖部や覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前半と推定できる。



第12図 第115号竪穴建物跡実測図

第116号竪穴建物跡 (第13・14図 第4表 PL 8・53)



第13図 第116号竪穴建物跡実測図

位置 調査区C区西部のJ3a1区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第20号地下式坑、第1504号土坑、第169号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が中世の遺構群に掘り込まれているため、確認できた規模は南北軸5.40m、東西軸3.40mである。方形と推定され、主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ10～40cmで、ほぼ直立している。

床 は平坦で、北東・南東コーナー部を除いて硬化している。壁溝は確認できた範囲で全周している。

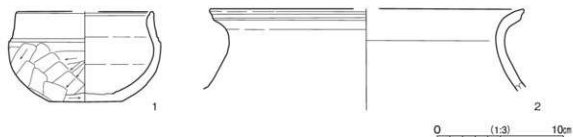
竈 北壁中央部に位置していると推定できる。煙道部が攪乱のため、確認できた規模は焚口部から煙道部側に80cmで、燃焼部幅は45cmである。軸部は、地山の上に白色粘土を積み上げて構築している。火床部は床面をわずかに掘り込んでいる。火床面は第4層下面で、楕円形に赤変硬化している。

ピット 6か所。P1・P2は深さ56・60cmで、配置から主柱穴と考えられる。P4～P6は深さ15～38cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられるが、重複などは不明である。P3は深さ18cmで、性格は不明である。覆土は第1・2・4～6層が柱抜き取り後の流入土、第3層が掘方埋土である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土が主体で、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片59点(坏7、甕52)、須恵器片2点(蓋、短頸壺カ)、凝灰岩製砥石1点が出土している。ほかに混入した土師質土器片1点、磁器3点、石器1点が出土している。遺物は東部の覆土上層から多く出土している。1・2は、南東コーナー部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。



第14図 第116号竪穴建物跡出土遺物実測図

第4表 第116号竪穴建物跡出土遺物一覧(第14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[108]	7.1	5.7	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外面横ナデ 体部・底部ヘラナデ 口縁部・体部上半横ナデ 下半・底部ヘラナデ	床面	60% PL53
2	土師器	甕	[250]	(6.5)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部横ナデ 口縁部横ナデ 体部横ナデ	床面	10% PL53

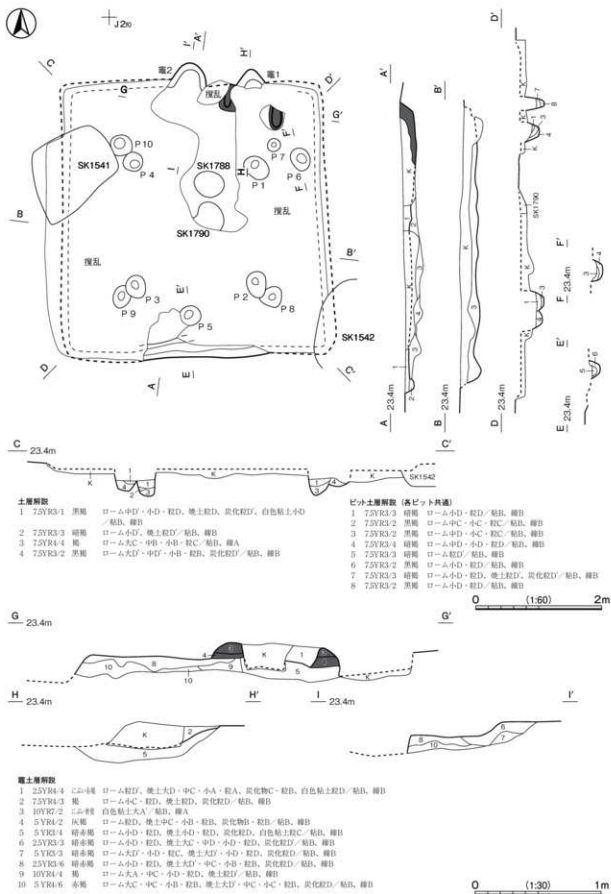
第117号竪穴建物跡(第15・16図 PL8・9)

位置 調査区C区西部のJ20区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

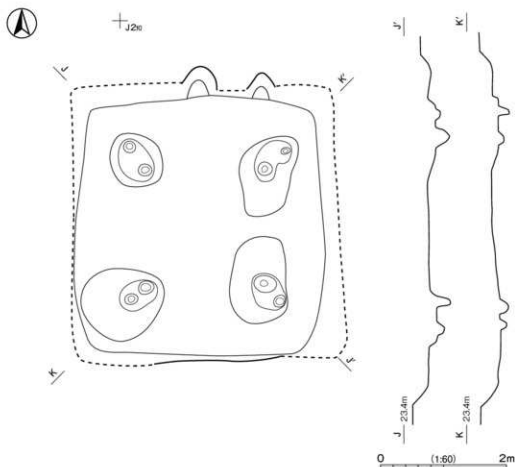
重複関係 第1541・1542・1788・1790号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 大半が攪乱を受けているため、南壁側と竈一部などを確認した。確認できた規模は、南壁から竈2の煙道部までは4.66m、掘方の長軸は4.42m、短軸は4.35mである。方形と推定され、主軸方向はN-6°-Eである。壁は高さ6cmほどで、外傾している。

床 攪乱のため、硬化面は確認できなかった。貼床は、ロームブロックを含む第3・4層を10～15cm埋土



第15図 第117号竪穴建物跡実測図



第16図 第117号竪穴建物跡掘方実測図

して構築している。特に主柱穴付近は、土坑状を呈している。壁溝は、確認できた南壁直下に巡っている。

竈 2か所。遺存状態から、竈2から竈1へ作り替えている。竈1は北壁東寄りに位置し、攪乱のため、袖部と煙道の一部を確認した。確認できた規模は、燃烧部幅が約50cmで、地山を10～15cmほど掘り下げ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第5層を埋土して整地している。袖部は、整地面の上に第3・4層を積み上げて構築している。火床部は攪乱のため不明である。煙道部は壁外へ30～40cm張り出し、緩やかに立ち上がっている。竈2北壁中央部に位置し、攪乱のため、煙道部と掘方の整地面を確認した。掘方は地山を15～20cm掘り下げ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第8～10層で埋土して整地している。煙道部は壁外に30cmほど張り出し、整地面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 10か所。P1～P4・P7～P10は、床面からの深さが30～40cmと推定でき、配置から主柱穴と考えられる。重複関係からP7～P10からP1～P4へ作り替えられたものと推定される。P5は床面からの深さが24cmと推定でき、竈2に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ26cmで、性格は不明である。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

覆土 2層に分層できる。部分的な確認のため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片10点(甕)が、竈の覆土中と掘方覆土中から出土している。ほかに本跡を掘り込んでいる攪乱中から、土師器片26点(坏3、甕23)、須恵器片10点(坏2、甕8)、土師質土器片1点が出土している。いずれも細片である。

所見 時期は、出土土器から7世紀前半と推定できる。

第118号竪穴建物跡 (第17～19図 第5表 PL.9・53・54)

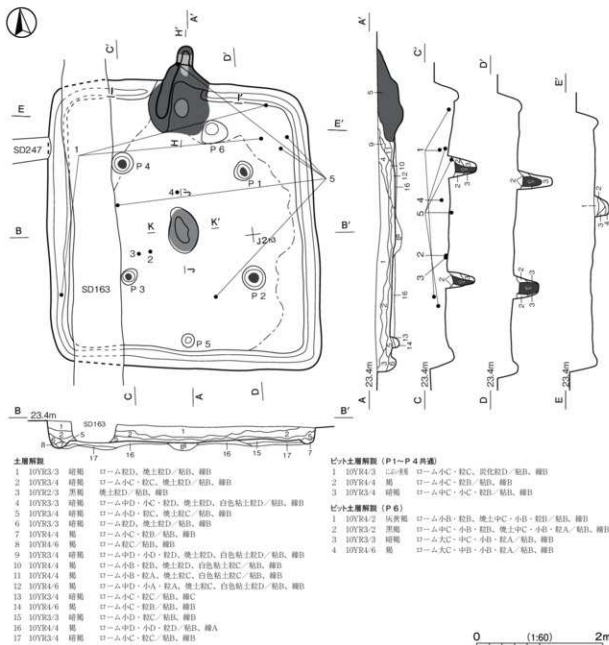
位置 調査区C区西部のJ2g2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第163・247号溝に掘り込まれている。

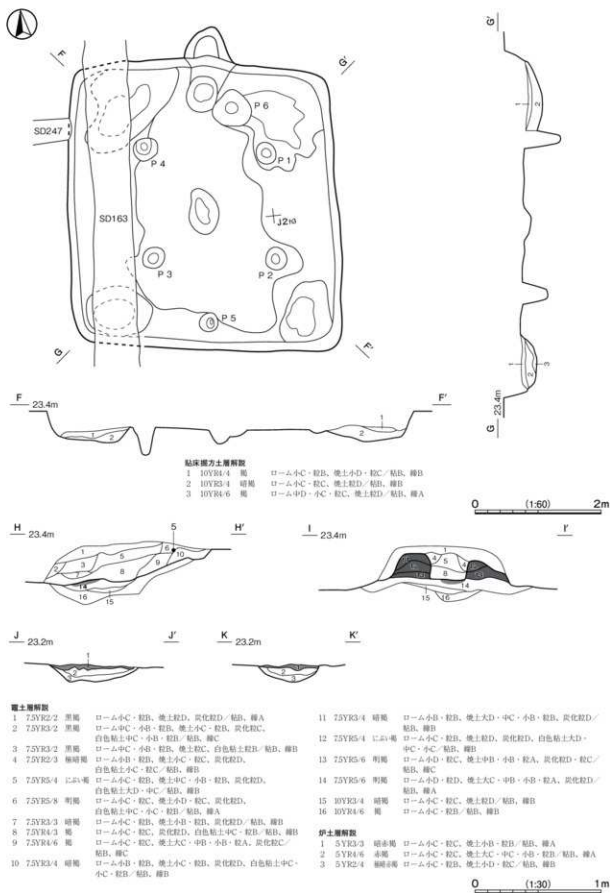
規模と形状 長軸4.54m、短軸4.30mの方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ22～30cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦で、東・西壁際を除いた中央部が硬化している。貼床は、四隅を一段深く土坑状に掘り込み、ロームブロックや焼土粒子を含む暗褐色土などを20～25cm埋土して、その他はロームブロックやローム粒子を含む第15～17層を3～15cm埋土して構築している。確認できた範囲で壁溝は巡っている。

竈 北壁中央部に位置している。天井部は大きく崩落しており、右袖部は残存していない。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、想定される燃焼部幅は60cmほどである。竈は地山を10～15cmほど楕円形に掘りくぼめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第14～16層を埋土して整地している。袖部は、整地面の上に第11～



第17図 第118号竪穴建物跡実測図



第18図 第118号竈穴建物跡・掘方実測図

13層を積み上げて構築している。火床部は床面より5cmほど上位に位置している。火床面は第14層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は、壁外に60cmほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている。煙道部先端の壁面が被熱により、赤変硬化している。

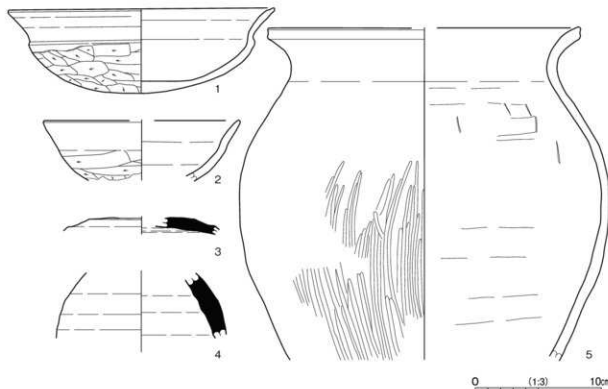
炉 中央部に位置している。長径74cm、短径48cmの楕円形で、床面からの深さ15cmほどの地床炉である。火床面は第1層上面で、赤変硬化している。

ピット 6か所。P1～P4は深さ42～58cmで、規模や配置から主柱穴である。第1層は柱痕跡、第2・3層は掘方の埋土である。いずれの底面からも、硬化した径10～15cmの柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。P5は深さが16cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土は柱抜き取り後の流入土である。P6は深さ26cmで、性格は不明である。

覆土 12層に分層できる。ロームブロックやローム粒子を含む暗褐色土を主体とし、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。第4・8～12層は白色粘土粒子を含む褐色土を主体とし、崩落した竈構築土である。第13・14層はP5の覆土である。

遺物出土状況 土師器片109点（坏23、鉢3、甕82、甕1）、須恵器片8点（坏2、蓋5、壺1）、焼成粘土塊1点、鉄滓1点が出土している。遺物は中央部と北東コーナー部の覆土上層から多く出土している。1は北東コーナー付近の下層から出土した2点と、南西コーナー付近の覆土上層から出土した1点が接合したものである。2・3は中央部の炉西側の床面から、4は中央部の覆土下層から、それぞれ出土している。5は中央部西寄りの床面から出土した1点と、覆土中に散らばった4点が接合している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。中央部に非常によく硬化した炉跡があること、少量の鉄滓が出土していることなどから、鍛冶工場の可能性が考えられる。



第19図 第118号竈穴建物跡出土遺物実測図

第5表 第118号竪穴建物跡出土遺物一覧（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[21.0]	6.8	-	長石・石英・黒色 粒子・細礫	にぶい赤黄	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘナリ 内面ナデ	北東コーナー裏土 下層、東部ロー 一部黄土層	90% PL53
2	土師器	坏	[15.4]	(4.8)	-	長石・石英・赤 母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘナリ 内面ナデ	中央部 床面	10%
3	須恵器	壺	-	(1.4)	-	長石・石英・赤 母	にぶい橙	普通	天井部割軸ヘナリ	中央部 床面	20% 新治産
4	須恵器	壺	-	(5.2)	-	長石	灰黄	普通	口縁部ナデ 外面灰オリーブの自然軸	中央部 覆土下層	10% PL54 東南系カ
5	土師器	甕	[24.8]	(24.6)	-	長石・石英・赤 母	にぶい黄	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘナリ 内面ヘナナ デ	西、西部土 層、東部、 南部床面	20% PL54

第122号竪穴建物跡（第20図 第6表 PL10）

位置 調査区C区西部のI2d9区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2443号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 遺構確認面がほぼ床面であるため、北部では一部を除いて壁が確認できなかった。長軸4.57m、短軸3.84mの長方形で、主軸方向はN-84°-Wである。残存する南部の壁は高さ4～8cmで、外傾している。

床 は平坦で、竈前面から南部が硬化している。貼床は、ロームブロックやローム粒子を多く含む第4・5層を5～10cm埋土して構築している。確認できた範囲で壁溝は巡っている。

竈 西壁中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで90cmで、攪乱のため確認できた燃焼部幅は50cmほどである。地山を10cmほど隅丸長方形に掘りくぼめ、ロームブロックやローム粒子を多く含む第6層を埋土して整地している。軸部は、地山の上に第4・5層を積み上げて構築している。火床部は床面とはほぼ同じ高さである。火床面は第6層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に30cmほど張り出し、火床面から外傾して立ち上がっている。

ピット 5か所。P1～P4は深さが30～76cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ30cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

覆土 3層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。また、長径60cm、短径30～36cm、厚さ3～5cmの焼土が、西壁際の床面に堆積している。第6～8層はP5の覆土で、柱抜き取り後の流入土である。

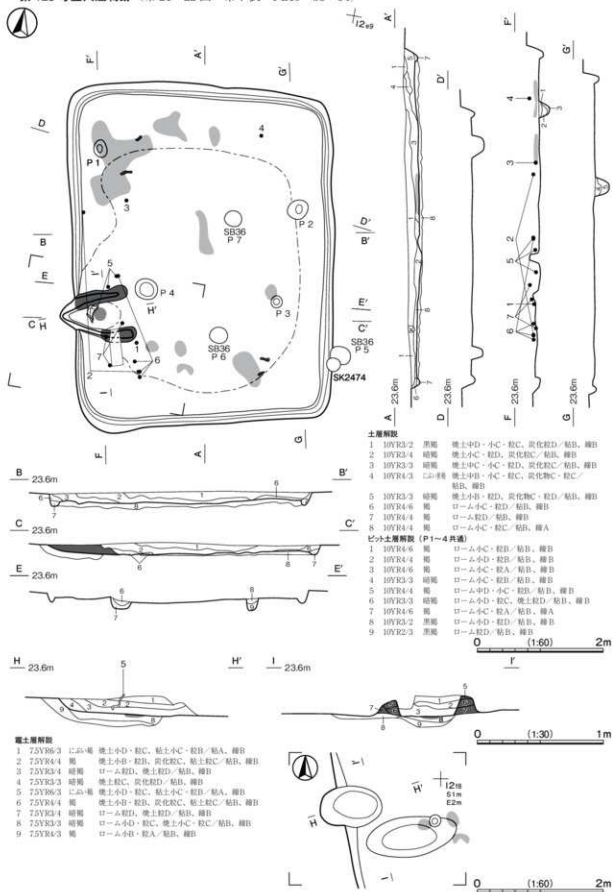
遺物出土状況 土師器片7点（坏2、壺5）が出土している。ほかに混入した土師質土器片1点、陶器片1点が出土している。遺物は少量で、いずれも細片である。1は南西部の掘方内から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後半と推定できる。

第6表 第122号竪穴建物跡出土遺物一覧（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.2]	(2.9)	-	長石・石英・赤 母	にぶい黄赤	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘナリ 内面横ナデ	南西部 掘方	5%

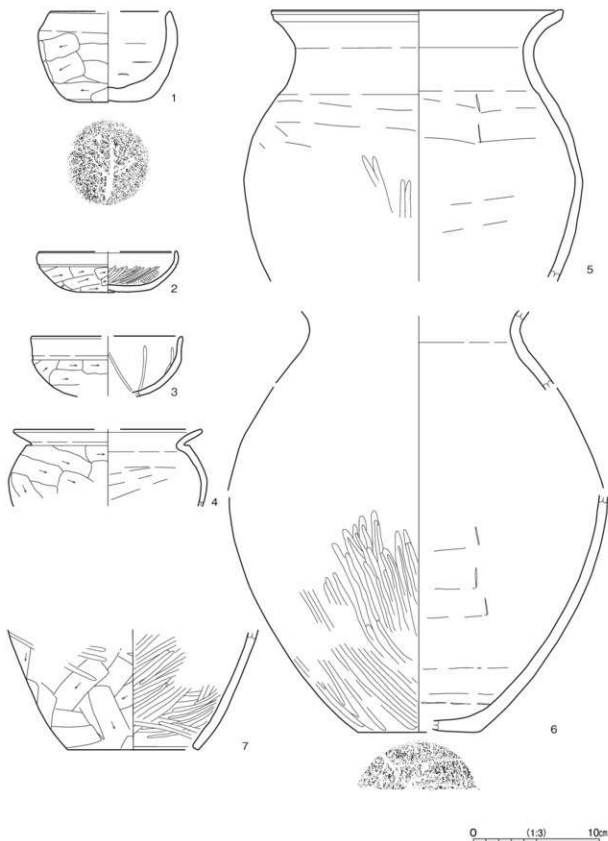




第21図 第123号竪穴建物跡実測図

位置 調査区C区西部のI 2 e8区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第36号掘立柱建物、第2474号土坑に掘り込まれている。



第22図 第123号竪穴建物跡出土遺物実測図

規模と形状 長軸 5.55 m、短軸 4.15 m の長方形で、主軸方向は N - 103° - W である。壁は高さ 8 ～ 20cm で、外傾している。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いた中央部が硬化している。貼床は、ロームブロックやローム粒子を含む第 8 層を 5 ～ 10cm 埋土して構築している。壁溝は全周している。

竈 西壁やや南寄りに位置している。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で、燃焼部幅は 40cm である。地山を 10cm ほど楕円形に掘りくぼめ、ロームブロックやローム粒子、焼土ブロックを含む第 8・9 層を埋土して整地している。袖部は、整地層の上に第 5 ～ 7 層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第 8 層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に 20cm ほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 4 か所。P 3 は深さが 20cm で、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 1・P 2・P 4 は深さ 20 ～ 25cm で、不規則な位置にあり、性格は不明である。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

覆土 7 層に分層できる。第 1 ～ 5 層は、焼土ブロックや炭化物・炭化粒子を含む暗褐色主体の土で人為堆積で、壁際にロームブロックを含む第 6・7 層は、周囲から流れ込むように堆積していることから自然堆積である。また、中央部の床面上と、北西部・南部の覆土下層を中心に、厚さ 3 ～ 10cm の焼土が堆積している。

遺物出土状況 土師器片 94 点（坏 6、碗 1、甕 84、瓶 3）が出土している。ほかに混入した陶器片 1 点が出土している。遺物は中央部から南部の覆土中、特に竈周辺の覆土下層から多く出土している。1 は竈左袖部前の床面から、6 は覆土下層からそれぞれ出土している。2 は竈左袖部前と西壁際の 2 点が接合したものである。5 は竈の崩落土中に逆位で出土した破片と、右袖部脇の位置した 2 点が接合している。7 は甕付近の 2 点と南西部の 1 点が接合したものである。また、北西部と南部の覆土下層から炭化材が出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前半と考えられる。遺物などの出土状況から、建物廃絶後ほどなくして焼土や炭化材、土器片などを廃棄したものと考えられる。

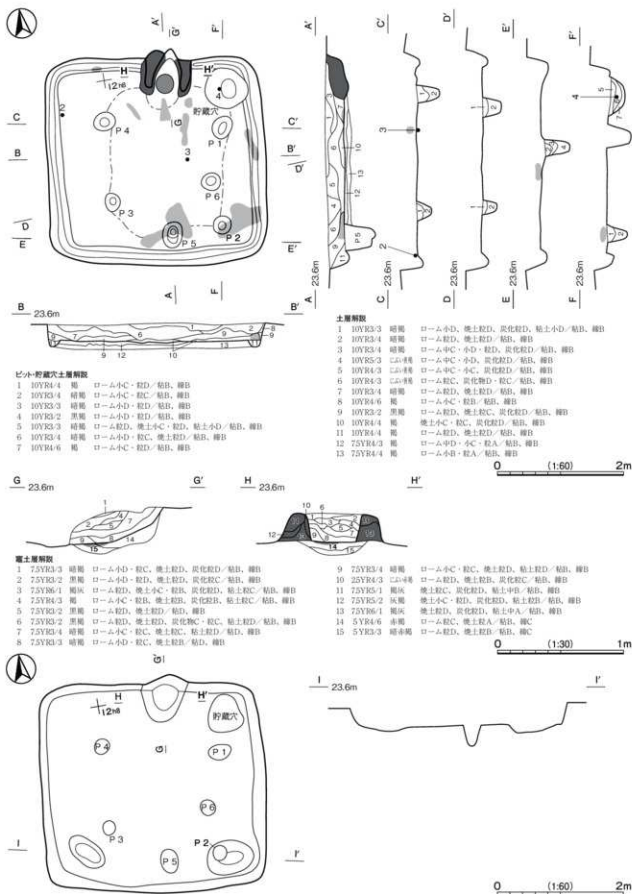
第 7 表 第 123 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 22 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	碗	[95]	72	44	長石・石英・黒色 粒子・細礫	明赤褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘナナ デ 底部本妻直 内外面とも磨滅	南西部 覆土下層	96% PL53
2	土師器	坏	[108]	32	-	長石・石英	赤褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘナナ デ 内面ヘナナ磨き	北西部・南西部 覆土下層	20% PL54
3	土師器	坏	[120]	(48)	-	長石・石英・細 礫	にがい赤褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘナナ デ 内面放射状 のヘナナ磨き	北西部 覆土下層	20%
4	土師器	甕	[148]	(61)	-	長石・石英・細 礫	灰褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘナナ デ 内面ヘナナ	北東部 覆土上層	10%
5	土師器	甕	231	(21.5)	-	長石・石英・雲 母・細礫	にがい黄褐色	普通	口縁部内い横まみ上げ 内外面横ナデ 内面ヘナナ磨き 内面ヘナナデ	竈付近 覆土下層	30% PL54
6	土師器	甕	-	(33.5)	[96]	長石・石英・雲 母・細礫	明赤褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘナナ デ 底部本妻直	南西部 覆土下層	40%
7	土師器	瓶	-	(9.5)	[102]	長石・石英・雲 母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘナナ磨き 体部外面ヘナナ磨き 内面ヘナナ磨き	竈付近 覆土下層	20%

第 125 号竪穴建物跡（第 23・24 図 第 8・9 表 PL10・11・54）

位置 調査区 C 区西部の I 2 h8 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.47 m、短軸 3.28 m の方形で、主軸方向は N - 8° - E である。壁は高さ 25cm ほどで、外傾している。



第23図 第125号堅穴建物跡実測図

床 ほぼ平坦で、壁際を除いた中央部が硬化している。貼床は、南東コーナー部と南西コーナー部を一段深く土坑状に掘り込み、ロームブロックやローム粒子を含む第12・13層を15cmほど埋土して構築している。壁溝は全周している。

竈 北壁中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで100cmで、燃焼部幅は40cmである。地山を20cmほど楕円形に掘りくぼめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第14・15層を埋土して整地している。袖部は、地山と第14・15層の上に第10～13層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第14・15層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は、壁外に20cmほど張り出し、火床面から外傾して立ち上がっている。

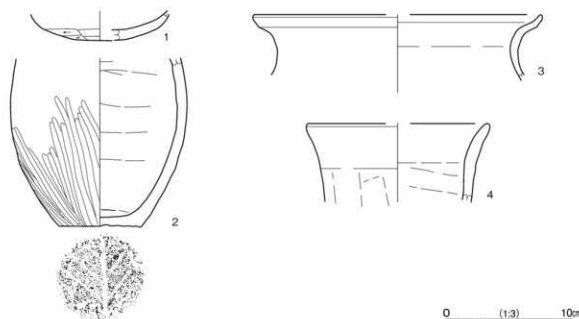
ピット 6か所。P1～P4は深さが24～38cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ45cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ28cmで、不規則な位置にあることから、性格は不明である。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。径70cmの円形で、深さ28cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。3層に分層でき、ロームブロックや焼土粒子、粘土ブロックを含んでいることから、人為堆積である。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック、炭化物を含む層が、不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。また、中央部から東部の覆土下層から床面にかけて、厚さ5～10cmの焼土が堆積している。

遺物出土状況 土師器片26点（坏4、甕21、瓶1）、鉄滓1点が出土している。遺物は主に東部から南部の覆土中から出土している。1は竈の覆土中から、2は北部西壁際の床面付近から横位で、3は中央部の床面から、4は貯蔵穴の中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。焼土が壁溝やピットを覆うように堆積していること、貯蔵穴の覆土上層に焼土ブロックが含まれていることなどから、建物廃絶後ほどなくして焼土や土器片を廃棄したものと考えられる。



第24図 第125号竪穴建物跡出土遺物実測図

第8表 第125号竪穴建物跡出土遺物一覧(第24図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(2.3)	-	長石・石英・細砂	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈覆土	10%
2	土師器	甕	-	(13.4)	6.4	長石・石英・細砂	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木炭痕	北西部 覆土下層	40% PL54
3	土師器	甕	[210]	(5.2)	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラナデ	中央部床面	5%
4	土師器	甕	[142]	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ 体部内外面ヘラナデ	貯蔵穴 覆土中層	5%

第9表 古墳時代竪穴建物跡一覧

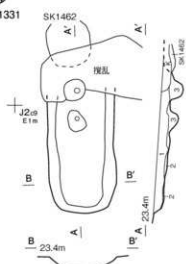
番号	位置	主軸方向	平面形	縦横 長横×短横(m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
								柱穴	出入口	ピット	貯・籠				
112	J 2c5	N-4°-E	方形	5.03×4.67	10	平坦	全周	4	1	-	北壁	-	自然 土師器 須恵器	7世紀前半	本跡→SK1394・1350・1375・1434 →1437, SD100
113	J 2c8	N-2°-E	方形	3.43×3.12	7~24	平坦	全周	4	1	2	北壁	-	人為 土師器	7世紀前半	
115	J 2b9	N-7°-E	方形	5.64×3.44	10~20	平坦	全周	4	1	1	北壁 2	-	自然 土師器 須恵器	7世紀前半	本跡→SK1310・1319 1328・1404・1416・ 1421・1482・1485, PC31
116	J 3a1	N-4°-E	[方形]	5.40×(3.40)	10~40	平坦	全周	2	3	1	北壁	-	自然 土師器 須恵器 磁石	7世紀前半	本跡→U220 SK1504, SD369
117	J 2c0	N-6°-E	[方形]	(4.42)×(4.35)	6	平坦	一部	8	1	1	北壁 2	-	土師器 須恵器	7世紀前半	本跡→SK1511・ 1542・1788・1790
118	J 2g2	N-5°-E	方形	4.54×3.40	22~30	平坦	全周	4	1	1	北壁 1, 11	-	自然 土師器 須恵器 焼成粘土塊 鉄滓	7世紀後半	本跡→SD163・ 247
122	J 2d9	N-84°-W	長方形	4.57×3.84	4~8	平坦	一部	4	1	-	西壁	-	土師器	6世紀後半	本跡→SK2443
123	I 2c8	N-103°-W	長方形	5.55×4.15	8~20	平坦	全周	-	1	3	西壁	-	自然 土師器	7世紀前半	本跡→SK396, SK2474
125	I 2b8	N-8°-E	方形	3.47×3.28	25	平坦	全周	4	1	1	北壁	1	人為 土師器 鉄滓	7世紀前半	

(2) 土坑

土坑14基を確認した。実測図と一覧で掲載する。

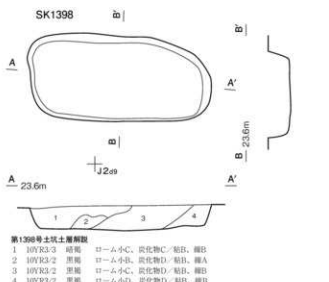


SK1331



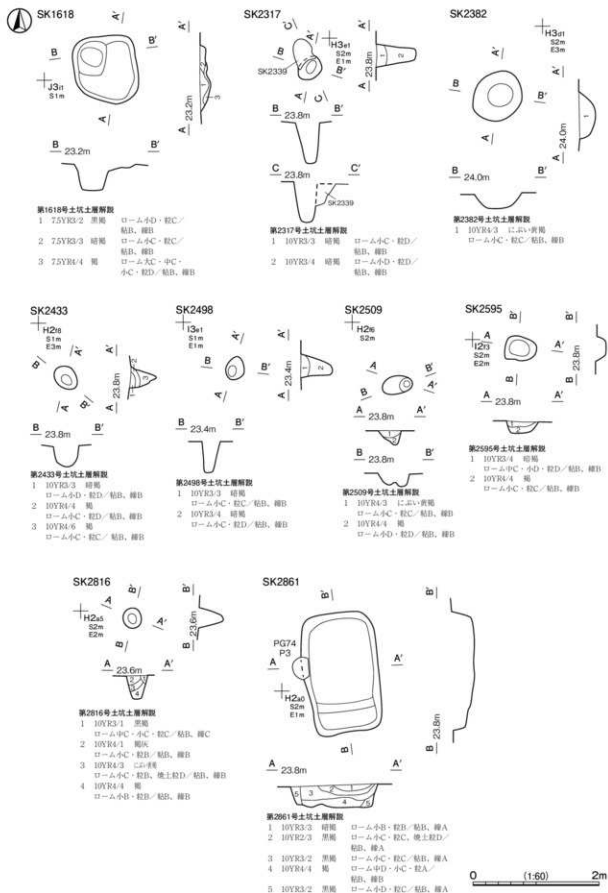
第1331号土坑土層断面図

- 1 10YR3/3 粘泥 ローム小C・炭化物C/粘土、細B
2 10YR4/3 二色泥 ローム大C/粘土、細B
3 10YR4/6 泥 ローム大C・中C・小C/粘土/粘土、細A

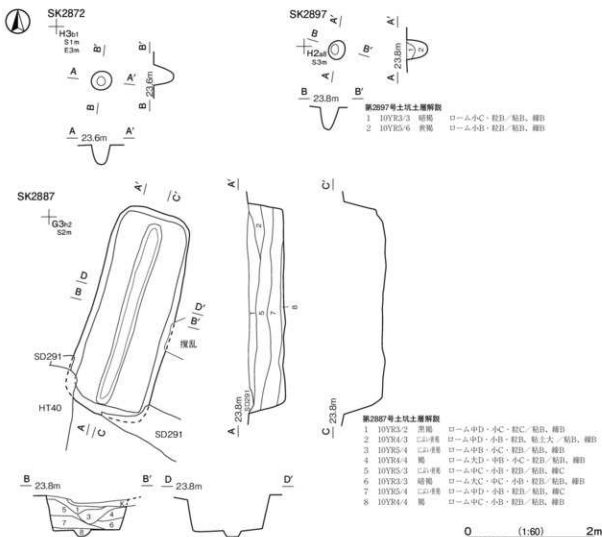


第25図 古墳時代の土坑実測図(1)

0 (1:50) 2m



第 26 図 古墳時代の土坑実測図(2)



第27図 古墳時代の土坑実測図(3)

第10表 古墳時代土坑一覧

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)	傾斜						
1331	J 2e9	N-1°-W	楕円形	(2.13) × 1.06	15	外傾	凹状	自然	土師器		後期	SH15→本跡→SK1462
1398	J 2e8	N-85°-W	楕円形	2.95 × 1.38	38	外傾	平坦	人為	土師器		後期	
1618	J 3i1	N-7°-W	隅丸方形	1.08 × 0.98	8~16	外傾	凹凸	自然	須恵器		後期	
2317	H 3e1	N-40°-E	楕円形	0.43 × 0.33	64	直立	凹状	自然	土師器		後期	本跡→SK2309
2382	H 3d1	N-25°-E	楕円形	0.82 × 0.72	24	外傾	凹状	人為	土師器		後期	
2433	H 2e8	N-47°-W	楕円形	0.42 × 0.32	33	直立	凹状	自然	土師器		後期	
2498	I 3e1	N-7°-E	楕円形	0.35 × 0.27	48	直立	平坦	自然	土師器		後期	
2509	H 2e6	N-75°-E	楕円形	0.50 × 0.29	22	外傾	凹凸	自然	土師器		後期	
2595	I 2d3	N-82°-W	楕円形	0.50 × 0.36	16	外傾	平坦	自然	土師器		後期	
2816	H 2a5	-	円形	0.32 × 0.30	38	外傾	凹状	人為	土師器		後期	
2861	H 2a0	N-9°-W	隅丸長方形	1.94 × 1.18	40	外傾	平坦/有段	人為	土師器		後期	本跡→PG74
2872	H 3b1	-	円形	0.33 × 0.32	32	直立	凹状	-	土師器		後期	
2887	G 3b2	N-19°-E	長方形	3.34 × 1.35	53	外傾	平坦	自然	土師器 須恵器		後期	本跡→HT40, SD291
2897	H 2a8	-	円形	0.30 × 0.28	34	直立	平坦	人為	土師器 須恵器		後期	

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

竪穴建物跡9棟、井戸跡5基、道路跡1条、溝跡1条、土坑25基を確認した。以下、遺構と遺物について掲載する。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第28～30図 第11表 PL12・54・55）

位置 調査区A区北西部のD4j4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.10m、短軸3.02mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁は高さ7cmで、外傾している。

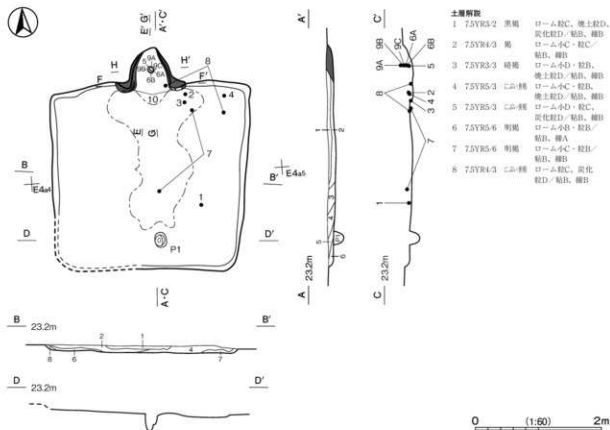
床 は平坦で、竪穴前方から南部にかけて細長く硬化している。

竈 北壁中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで109cmで、煙道部幅は50cmである。袖部は、地山の上に焼土ブロック、ローム粒子、砂質粘土粒子を含む第7層で構築している。竈内側の壁面にも袖部と同様の構築土を貼り付けている。また、竈の補強材として、須恵器甕の体部片を両袖の前方部に貼り付けている。煙道部は壁外に55cmほど張り出し、火床部は7cmほど掘りくぼめ、ロームブロック、焼土ブロックなどを含む第8層を埋土して整地している。火床面は、赤変硬化していない。

ピット P1は長径24cm、短径18cm、深さ26cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

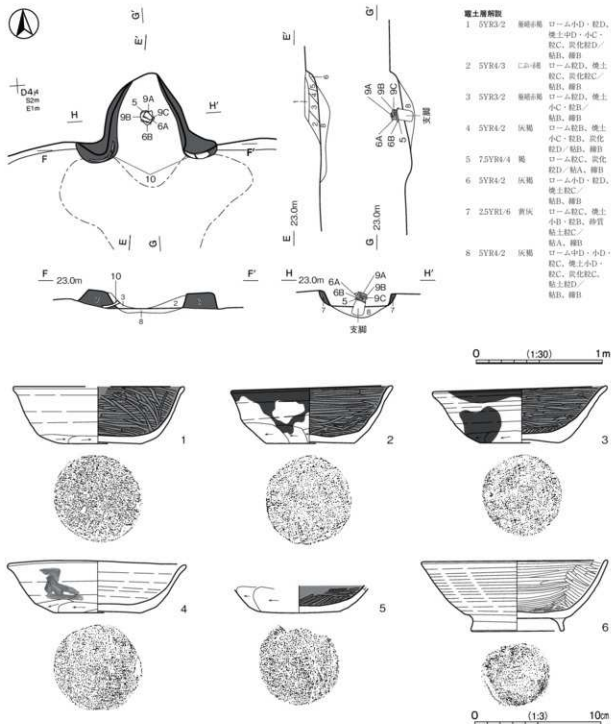
覆土 8層に分層できる。各層にロームブロック・粒子を含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片65点(坏20、高台付坏2、甕43)、須恵器片7点(坏3、甕3、甕1)、灰釉陶器片1点(甕)、土製品1点(支脚)、金属製品1点(刀子)が覆土の全域から散在した状態で出土している。特に、竈内や右

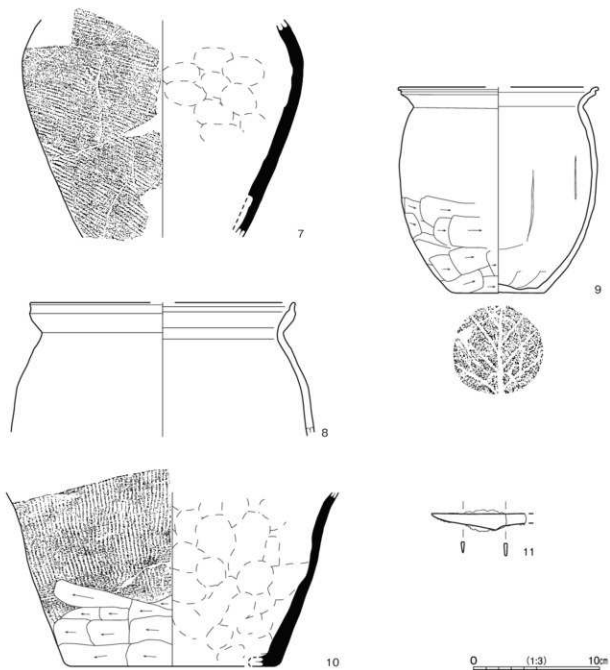


第28図 第1号竪穴建物跡実測図

袖部付近に遺物が集中している。1は南東部、2・3は竜右袖前、4は北東コーナー部の覆土下層から、それぞれ正位の状態出土している。7は北東部と南部、8は北東部と竜内の覆土下層から、逆位の状態出土した破片が、それぞれ接合している。また、5・6・9は重ねた状態で支脚の上から出土しており、接合している。10は竜両袖の補強材として使われた破片が接合している。なお、支脚は被熱を受けて脆く、図示できなかった。所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。竜の支脚は被熱を受けているが、支脚の上に重ねた土器片には被熱の痕跡がない。また、火床面が赤変硬化していないことから、意図的な火床面の掻き出しが行われたと考えられる。支脚上部への土器片の積み上げを含め、竜祭祀の可能性がある。



第29図 第1号聖穴建物跡・出土遺物実測図



第30図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

第11表 第1号竪穴建物跡出土遺物一覧(第29・30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.4]	4.6	6.9	長石・石英・雲母・礫	黄灰	二次焼成 黒色処理	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後部分的な底面回転ヘラ削り後一方向のヘラ削り	南東部 覆土下層	70% PL54
2	土師器	坏	12.6	4.6	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底面回転ヘラ削り後一方向のヘラ削り	北東部 覆土下層	90% PL54 保存者
3	土師器	坏	13.8	4.5	6.4	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底面回転ヘラ削り後一方向のヘラ削り	北東部 覆土下層	90% PL54 保存者
4	土師器	坏	14.2	4.2	7.0	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 体部外面下端手持ちヘラ削り 底面回転ヘラ削り後一方向のヘラ削り 磨き「主」	北東部 覆土下層	80% PL 5
5	土師器	坏	—	(21)	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後部分的な黒色処理 底面回転ヘラ削り後一方向のヘラ削り	竈内	20%

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
6	土師器	高台付杯	14.7	5.6	7.2	長石・石英・赤色粘土・黒色粘土・細砂	にぶい褐	普通	口クロ成形 底部外面下端持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼付	竈内	60%
7	灰土器	甕	-	(17.3)	-	長石・石英・赤色粘土・細砂	灰黄	普通	底部外面横位平行削り 内面横位ヘラナデ後外面平行削きによる指痕	北東部・南部 覆土下層	10% 新治窯
8	土師器	甕	[21.0]	(10.6)	-	長石・石英・赤色粘土・細砂	にぶい赤褐	普通	内外面横位ヘラナデ	北東部・覆土下層	20%
9	土師器	甕	[15.6]	16.4	7.2	長石・石英・赤色粘土・細砂	橙	普通	口縁部内外面横位ナデ 底部外面上平横位ナデ 下半面横位ヘラ削り 内面縦位ヘラナデ 底部本煮痕	竈 覆土下層	50% PL54
10	灰土器	瓶	-	(13.8)	[16.2]	長石・石英・赤色粘土・細砂	にぶい褐	普通	底部外面縦位の平行削り 下半横位ヘラ削り 内面横位ヘラナデ 外面平行削きによる指痕	竈 覆土下層	40% PL55 新治窯
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴			出土位置	備 考
11	刀子	(7.5)	1.3	0.3	(7.41)	鉄	基部欠損	刃部断面三角形	片削	覆土	PL55

第2号竪穴建物跡（第31・32図 第12表 PL12・55）

位置 調査区A区北西部のE4e3区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路、第4・5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部が第4号溝に掘り込まれているため、確認できた規模は、東西軸3.27m、南北軸3.22mである。平面形は、方形ないし長方形と推定でき、主軸方向はN-90°-Eである。壁は高さ4～14cmで、外傾している。

床 (ほぼ平坦で、竈1の前方形から西部にかけて細長く硬化している。確認した範囲で壁溝が巡っている。

竈 2か所。竈1は東壁の南寄りに位置している。北側半分は、第5号溝に掘り込まれている。規模は焚口部から煙道部まで85cmで、煙道部幅は不明である。袖部は、地山の上に粘土ブロックや粘土粒子を含む第2層で構築している。竈内側の壁面にも袖部と同様な構築土を貼り付けている。煙道部は壁外に60cmほど張り出し、火床部は床面と同じ高さである。火床面は、被熱を受けて赤変硬化している。竈2は西壁の南寄りに位置している。煙道部は壁外に58cmほど張り出している。焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子などを含む第3・4層で埋土している。壁溝が巡り、埋め戻していることから、竈2から竈1へ造り替えたものと考えられる。

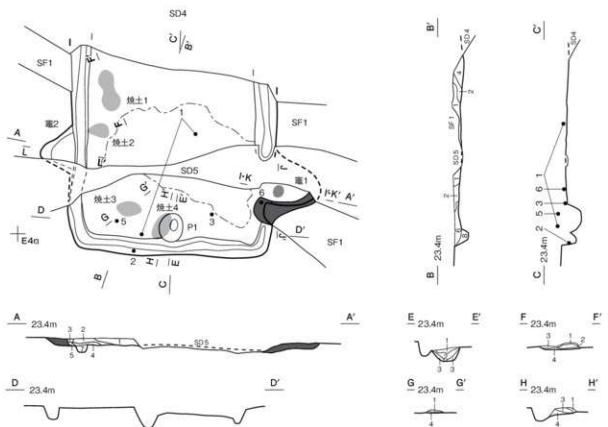
ピット P1は長径42cm、短径36cm、深さ19cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。また、南部中央から西部壁際の4か所で、覆土下層から焼土がまとまって出土している。廃絶後の廃棄と考えられる。

遺物出土状況 土師器片105点（杯26、高台付皿1、甕78）、灰釉陶器片1点（壺）、金属製品1点（刀子カ）が、南壁際の覆土下層からまとまって出土している。灰釉陶器片と金属製品は細片のため、図示できなかった。

1は中央部の床面と南部の覆土上層から、それぞれ出土した破片が接合している。2は南部の壁溝内から、4は竈内の覆土中から、6は竈1の袖部上面からそれぞれ出土している。3は南部の床面、5は南西コーナー部の覆土上層から、それぞれ出土している。

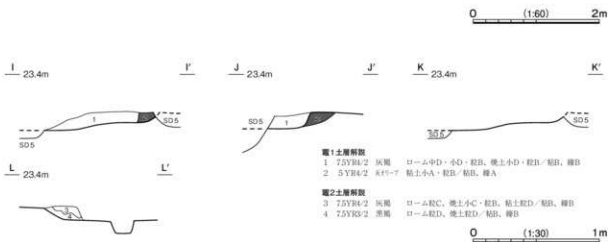
所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



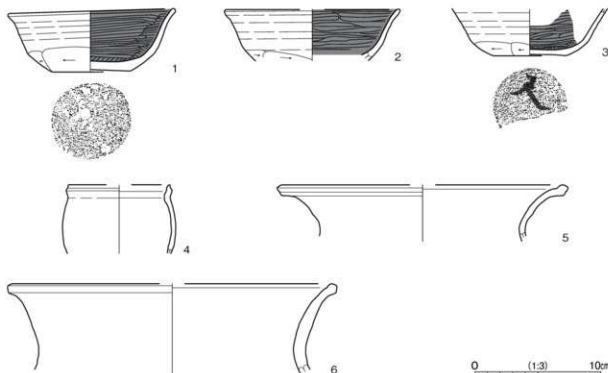
1	75YR3/2	黑褐色	ローム状砂、黄土小砂・粒状、炭化粒砂/粘土、腐植
2	75YR3/2	黒褐色	ローム中砂・小砂・粒状、黄土粒状、炭化粒砂/粘土、腐植
3	75YR4/2	灰褐色	ローム粒状、黄土小砂・粒状、炭化粒砂/粘土、腐植
4	75YR5/3	黄褐色	ローム粒状、粘土粒状/粘土、腐植
5	75YR4/3	黒褐色	ローム粒状、黄土粒状/粘土、腐植
6	75YR3/2	黒褐色	ローム小砂・粒状、黄土粒状、炭化粒砂/粘土、腐植
7	75YR4/3	黒褐色	ローム小砂・粒状、黄土小砂・粒状、炭化粒砂、粘土粒状、腐植
8	75YR3/2	黒褐色	ローム小砂・粒状、黄土粒状、炭化粒砂/粘土、腐植

1	7.5YR3/3	暗褐	ローム小D・粒D、微土粒C、炭化粒C/粘B、雜B
2	7.5YR3/2	黑褐	ローム粒D、微土粒D、炭化粒D/粘B、雜B
3	7.5YR4/3	褐	ローム小C・粒C、炭化粒D/粘B、雜A

1	2.5YR4/6	赤褐	ローム小D・粒C、焼土大B・粒C/粘B、輝石
2	7.5YR5/3	にがい褐	ローム粒D、焼土粒C、炭化粒C/粘B、輝石
3	2.5YR5/6	明赤褐	ローム粒D、焼土大A、炭化粒C/粘B、輝石
4	7.5YR5/3	にがい褐	ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、輝石



- 40 -



第32図 第2号竪穴建物跡出土物実測図

第12表 第2号竪穴建物跡出土物一覧 (第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	132	5.0	6.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	中央部床面 南部覆土上層	80% PL55
2	土師器	坏	[136]	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理	壁溝内	20%
3	土師器	坏	-	(3.7)	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り 黒書「天」	南部床面	30% PL55
4	土師器	甕	[40]	(5.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内外面横位ヘラナデ	覆土内層	20%
5	土師器	甕	[224]	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横位ヘラナデ	南西部覆土上層	5%
6	土師器	甕	[254]	(7.2)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内外面横位ヘラナデ	甕袖	5%

第3号竪穴建物跡 (第33・34図 PL12・55)

位置 調査区A区北西部のE4g2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号井戸跡を掘り込んでいる。

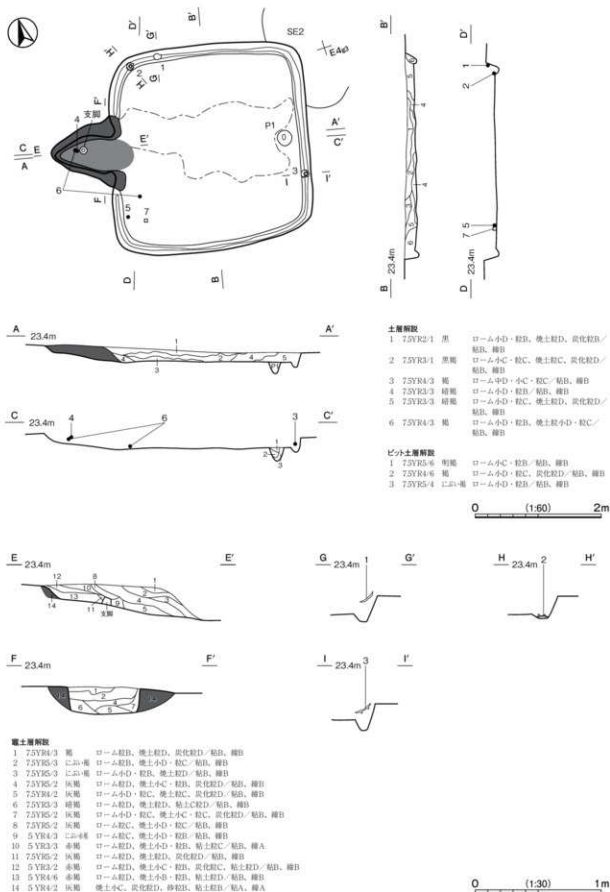
規模と形状 規模は、長軸3.28m、短軸3.18mの方形で、長軸方向はN-62°-Wである。壁は高さ14～18cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦で、竈前方部から南西部にかけて細長く硬化している。壁溝が全周している。

竈 北西壁の中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで132cmで、煙道部幅は48cmである。袖部は、遺存していないが、竈内側の壁面には、砂質粘土粒子、焼土ブロック、ロームブロックを含む構装土を貼り付けている。煙道部は壁外に95cmほど張り出し、火床部は床面と同じ高さである。火床面は、赤変硬化している。

ピット P1は、径24cm、深さ21cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

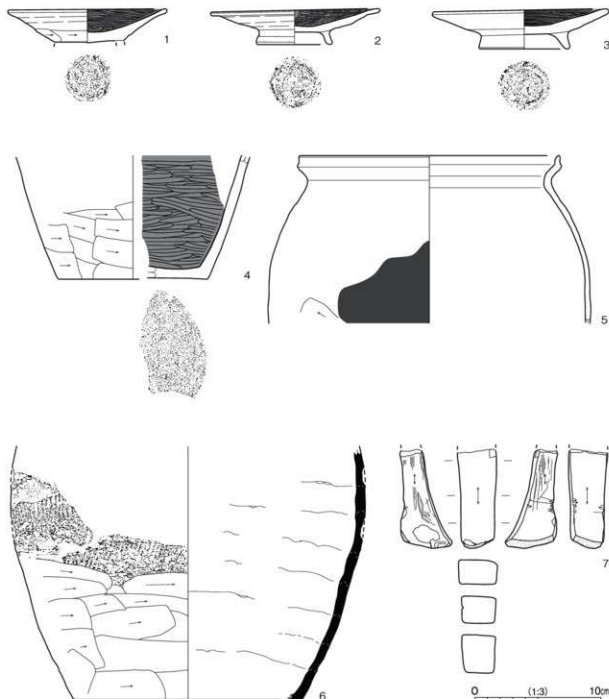
覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。



第33図 第3号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 231 点（坏 44、高台付皿 3、鉢 1、甕 182、瓶 1）、須恵器片 11 点（坏 4、甕 5、瓶 2）、土製品 1 点（支脚）、石器 1 点（砂岩製砥石）が、覆土の全域から散在した状態で出土している。1 は北壁西側寄りの覆土上層、2 は北西コーナー部の壁溝内から逆位の状態で、3 は東壁南側寄りの覆土上層、4 は竈内、5・7 は南西コーナー部の覆土下層から、それぞれ出土している。また、6 は南西コーナー部の覆土下層と竈内から出土した破片が接合したものである。なお、支脚は被熱を受けて脆く、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。



第 34 図 第 3 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第13表 第3号竪穴建物跡出土遺物一覧(第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	高台付皿	126	(27)	—	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口タロ成形 外面下縁横位手持ちヘラ削り 内面ヘラ削り 磨き後黒色処理 底部ヘラ切り高台部貼付(高台部欠損)	北壁 覆土上層	80% PL55
2	土師器	高台付皿	134	28	60	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい黄	普通	口タロ成形 外面下縁横位手持ちヘラ削り 内面ヘラ削り 磨き後黒色処理 底部ヘラ切り後高台部貼付	北西コーナー部 壁溝内	80% PL55
3	土師器	高台付皿	137	32	70	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄	普通	口タロ成形 外面下縁横位手持ちヘラ削り 内面ヘラ削り 磨き後黒色処理 底部ヘラ切り後高台部貼付	北壁 覆土上層	90% PL55
4	土師器	鉢	—	(99)	[120]	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	体部外面上半横位ヘラナデ 下縁横位ヘラ削り 内面ヘラ削り 磨き後黒色処理 底部ヘラ削り	覆土下層	20%
5	土師器	甕	[206]	(133)	—	長石・石英・赤母・細礫	橙	普通	口唇部横上 口縁部内外面横位ナデ 体部外面ヘラナデ 下半横位ヘラ削り 内面ヘラナデ	北西コーナー部 覆土下層	20% PL55 外面僅付着
6	須恵器	甕	—	(202)	[182]	長石・石英・赤母・赤色粒子	橙	普通	体部外面上半横位平行叩き 面横位ヘラナデ 輪縁みず	北西コーナー部 覆土下層・地内	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
7	砥石	(79)	3.1	4.2	(105.93)	砂岩	砥面四面 縦・斜位磨痕 磨状の研磨痕 端部欠損	北西コーナー部 覆土下層	PL55

第4号竪穴建物跡(第35・36図 第14表 PL13)

位置 調査区A区中央部のF 4 b2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 規模は、長軸4.53m、短軸4.42mで、形状から、方形である。主軸方向はN-9°-Eである。壁は高さ20cmで、外傾している。

床 は平坦で、壁際を除いて硬化している。壁溝が全周している。

竈 北壁の中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで78cmで、煙道部幅は40cmである。袖部は、地山の上に砂粒、粘土粒、ロームブロックを含む第10層で構築している。煙道部は壁外に張り出ず、袖部と同様な構築土を煙道部の壁面に貼り付けている。火床部は床面と同じ高さである。火床面は、赤変硬化している。

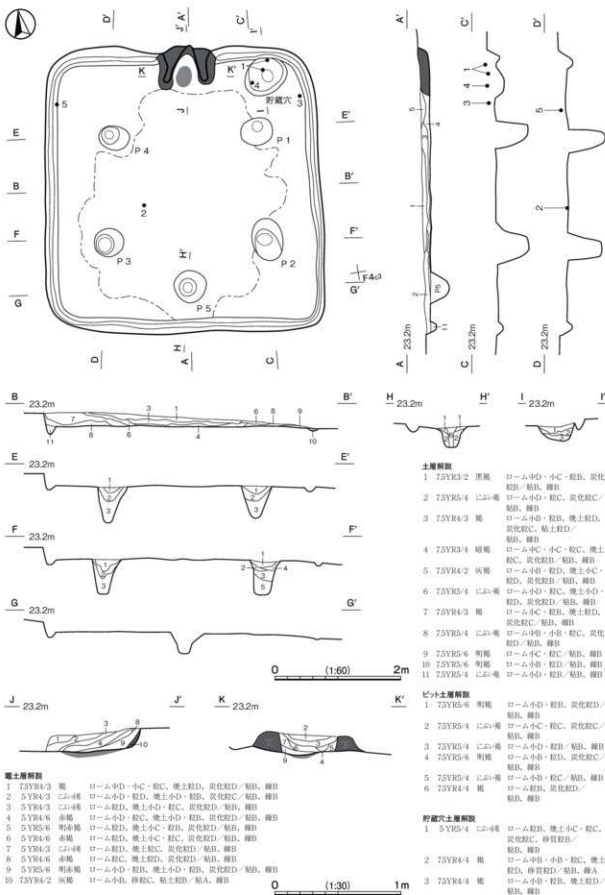
ピット 5か所。P1～P4は径46～57cm、深さ48～57cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は長さ53cm、短径52cm、深さ31cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径70cm、短径56cmの楕円形で、底面は深さ27cmで、南西部が高さ11cmほどの段を有している。壁は外傾している。3層に分層でき、各層にロームブロックを含んでいることから、人為堆積である。

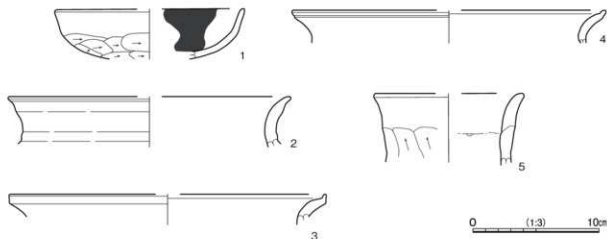
覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片73点(坏7、甕64、甕1、手捏1)、須恵器片11点(坏6、甕5)が、覆土の全域から散在した状態で出土している。1は貯蔵穴内の覆土上層から出土した破片が接合したものである。2は中央部や西寄りの床面、3は北東コーナー部の壁際の覆土下層、4は貯蔵穴内の覆土上層、5は北西壁際の覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第35図 第4号堅穴建物跡実測図



第36図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図

第14表 第4号竪穴建物跡出土遺物一覧(第36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[150]	(40)	-	長石・石英	にふい青褐色	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位へう張り 内面ナデ	貯蔵穴 覆土上層	30% 保存着
2	土師器	甕	[224]	(40)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ	中央部 床面	5%
3	土師器	甕	[250]	(24)	-	長石・石英・雲母	にふい青褐色	普通	口縁部横ナデ 口縁部内外面横位ナデ	北東コーナー部 覆土下層	5%
4	土師器	甕	[248]	(26)	-	長石・石英・雲母・褐色粒子	にふい青褐色	普通	口縁部内外面沈線 口縁部内外面横位ナデ	貯蔵穴 覆土上層	5%
5	土師器	甕	[116]	(57)	-	長石・石英・雲母・細線	明赤褐色	普通	口縁部内外面横位ナデ 体部外面縦位へう張り 内面ナデ 輪横痕	北西明窓 覆土下層	5%

第5号竪穴建物跡(第37・38図 第15表 PL13・56)

位置 調査区A区中央部のF4e1区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東部から南部中央にかけて削平されているため、確認できた規模は、東西軸4.07m、南北軸3.92mである。形状から方形と推定でき、主軸方向はN-10°-Eである。壁は高さ12cmで、外傾している。

床 は平坦で、竈前方から主柱穴に囲まれた範囲が硬化している。壁下に壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで62cmで、煙道部幅は48cmである。袖部は、地山の上にロームブロック・粒子、焼土粒子などを含む第7・8層で構築している。煙道部は壁外に15cmほど張り出し、袖部と同様な構築土を煙道部の壁面にも貼り付けている。火床部は床面と同じ高さである。火床面は、赤変硬化している。

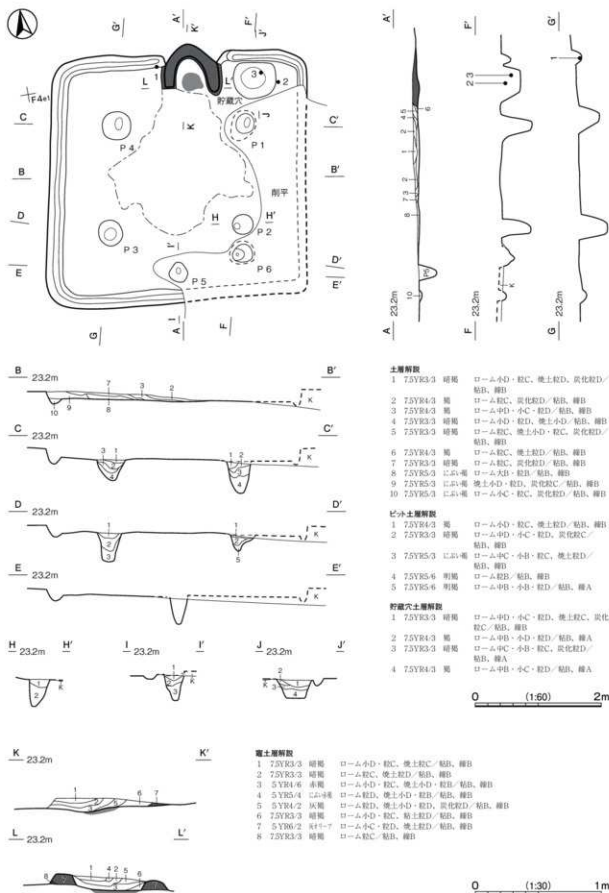
ピット 6か所。P1～P4は、径33～52cm、深さ33～44cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は、径31cm、深さ48cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は、長径40cm、短径34cm、深さ26cmで、性格は不明である。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径64cm、短径54cmの楕円形で、深さ29cmである。壁は外傾し、底面は平坦である。4層に分層でき、各層にロームブロックを含んでいることから、人為堆積である。

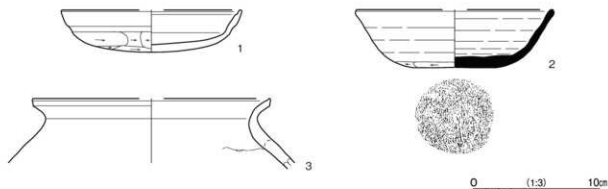
覆土 10層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片23点(坏3、甕20)、須恵器片4点(坏3、甕1)が、覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。1は竈脇の壁溝内から、2は北東コーナー部の床面から、3は貯蔵穴内の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第37図 第5号貯穴建物跡実測図



第38図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図

第15表 第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	(142)	3.3	3.0	長石・石英・黒色 粒子・細礫	橙	普通	口唇部内面沈線 体部内外面横位ナデ 下端 沈線 底部外面へう張り 内面へうナデ	楕溝内	70% PL56
2	須恵器	坏	(158)	4.6	6.0	長石・石英・雲母・ 黒色粒子・細礫	灰黄褐	普通	体部下進部へ方向の手持ちへう張り底面外面へう 張り後多方向の手持ちへう張り	北東コーナー部 新治面	40% PL56
3	土師器	甕	[188]	(56)	-	長石・石英・雲母・ 細礫	にぶい橙	普通	内外面横位へうナデ・輪稜痕	貯蔵穴 覆土中層	5%

第114号竪穴建物跡(第39・40図 第16表 PL13・56)

位置 調査区C区西部のI3J2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸330m、短軸298mの方形で、長軸方向はN-4°-Wである。壁は高さ45cmほどで、外傾している。

床 やや凹凸があり、硬化していない。

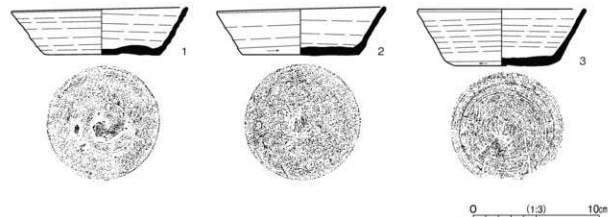
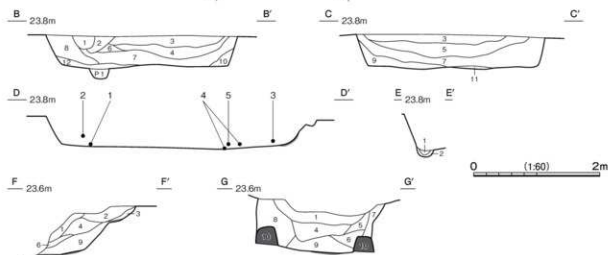
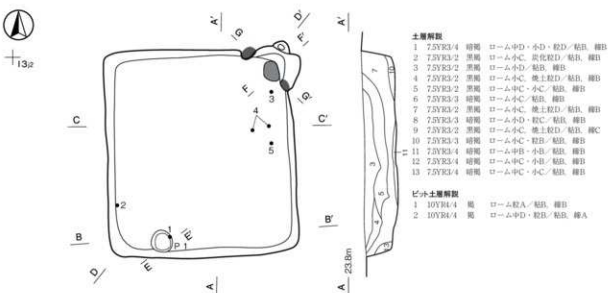
竈 北東コーナー部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで80cmで、燃烧部幅は60cmである。袖部は一部が残存するのみで、地山の上に第10層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第9層下面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど張り出し、火床面から外傾して立ち上がっている。

ピット 1か所。P1は深さが14cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土は柱抜き取り後の流入土である。

覆土 13層に分層できる。ロームブロックやローム粒子を含む黒褐土や暗褐土が主体で、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片21点(坏3、甕18)、須恵器片9点(坏6、甕2、甕1)が出土している。ほかに混入した陶器片1点が出土している。遺物は南東コーナー部付近と、竈周辺の覆土下層から床面にかけて多く出土している。1は南西部のP1付近の床面から逆位で、2は南西コーナー部壁際の下層から横位で、3は竈の焚口部の覆土下層から逆位で、5は東部の覆土下層から、それぞれ出土している。4は竈の右袖部前の覆土下層から床面にかけて出土した2点が接合している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第39図 第114号堅穴建物跡・出土遺物実測図



第40図 第114号竪穴建物跡出土遺物実測図

第16表 第114号竪穴建物跡出土遺物一覧（第39・40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	139	3.7	9.0	長石・石英・雲母・磁石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	P1付近 床面	100% 新治産
2	須恵器	坏	134	3.8	9.2	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	体部下端回転ヘラ削り	南西コーナー部 覆土下層	100% 新治産
3	須恵器	坏	132	4.5	7.5	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	竈焚口部覆 土下層	70% PL56
4	須恵器	壺	161	(21)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	に灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	竈右端部 覆土下層・床面	90% 新治産
5	須恵器	甕	-	(7.7)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面縦位平行叩き	内面同心円文当て具 覆土下層	5% PL56 新治産

第120号竪穴建物跡（第41・42図 第17表 PL13）

位置 調査区C区西部のH2j6区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2442・2472号土坑、第166号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸3.38m、南北軸3.38mの方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁は高さ19～31cmで、外傾している。

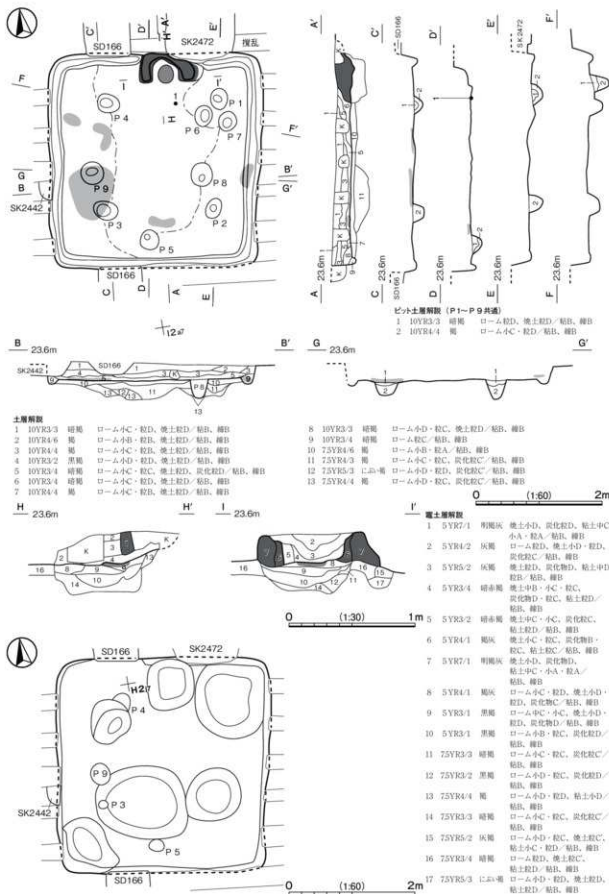
床 はほぼ平坦で、東・西壁際を除いた中央部が硬化している。貼床は、北東コーナー部や南西部などを一段深く土坑状に掘り込み、第10～13層を8～30cm埋土して構築している。壁溝は全周している。

竈 北壁中央部に位置している。焚口部付近と煙道部付近が攪乱のため、確認できた規模は焼炭部幅が55cmほどで、火床面から煙道部方向は50cmほどである。竈は地山を20cmほど楕円形に掘りくぼめ、焼土ブロックや炭化物、焼土粒子を含む第8～17層を埋土して整地している。袖部は、整地層の上に第6・7層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第8層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 9か所。P1～P4は深さ15～23cmで、規模や配置から主柱穴である。P5は深さが20cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ15cm・28cmで、P1に近接する位置にあり、P1の補助的な柱穴などの可能性がある。P8・P9は深さ30cm・21cmで、柱筋はずれているが、建物の中間付近に位置していることから、上層構造に関連する柱穴の可能性がある。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックやローム粒子、焼土粒子を含む層が、不規則に堆積していることから、人為堆積である。また、東・西・南壁側の覆土下層から床面にかけてと東壁側の壁溝内に、厚さ5～10cmの焼土が堆積している。

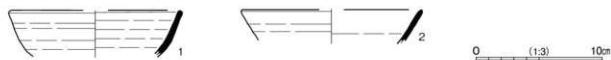
遺物出土状況 土師器片26点（坏2、甕23、瓶1）、須恵器片3点（坏2、蓋1）が出土している。ほかに混入した黒色安山岩製の剥片1点が出土している。遺物は少量で、主に覆土中から出土している。1は竈前面の床面から、2は南東部の覆土中から、それぞれ出土している。また、南壁側の覆土下層から床面にかけて炭



第41図 第120号竪穴建物跡実測図

化材が出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀代と考えられる。遺物の出土状況から、建物廃絶後まもなく焼土や炭化材、土器片などを廃棄したものと考えられる。



第42図 第120号竪穴建物跡出土遺物実測図

第17表 第120号竪穴建物跡出土遺物一覧（第42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	杯	[134]	(38)	-	長石・石英・雲母	にび青褐色	普通	ロクロナデ	竈内 床面	10%
2	須恵器	杯	[144]	(27)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	ロクロナデ	南東部 覆土	10% 新治産

第121号竪穴建物跡（第43図 第18表 PL13・56）

位置 調査区C区西部のI2a6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2460・2471号土坑、第166号溝に掘り込まれている。

規模と形状 掘削と重複のため、確認できた規模は南北軸3.10m、東西軸2.80mの長方形で、主軸方向はN-6°-Eである。掘方の規模は、南北軸3.40m、東西軸3.50mである。壁は高さ30～38cmで、外傾している。

床 は平坦で、竈前面から南壁際まで、帯状に硬化している。貼床は、ロームブロックを多く含む第9・10層を20cmほど埋土して構築している。確認できた範囲で壁溝は巡っている。

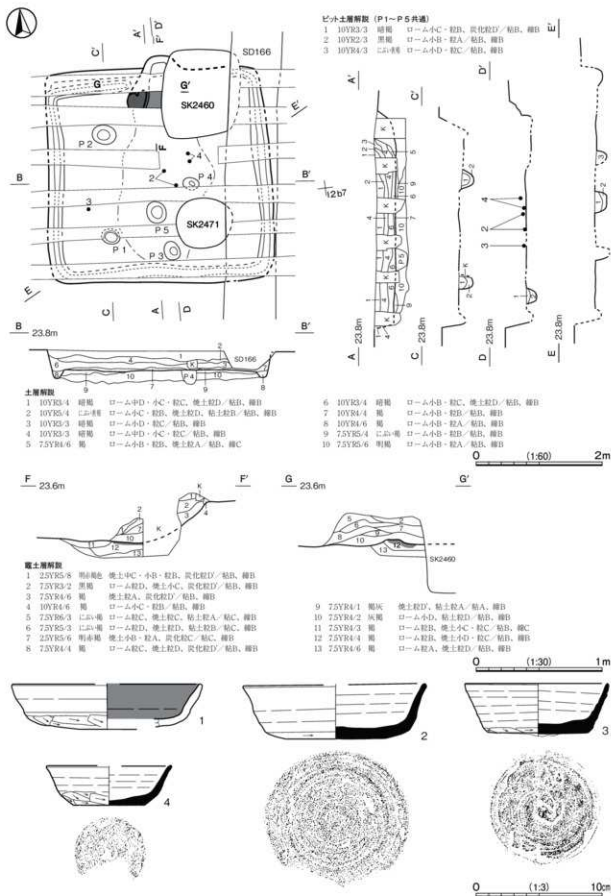
竈 北壁中央部に位置している。竈は上部と中央から東側と焚口部付近が掘削や重複のため、火床面と煙道部の一部を確認したのみである。確認できた規模は、燃焼部幅は20cmほどで、火床面から煙道部方向は85cmほどである。竈は地山を15cmほど楕円形に掘りくぼめ、ローム粒子や焼土ブロックを含む第11～13層を埋土して整地している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第12層上面で、赤変硬化している。煙道部は、火床面から外傾して立ち上がっている。

ピット 5か所。P1・P2は深さ23cm・22cmで、規模や配置から主柱穴である。P3は深さが19cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4・P5は深さがいずれも18cmで、性格は不明である。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックやローム粒子、焼土粒子を含む暗褐色土を主体で、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片41点（杯13、甕28）、須恵器片6点（杯5、蓋1）が出土している。ほかに流入した瓦片1点が出土している。遺物は少量で、主に中央付近の覆土下層から出土している。1は南西部の覆土から、2・4は中央部の床面から、3は南西部の床面から逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第43図 第121号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第18表 第121号竪穴建物跡出土遺物一覧（第43図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考	
1	土師器	坏	[150]	[34]	98	長石・石英・細砂	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ 内面黒色処理	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	南西部 竪土	20%
2	灰土器	坏	[145]	44	80	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐色	普通	体部下端～底部回転ヘラ削り		中央部 床面	70%、PL56 新治窯
3	灰土器	坏	115	42	80	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り		南西部 床面	70%、PL56 新治窯
4	灰土器	坏	[99]	31	55	長石・石英・雲母・細砂	灰黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り		中央部 床面	60% 新治窯

第124A号竪穴建物跡（第44・45図 第19表 PL13）

位置 調査区C区西部のI3fl区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第204号井戸、第263・264号溝、第2560号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形と土層の堆積状況から2回の拡張を確認し、拡張前が124C号、1回目の拡張が124B号、2回目の拡張が124A号とした。第124A号竪穴建物跡は、南北軸4.64m、東西軸4.72mの方形で、第124B号竪穴建物跡を西へ30cm、南へ20cmほど拡張している。主軸方向はN-14°-Eである。壁は高さ12cmほどで、外傾している。

床 は平坦で、壁際を除いた中央部が硬化している。貼床は、第124B号竪穴建物の床面にロームブロックを含む第14層を5cmほど埋土して構築している。壁溝は、北壁から西壁にかけてと南壁の一部に巡っている。

竈 北壁中央部に位置している。焚口部付近が攪乱のため、確認できた規模は、火床面から煙道部まで100cmほどで、推定される燃焼部幅は60cmほどである。竈は地山を10cmほど楕円形に掘りくぼめ、ロームブロックを多く含む第8～10層を埋土して整地している。袖部は、整地面の上に第6・7層を積み上げて構築している。火床部は床面とはほぼ同じ高さである。火床面は第11層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかに立ち上がっている。

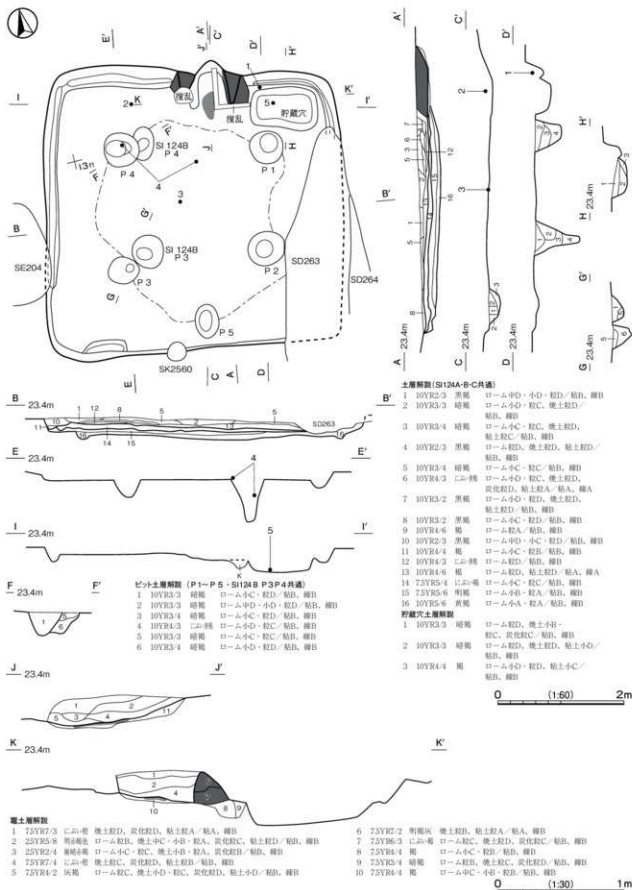
ピット 5か所。P1～P4は深さ30～70cmで、規模や配置から主柱穴である。P5は深さが22cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。なお、P3～P5は第124B号竪穴建物のP3～P5の外側に位置している。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸110cm、短軸66cmの隅丸長方形で、深さは25cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。3層に分層でき、ロームブロックや粘土ブロック、焼土粒子を含む暗黒土を主体とし、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、人為堆積である。

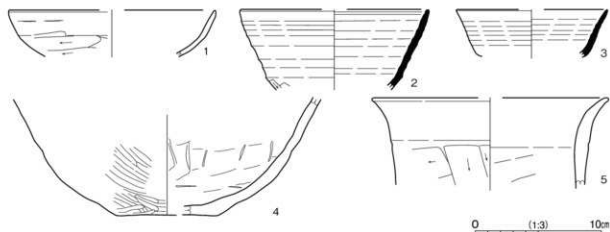
覆土 13層に分層できる。ロームブロックやローム粒子を少量含む黒褐土を主体とし、不規則に堆積していることから、人為堆積である。第3～7層は崩落した竈の構築土である。

遺物出土状況 土師器片57点（坏14、甕41、瓶2）、須恵器片6点（坏5、蓋1）が出土している。遺物は少量で、竈前面から中央部付近の覆土下層から出土している。3は、中央部の床面から出土している。4は、P4の覆土上層と竈前面の覆土下層から出土した2点が接合している。5は、貯蔵穴の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第44図 第124A～C号堅穴建物跡実測図



第45図 第124A号竪穴建物跡出土遺物実測図

第19表 第124A号竪穴建物跡出土遺物一覧(第45図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	杯	[156]	[37]	-	長石・石英・赤色粘土	明赤陶	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘナゲリ 内面ナデ	北部覆土下層	10%
2	須恵器	杯	[150]	(6.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粘土	黄灰	普通	体部下端手持ちヘナゲリ	北西部覆土下層	5%
3	須恵器	杯	[120]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁ナデ	中央部床面	5%
4	土師器	甕	-	(9.3)	[8.1]	長石・石英・雲母・黄灰	明赤陶	普通	体部外面・底部ヘナゲリ 内面ヘナゲリ	西上層・中央部覆土下層	10%
5	土師器	甕	[186]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	にじい陶	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘナゲリ 内面ヘナゲリ	貯蔵穴覆土下層	5%

第124B号竪穴建物跡(第44・46図 第20表)

位置 調査区C区西部のI3分区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第204号井戸、第263・264号溝に掘り込まれている。

規模と形状 平面形と覆土の堆積状況から2回の拡張が想定されたため、新しい方から124A・124B・124Cとする。第124B号竪穴建物跡は、長軸4.45m、短軸4.35mの方形で、第124C号竪穴建物を西・南へ20cmほど拡張している。主軸方向はN-12°-Eである。壁は高さ14~34cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦で、中央部南側、P2からP5付近にかけて硬化している。貼床は、第124C号竪穴建物跡のコーナー部付近を土坑状に掘り込み、ロームブロックを含む第15・16層を用いて、15cmほど埋土して構築している。確認できた範囲で、壁溝は北東コーナー部を除いて巡っている。

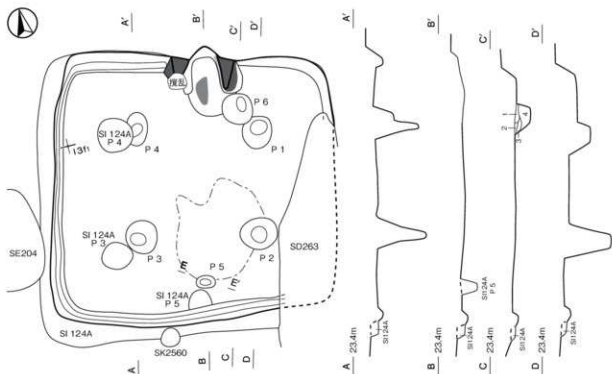
竈 北壁中央部に位置している。拡張時に作り替えていない。

ピット 7か所。P1~P4は深さ33~75cmで、規模や配置から主柱穴である。P5は深さが28cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ26cmで、性格は不明である。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P7は深さ24cmで、掘方底面で確認したものである。性格は不明である。なお、P1~P5は、第124C号竪穴建物のP1~P5とほぼ同位置である。

覆土 単一層。第14層は、第124A号竪穴建物構築時の貼床である。

遺物出土状況 土師器片10点(杯1、甕9)、須恵器片1点(蓋)が出土している。遺物は少量で、いずれも細片である。1はP5の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と拡張の事実から、第124A号竪穴建物よりも古い8世紀前葉と考えられる。

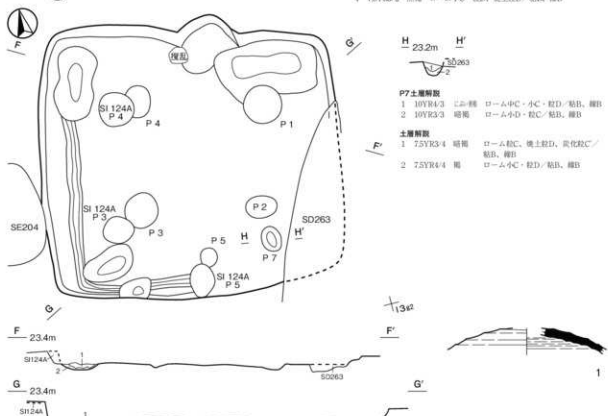


ピット土層解説 (P 5)

- 1 10YR4/3 粘土質 ローム小B・粒B・粘B・細B
- 2 10YR4/4 黒 ローム小B・粒A・粘B・細B
- 3 10YR4/6 黒 ローム小A・粒A・粘B・細B

ピット土層解説 (P 6)

- 1 7.5YR3/2 黒褐 ローム小D・粒D・焼土粒B・粘土粒D・粘B・細B
- 2 7.5YR3/3 暗褐 ローム小D・粒C・焼土粒C・粘B・細B
- 3 7.5YR2/2 黒褐 ローム小D・粒D・焼土粒D・粘土粒D・粘B・細B
- 4 7.5YR3/2 黒褐 ローム小C・粒D・焼土粒D・粘B・細B



F 23.4m

G 23.4m

0 (1:60) 2m

0 (1:3) 5cm

第 46 図 第 124B 号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第20表 第124B号竪穴建物跡出土遺物一覧(第46図)

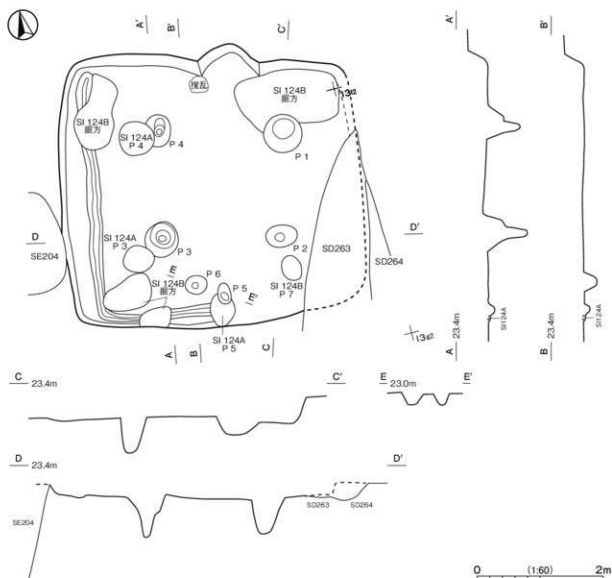
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	-	(21)	-	長石・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	P5覆土	20%新治産

第124C号竪穴建物跡(第44・47図)

位置 調査区C区西部のI3fl区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第204号井戸、第263・264号溝に掘り込まれている。

規模と形状 平面形と覆土の堆積状況から2回の拡張が想定されたため、新しい方から124A・124B・124Cとする。第124B号竪穴建物の掘方調査で、第124B号竪穴建物の西壁から50cmほど東側と南壁から10cmほど北側の位置に、L字状に巡る壁溝を確認したため、拡張前の竪穴建物跡と判断した。規模は長軸4.68m、



第47図 第124C号竪穴建物跡実測図

短軸4.30 mの方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁は高さ10～22cmで、外傾している。

床 やや凹凸があるものの、ほぼ平坦である。確認できた範囲で壁溝は、西壁と南壁の一部に巡っている。

竈 北壁中央部に位置している。袖部などが残存していないが、煙道部の掘り方が第124A・B号竈穴建物と一致することから、拡張時に作り替えていないと推定できる。

ピット 6か所。P1～P4は深さ28～70cmで、規模や配置から主柱穴である。P5は深さが18cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ20cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。第15・16層は、第124B号竈穴建物構築時の貼床である。

所見 時期は、拡張の事実から、第124A・B号竈穴建物跡よりも古い8世紀前葉と推定できる。

第21表 奈良・平安時代竈穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長×短(m)				柱穴	出入口	ピット	竈・竈	竈穴				
1	D44	N-2°-E	方形	3.10×2.02	7	平坦	-	-	1	-	北壁	-	人為	土師器 須恵器 灰釉陶器 支那 刀子	9世紀後葉	
2	E4e	N-90°-E	方形 [長方形]	3.27×(3.22)	4～14	平坦	[(14)全周]	-	1	-	東壁 西壁	-	人為	土師器 灰釉陶器 刀子	9世紀後葉	本跡→SF1, SD4・5
3	E4d	N-62°-W	方形	3.28×3.18	14～18	平坦	全周	-	1	-	北西壁	-	人為	土師器 須恵器 支那 灰石	9世紀後葉	SE2→本跡
4	F4b	N-9°-E	方形	4.53×4.42	20	平坦	全周	4	1	-	北壁	1	人為	土師器 須恵器	8世紀中葉	
5	F4e	N-10°-E	方形 [方形]	(4.07)×3.92	12	平坦	[(14)全周]	4	1	1	北壁	1	不明	土師器 須恵器	8世紀中葉	
114	I3j	N-4°-W	方形	3.30×2.98	45	凹凸	-	-	1	-	北東 コーナー	-	自然	土師器 須恵器	8世紀中葉	
120	H2b	N-13°-E	方形	3.38×3.38	9～31	平坦	全周	4	1	4	北壁	-	人為	土師器 須恵器	8世紀代	本跡→SK2442・ 2472, SD166
121	I2a	N-6°-E	方形	3.10×2.80	30～38	平坦	全周	2	1	2	北壁	-	自然	土師器 須恵器	8世紀中葉	本跡→SK2460・ 2471, SD166
124A	I3i	N-14°-E	方形	4.65×4.72	12	平坦	一部	4	1	-	北壁	1	人為	土師器 須恵器	8世紀前葉	SI24B・C→本跡 →SE204, SD203・ 264, SK260
12B	I3i	N-12°-E	方形	4.45×4.35	14～34	平坦	一部	4	1	2	北壁	-	人為	土師器 須恵器	8世紀前葉	SI24C→本跡 →SI24A, SE204, SD203・264
12C	I3i	N-12°-E	方形	4.68×4.30	10～22	凹凸	一部	4	1	-	北壁	-	人為	-	8世紀前葉	本跡→SI24A・B, SE204, SD203・ 264

(2) 井戸跡

第1号井戸跡 (第48図 第22表 PL14・56)

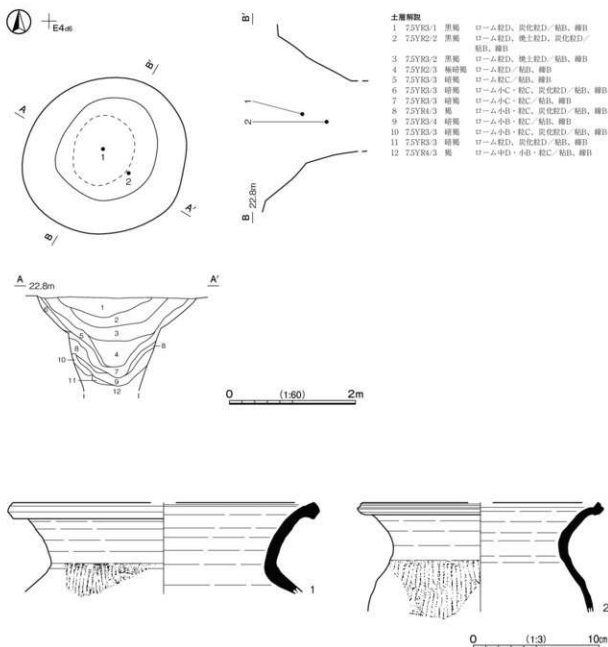
位置 調査区A区北部のE4d6区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.68m、短径2.54mの円形で、漏斗状を呈している。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から深さ150cmまでの調査とした。

覆土 12層を確認した。第1～4層は含有物が少なく、周囲からの流入した堆積状況から、自然堆積で、第5～12層は、各層にロームブロックなどをやや多く含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 須恵器片2点(甕)が覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉までに廃絶している。



第48図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第22表 第1号井戸跡出土遺物一覧(第48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	甕	[240]	(7.7)	-	長石・石英・ 赤母	灰褐色	普通	ロクロ成形 折返し口縁 体部外面平行叩き	覆土中層	10% 新治産
2	須恵器	甕	[188]	(8.6)	-	長石・石英・ 赤母	灰褐色	普通	ロクロ成形 折返し口縁 体部外面平行叩き	覆土中層	10% PL56 新治産

第2号井戸跡(第49図 PL14)

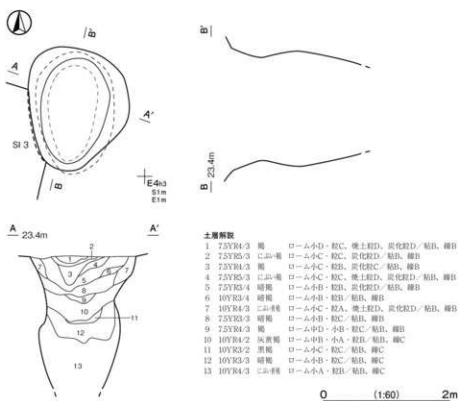
位置 調査区A区北部のE4f2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.93m、短径1.63mの楕円形で、下部は内彎して立ち上がり、確認面から深さ5～75cmでくびれて、外傾している。断面形は、壺状を呈している。長径方向はN-5°-Eである。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から深さ205cmまでの調査とした。

覆土 13層を確認した。各層にロームブロックを多く含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。

所見 出土遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、9世紀後葉の第3号堅穴建物に掘り込まれていることから、古代と考えられる。



第49図 第2号井戸跡実測図

第162号井戸跡（第50図 第23表 PL14）

位置 調査区C区南東部のJ4b0区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

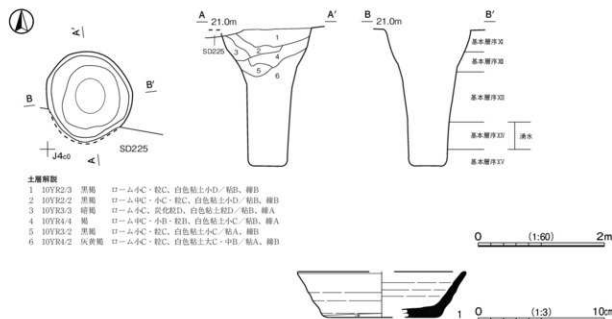
重複関係 第225号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は長径1.43m、短径1.41mである。平面形は円形である。断面形は漏斗状で、確認面から60cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.04m、短径0.90mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断り割り調査を実施した。確認面からの深さは217cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ140～190cmほどの基本層序第XV層付近で、底面は基本層序第XV層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 6層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 須恵器片1点（杯）、土製品1点（土玉）、砂岩片1点（99.45g）が出土している。

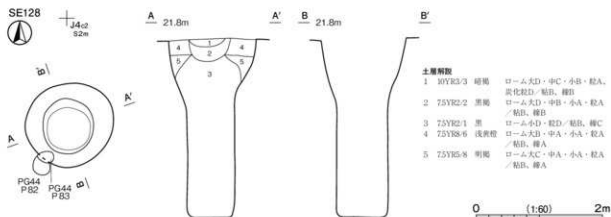
所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第50図 第162号井戸跡・出土遺物実測図

第23表 第162号井戸跡出土遺物一覧（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	杯	[132]	5.0	[90]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	クロコナデ ナデ	体部下端へラ削り 底部一方向の	出土位置 2% 新治産



第 52 図 奈良・平安時代その他の井戸実測図

第 25 表 奈良・平安時代井戸跡一覧

番号	位置	長短方向	平面形	規模		断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	E 4 d6	-	円形	2.68 × 2.54	(150)	漏斗状	-	自然入為	須恵器	
2	E 4 d2	N - S * - E	楕円形	1.93 × 1.63	(205)	壺状	-	人為		本跡→S3 3
128	J 4 c2	-	円形	1.42 × 1.32	284	漏斗状	平坦	人為	須恵器	本跡→PG4P83 PG44と重複
162	J 4 b0	-	[円形]	(1.43) × 1.41	217	漏斗状	平坦	人為	須恵器 土瓦	本跡→SD25
201	I 3 f2	-	円形	1.67 × 1.64	(178)	円筒状	-	人為	土師器	本跡→SK2557

(3) 道路跡

第7号道路跡 (第53図 第26表 PL14)

位置 調査区C区北部のG 3 f7～G 4 h8区、標高22～23mほどの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第16・67号溝、第714・720・725・726・728・729・733・736・737号土坑、第14号ビット群P61に掘り込まれている。

規模と形状 東側が乱瓦を受け、西側は平成31年度の調査で継続する本跡が確認できなかったため、確認できた長さは43.96m、幅は1.22～1.62mで、平均1.42mである。深さは20～33cmで、断面の形状は、逆台形や皿状である。調査区東のG 4 h8区から緩斜面上り、北西方向(N - 79 - W)へ直線状に延びている。側壁下の一部に幅30～35cm、深さ5～25cmの側溝が掘り込まれている。

路面 地山のハードローム層まで掘り下げ、路面としている。

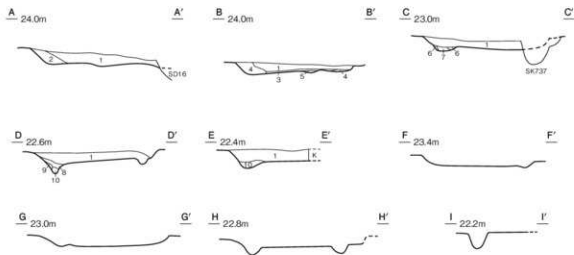
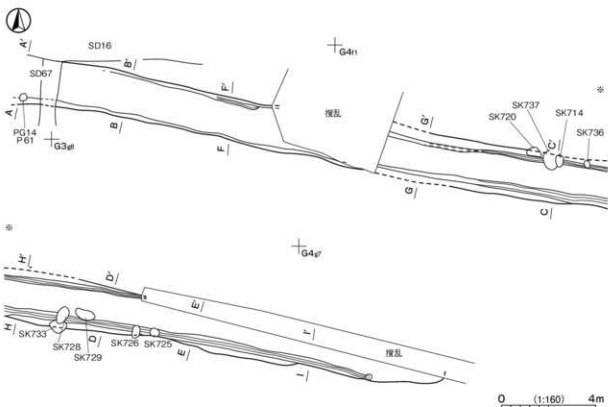
覆土 10層に分層できる。いずれも周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。6～10層が側溝の覆土である。

遺物出土状況 土師器片38点(坏16、皿2、甕20)、須恵器片17点(坏11、蓋1、長頸瓶1、甕4)が出土している。ほかに混入した土師質土器片3点、陶器片1点が出土している。1・2は覆土から出土している。

所見 時期は出土遺物から、9世紀後半の廃絶と考えられる。

第 26 表 第7号道路跡出土遺物一覧 (第53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(1.5)	6.5	長石	明褐色	普通	体部内面黒色処理・ヘラ書き 底部回転余切り	覆土	30% 保存着
2	土師器	坏	-	(1.5)	[6.2]	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部内面黒色処理 体部下面・底部外面手持ちヘラ磨り	覆土	30% 保存着



土層断面(A-A'～I-I')共通

- 1 10YR2/2 黒色 ローム小C・粘C・粘B、硬C
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム粘B・粘C、硬C
- 3 7.5YR5/6 明褐色 ローム大B・粘B、硬C
- 4 10YR4/4 褐色 ローム中B・粘B、硬B
- 5 10YR2/3 黒褐色 ローム小C・粘B、硬C
- 6 7.5YR5/6 明褐色 ローム大C・粘B、粘B、硬B
- 7 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粘C・粘B、硬B
- 8 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・粘C・粘B、硬B
- 9 7.5YR4/3 褐色 ローム大C・粘C・粘B、硬B
- 10 10YR3/2 黒褐色 ローム小C・粘C・粘B、硬A

0 (1:3) 10m

0 (1:60) 2m

第53図 第7号道路跡・出土遺物実測図

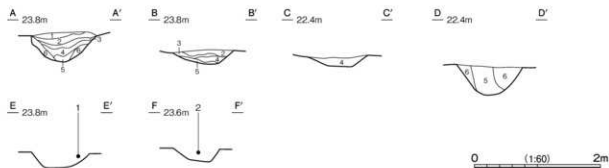
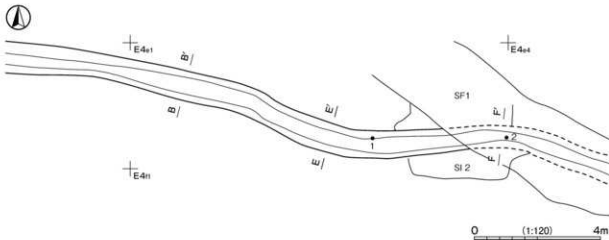
(4) 溝跡

第5号溝跡 (第54図 第27表 PL14・57)

位置 調査区A区北部のE3e9～E5j3区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号堅穴建物跡を掘り込み、第2号溝、第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 東・西両側が調査区域外のため、確認できた長さは58.88mで、上幅0.64～0.80m、下幅0.16～0.24m、深さ14～23cmである。E4e9区から緩やかに蛇行し、南東方向(N-67°-W)へ延びている。断面形は浅いU字状や逆台形状である。地形に沿って、西部から東部へ緩やかに下っている。



土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|------------------------|
| 1 | 75YR4-3 | 粘 | ロ～ム小D・粒C、炭化粒D／粘B、雜B |
| 2 | 75YR4-3 | 粘 | ロ～ム小C・粒C、炭化粒C／粘B、雜B |
| 3 | 75YR5-3 | にお | ロ～ム中D・小C・粒B、炭化粒C／粘B、雜B |
| 4 | 75YR3-3 | 腐 | ロ～ム中D・小D・粒B／粘B、雜B |
| 5 | 75YR3-2 | 腐 | ロ～ム中D・小B・粒C／粘B、雜A |
| 6 | 75YR5-3 | にお | ロ～ム小B・粒C、炭化粒D／粘B、雜A |



0 (1:3) 10cm

第54図 第5号溝跡・出土遺物実測図

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片4点（坏1、高台付皿1、甕2）が出土している。1は北部の覆土上層から正位の状態で、2は北部の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第27表 第5号溝跡出土遺物一覧（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	高台付皿	133	28	[63]	長石・石英・雲母・糊粒	橙	普通	ロクロナデ 体部下端横位へう割り 底部下層横位へう割り 底部へう割り後高台貼り付け 内底面へう磨き後黒色処理	北部 覆土上層	80% PL57
2	土師器	甕	[228]	(47)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・糊粒	にぶい橙	普通	折返し二重口縁 内外面横位ナデ	北部 覆土中層	5%

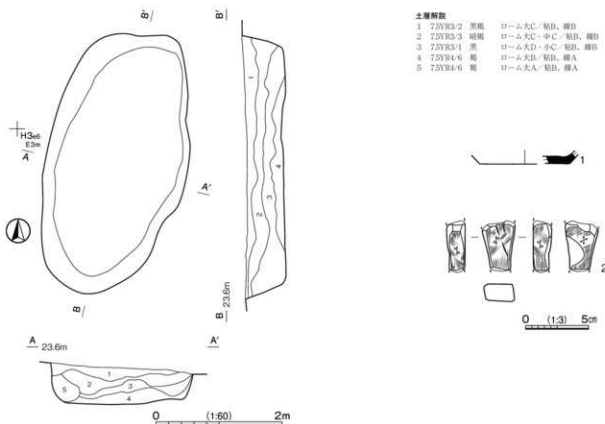
(5) 土坑

25基を確認した。そのうち、特徴的なものについては記述し、その他については実測図と一覧で掲載する。

第685号土坑（第55図 第28表 PL14）

位置 調査区C区北部のH36区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径4.24m、短径2.28mの楕円形で、長径方向はN-12°-Eである。深さは76cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。



第55図 第685号土坑・出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片10点（坏2、甕8）、須恵器片6点（坏2、甕4）、石器1点（凝灰岩製砥石）が出土している。ほかに混入した土師質土器片4点が出土している。1・2は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。

第28表 第685号土坑出土遺物一覧（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	—	(1.1)	(7.0)	長石・石英・雲母	にふい潰屑	普通	ロクロナデ 底部回転ヘク切り	覆土	5% 新治産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	砥石	(4.0)	(2.6)	(1.5)	(18.26)	凝灰岩	砥面4面 各面2方向の研磨痕 表面擦痕	覆土	

第918号土坑（第56図 第29表 PL15）

位置 調査区C区中央部のI3a8区、標高22mの緩斜面部に位置している。

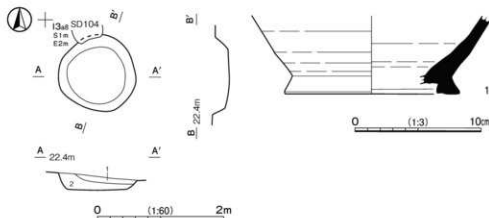
重複関係 第104号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.24m、短径1.20mの円形である。深さは24cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックや炭化粒子を含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 須恵器片1点（長頸瓶）が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀末～8世紀前葉と考えられる。



土層解説

- 1 01YR3-2 赤褐色 ローム小石・砂C、炭化物D／粘土B、細C
2 10YR3-3 暗褐色 ローム中D・粘土B、炭化物D／粘土B、細C

第56図 第918号土坑・出土遺物実測図

第29表 第918号土坑出土遺物一覧（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	長頸瓶	—	(6.2)	(13.8)	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐色	普通	ロクロナデ 高台貼付け 底部内面自然熱	覆土	10%

第 1523 号土坑 (第 57 図 第 30 表)

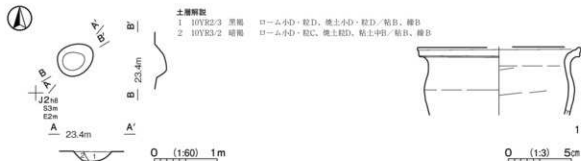
位置 調査区 C 区南西部の J 2 h8 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.59 m、短径 0.51 m の楕円形で、長径方向は N - 52° - E である。深さは 16 cm で、底面は皿状である。壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。各層に焼土ブロックや粘土ブロックを含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 5 点 (表) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀代と考えられる。



第 57 図 第 1523 号土坑・出土遺物実測図

第 30 表 第 1523 号土坑出土遺物一覧 (第 57 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[130]	[5.4]	-	長石・石英・雲母・粗砂	明赤褐色	普通	口縁部横ナデ 体部内面ヘラナデ 外面ナデ	覆土	5%

第 1697 号土坑 (第 58 図 第 31 表 PL15)

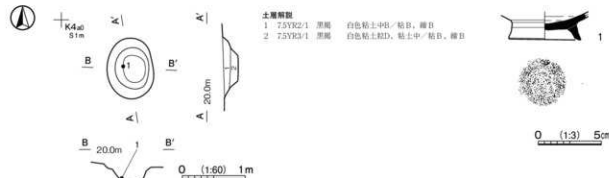
位置 調査区 C 区南東部の K 4 a9 区、標高 20 m ほどの低地部に位置している。

規模と形状 長径 0.98 m、短径 0.73 m の楕円形で、長径方向は N - 10° - W である。深さは 30 cm で、底面は平坦である。壁は底面から外傾し、中位で段を有している。

覆土 2 層に分層できる。第 1 層に白色粘土ブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 須恵器片 1 点 (高台付杯) が西部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀代と考えられる。



第 58 図 第 1697 号土坑・出土遺物実測図

第 31 表 第 1697 号土坑出土遺物一覧 (第 58 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	高台付杯	-	[2.2]	[5.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部ナデ	西部底面	20% 新治遺

第2040号土坑 (第59図 第32表 PL15)

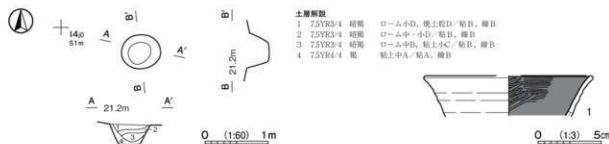
位置 調査区C区東部のI4j0区、標高21mほどの低地部に位置している。

規模と形状 長径0.64m、短径0.54mの楕円形で、長径方向はN-84°-Eである。深さは36cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。第3・4層にロームブロックや粘土ブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片1点(坏)が出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。



第59図 第2040号土坑・出土遺物実測図

第32表 第2040号土坑出土遺物一覧 (第59図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	(132)	(32)	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	内面へう磨き 黒色処理	覆土	5%

第2047号土坑 (第60図 第33表 PL15)

位置 調査区C区南東部のJ4d5区、標高21mほどの低地部に位置している。

重複関係 第2048・2076号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複のため、南北径は1.20mで、確認できた東西径は0.84mである。楕円形と推定され、南北軸方向はN-17°-Wである。深さは34cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 須恵器片1点(甕)が南壁際の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀代と考えられる。



第60図 第2047号土坑・出土遺物実測図

第33表 第2047号土坑出土遺物一覧(第60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	甕	—	(9.5)	—	長石・雲母	褐灰	普通	外面横位平行向き 内面当て具痕	南西部 覆土	5% 新出窯

第2171号土坑(第61図 第34表 PL15)

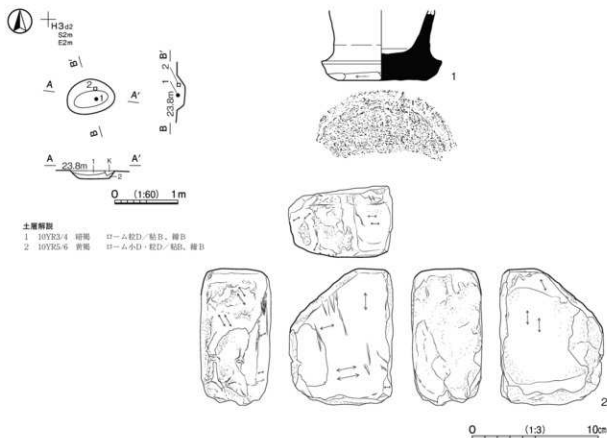
位置 調査区C区北西部のH3d2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.75m、短径0.53mの楕円形で、長径方向はN-73°-Eである。深さは13cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 中央部の覆土上層から須恵器片1点(捏鉢)が、北東部の覆土上層から砂岩製砥石1点が出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。



第61図 第2171号土坑出土遺物実測図

第34表 第2171号土坑出土遺物一覧(第61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	捏鉢	—	(5.5)	[7.0]	長石・石英・細砂	褐灰黄	普通	下縁部手持ちヘラ傾り 底部一方向のヘラ傾り	中央部 覆土上層	25% 新出窯
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	砥石	10.8	8.2	5.6	825.25	砂岩	砥面4面 断面V字状の研磨痕 二次焼成			北東部 覆土上層	

第 2355 号土坑 (第 62 図 第 35 表 PL15)

位置 調査区 C 区中央部の I 3 c1 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

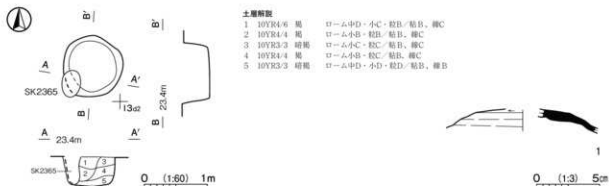
重複関係 第 2365 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 0.98 m、短径 0.96 m の円形である。深さは 45 cm で、底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 5 層に分層できる。第 1・2 層はピット状の人為堆積、第 3～5 層は周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 覆土中から須恵器片 1 点 (蓋) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀代と考えられる。



第 62 図 第 2355 号土坑・出土遺物実測図

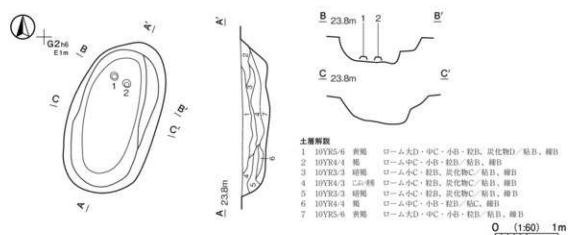
第 35 表 第 2355 号土坑出土遺物一覧 (第 62 図)

番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	-	(19)	-	長石・石英・雲母	浅黄	普通	大井部回転ヘタ傾り	覆土	45% 新直置

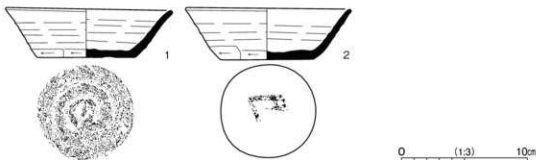
第 2813 号土坑 (第 63・64 図 第 36 表 PL15・57)

位置 調査区 C 区北西部の G 2 h6 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.50 m、短径 1.41 m の楕円形で、長径方向は N - 20° - E である。深さは 48 cm で、底面は凹凸がある。壁は外傾して立ち上がっているが、北東部は底面から 20 cm のところで段を有している。



第 63 図 第 2813 号土坑実測図



第64図 第2813号土坑出土遺物実測図

覆土 7層に分層できる。ロームブロックや炭化物を含む黄褐色土を主体とし、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片5点(甕)、須恵器片3点(坏2、蓋1)が出土している。1・2は完形の須恵器の坏で、北部の床面から2点が逆位で並べられたような状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。完形の須恵器坏2点の遺棄状況から、土坑墓の可能性がある。

第36表 第2813号土坑出土遺物一覧(第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.2	3.9	7.7	長石・石英・雲母・粗糠	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	北部新点窟	100% PL57
2	須恵器	坏	13.2	4.1	7.4	長石・石英・雲母・粗糠	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方のヘラ削り 底面「E」	北部新点窟	100% PL57

第2842号土坑(第65図 第37表 PL51)

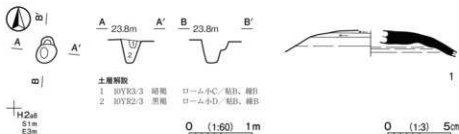
位置 調査区C区北西部のH2a8区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.42m、短径0.33mの不整楕円形で、主軸方向はN-13°-Eである。深さは36cmで、底面は皿状である。壁は直立しているが、北部では底面から20cmのところまで段を有している。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片2点(甕)、須恵器片4点(坏1、蓋3)が出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀代と考えられる。



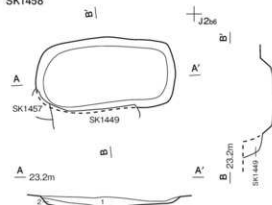
第65図 第2842号土坑・出土遺物実測図

第37表 第2842号土坑出土遺物一覧(第65図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	-	(20)	-	長石・石英・雲母・粗糠	にぶい黄褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土	5% 新点窟



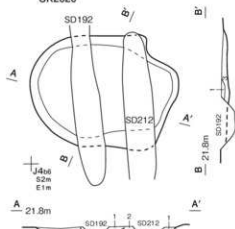
SK1458



第1458号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小C、黒色土小D／粘土B、緑B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・小D、粘土大／粘土B、緑B

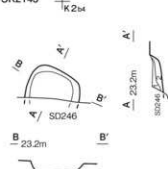
SK2020



第2020号土坑土層解説

- 1 75YR3/3 暗褐色 ローム粒D／粘土B、緑A
- 2 75YR3/3 暗褐色 ローム粒D／粘土B、緑A
- 3 10YR4/6 褐色 粘土中D、粘土A、緑A
- 4 10YR3/4 暗褐色 ローム粒B、粘土小C／粘土B、緑A

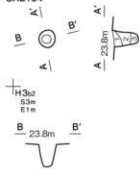
SK2143



第2143号土坑土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C、焼土小C・粒B、粘土粒B／粘土B、緑B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小B・粒B／粘土B、緑B

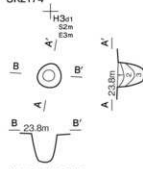
SK2154



第2154号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒C／粘土B、緑A
- 2 10YR2/3 黒褐色 ローム小・粒B／粘土B、緑B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒D／粘土B、緑B

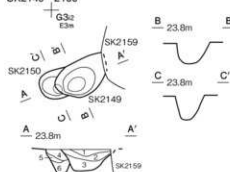
SK2174



第2174号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒D／粘土B、緑B
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム小・粒D／粘土B、緑B
- 3 10YR4/4 褐色 ローム小D・粒C／粘土B、緑B

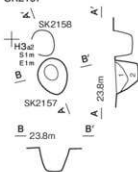
SK2149・2150



第2149・2150号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 ローム中C・小C・粒B／粘土B、緑B
- 2 10YR2/2 黒褐色 ローム中C・小B・粒B／粘土B、緑B
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム大D・中C・小B・粒B／粘土A、緑A
- 4 10YR4/4 褐色 ローム小B・粒B／粘土B、緑B
- 5 10YR3/4 暗褐色 ローム中C・小B・粒B／粘土B、緑B
- 6 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小B・粒B／粘土B、緑B

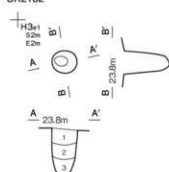
SK2157



第2157号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム小C・粒C／粘土B、緑B
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒B／粘土B、緑B

SK2182



第2182号土坑土層解説

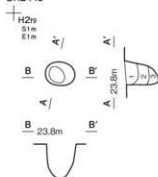
- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム粒D／粘土B、緑B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒D／粘土B、緑B
- 3 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒C／粘土B、緑B

0 (1:60) 2m

第66図 奈良・平安時代のその他の土坑実測図(1)



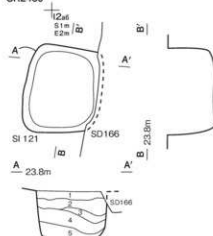
SK2445



第2445号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・小C・粒D / 粘土、細B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム中B・小D・粒C / 粘土、細B
- 3 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C / 粘土、細B

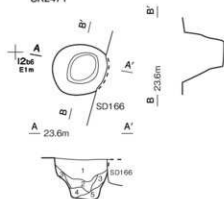
SK2460



第2460号土坑土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒D / 粘土、細B
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム中D・小C・粒C / 粘土、細B
- 3 10YR4/4 暗褐色 ローム中C・小C・粒B / 粘土、細B
- 4 10YR4/4 暗褐色 ローム中C・小B・粒B / 粘土、細B
- 5 10YR4/6 暗褐色 ローム中C・小B・粒A / 粘土、細B

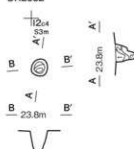
SK2471



第2471号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小D・粒D / 粘土、細B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒B / 粘土、細B
- 3 10YR4/4 暗褐色 ローム小D・粒D / 粘土、細B
- 4 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C / 粘土、細B
- 5 10YR4/4 暗褐色 ローム小C・粒B / 粘土、細B

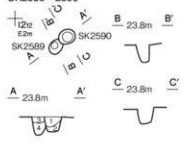
SK2582



第2582号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小C・粒C / 粘土、細B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C / 粘土、細B
- 3 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒D / 粘土、細B

SK2589・2590



第2589・2590号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・小C・粒D / 粘土、細B
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム小D・粒C / 粘土、細B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒D / 粘土、細B
- 4 10YR4/4 暗褐色 ローム小D・粒C / 粘土、細B

0 (1:60) 2m

第 67 図 奈良・平安時代のその他の土坑実測図(2)

第 38 表 奈良・平安時代土坑一覧 (第 66・67 図)

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径(軸) × 短径(軸) (m)	深さ (cm)						
685	H 3 e6	N - 12° - E	楕円形	4.24 × 2.28	76	外張	平坦	人為	紙石	8世紀後半	
918	I 3 a8	-	円形	1.24 × 1.20	24	外張	平坦	人為	須恵器	7世紀末 - 8世紀前半	本跡→SK149・1457・SD104
1458	J 2 b5	N - 85° - E	長方形	2.21 × 1.07	30	外張	平坦	自然	土師器	8世紀代	本跡→SK149・1457
1523	J 2 b8	N - 52° - E	楕円形	0.59 × 0.51	16	外張	皿状	人為	土師器	8世紀代	
1697	K 4 a9	N - 10° - W	楕円形	0.98 × 0.73	30	外張 / 有段	平坦	人為	須恵器	9世紀代	
2020	J 4 b6	N - 78° - W	不整楕円形	2.25 × 1.75	12	外張	平坦	人為	土師器 須恵器	平安時代	本跡→SD192・222・SD27土層
2040	I 4 j0	N - 81° - E	楕円形	0.64 × 0.54	36	外張	平坦	人為	土師器	9世紀前半	

番号	位置	長径(幅) 方向	平面形状	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径(幅)×短径(幅) (m)	深さ (cm)						
2047	J 4d5	N-17°-W	[楕円形]	1.20×(0.84)	34	外傾	平置	自然	須恵器	8世紀代	本跡→SK2048・2076
2143	K 2b3	N-23°-E	[楕円形]	0.86×(0.56)	15	外傾	平置	自然	土師器	奈良時代	SI119→本跡→SI246
2149	G 3c2	N-65°-E	[楕円形]	(0.73)×0.54	33	外傾	平置	人為		平安時代	SK2150→本跡→SK2159
2150	G 3c2	N-23°-W	[楕円形]	0.47×(0.35)	37	外傾	平置	自然	土師器	平安時代	本跡→SK2149
2154	H 3a2	-	円形	0.27×0.26	40	直立	甕状	自然	土師器	平安時代	
2157	H 3a2	N-12°-W	楕円形	0.58×0.47	36	外傾	平置	自然	土師器	平安時代	
2171	H 3d2	N-73°-E	楕円形	0.75×0.53	13	外傾	平置	自然	須恵器 砂岩製砥石	9世紀代	
2174	H 3d1	-	円形	0.37×0.36	43	直立	平置	自然	土師器	平安時代	
2182	H 3e1	-	円形	0.40×0.37	72	直立	甕状	自然	須恵器	平安時代	
2335	I 3c1	-	円形	0.98×0.96	45	直立	平置	自然/人為	須恵器	8世紀代	本跡→SK2365
2445	H 2f9	N-69°-W	楕円形	0.46×0.37	55	直立	甕状	自然	土師器	奈良時代	
2460	I 2a6	N-12°-E	[長方形]	1.41×(1.14)	75	直立	平置	人為	土師器	平安時代	SI121→本跡→SD166
2471	I 2b6	-	円形	0.88×(0.81)	65	外傾	平置	人為	土師器	平安時代	SI121→本跡→SD166
2582	I 2c4	-	円形	0.26×0.26	33	直立/有段	甕状	自然	土師器	平安時代	
2589	I 2f2	N-46°-E	[楕円形]	(0.21)×0.21	27	直立	甕状	自然		平安時代	本跡→SK2590
2590	I 2f2	-	円形	0.25×0.23	25	直立	甕状	自然	須恵器	平安時代	SK2589→本跡
2813	G 2b6	N-20°-E	楕円形	2.50×1.41	48	外傾/有段	凹凸	人為	土師器 須恵器	8世紀前半	
2842	H 2a8	N-13°-E	不要楕円形	0.42×0.33	36	直立/有段	甕状	自然	土師器 須恵器	8世紀代	

4 室町時代から江戸時代の遺構と遺物

掘立柱建物跡 17 棟、方形竪穴遺構 11 棟、地下式坑 24 基、段切状遺構 1 所、整地遺構 4 所、井戸跡 166 基、道路跡 1 条、溝跡・堀跡 182 条、柱穴列 10 条、炉跡 12 基、土坑墓 34 基、火葬施設 3 基、土坑 1,864 基、ピット群 50 か所を確認した。以下、遺構と遺物について掲載する。

(1) 掘立柱建物跡

第 1 号掘立柱建物跡 (第 68 図 PL16)

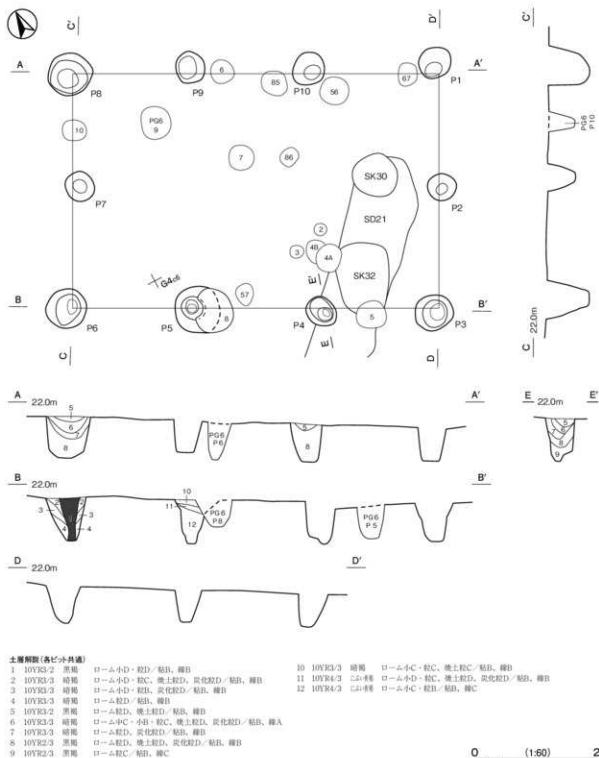
位置 調査区 A 区南部の G 4 b6 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 6 号ピット群 P 8 に掘り込まれ、第 21 号溝跡を掘り込んでいる。本跡内に存在している第 6 号ピット群 P 1～P 7・P 9・P 10、第 30・32 号土坑との関係は、直接の重複がないため、不明である。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 2 間の隅柱建物で、桁行方向は N-62°-W の東西棟である。規模は桁行約 5.80 m、梁行約 3.65 m で、面積は 21.17 m² である。柱間寸法は、南桁行が西から 1.80 m、2.10 m、1.80 m、北桁行が西から 1.95 m、2.00 m、2.00 m、東梁行が北から 1.80 m、1.95 m、西梁行が北から 1.80 m、1.90 m で、ほぼ等間隔に配置され、柱筋は揃っている。

柱穴 10 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 42～72 cm、短径 38～48 cm である。深さは 51～69 cm で、掘方の断面形は U 字状や逆台形状である。P 6 の第 1 層は柱痕跡、第 2～4 層は、掘方の埋土である。また、P 4、P 5、P 8、P 10 の覆土は、第 5～12 層で周囲からの流入土である。

所見 時期は第 6 号ピット群との関係や第 13・17・19 号溝などの区画内に存在することから、16 世紀前半と考えられる。第 2 号掘立柱建物跡と規模や桁行方向が類似していることから、関連した建物の可能性がある。



第 68 図 第 1 号掘立柱建物跡実測図

第 2 号掘立柱建物跡 (第 69 図 PL16)

位置 調査区A区南部のG 4 e6 区、標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

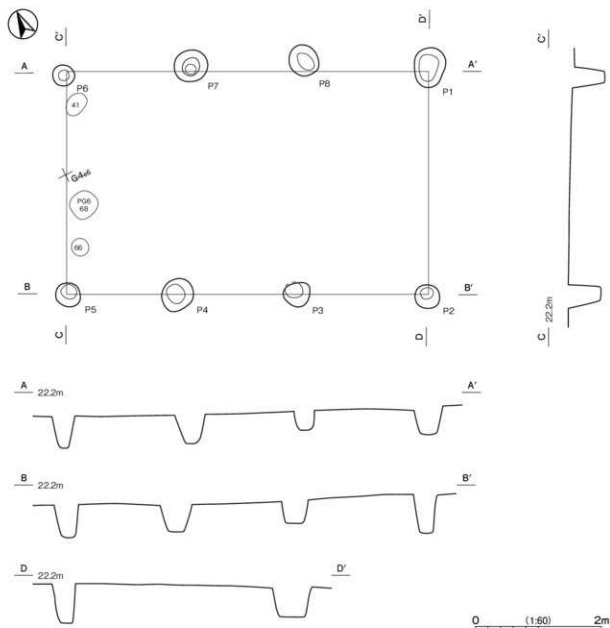
重複関係 本跡内に存在している第 6 号ピット群との関係は、直接の重複がないため、不明である。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 1 間の側柱建物で、桁行方向は $N-67^{\circ}-W$ の東西棟である。規模は桁行約 5.75

m、梁行約3.55 mで、面積は20.41㎡である。柱間寸法は、南桁行が西から1.75 m、1.80 m、2.10 m、北桁行が西から2.00 m、1.90 m、1.90 m、東梁行が北から3.55 m、西梁行が北から3.55 mで、ほぼ等間隔に配置され、柱筋は揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形や楕円形で、長径34～61cm、短径34～48cmである。深さは22～64cmで、掘方の断面形はU字状や逆台形状である。

所見 出土遺物はないが、第13・17・19号溝などの区画内に位置することから16世紀前半と考えられる。



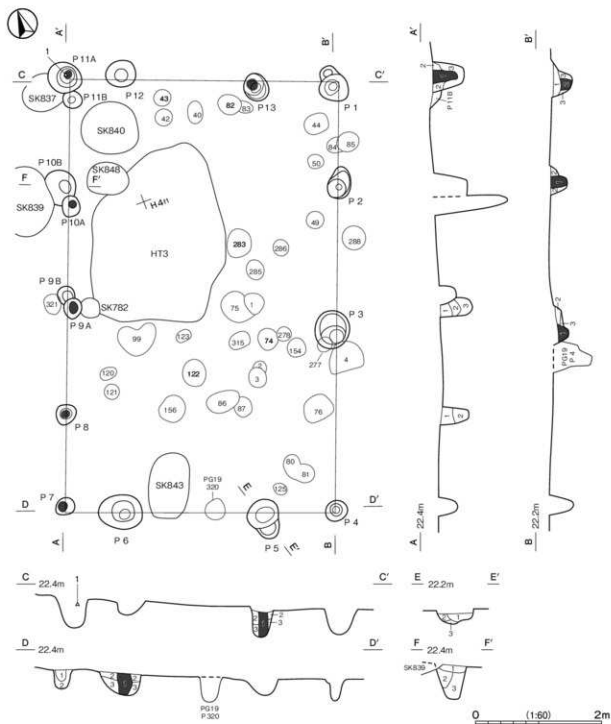
第69図 第2号掘立柱建物跡実測図

第 21 号掘立柱建物跡 (第 70・71 図 第 39 表)

位置 調査区 C 区北東部の H 4 fl 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 839 号土坑に掘り込まれ、第 837 号土坑を掘り込んでいる。第 3 号方形竪穴遺構、第 782・840・843・848 号土坑、第 19 号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行 4 間、梁行 3 間の掘立柱建物で、桁行方向が N - 21° - E の南北棟である。規模は、桁行 6.80 m、梁行 4.23 m で、面積は 28.76 m² である。柱間寸法は、西桁行が北から 1.90 m、1.70 m、1.70 m、1.50 m、東桁



第 70 図 第 21 号掘立柱建物跡実測図

P1土層解説

- 1 75YR4/3 粘 rome中C・小A・粒A、炭化物粒D/粘C、粒A
 2 75YR3/3 粘 rome小D・粒D/粘C、粒A
 3 75YR4/3 粘 rome中C・小A・粒A/粘C、粒A

P2土層解説

- 1 75YR3/3 粘 rome中D・小D・粒D、炭化物粒D/粘C、粒A
 2 75YR4/3 粘 rome大C・中A・粒A、炭化物粒D/粘A、粒A

P3土層解説

- 1 75YR3/1 赤 rome中C・小C・粒A、灰白色粘土中C/粘C、粒B
 2 75YR4/3 粘 rome中C・小A・粒A、炭化物粒D/粘C、粒A
 3 75YR5/6 粘 rome大C・中C・小A・粒A、炭化物粒D/粘B、粒A

P5-7・B・9A・10B土層解説

- 1 75YR4/3 粘 rome大C・中A・小A・粒A/粘B、粒B
 2 75YR3/3 粘 rome小A・粒A、灰白色粘土中C/粘A、粒A
 3 75YR5/6 粘 rome中C・小A・粒A/粘B、粒A

P6土層解説

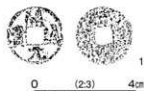
- 1 75YR3/1 赤 rome大C・中C・小A・粒A/粘C、粒C
 2 75YR3/3 粘 rome大C・中A・小A・粒A/粘C、粒A
 3 75YR5/6 粘 rome大C・中A・小A・粒A/粘C、粒A

P11A土層解説

- 1 75YR3/3 粘 rome粒D、炭化物粒D/粘C、粒C
 2 75YR4/3 粘 rome中C・小A・粒A/粘C、粒A
 3 75YR3/3 粘 rome大C・中A・小A・粒A/粘C、粒A

P12土層解説

- 1 75YR3/3 粘 rome小D・粒A、炭化物粒D/粘C、粒C
 2 75YR4/3 粘 rome小A・粒A、炭化物粒D/粘C、粒A
 3 75YR5/6 粘 rome大C・中A・小A・粒A/粘C、粒A



第71図 第21号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

行が北から1.70 m、2.40 m、2.70 mで、梁行は北梁行が西から0.90 m、2.00 m、1.33 m、南梁行が西から0.90 m、2.10 m、1.23 mである。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

柱穴 13か所。平面形は円形や楕円形で、長径30～68cm、短径26～55cm、深さ20～115cmである。P9～P11は、2基のピットが重複しており、それぞれをA・Bとした。P9A・P10A・P11AがP9B・P10B・P11Bを掘り込んでおり、建て替えが考えられる。覆土はP1が第1層が柱抜き取り後の流入土、第2層が柱痕跡、第3層が掘方への埋土である。P2は第1層が柱痕跡、第2層が掘方への埋土である。P3・P6・P11A・P13は第1層が柱痕跡、第2・3層が掘方への埋土である。P5・P7～P10Aは、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P7～P9A・P10A・P11A・P13の底面で、径10～15cmの円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 P11Aの覆土上層から銭貨1点（開元通寶）が、P13の覆土中層から鉄滓1点（55.33 g）が、それぞれ出土している。ほかに混入した土師器片1点、須恵器片1点が、P6の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物が少ないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16世紀～17世紀前葉と推定できる。

第39表 第21号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第71図）

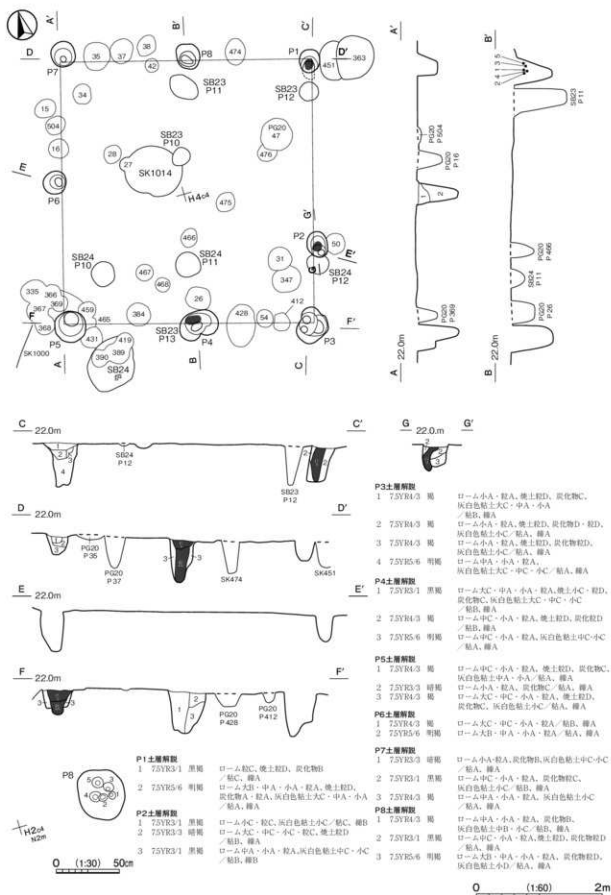
番号	銭 種	径	孔距	厚さ	重量	材質	初録年	特 徴	出土位置	備 考
1	開元通寶	2.3	0.7	0.1	2.09	銅	621	産米銭	P11 覆土上層	

第22号掘立柱建物跡（第72・73図 第40表 PL16・57）

位置 調査区C区北東部のH4c4区、標高22 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第23・24号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第1000・1014号土坑、第20号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の掘立柱建物で、桁行方向がN-16°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.20 m、梁行4.00 mで、面積は16.80㎡である。柱間寸法は、西桁行が北から1.98 m、2.22 m、東桁行が北から3.00 m、



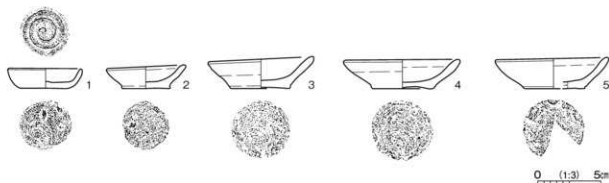
第72図 第22号掘立建物跡実測図

1.20 mで、梁行は北梁行が西から2.00 m、2.00 m、南梁行が西から2.10 m、1.90 mである。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

柱穴 8か所。平面形は円形や楕円形で、長径38～50cm、短径32～50cm、深さ34～70cmである。覆土はP1・P2・P4の第1層が柱痕跡、第2・3層が掘方への埋土である。P5・P8は、第1・2層が柱痕跡、第3層が掘方への埋土である。P3・P6・P7は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P1・P2・P4の底面で、径10～15cmの円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 土師質土器9点(皿)が、P1・P3～P5・P8の覆土から出土している。ほかに混入した須恵器片1点が出土している。1～5はP8の覆土上層に正位で置かれたような状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。P8の土師質土器皿の出土状況は、建物の廃絶に関わる祭祀の可能性がある。



第73図 第22号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第40表 第22号掘立柱建物跡出土遺物一覧(第73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	5.9	1.5	4.0	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転赤切り 内面裏状の強いナデ	P8 覆土上層	100% PL57
2	土師質土器	皿	6.4	1.8	3.8	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転赤切り	P8 覆土上層	100% PL57
3	土師質土器	皿	8.3	2.5	4.6	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転赤切り	P8 覆土上層	100% PL57
4	土師質土器	皿	9.3	2.3	4.9	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転赤切り	P8 覆土上層	100% PL57
5	土師質土器	皿	9.1	2.5	4.8	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転赤切り	P8 覆土上層	80%

第23号掘立柱建物跡(第74・75図 第41表 PL16)

位置 調査区C区北東部のH4c5区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

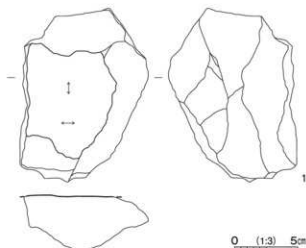
重複関係 第22号掘立柱建物に掘り込まれている。第24号掘立柱建物跡、第1014号土坑、第20号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行3間の側柱建物で、桁行方向がN-73°-Wの東西棟である。規模は、桁行7.30 m、梁行3.64 mで、面積は26.57㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から1.78 m、1.98 m、1.94 m、1.60 m、南桁行が西から1.94 m、1.88 m、2.32 m、1.16 mで、梁行は西梁行が北から1.10 m、1.22 m、1.32 m、東梁行が北から0.90 m、0.92 m、1.82 mである。柱筋はP9・P10がやや西にずれるもののほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

柱穴 14か所。平面形は円形や楕円形で、長径28～50cm、短径26～42cm、深さ32～91cmである。覆土はP1～P3・P5・P6の第1層が柱痕跡、第2・3層が掘方への埋土である。P4・P9・P11～P14は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P1～P3・P7・P8・P11・P13・P14の底面で、径10～15cmの円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 P2の覆土から砥石1点（砂岩製砥石）が出土している。ほかに混入した土師器片2点がP3の覆土から出土している。

所見 時期は、出土遺物がなため不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16世紀後半と推定できる。



第75図 第23号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第41表 第23号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第75図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	砥石 (138)	(102)	(44)	(70.28)		砂岩	紙面1面 2方向の研削痕	P3 覆土	(60%)

第24号掘立柱建物跡（第76図 第42表 PL16・57）

位置 調査区C区北東部のH4d4区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1023号土坑を掘り込み、第22号掘立柱建物に掘り込まれている。第23号掘立柱建物跡、第1000・1001号土坑、第20号ピット群との関係は不明である。

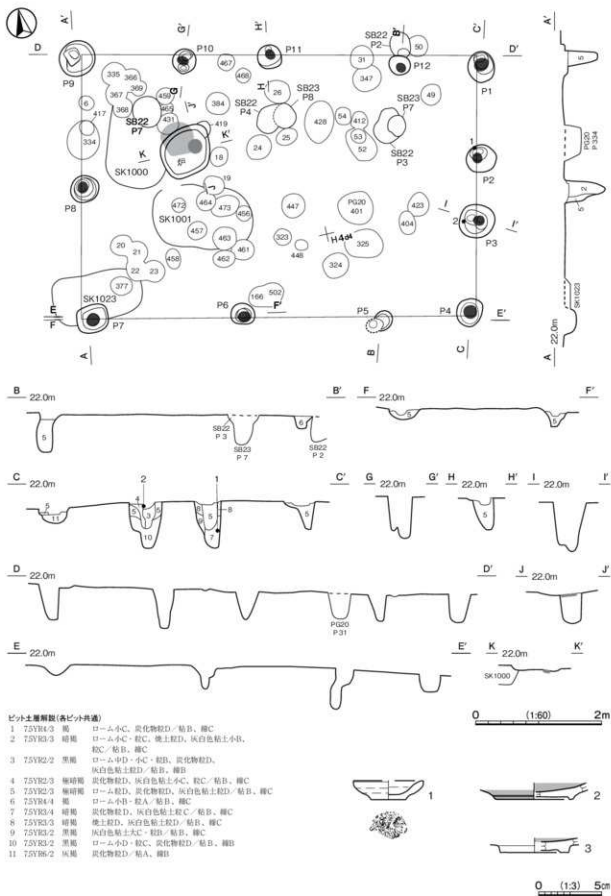
規模と構造 桁行4間、梁行3間の側柱建物で、桁行方向がN-77°-Wの東西棟である。規模は、桁行6.28m、梁行4.14mで、面積は25.99㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から1.60m、1.40m、2.10m、1.18m、南桁行が西から2.60m、2.20m、1.48mで、梁行は西梁行が北から2.10m、2.04m、東梁行が北から1.60m、1.00m、1.54mである。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

炉 中央や西寄り位置している。長径92cm、短径80cmの楕円形で、深さ10cmほどの地床炉である。炉床面は東部の一部が赤変硬化している。また、掘方中央部から北に径50cmの範囲で、焼土が分布している。

柱穴 12か所。平面形は円形や楕円形で、長径38～58cm、短径28～55cm、深さ18～78cmである。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P1～P4・P6～P8・P10～P12の底面で、径10～15cmの円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 土師質土器片4点（皿3、内耳鍋1）、陶器片2点（皿）が出土している。ほかに混入した土師器片2点が出土している。1はP2の覆土下層から、2はP3の覆土上層から、3はP3の覆土から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物と重複関係から、16世紀後葉から17世紀前葉と考えられる。



第76図 第24号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第42表 第24号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第76図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[5.6]	1.5	[2.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	P 2 覆土下層	30% PL57
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	軸差	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	皿	—	(1.3)	[6.2]	長石 灰白	底部削り出し 軸差け掛け	長石軸	瀬戸・美濃	P 3 覆土上層	20%
3	陶器	皿	—	(1.1)	[5.6]	長石 暗灰黄	底部削り出し 内面施軸	灰軸	瀬戸・美濃	P 3 覆土	10%

第26号掘立柱建物跡（第77・78図 第43表 PL57）

位置 調査区C区北東部のH4g3区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第27号掘立柱建物跡、第19号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物で、桁行方向がN-24°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.72m、梁行5.08mで、面積は23.97㎡である。柱間寸法は、西桁行が北から2.00m、1.70m、1.02m、東桁行が北から1.18m、1.46m、2.08mで、梁行は北梁行が西から2.60m、2.48m、南梁行が西から2.50m、2.58mである。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

炉 2か所。炉1は北西コーナー部付近に位置している。長径108cm、短径90cmの楕円形で、深さ15cmほどの地床炉である。火床面は第1層上面で、赤変硬化している。炉2は、北部中央に位置している。長径150cm、短径72cmの楕円形で、深さ15cmの地床炉である。火床面は第1層上面で、赤変硬化している。

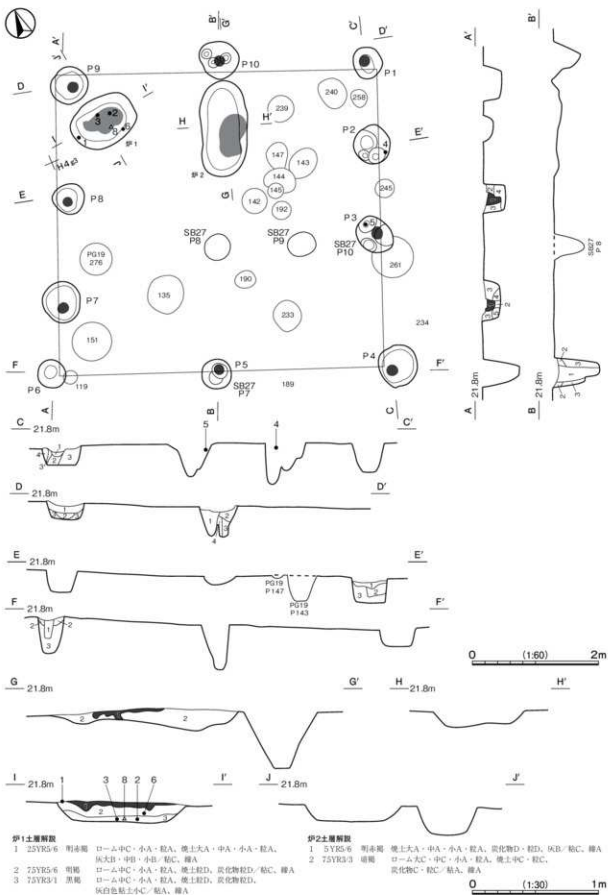
柱穴 10か所。平面形は円形や楕円形で、長径45～66cm、短径44～62cm、深さ28～70cmである。覆土は、P7・P8の第1層が柱痕跡、第2～5層が掘方の埋土である。それ以外は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P1・P3・P4・P7～P10の底面で、径10～15cmの円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 土師質土器片13点（皿4、播鉢1、内耳鍋8）、陶器片1点（碗）、土製品1点（焼成粘土塊・9.20g）、石器1点（砥石）、金属製品1点（煙管）、銭貨1点（不明）が出土している。1は炉の北西部の床面から、2・3・6・8は炉1の掘方から、4はP2の覆土上層から、5はP3の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物から、16世紀後葉から17世紀前葉と考えられる。

第43表 第26号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第78図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	7.4	1.8	3.8	長石・石英	にぶい黄	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	北西部 床面	100% PL57
2	土師質土器	皿	[7.0]	1.8	3.0	長石・石英	にぶい黄	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	炉1 掘方埋土	50% 播鉢着
3	土師質土器	皿	[8.8]	(3.0)	(4.0)	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ	炉1 掘方埋土	20%
4	土師質土器	皿	—	(1.3)	3.7	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	P-2 覆土上層	20%
6	土師質土器	内耳鍋	—	(5.5)	—	長石・石英・細砂	橙	普通	外面縦位ナデ 内面横位ナデ	炉1 掘方埋土	5%
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	軸差	産 地	出土位置	備 考
5	陶器	碗	—	(2.1)	[3.0]	長石 淡黄	高台削り出し 演け掛け	長石軸	瀬戸・美濃	P-3 覆土上層	20% PL57
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考		
7	砥石	(6.0)	(4.7)	1.0	(44.76)	粘板岩	横断面3面 裏面剥離後刃物痕	覆土	60%		
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考		
8	煙管	(3.2)	(1.0)	(1.0)	(2.27)	銅	裾部※	炉1 掘方埋土	30%		



第77図 第26号掘立柱建物跡実測図

P2土層解説

- 1 75YR3-1 黒褐色 ローム中C・小A・粘A、焼土粒D、炭化物粒D、灰白色粘土中C・小C／粘A、雜A
- 2 75YR3-3 暗褐色 焼土粒D、炭化物粒D、灰白色粘土中D・小D／粘A、雜A
- 3 75YR8-1 灰白 ローム大C・中C・小A・粘A、灰白色粘土大B・中B／粘A、雜A

P4土層解説

- 1 75YR3-1 黒褐色 ローム粘A、焼土粒D、炭化物粒D／粘A、雜A
- 2 75YR4-3 褐色 ローム小A・粘A、灰白色粘土中C・小C／粘A、雜A
- 3 75YR5-6 明褐色 ローム小A・粘A、焼土粒D、炭化物粒D／粘A、雜A
- 4 75YR8-1 灰白 ローム大C・中A・小A・粘A、灰白色粘土大B・中A・小A／粘A、雜A

P5土層解説

- 1 75YR3-1 黒褐色 ローム小D・粘D、灰白色粘土小C／粘A、雜A
- 2 75YR5-6 明褐色 ローム小A・粘A／粘A、雜A
- 3 75YR3-3 暗褐色 ローム大C・中C・小A・粘A／粘A、雜A

P6土層解説

- 1 75YR3-1 黒褐色 ローム小C・粘C、灰白色粘土大C・中C・小C／粘A、雜A
- 2 75YR5-6 明褐色 ローム大C・中A・小A・粘A、焼土粒D、炭化物粒C、灰白色粘土小C／粘A、雜A
- 3 75YR8-1 灰白 灰白色粘土大B・中B・小B／粘A、雜A

P7土層解説

- 1 75YR3-1 黒褐色 ローム粘C、灰白色粘土小C／粘C、雜A
- 2 75YR4-3 褐色 ローム中C・小A・粘A／粘A、雜A
- 3 75YR3-3 暗褐色 ローム大C・中C・小A・粘A、灰白色粘土小C／粘C、雜A
- 4 75YR4-3 褐色 ローム中C・小A・粘A、雜A
- 5 75YR5-6 明褐色 ローム大B・中A・小A・粘A／粘A、雜A

P8土層解説

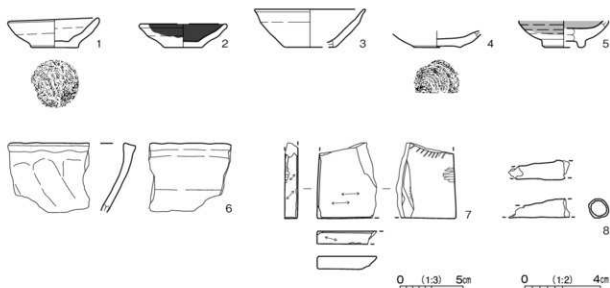
- 1 75YR3-1 黒褐色 ローム中A・小A・粘A、焼土粒D、炭化物粒D、灰白色粘土小C／粘C、雜A
- 2 75YR5-6 明褐色 ローム大C・中A・小A・粘A、灰白色粘土中C・小C／粘A、雜A
- 3 75YR3-3 暗褐色 ローム大C・中C・小A・粘A、焼土粒D、炭化物粒C／粘C、雜A
- 4 75YR5-6 明褐色 ローム大C・中A・小A・粘A、灰白色粘土中C・小C／粘A、雜A

P9土層解説

- 1 75YR3-3 暗褐色 ローム小A・粘A、焼土粒D、炭化物粒D、黒色土大C／粘A、雜A
- 2 75YR4-3 褐色 ローム粘A、炭化物粒D、灰白色粘土小C／粘A、雜A
- 3 75YR5-6 明褐色 ローム中A・小A・粘A、灰白色粘土中C・小C／粘C、雜A

P10土層解説

- 1 75YR3-1 黒褐色 ローム中C・小A・粘A、焼土粒D、炭化物粒D、灰白色粘土大C・中C・小C／粘B、雜A
- 2 75YR4-3 褐色 ローム中C・小A・粘A、灰白色粘土中C・小C／粘A、雜A
- 3 75YR3-1 黒褐色 ローム中C・小A・粘A、灰白色粘土小C／粘A、雜A
- 4 75YR5-6 明褐色 ローム小A・粘A、灰白色粘土中A・小A／粘A、雜A



第78図 第26号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第27号掘立柱建物跡 (第79図 第44表 PL16)

位置 調査区C区北東部のH 4 h3区、標高21 mほどの台地緩斜面部に位置している。

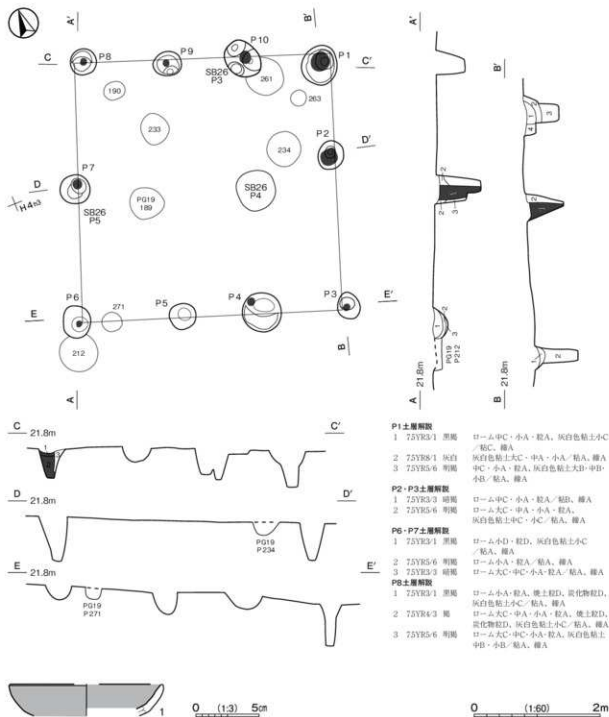
重複関係 第26号掘立柱建物跡、第19号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行3間の掘立柱建物で、桁行方向がN-19°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.04 m、梁行4.10 mで、面積は16.56㎡である。柱間寸法は、西桁行が北から1.94 m、2.10 m、東桁行が北から1.60 m、2.44 mで、梁行は北梁行が西から1.50 m、1.20 m、1.40 m、南梁行が西から1.60 m、1.10 m、1.40 mである。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

柱穴 10か所。平面形は円形や楕円形で、長径42～63cm、短径36～62cm、深さ25～70cmである。覆土は、P 2の第1層が柱痕跡、第2層が掘方への埋土、P 7の第1層が柱痕跡、第2・3層が掘方への埋土、P 8の第1・2層が柱痕跡、第3層が掘方への埋土である。ほかはいずれも、柱抜き取り後の流入土である。P 1～P 4・P 6～P 10の底面で、径10～15cmの円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 土師質土器片7点（内耳鍋）、陶器片1点（皿）が出土している。1はP3の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から、17世紀前葉と推定される。



第79図 第27号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第44表 第27号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第79図）

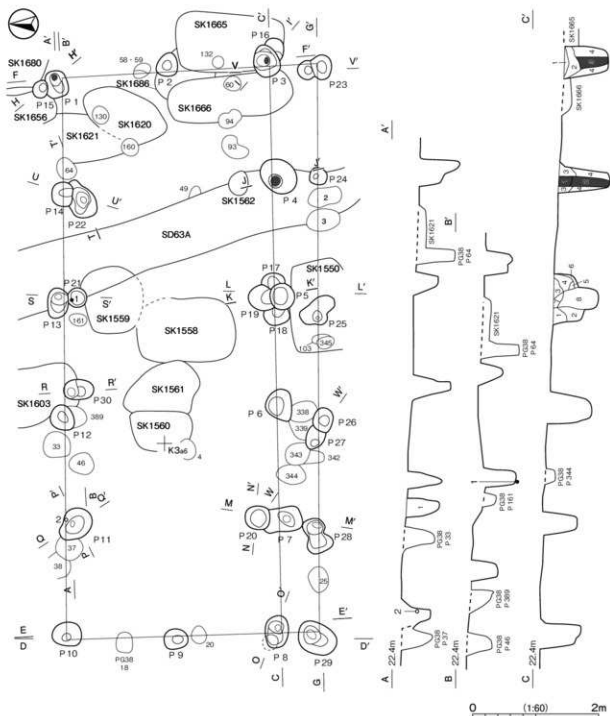
番号	種別	部種	口径	部高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	皿	[120]	(25)	—	長石 浅黄	内外面施軸	灰軸	嵐戸・美濃	P3 覆土	10%

第31号掘立柱建物跡 (第80～82図 第45表 PL16・57)

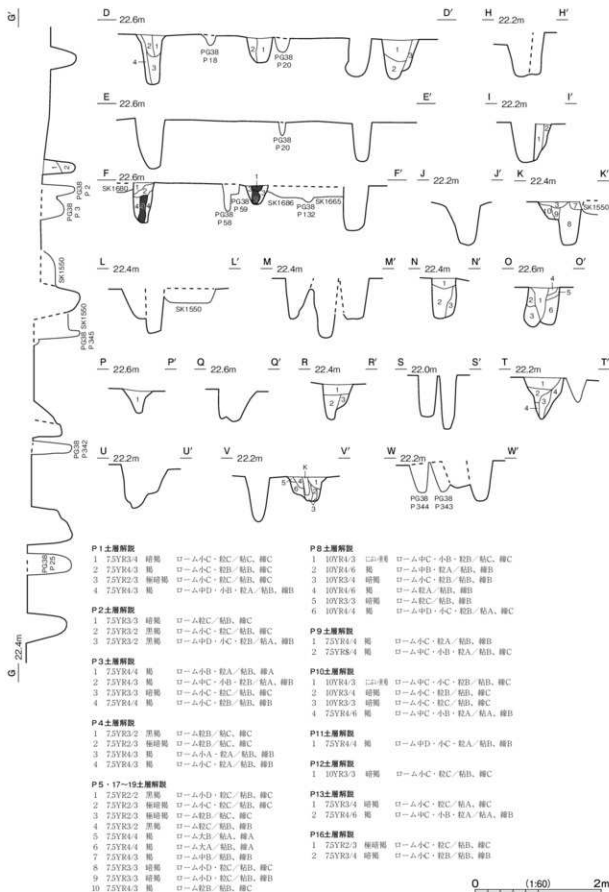
位置 調査区C区南部のJ36区、標高22mほどの台地平坦部から緩斜面部に位置している。

重複関係 第1603・1656号土坑、第63A号溝跡を掘り込んでいる。第1550・1558～1562・1620・1621・1665・1666・1680・1686号土坑、第38号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行5間、梁行2間の身舎の南側に庇が付く掘立柱建物で、桁行方向がN-87°-Eの東西棟である。規模は、身舎が桁行8.94m、梁行3.42mで、面積は30.57㎡である。庇は南側に0.74mほど出ている。庇を含めた桁行は8.94m、梁行は4.12mで、面積は36.83㎡である。身舎の柱間寸法は、北桁行が西から1.82m、1.70m、1.90m、1.70m、1.82m、南桁行が西から1.82m、1.80m、1.74m、1.80m、1.78mで、梁行は東西



第80図 第31号掘立柱建物跡実測図(1)



第 81 図 第 31 号掘立柱建物跡実測図(2)

ともが北から1.77 m、1.65 mである。柱筋はほぼ揃っている。庇の柱間寸法は、西から1.65 m、1.70 m、1.90 m、1.94 m、1.75 mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 30か所。P1～P14は身舎の柱穴である。平面形は円形や楕円形で、長径40～65cm、短径34～50cm、深さ40～83cmである。P1・P3・P5・P7・P12～P14はP15～P22と重複しており、建て替えに伴うピットの可能性がある。P23～P29は庇の柱穴である。平面形は円形や楕円形で、長径26～68cm、短径26～50cm、深さ42～88cmである。覆土は、P1・P3の第1・2層は柱抜き取り後の流入土、第3層は柱痕跡、第4層は掘方への埋土、P2・P4の第1・2層は柱痕跡、第3・4層は掘方への埋土である。他はいずれも、柱抜き取り後の流入土である。

遺物出土状況 土師質土器片4点（内耳鍋）、陶器片1点（折縁皿）、土製品1点（紡錘車）、鉄製品1点（不明）がP7・P11・P21から出土している。ほかに混入した土師器片1点、須恵器片1点が出土している。1はP21の覆土下層から、2はP11の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から、16世紀後半と考えられる。

P20土層解説

- 1 10YR4/4 堀 ローム小粒・粒B/粒B、緑C
- 2 10YR4/3 土師質 ローム中粒・小粒・粒A/粒B、緑C
- 3 10YR4/4 堀 ローム小粒・粒A/粒A、緑C

P22土層解説

- 1 7.5YR5/3 緑間 ローム小粒・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粒B、緑B
- 2 7.5YR3/4 緑間 ローム中粒・粒C/粒B、緑C
- 3 7.5YR3/3 緑間 ローム中粒・粒A、緑C
- 4 7.5YR4/6 堀 ローム小粒・粒A/粒A、緑B

P23土層解説

- 1 7.5YR4/6 堀 ローム小粒・粒A/粒A、緑B
- 2 7.5YR3/3 緑間 ローム中粒・粒C、緑C
- 3 7.5YR4/6 堀 ローム小粒・粒A/粒A、緑A
- 4 7.5YR2/3 緑間 ローム小粒・粒C/粒B、緑C
- 5 7.5YR4/6 堀 ローム中粒・粒A/粒A、緑A
- 6 7.5YR4/4 堀 ローム中粒・小粒・粒B/粒A、緑B

P24土層解説

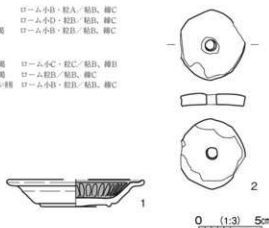
- 1 7.5YR3/2 黒間 ローム小粒・粒B/粒B、緑C
- 2 7.5YR4/4 堀 ローム小粒・粒A/粒A、緑C

P25土層解説

- 1 7.5YR4/6 堀 ローム小粒・粒A/粒B、緑C
- 2 7.5YR4/4 堀 ローム小粒・粒B/粒B、緑C
- 3 7.5YR3/4 緑間 ローム小粒・粒B/粒B、緑C

P30土層解説

- 1 10YR3/3 緑間 ローム小粒・粒C/粒B、緑B
- 2 10YR3/4 緑間 ローム中粒・粒B、緑C
- 3 10YR4/3 土師質 ローム小粒・粒B/粒B、緑C



第82図 第31号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第45表 第31号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第82図）

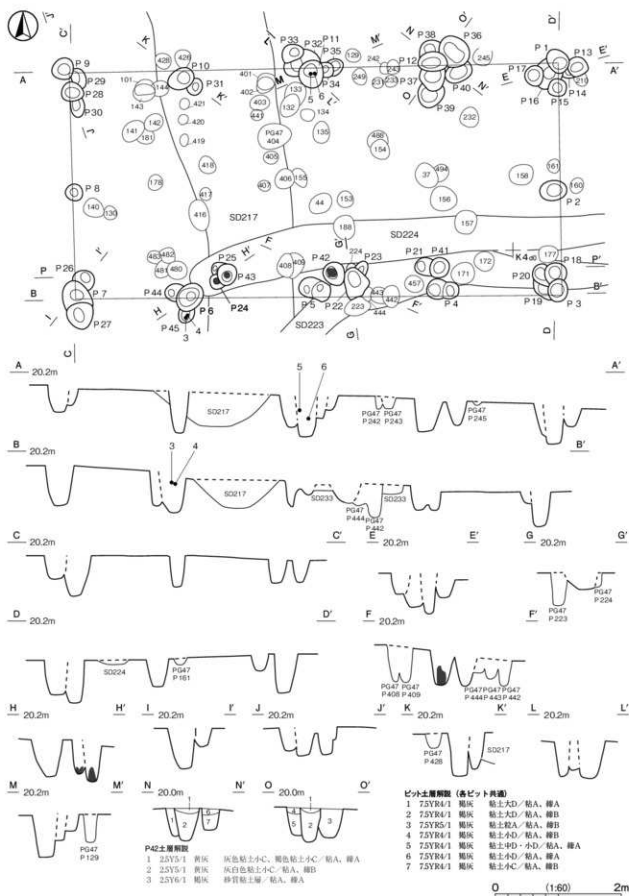
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	輪業	産地	出土位置	備考
1	陶器	折縁皿	[106]	21	54	長石・淡黄	口口成形、底部外面張り出し、内面ソグ・内巻	灰輪	瀬戸	P21 覆土下層	30% PL57
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
2	紡錘車	56	51	1.0	(33.13)	長石・石英・雲母	灰間	土師質土器内耳鍋片再利用、層緑打ち大さ・研磨表面からの穿孔		P11 覆土中層	100% PL57

第32号掘立柱建物跡（第83・84図 第46表 PL57）

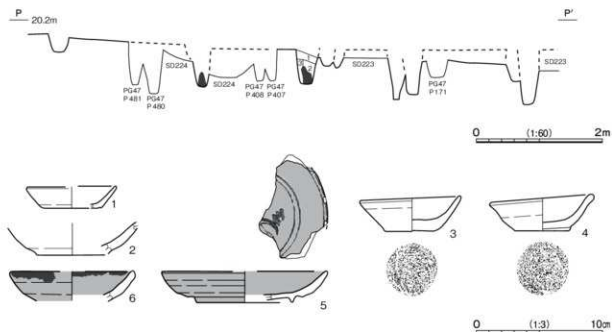
位置 調査区C区南東部のK4c8区、標高20mほどの低地部に位置している。

重複関係 第217・223・224号溝、第47号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の側柱建物で、桁行方向がN-89°-Eの東西棟である。規模は、桁行7.76 m、梁行3.60 mで、面積は27.94㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から1.82 m、2.00 m、1.90 m、2.04 m、南桁行が西から1.84 m、2.06 m、1.90 m、1.96 mで、梁行は西梁行が北から1.90 m、1.70 m、東梁行が北から2.00 m、



第 83 図 第 32 号掘立柱建物跡実測図



第 84 図 第 32 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

1.60 mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は円形や楕円形で、長径 28～50cm、短径 26～46cm、深さ 36～68cmである。P 2・P 8を除き、いずれも 3～6 基の複数のピットと重複しており、それらを P13～P45 とした。それぞれの重複関係は捉えることができなかったが、複数回の建て替えなどが考えられる。覆土は、P42 の第 1 層は柱抜き取り後の流入土、第 2 層は柱痕跡、第 3 層は掘方への埋土である。P12・P36～P38・P40 は柱抜き取り後の流入土である。P24・P42・P43 の底面には、一辺 25～30cm の角材が残存している。

遺物出土状況 土師質土器片 4 点（皿 3、鍋 1）、陶器片 2 点（皿）が出土している。1 は P11、2 は P13 の覆土から、3 は P45 の覆土上層から、4 は P45 の覆土中層から、5・6 は P11 の覆土中層から、それぞれ出土している。

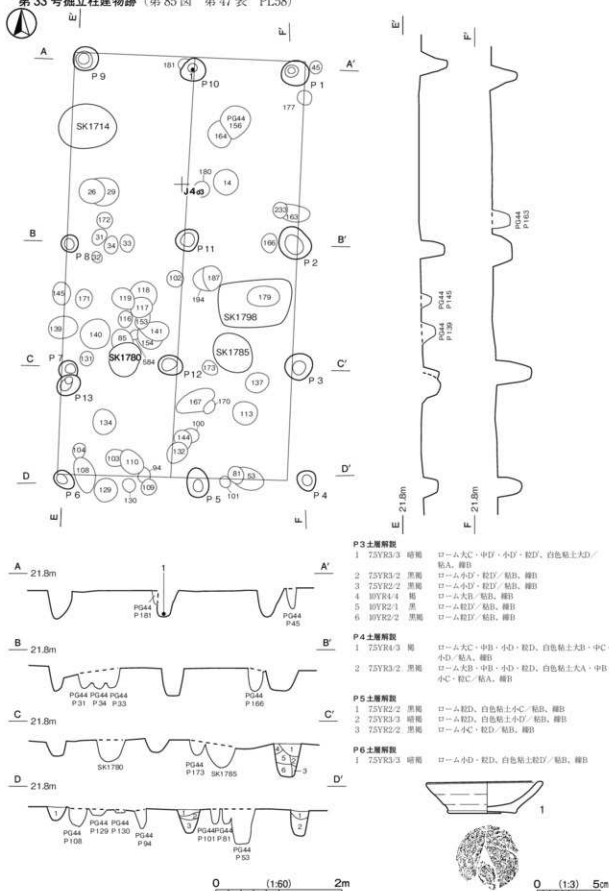
所見 時期は、出土土器から、16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。

第 46 表 第 32 号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第 84 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土・色 調	特 徴		出土位置	備 考	
1	土師質土器	皿	[71]	1.7	[4.5]	長石・石英	明赤釉	普通	ロクロナデ	P11 覆土	5%
2	土師質土器	皿	—	(26)	[5.7]	長石・石英・赤 色粘土	にぶい橙	普通	ロクロナデ	P13 覆土	5%
3	土師質土器	皿	7.9	2.8	3.9	長石・石英	橙	普通	ロクロ成形 底部回転赤切り	P45 覆土上層	100% PL57
4	土師質土器	皿	8.3	2.9	4.2	長石・石英	橙	普通	ロクロ成形 底部回転赤切り	P45 覆土中層	95% PL57

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴		釉薬	産 地	出土位置	備考	
5	陶器	鉄絵皿	[130]	2.5	[7.6]	緻密・淡黄	ロクロ成形 輪 草文	底部傾り出し 内面鉄 絵 草文	底面傾り出し 内面鉄 絵 草文	長石釉 鉄絵	瀬戸	P11 覆土中層	20% PL58
6	陶器	丸皿	[9.3]	(2.3)	—	緻密・オレンジ黄	ロクロ成形 輪 草文	底部傾り出し 漬け掛 け	底面傾り出し 漬け掛 け	灰釉	瀬戸	P11 覆土中層	5% 油障子着

第 33 号掘立柱建物跡 (第 85 図 第 47 表 PL58)



第 85 図 第 33 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

位置 調査区C区南東部のJ4d3区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1714・1780・1785・1798号土坑、第44号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の総柱建物で、桁行方向がN-3°-Eの南北棟である。規模は、桁行6.70m、梁行3.68mで、面積は24.66㎡である。柱間寸法は、西桁行が北から2.88m、2.00m、1.82m、東桁行が北から2.82m、1.98m、1.90mで、梁行は北梁行が西から1.84m、1.84mで、南梁行が西から2.16m、1.52mである。桁行の北側で柱間が広く、P4・P5・P12が柱筋からやや外れている。

柱穴 13か所。平面形は円形や楕円形で、長径28～54cm、短径28～46cm、深さ22～54cmである。P7はP13と重複しており、建て替えなどに伴うピットの可能性がある。覆土は、P3～P6が柱抜き取り後の流入土である。

遺物出土状況 土師質土器片3点（皿、鍋、播鉢）がP3・P5・P10の覆土中から出土している。1はP10の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から、16世紀後半と考えられる。

第47表 第33号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	92	25	52	長石・石英・黒色粘土・細砂	橙	普通	クロコナデ 底部回転糸切り	P10 覆土下層	90% P158

第34号掘立柱建物跡（第86図）

位置 調査区C区南部のJ3d9区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

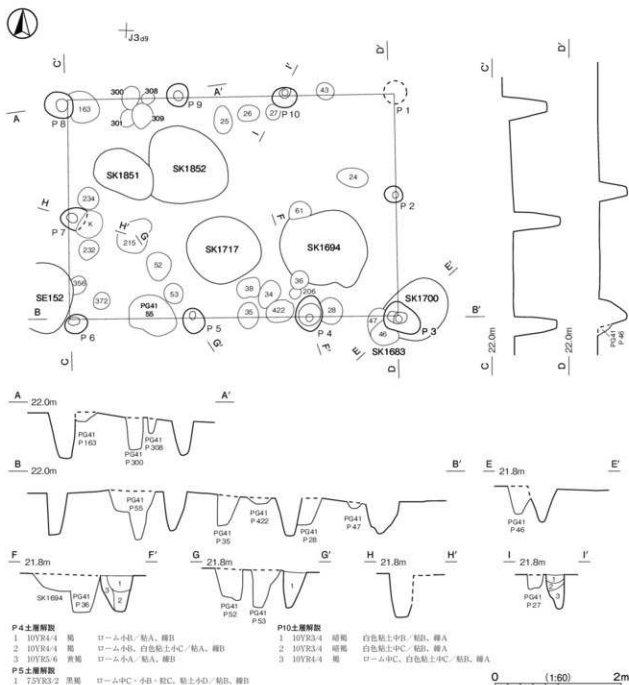
重複関係 第1700号土坑を掘り込んでいる。第152号井戸跡、第1694・1717・1851・1852号土坑、第41号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の欄柱建物で、桁行方向がN-87°-Eの東西棟である。規模は、桁行5.22m、梁行3.50mで、面積は18.27㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から1.80m、1.70m、1.72m、南桁行が西から1.96m、1.83m、1.43mで、梁行は西梁行が北から1.86m、1.64mで、東梁行が北から1.56m、1.94mである。柱筋はほぼ揃っているが、柱間は不規則である。

柱穴 北桁行の1か所（P1）を確認できず、9か所である。平面形は円形や楕円形で、長径30～60cm、短径28～44cm、深さ34～73cmである。P3・P4・P7・P8・P10は、それぞれピットと重複しており、建て替えなどに伴うピットの可能性がある。覆土は、P4・P5・P10が柱抜き取り後の流入土である。

遺物出土状況 土師質土器片3点（鍋、播鉢、甕）がP5・P7の覆土中から出土したが、いずれも細片である。

所見 時期は、出土遺物が少ないため不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16世紀から17世紀前葉と推定できる。



第86図 第34号掘立柱建物跡実測図

第35号掘立柱建物跡 (第87図 第48表)

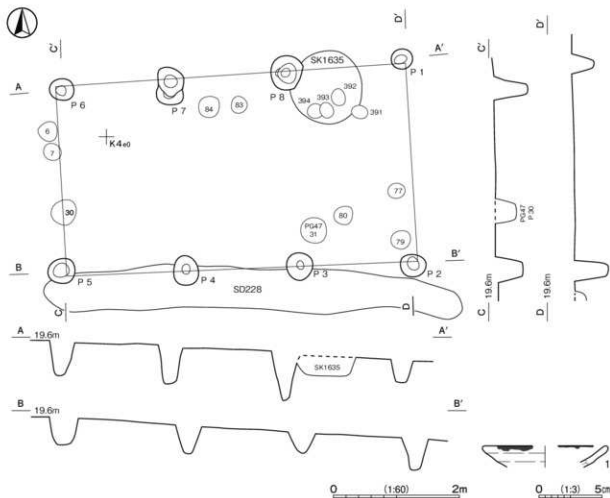
位置 調査区C区南東部のK 4e0区、標高19mほどの低地部に位置している。

重複関係 第1635号土坑、第228号溝跡、第47号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物で、桁行方向がN - 87° - Eの東西棟である。規模は、桁行5.54m、梁行3.10mで、面積は17.17㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から1.80m、1.86m、1.88m、南桁行が西から1.86m、1.84m、1.84mで、梁行は東・西梁行とも3.10mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形や楕円形で、長径30～50cm、短径24～40cm、深さ32～76cmである。

所見 時期は、出土土器から、16世紀後半と考えられる。



第87图 第35号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第48表 第35号掘立柱建物跡出土遺物一覽(第87図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	甕	[9.7]	(1.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ	P 4 覆土	5% 腐付着

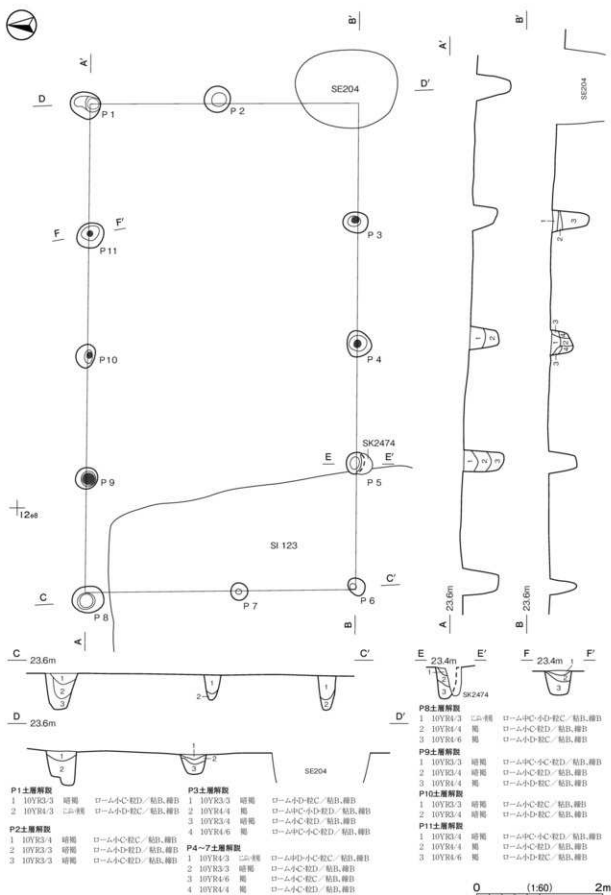
第 36 号掘立柱建物跡 (第 88 図 PL17)

位置 調査区C区西部中央のI2e9区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第123号堅穴建物跡を掘り込み、第204号井戸、第2474号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の櫓柱建物で、桁行方向がN-89°-Wの東西棟である。規模は、桁行7.70m、梁行4.30mで、面積は33.11㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から1.80m、1.90m、1.95m、2.05m、南桁行が西から1.95m、1.94m、1.96m、1.85mで、梁行は西梁行が北から2.45m、1.85m、東梁行が北から2.06m、2.24mである。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はややばらつきがある。

柱穴 南東部が第204号井戸跡に掘り込まれていることから、11か所確認した。平面形は円形や楕円形で、長径30～52cm、短径25～40cm、深さ22～64cmである。P3・P4・P9～P11の底面で、径10～



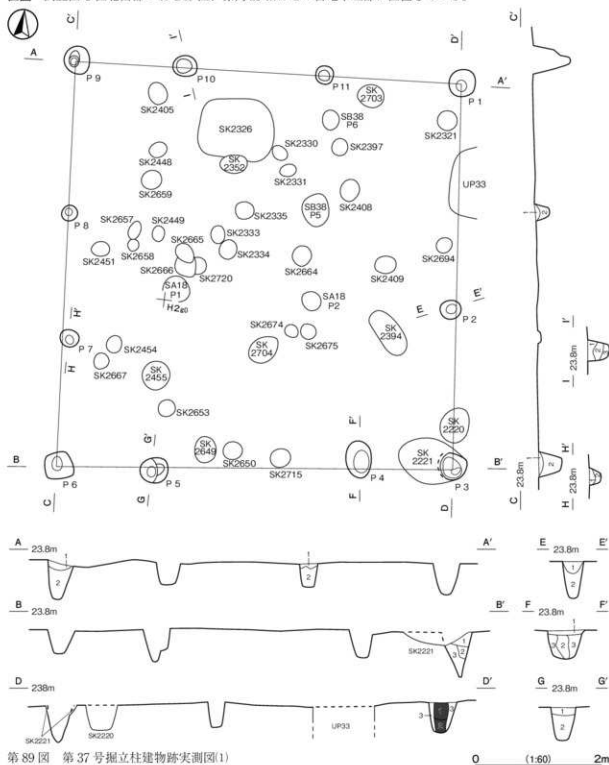
第 88 図 第 36 号掘立柱建物跡実測図

15cmの円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。覆土は、P 4が第1・2層が柱抜き取り後の流入土、第3・4層は掘方の埋土である。他はいずれも、柱抜き取り後の流入土である。

所見 時期は、出土遺物がないため不明確であるが、周辺の遺構群との関係などから、16世紀から17世紀前半と推定できる。

第37号掘立柱建物跡 (第89・90図 PL17)

位置 調査区C区北西部のH 29区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。



第89図 第37号掘立柱建物跡実測図(1)

P1土層解説				P4土層解説				P9土層解説			
1	10YK3-2	黒炭	ローム小D・粒D、焼土粒D／粘土、細B	1	10YK3-4	暗褐色	ローム小C・粒D／粘土、細B	1	10YK3-3	暗褐色	ローム小C・粒D／粘土、細B
2	10YK3-4	暗褐色	ローム小C・粒D／粘土、細B	2	10YK2-3	黒炭	ローム粒D／粘土、細B	2	10YK3-4	暗褐色	ローム小D・粒D／粘土、細B
3	10YK4-4	黒炭	ローム小C・粒D／粘土、細A	3	10YK3-3	暗褐色	ローム小D・粒D／粘土、細B	P10土層解説			
P2土層解説				P5・6土層解説				1 10YK4-6			
1	10YK3-4	暗褐色	ローム小D・粒D／粘土、細B	1	10YK4-6	黒炭	ローム小B・粒A／粘土、細B	2	10YK4-3	黒炭	ローム小C・粒C／粘土、細B
2	10YK4-4	黒炭	ローム小D・粒C／粘土、細B	2	10YK5-6	黒炭	ローム中C・小B・粒A／粘土、細B	3	10YK3-4	暗褐色	ローム小D・粒C／粘土、細B
P3土層解説				P7土層解説				P11土層解説			
1	10YK3-4	暗褐色	ローム小D・粒C／粘土、細B	1	10YK2-3	黒炭	ローム小D・粒C／粘土、細B	1	10YK3-3	暗褐色	ローム小D・粒D／粘土、細B
2	10YK3-3	暗褐色	ローム小D・粒C／粘土、細B	2	10YK2-2	黒炭	ローム小C・粒D／粘土、細B	2	10YK3-2	黒炭	ローム粒D／粘土、細B
3	10YK2-2	黒炭	ローム小C・粒C／粘土、細B	P8土層解説				1	10YK2-2	黒炭	ローム粒D／粘土、細B
							2	10YK4-6	黒炭	ローム小B・粒A／粘土、細B	

第90図 第37号掘立柱建物跡実測図(2)

重複関係 P3が第2221号土坑に掘り込まれている。また、第38号掘立柱建物跡、第18号柱穴列、第33号地下式坑、第2220・2321・2326・2330・2331・2333・2334・2335・2352・2394・2397・2405・2408・2409・2448・2449・2451・2454・2455・2649・2650・2653・2657・2658・2659・2664・2665・2666・2667・2674・2675・2694・2703・2704・2715・2720号土坑との関係は不明である。

規模と構造 東梁行の柱穴が1か所確認できなかったが、桁行3間、梁行3間の側柱建物で、桁行方向がN-5°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.26m、梁行6.18mで、面積は38.68㎡である。柱間寸法は、西桁行が北から2.40m、2.00m、1.86m、東桁行が北から3.56m、2.70mで、梁行は北梁行が西から1.70m、2.30m、2.18m、南梁行が西から1.70m、3.12m、1.36mである。柱筋は、P7を除きほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

柱穴 東梁行の1か所が確認できなかったため、11か所である。平面形は円形や楕円形で、長径26～56cm、短径24～44cm、深さ20～72cmである。覆土は、P1が第1・2層が柱痕跡、第3層が掘方の埋土である。他はいずれも、柱抜き取り後の流入土である。

所見 時期は、出土遺物がないため不明確であるが、周辺の遺構群との関係などから、16世紀から17世紀前葉と推定できる。

第38号掘立柱建物跡 (第91図 PL17)

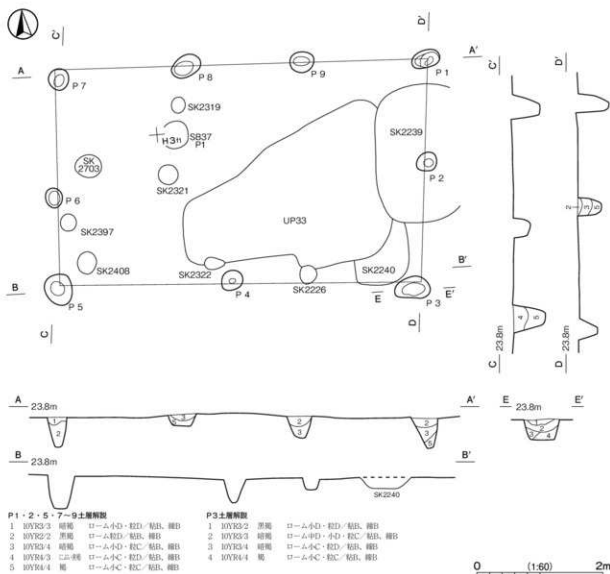
位置 調査区C区北西部のH3街区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 P2が第2239号土坑を掘り込んでいる。また、第37号掘立柱建物跡、第33号地下式坑、第2226・2240・2319・2321・2322・2397・2408・2703号土坑との関係は不明である。

規模と構造 P3が柱筋から外れているが、北桁行3間、南桁行2間、梁行2間の側柱建物で、桁行方向がN-87°-Wの東西棟である。規模は、桁行5.82m、梁行3.44mで、面積は20.02㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から2.02m、1.85m、1.95m、南桁行が西から2.76m、3.06mで、梁行は西梁行が北から2.06m、1.38m、東梁行が北から1.52m、1.92mである。柱筋は、P3を除きほぼ揃っているが、柱間寸法にばらつきがある。

柱穴 9か所。平面形は円形や楕円形で、長径34～56cm、短径28～44cm、深さ20～52cmである。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。

所見 時期は、出土遺物がないため不明確であるが、周辺の遺構群との関係などから、16世紀から17世紀前葉と推定できる。



第91図 第38号掘立柱建物跡実測図

第40号掘立柱建物跡（第92図）

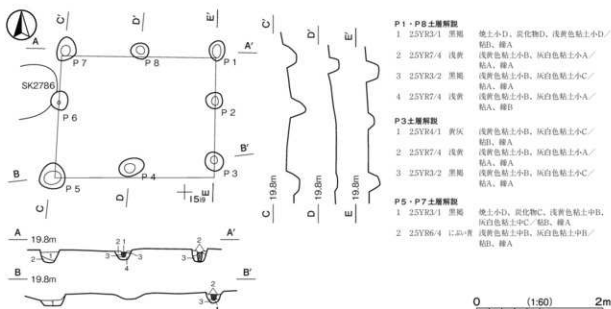
位置 調査区D区北東部のI5h8区、標高20mほどの低地部に位置している。

重複関係 第2786号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の掘立柱建物で、桁行方向が $N-88^{\circ}-W$ の東西棟である。規模は、桁行2.47m、梁行1.96mで、面積は4.84 m^2 である。柱間寸法は、北桁行が西から1.25m、1.22m、南桁行が西から1.20m、1.27mで、梁行は西梁行が北から0.90m、1.06m、東梁行が北から0.82m、1.14mである。柱筋はP3・P5がややずれるものの、ほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形や楕円形で、長径30～42cm、短径25～40cm、深さ10～26cmである。覆土は、P1・P3・P8が第1層が柱痕跡、第2～4層が掘方の埋土である。P5・P7は柱抜き取り後の流入土である。

所見 時期は、出土遺物がないため不明確であるが、周辺の遺構群との関係などから、16世紀から17世紀前葉と推定できる。



第92図 第40号掘立柱建物跡実測図

第49表 室町時代から江戸時代の掘立柱建物跡一覧

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴		主な出土遺物	時期	備考	
						桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数				平面形
1	G 416	N-62°-W	3×2	5.80×3.65	21.17	1.80-2.10	1.80-1.95	欄柱	10	円・楕円形	51-69	-	16世紀前半 S204・S205・PG-678 PG-6・22、PG-6と重複
2	G 4e6	N-67°-W	3×1	5.75×3.35	20.41	1.75-2.10	3.55	欄柱	8	円・楕円形	22-64	-	16世紀前半 S204・S205・PG-678 PG-6と重複
21	H 4f1	N-21°-E	4×3	6.80×4.23	28.76	1.50-2.70	0.90-2.10	欄柱	13	円・楕円形	20-115	銭貨	16世紀前半 S204・S205・PG-678 PG-6・22、PG-6と重複
22	H 4c4	N-16°-E	2×2	4.20×4.00	16.80	1.30-3.00	1.90-2.10	欄柱	8	円・楕円形	34-70	土師質土器陶器	16世紀前半 S204・S205・PG-678 PG-6と重複
23	H 4c5	N-73°-W	4×3	7.30×3.64	26.57	1.16-2.32	0.90-1.82	欄柱	14	円・楕円形	32-91	土師質土器陶器	16世紀後半 S204・S205・PG-678 PG-6と重複
24	H 4d4	N-77°-W	4×3	6.28×4.14	25.99	1.18-2.60	1.00-2.10	欄柱	12	円・楕円形	18-78	土師質土器陶器	16世紀後半 S204・S205・PG-678 PG-6と重複
26	H 4d3	N-24°-E	3×2	4.72×5.08	23.97	1.02-2.08	2.48-2.60	欄柱	10	円・楕円形	28-70	土師質土器陶器	16世紀後半 S204・S205・PG-678 PG-6と重複
27	H 413	N-19°-E	2×3	4.04×4.10	16.56	1.60-2.44	1.10-1.60	欄柱	10	円・楕円形	25-70	土師質土器陶器	17世紀前半 S204・S205・PG-678 PG-6と重複
31	J 3j6	N-87°-E	5×2	8.94×3.42	30.57	1.70-1.90	1.65-1.82	欄柱	30	円・楕円形	40-83	土師質土器陶器 土師質土器	

(2) 方形竪穴遺構

第1号方形竪穴遺構 (第93図 第50表)

位置 調査区A区南部のG 4 d3区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.98 m、短軸1.46 mの長方形で、長軸方向はN-54°-Wである。壁は高さ48 cmで、外傾している。

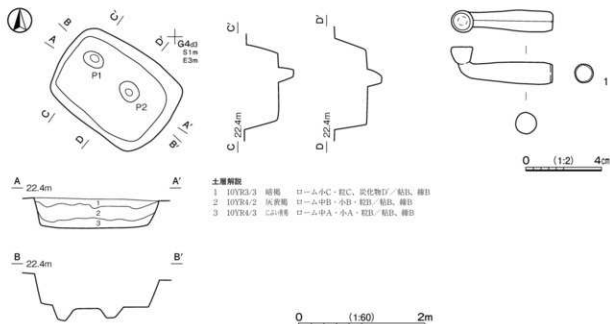
床 は平坦で、硬化していない。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

ピット 2か所。深さ22～27 cmで、配置から柱穴と考えられる。

遺物出土状況 金属器1点(煙管)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、煙管の形状から、19世紀代と考えられる。性格は不明である。



第93図 第1号方形竪穴遺構実測図

第50表 第1号方形竪穴遺構遺物一覧 (第93図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	煙管	5.4	2.0	0.1	12.13	銅	煙首部 火眼径1.2cm 鍛造接銅板巻き幅付け	覆土	

第2号方形竪穴遺構 (第94図 PL17)

位置 調査区A区南部のG 4 d2区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第16号溝に掘り込まれている。

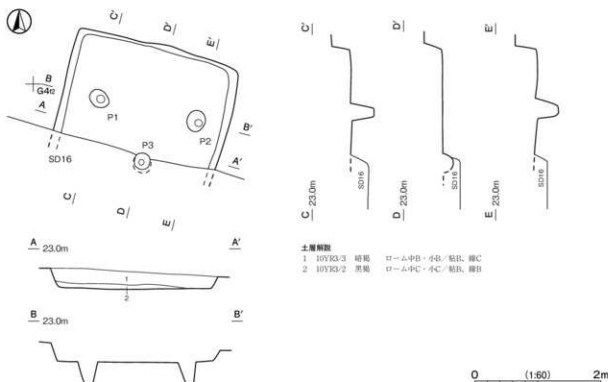
規模と形状 確認できた規模は、北東・南西軸266 m、北西・短軸1.75 mである。平面形は方形または長方形で、北東・南西軸方向はN-10°-Eである。壁は高さ14～32 cmで、外傾している。

床 は平坦で、硬化面などは確認できなかった。

ビット 3か所。P1・P2は深さ14～38cmで、配置から柱穴と考えられる。P3は深さ14cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

所見 出土遺物がないため時期は不明であるが、第16号溝跡との重複関係や周辺に存在する第1・2号に関連する建物と考えられることから、16世紀前半以前である。



第94図 第2号方形堅穴遺構実測図

第3号方形堅穴遺構 (第95図)

位置 調査区C区北部のH30区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第848号土坑に掘り込まれている。第21号掘立柱建物跡、第782号土坑との関係は不明である。

規模と形状 北壁側が攪乱のため、東西軸が2.12m、南北軸が2.15mほどの長方形と推定でき、主軸方向はN-67°-Wである。壁は高さ15～20cmで、外傾している。

床 やや凹凸があり、北から南に向かって緩やかに傾斜し、南部が低くなっている。

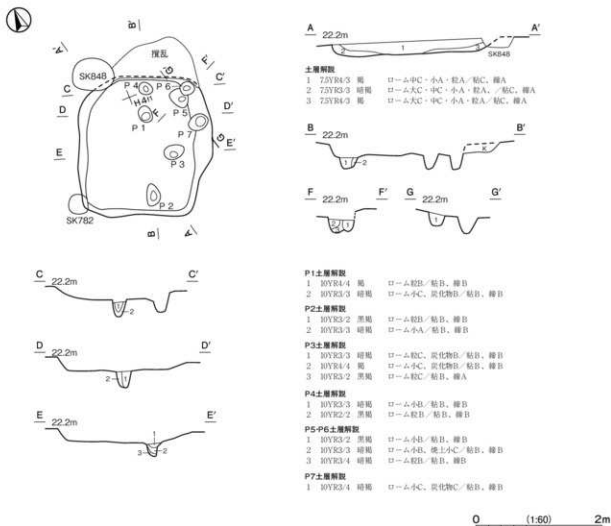
ビット 7か所。P1・P2は深さ28cm・22cmで、規模や位置から主柱穴である。P3は深さ24cmで、規模や位置から出入口施設に伴うビットと考えられる。P4～P7は深さ22～28cmで、壁際に位置している。

覆土 はいずれも、柱抜き取り後の流入土である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片5点(鉢1、内耳鍋4)が出土している。いずれも覆土から出土し、細片である。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第95図 第3号方形堅穴遺構実測図

第4号方形堅穴遺構 (第96図 第51表)

位置 調査区C区北部のH3h0区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第867・895号土坑、第19号ピット群P108との関係は不明である。

規模と形状 台形状の主室部と、長方形に張り出す出入口部からなる。規模は主室部が長軸3.18m、短軸2.25m、出入口部の長軸は1.15m、短軸は1.00mで、出入口部を含めた東西軸は3.36mである。主軸方向はN-87°-Wである。壁は高さ12~25cmで、外傾している。

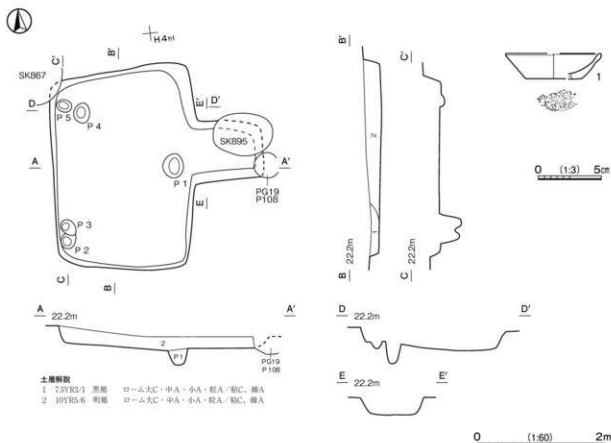
床 はほぼ平坦で、西から東に向かって緩やかに傾斜し、東部が低くなっている。

ピット 5か所。P1は深さ26cmで、ほぼ主軸上にある。P2~P4は深さ13~35cmで、西壁際に位置している。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片8点(皿2、甕4、内耳鍋2)が出土している。1は北西部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第96図 第4号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第51表 第4号方形竪穴遺構出土遺物一覧(第96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土製甕土器	甕	[7.6]	2.0	[4.4]	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	北西部覆土	5%

第5号方形竪穴遺構 (第97・98図 第52表 PL58)

位置 調査区C区東部のI4fl区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.63m、短軸2.72mで、主軸方向はN-18°-Eの長方形である。壁は高さ8cmで、外傾している。

床 ほほ平坦で、南東コーナー部と西壁際の一部を除き、硬化している。

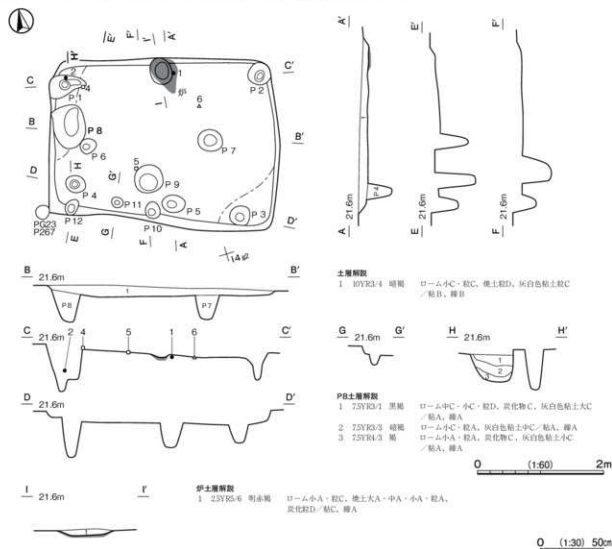
炉 北壁中央部に位置している。長径46cm、短径36cmの楕円形で、深さ10cmほどの地床炉である。炉床面は第1層下面で、赤変硬化している。

ビット 12か所。P1～P4は深さ33～66cmで、規模や配置から主柱穴である。P5は深さ38cmで、炉と対峙する位置にあることから、出入口施設に伴うビットと考えられる。P8は長径0.7m、短径0.52m、深さ43cmのやや大型のビットで、西壁中央部に位置している。覆土は柱抜き取り後の流入土である。P10～P12は深さ18～30cmで、南壁際に位置しており、壁柱穴と考えられる。P6・P7・P9は、深さ40～54cmで、性格は不明である。

覆土 単一層である。ロームブロック・粒子や焼土粒子、粘土粒子を含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片8点（皿5、内耳鍋3）、陶器片1点（皿）、磁器片1点（碗）、石器2点（凝灰岩製砥石、斑レイ岩製台石カ）、銭貨1点が出土している。ほかに混入した須恵器片1点が出土している。1は炉の火床面から、2はP1の覆土下層から、それぞれ出土している。4はP1東側、P9西側、6は北東部の床面から、それぞれ出土している。

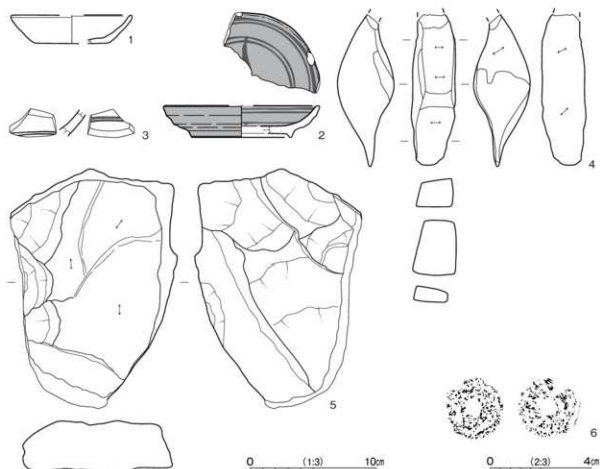
所見 時期は、出土土器から16世紀後葉から17世紀前葉と考えられる。



第97図 第5号方形竪穴遺構実測図

第52表 第5号方形竪穴遺構出土遺物一覧（第98図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[94]	23	[54]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロウナナデ 底部回転糸切り	炉火床面 30%
2	陶器	皿	[124]	25	[80]	長石 灰白		高台残り出し 長石釉付掛付 鉄	長石釉付掛付 瀬戸・美濃	P1下層 5% PL58
3	磁器	碗	—	(21)	—	緻密 灰白	染付	二重圈門文	有須 透明釉	肥前系 覆土 5%



第 98 図 第 5 号方形竪穴遺構出土遺物実測図

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
4	砥石	(120)	3.5	4.5	(19260)	凝灰岩	砥面 3 面	P1 東側床面	PL58
5	砥石	(190)	(132)	3.9	(16300)	珉レイ岩	砥面 1 面	P9 西側床面	PL58

番号	銭 種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特 徴	出土位置	備 考
6	不明	25	0.5	0.1	1.40	銅	-	表裏面磨滅	北東部床面	

第 12A・B 号方形竪穴遺構 (第 99 図 PL17)

位置 調査区 C 区南東部の J 4 e7 区、標高 21 m ほどの低地部に位置している。

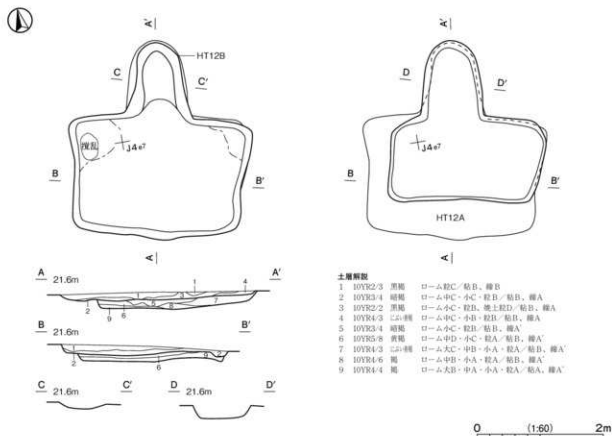
規模と形状 形状から 1 回の拡張を確認し、拡張前を第 12B 号、拡張後を第 12A 号と呼称した。いずれも長方形の主室部と、長楕円形に張り出す出入口部からなる。第 12A 号の規模は、主室部が長軸 2.85 m、短軸 1.94 m、出入口部が長径 1.20 m、短径 0.80 m で、出入口部を含めた南北軸は 3.10 m である。主軸方向は $N - 10^{\circ} - E$ である。壁は高さ 10 cm で、外傾している。第 12B 号の規模は、主室部が長軸 2.42 m、短軸 1.32 m、出入口部が長径 1.20 m、短径 0.98 m で、出入口部を含めた南北軸は 2.54 m である。主軸方向は $N - 10^{\circ} - E$ である。壁は重複のため確認できた高さが 14 cm で、外傾している。

床 ほほ平坦で、出入口部から主室部に向かって緩やかに傾斜し、南部が低くなっている。

覆土 第12A号は4層に分層できる。第1～4層は、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。第12B号は5層に分層できる。第5～9層は、各層にロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片4点、須恵器片1点が出土している。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16世紀後葉から17世紀前葉と推定できる。



第99図 第12A・B号方形竪穴遺構実測図

第13号方形竪穴遺構 (第100図 PL17)

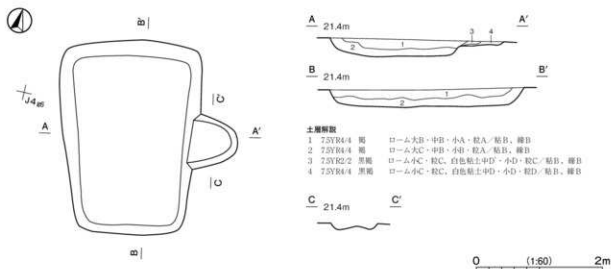
位置 調査区C区南東部のJ4g6区、標高21mほどの低地部に位置している。

規模と形状 長方形の主室部と、楕円形に張り出す出入口部からなる。規模は主室部が長軸3.06m、短軸1.78～2.26m、出入口部の長径は0.76m、短径は0.72mで、出入口部を含めた東西軸は2.76mである。主軸方向はN-13°-Wである。壁は高さ8～28cmで、外傾している。

床 主室部、出入口部ともにほぼ平坦で、主室部床面と出入口部は、16cmほどの段差がある。

覆土 4層に分層できる。主室部の第1・2層は、ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。出入口部の第3・4層は層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16世紀後葉から17世紀前葉と推定できる。



第100図 第13号方形竪穴遺構実測図

第23号方形竪穴遺構（第101図 PL17）

位置 調査区C区北部のG3区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2153号土坑に掘り込まれている。第2147・2148号土坑との関係は不明である。

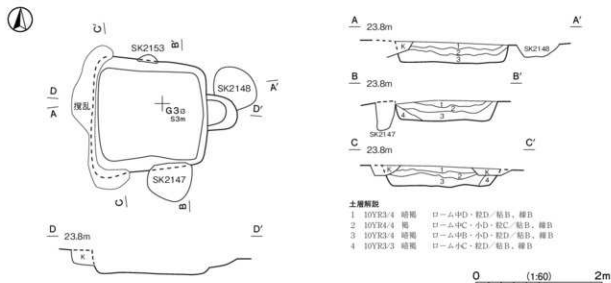
規模と形状 台形状の主室部と、楕円形に張り出す出入口部からなる。西部が攪乱のため、確認できた規模は主室部が長軸1.56～1.92m、短軸1.76～1.82m、出入口部の長径は0.56m、短径は0.46mで、出入口部を含めた東西軸は2.32mと推定できる。主軸方向はN-90°-Eである。壁は高さ10～30cmで、外傾している。

床 主室部は若干の凹凸があり、出入口部は主室部に向かって緩やかに下がっている。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子をやや多く含んでいるが、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片4点、須恵器片2点が出土している。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16世紀後葉から17世紀前葉と推定できる。



第101図 第23号方形竪穴遺構実測図

第32号方形竪穴遺構（第102図）

位置 調査区C区北西部のH2e7区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第265号溝に掘り込まれている。

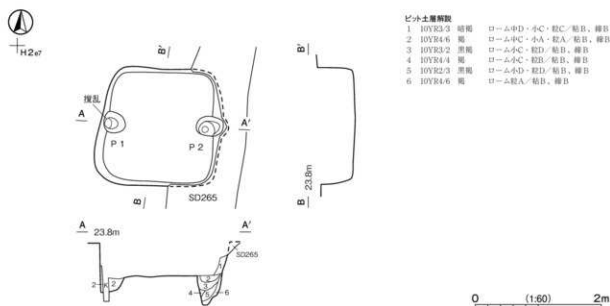
規模と形状 長軸2.00m、短軸1.88mの方形で、南北軸方向はN-2°-Eである。壁は高さ54cmで、直立している。

床 ほは平坦である。

ピット 2か所。P1・P2は深さ42cmで、規模や配置から主柱穴である。覆土は柱抜き取り後の流入土である。

覆土 東壁際で部分的に確認したのみで、堆積状況は不明である。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16世紀後葉から17世紀前葉と推定できる。



第102図 第32号方形竪穴遺構実測図

第39号方形竪穴遺構（第103図 PL17）

位置 調査区C区北西部のG2i0区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2876号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長方形の主室部と、方形に張り出す出入口部からなる。北西部が重複のため、確認できた規模は主室部が長軸2.34m、短軸2.06m、出入口部の長軸は0.66m、短軸は0.56mで、出入口部を含めた東西軸は2.66mである。主軸方向はN-82°-Wである。壁は高さ16～50cmで、直立している。

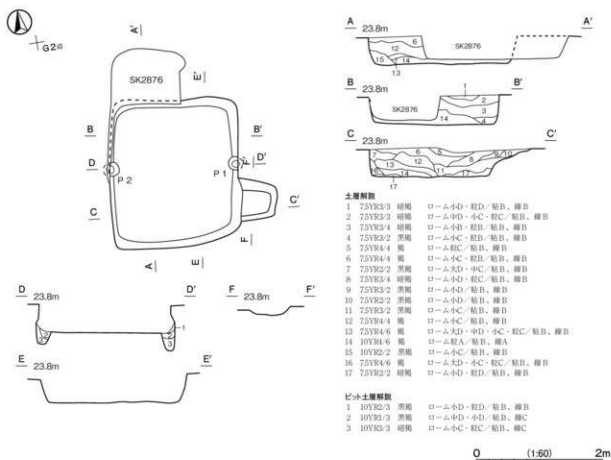
床 主室部、出入口部ともにほぼ平坦で、出入口部は主室部に向かって緩やかに下がっている。主室床面と出入口部は、25cmほどの段差がある。

ピット 2か所。P1・P2は、深さ22・28cmで、規模や配置から主柱穴である。覆土は柱抜き取り後の流入土である。

覆土 17層に分類できる。各層にロームブロックやローム粒子を含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)、陶器片1点(甕)が出土している。いずれも覆土中から出土し、細片である。ほかに混入した縄文土器片8点、土師器片33点、須恵器片4点が出土している。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16世紀後葉から17世紀前葉と推定できる。



第103図 第39号方形竪穴遺構実測図

第40号方形竪穴遺構(第104図)

位置 調査区C区北部のG3ii区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2887号土坑を掘り込み、第291号溝に掘り込まれている。

規模と形状 方形の主室部と、南壁に楕円形に張り出す出入口部からなる。規模は主室部が長軸2.44m、短軸2.40m、出入口部の長径は0.74m、短径は0.64mで、出入口部を含めた南北軸は3.04mである。主軸方向はN-12°-Eである。壁は高さ42cmで、直立している。

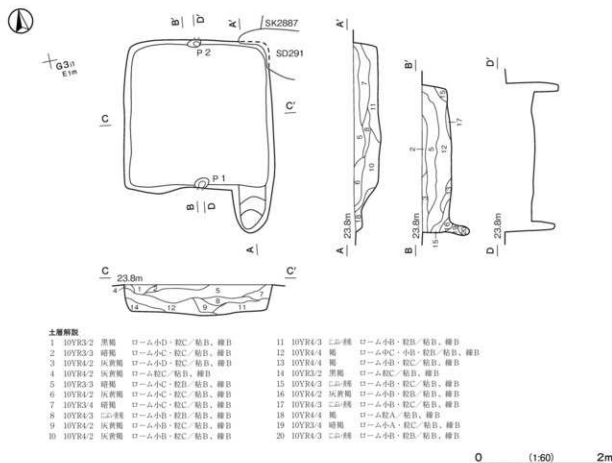
床 主室部はほぼ平坦で、出入口部は主室部に向かって緩やかに下がっている。

ビツ 2か所。P1・P2は、深さ36cm・40cmで、規模や配置から主柱穴である。P1の覆土は柱抜き取り後の流入土である。

覆土 18層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した縄文土器片4点、土師器片37点、須恵器片3点が出土している。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16世紀後葉から17世紀前葉と推定できる。



第104図 第40号方形竪穴遺構実測図

第53表 方形竪穴遺構一覧

番号	位置	主軸方向	平面形状	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面 標高	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
							柱穴	出入口	ピット	石・瓦	貯蔵穴				
1	G 4d3	N-54°-W	長方形	1.98 × 1.46	48	平	-	2	-	-	-	人為	榎管	19世紀代	
2	G 4d2	N-10°-E	長方形	2.66 × (1.75)	14~32	平	-	2	-	1	-	人為		16世紀前半	本跡→SK782・848、SU21
3	H 3d0	N-67°-W	長方形	2.13 × 2.12	15~20	凹	-	2	1	4	-	人為	土師質土器	16世紀後半	本跡→SK967・895、PG19P108と重複
4	H 3b0	N-87°-W	台形	3.18 × 2.25	12~25	平	-	-	-	5	-	人為	土師質土器	16世紀後半	本跡→SK967・895、PG19P108と重複
5	I 4f1	N-18°-E	長方形	3.63 × 2.72	8	平	-	4	1	7	伊1	人為	土師質土器 組物、磁石	16世紀前半	本跡→SK2153、SK2107・2108と重複
12A	J 4e7	N-10°-E	長方形	2.85 × 1.94	10	平	-	-	-	-	-	自然		16世紀から17世紀前半	HT12B→本跡
12B	J 4e7	N-10°-E	長方形	2.42 × 1.32	(14)	平	-	-	-	-	-	人為		16世紀前半	本跡→HT12A
13	J 4g5	N-13°-W	長方形	3.06 × 1.78~2.26	8~28	平	-	-	-	-	-	人為		16世紀前半	
23	G 3d2	N-90°-E	台形	1.56~1.92 × 1.76~1.82	10~30	凹	-	-	-	-	-	自然		16世紀前半	本跡→SK2153、SK2107・2108と重複
32	H 2e7	N-2°-E	長方形	12.00 × 1.88	54	平	-	2	-	-	-	-		16世紀から17世紀前半	本跡→SD166
39	G 2d0	N-82°-W	長方形	2.34 × 2.06	16~50	平	-	2	-	-	-	人為	土師質土器 陶器	16世紀前半	本跡→SK2876
40	G 3i1	N-12°-E	方形	2.44 × 2.40	42	平	-	2	-	-	-	人為		16世紀から17世紀前半	SK2887→本跡→SD291

(3) 地下式坑

24 基を確認した。このうち 9 基について本文で説明し、その他については実測図と一覧のみを記載する。
 なお、第 28 ～ 30 号地下式坑については、部分的な確認のため詳細は不明であるが、地下式坑と判断した。

第 1 号地下式坑（第 105 図）

位置 調査区 A 区南部の F 4j1 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 9・13 号溝に掘り込まれている。

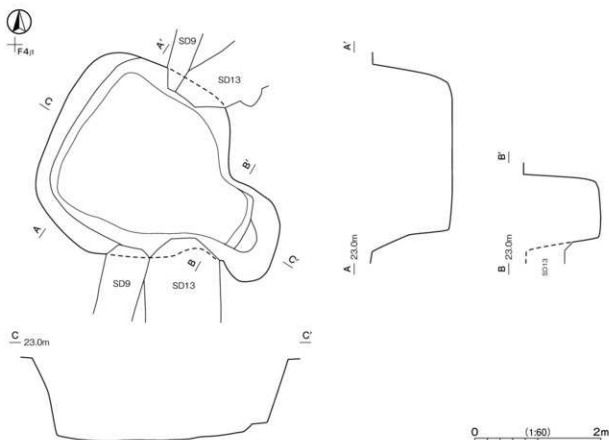
規模と形状 軸長は 4.02 m で、主軸方向は N - 58° - W である。

竪坑 主室の東壁中央部に位置し、奥行 0.60 m 横幅 1.34 m の半円形である。深さ 104 cm で、底面は平坦である。

主室 奥行 3.51 m、横幅 3.12 m の隅丸長方形である。壁は高さ 124 cm で、外傾している。竪坑と主室の境には 15 cm ほど段差があり、底面はその地点から主室の北西壁に向かって、緩やかに 10 cm ほど下っている。

覆土 ロームブロックと炭化物を多く含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。調査中に覆土が崩落したため、記録することができなかった。

所見 出土遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。

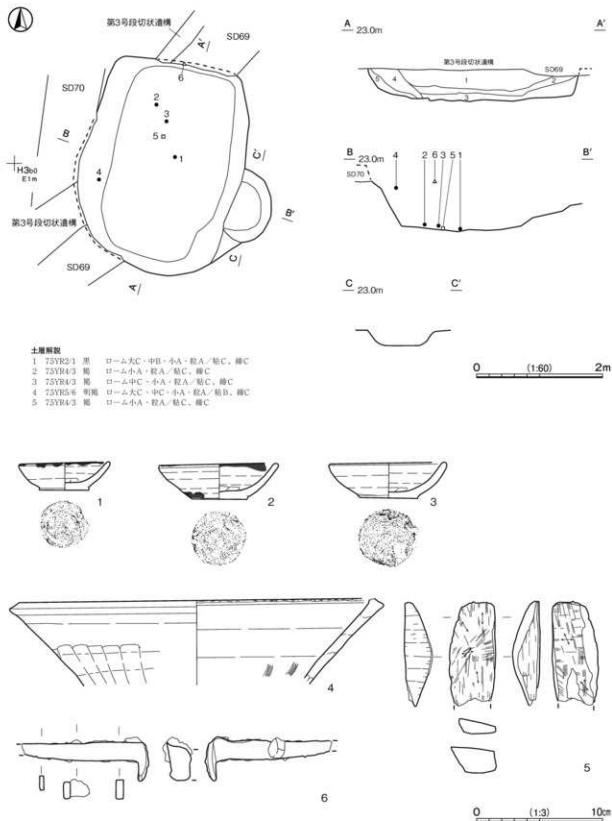


第 105 図 第 1 号地下式坑実測図

第9号地下式坑 (第106図 第54表 PL18・58)

位置 調査区C区北東部のH3b0区、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第3号段切状遺構、第7号整地遺構、第69・70号溝に掘り込まれている。



第106図 第9号地下式坑・出土遺物実測図

規模と形状 重複していることから、確認できた軸長は3.23 mで、主軸方向はN-75°-Wである。

竪坑 主室の東壁中央部南寄りに位置している。残存する規模は奥行0.62 m、横幅1.08 mで、平面形は半円形と推定できる。残存する深さは10～20 cmで、壁は外傾していたと推定できる。底面は主室に向かって緩やかに下り傾斜している。

主室 残存する規模は奥行2.54 m、横幅3.30 mで、平面形は隅丸長方形と推定できる。確認した深さは50 cmで、壁は外傾している。竪坑と主室の境には20 cmほどの段差があり、底面はほぼ平坦である。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片16点(Ⅲ5、播鉢1、甕10)、石器1点(砥石)、鉄製品1点(錠前カ)、鉄滓1点が出土している。ほかに混入した土師器片2点が出土している。1～3・5は主室中央部から北部の覆土下層から出土している。4は主室西部、6は主室北壁際の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。

第54表 第9号地下式坑出土遺物一覧(第106図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.0	2.3	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土下層	100% Ⅲ58 赤井付着
2	土師質土器	皿	9.4	2.9	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土下層	100% Ⅲ58 赤井付着
3	土師質土器	皿	9.2	2.9	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土下層	80%
4	土師質土器	播鉢	[28.2]	(6.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部ナデ 体部外面筋・底・横穴ナデ 内面横穴ナデ・磨面状工具による3条一単位の間目	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	砥石	(8.2)	3.7	2.2	(69.75)	礫灰岩	両面多方向の研磨痕 側面削り痕	覆土下層	PL58

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	錠前*	(10.1)	3.5	0.3～0.6	(34.96)	鉄	一枚板 側面折り曲げ加工 断面長方形 裏面中央部支柱貼付	覆土上層	PL58

第12号地下式坑(第107図 第55表 PL18)

位置 調査区C区南西部のK 2b7区、標高23 mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2954号土坑、第148号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した軸長は3.06 mで、主軸方向はN-5°-Wである。

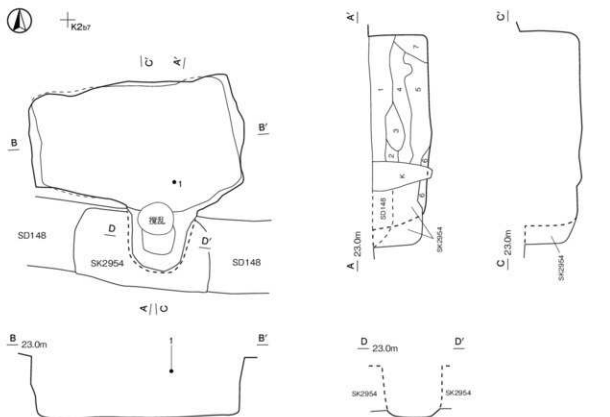
竪坑 主室の南壁中央部東寄りに位置している。残存する規模は奥行1.00 m、横幅0.84 mで、平面形は隅丸長方形と推定できる。残存する深さは84 cm、壁は直立していたと推測できる。底面は主室に向かって緩やかに下り傾斜している。

主室 奥行2.06 m、横幅3.34 mの不整な長方形である。深さは96 cmで、壁は直立している。底面はほぼ平坦で、竪坑との高低差はみられない。

覆土 7層に分層できる。第1～4層は各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。第5～7層は大型のロームブロックを含んでいることから、天井部の崩落土と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片6点(Ⅲ1、内耳鍋5)が出土している。ほかに混入した土師器片15点、須恵器片8点が出土している。1は主室南部の覆土上層から出土している。

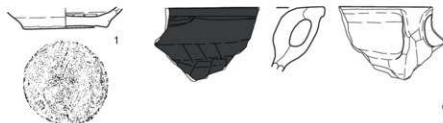
所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 コーム中C・小C・粒C、炭化粒D・粒C、糠C
 2 10YR3/4 暗褐 コーム中A・小A・粒A／粒B、糠C
 3 10YR3/2 黒褐 コーム小D・粒C、炭化粒D／粒C、糠C
 4 10YR4/6 黒 コーム大B・粒A／粒A、糠B
 5 10YR3/4 暗褐 コーム大A／粒A、糠A
 6 10YR4/4 黒 コーム中B・小A・粒A／粒A、糠A
 7 10YR3/4 暗褐 コーム大C・中B・小B・粒A／粒B、糠C

0 (1:60) 2m



0 (1:3) 10cm

第107図 第12号地下式坑・出土遺物実測図

第55表 第12号地下式坑出土遺物一覧(第107図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土面瓦土器	皿	-	(1.6)	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロケロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	30%
2	土面瓦土器	内耳罎	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 内面耳部貼付 底ナデ 内面横筋ナデ	覆土	5% 検分蓋

第14号地下式坑（第108・109図 第56表 PL18）

位置 調査区C区南部のK3b2区、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 軸長は3.60mで、主軸方向はN-10°-Wである。

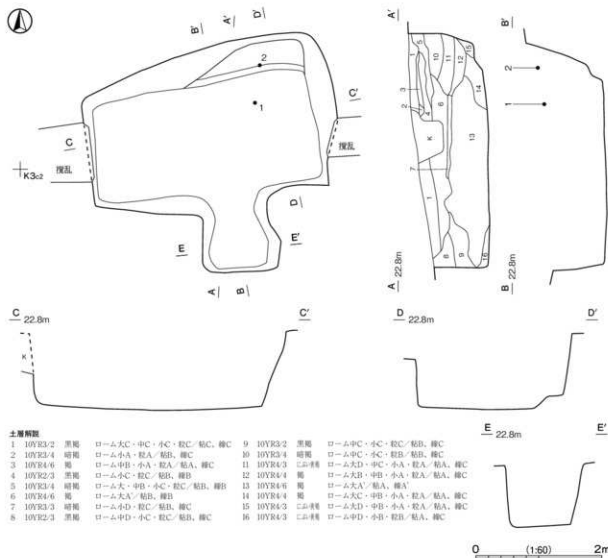
竪坑 主室の南壁中央部に位置し、奥行1.04m、横幅1.26mの隅丸方形である。深さは84cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

主室 奥行2.40m、横幅4.00mの隅丸長方形である。深さは124cmで、壁は外傾している。底面は平坦で、竪坑との高低差はみられない。北壁東側に長さ1.70m、幅0.30mほどの段を有している。底面からは10～20cmほど高くなっている。

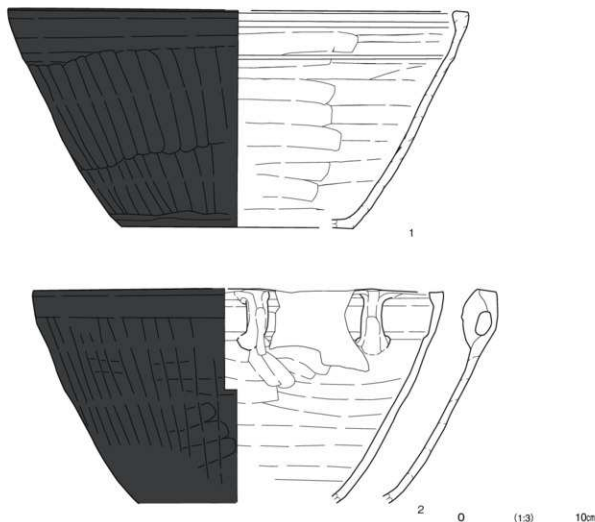
覆土 16層に分層できる。第1～12層は各層にロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。第13～15層は大型のロームブロックを多く含んでいることから、天井部の崩落土である。第16層は竪坑からの流入土である。

遺物出土状況 土師質土器片30点（内耳鍋）が出土している。ほかに混入した土師器片1点、須恵器片1点が出土している。1・2は主室北東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第108図 第14号地下式坑実測図



第 109 図 第 14 号地下式坑・出土遺物実測図

第 56 表 第 14 号地下式坑出土遺物一覧 (第 109 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土製瓦土器	内耳罎	[364]	17.2	[184]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ 内面直し成形 体部外面縦・横位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層	20% 保存着
2	土製瓦土器	内耳罎	[326]	(17.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ 内面直し成形 耳部貼付け 体部外面縦・横位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層	30% 保存着

第 15 号地下式坑 (第 110 図 第 57 表 PL18)

位置 調査区 C 区南部の K 2 b0 区、標高 23 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 重複している第 1293 号土坑との関係は不明である。

規模と形状 軸長は 3.50 m で、主軸方向は N-4°-E である。

竪坑 主室の南壁東端部に位置している。規模は奥行が 1.12 m、残存する横幅が 1.36 m で、平面形は隅丸長方形と推定できる。深さは 92 cm で、壁は直立している。底面は平坦である。

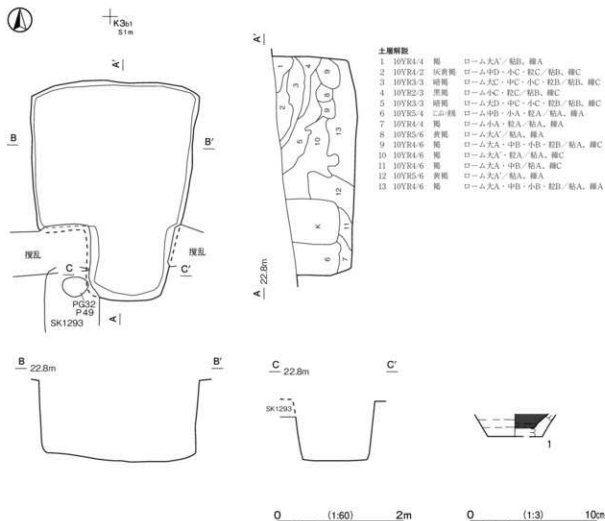
主室 奥行 2.38 m で、横幅 2.50 m の不整な方形である。深さは 128 cm で、壁は直立している。底面は平坦で、竪坑との高低差はみられない。

覆土 13 層に分層できる。第 1~7 層は各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

第11～13層は各層に大型のロームブロックを多く含んでいることから、天井部の崩落土である。

遺物出土状況 土師質土器片1点（皿）が出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第110図 第15号地下式坑・出土遺物実測図

第57表 第15号地下式坑出土遺物一覧（第110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	—	(1.9)	[4.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	腐土	5% 炭片着

第17号地下式坑（第111・112図 第58表 PL18・58）

位置 調査区C区南西部のJ2c4区、標高23mの台地平坦面に位置している。

重複関係 第1424号土坑、第149号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した軸長は3.44mで、主軸方向はN-88°-Wである。

壁坑 主室の東壁中央部に位置している。規模は奥行が1.20m、残存する横幅が1.40mで、平面形は隅丸長方形である。深さは134cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

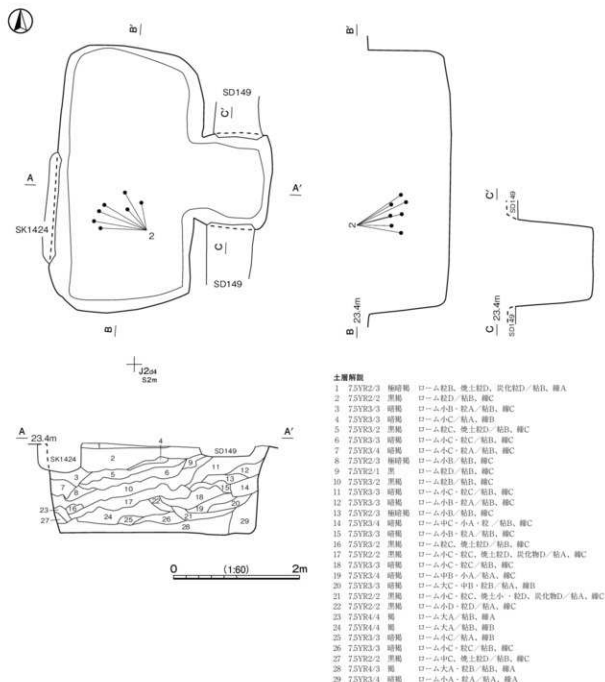
主室 規模は残存する奥行が2.24m、横幅が4.20mで、平面形は隅丸長方形である。深さは134cmで、壁は

ほぼ直立している。底面は平坦で、主室との高低差はみられない。

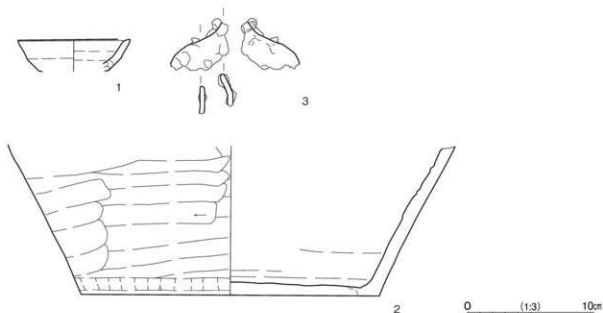
覆土 29層に分層できる。第1・2層はローム粒子を均質に含み、周囲から流入する堆積状況から自然堆積である。第3～27層は各層にロームブロックやローム粒子、焼土ブロックなどを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。第28層は大型のロームブロックを多く含むことから、天井部の崩落土である。第29層は小型のロームブロックやローム粒子を多く含み、流入する堆積状況から堅坑壁の崩落土が混じる自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片10点（皿1、内耳鍋2、甕7）、鉄製品1点（火打金カ）、梳状滓1点（1195g）が出土している。2は主室中央部から北西寄りの覆土上層から中層にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第111図 第17号地下式坑実測図



第112図 第17号地下式坑出土遺物実測図

第58表 第17号地下式坑出土遺物一覧（第112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	(9.0)	(2.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ	覆土	10%
2	土師質土器	甕	—	(11.8)	23.7	長石・石英・雲母	赤褐	普通	外面縦・横位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層・中層	40% PL58

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	刃打金	(4.1)	(4.6)	0.4	(20.10)	鉄	鎌部欠損 把手部山形	覆土	

第19号地下式坑（第113図 第59表 PL19・58）

位置 調査区C区南西部のI2j6区、標高23mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第166号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた軸長は5.00mで、主軸方向はN-3°-Wである。

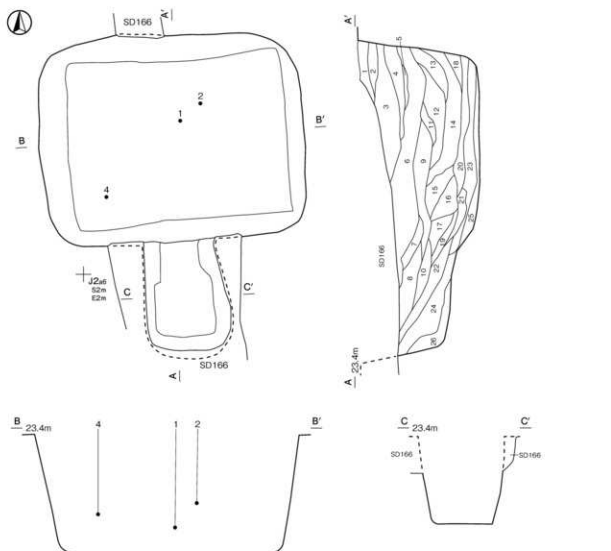
堅坑 主室の南壁中央部に位置している。残存する規模は奥行1.74m、横幅1.30mで、平面形は隅丸長方形と推測できる。深さは145cmと推測でき、壁は外傾している。底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 奥行3.26m、横幅4.18mの隅丸長方形である。深さは188cmで、壁は外傾している。堅坑と主室の境には30cmほどの段差があり、底面は平坦である。

覆土 26層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器4点（皿）、陶器片1点（鉢カ）、自然遺物88点（馬歯）が出土している。1は主室中央部付近の覆土下層、2は主室中央部北東寄りの覆土中層、4は主室南西部の覆土下層から、それぞれ出土している。馬歯は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



土層解説

- | | | | |
|----------------|-------------------|----------------|------------------|
| 1 75YK3/2 黒褐色 | ローム中D・粒B・細B | 14 75YK3/4 暗褐色 | ローム小D・粒D・粘B・細B |
| 2 75YK3/2 黒褐色 | ローム小C・粒C・粘B・細B | 15 75YK3/1 黒褐色 | ローム小・粒D・粘B・細B |
| 3 75YK3/4 灰色褐色 | ローム中C・小A・粘B・細B | 16 75YK3/4 暗褐色 | ローム粒B・粘B・細B |
| 4 75YK4/4 褐色 | ローム中・小D・粒A・粘B・細B | 17 75YK3/3 暗褐色 | ローム中・小D・粒B・粘B・細B |
| 5 75YK4/4 褐色 | ローム小A・粒C・粘B・細B | 18 75YK4/4 褐色 | ローム中・小A・粘B・細B |
| 6 75YK4/3 褐色 | ローム中D・粒A・粘B・細B | 19 75YK2/3 紫褐色 | ローム小・粒B・粘B・細B |
| 7 75YK2/2 黒褐色 | ローム中C・小C・粒C・粘B・細B | 20 75YK2/3 黒褐色 | ローム中・小D・粘B・細B |
| 8 75YK3/3 暗褐色 | ローム小B・粒B・粘B・細B | 21 75YK2/3 紫褐色 | ローム小D・粒B・粘B・細B |
| 9 75YK3/3 暗褐色 | ローム中C・小C・粒C・粘B・細B | 22 75YK4/4 褐色 | ローム小C・粒B・粘B・細B |
| 10 75YK4/2 灰褐色 | ローム中D・小C・粒C・粘B・細B | 23 75YK4/4 褐色 | ローム小C・粒B・粘B・細B |
| 11 75YK3/2 黒褐色 | ローム小D・粘B・細B | 24 75YK2/3 紫褐色 | ローム中・小D・粒C・粘B・細B |
| 12 75YK3/1 黒褐色 | ローム小A・粘B・細B | 25 75YK2/3 紫褐色 | ローム小・粒D・粘B・細B |
| 13 75YK4/4 褐色 | ローム中D・小A・粘B・細B | 26 75YK3/3 暗褐色 | ローム小・粒B・粘B・細B |



第 113 図 第 19 号地下式坑・出土遺物実測図

第59表 第19号地下式坑出土遺物一覧(第113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.7	2.5	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	100% PL58 湯沸付着
2	土師質土器	皿	7.5	2.4	4.3	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土下層	95% PL58
3	土師質土器	皿	8.4	3.3	4.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	90% PL58
4	土師質土器	皿	9.4	3.2	4.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	95% PL58

第26号地下式坑(第114・115図 第60表 PL19・58・59)

位置 調査区C区東部のI4j7区、標高22mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第167号井戸、第2033・2035号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた軸長は2.70mで、主軸方向はN-22°-Wである。

堅坑 主室の南壁中央部東寄りに位置している。残存している部分がほとんどないため、規模や形状は横幅1.22mのほかは不明である。深さは108cmで、残存している底面は平坦である。

主室 奥行2.70m、横幅4.20mの長方形である。深さは105cmで、壁は、内傾している西壁を除いて、直立もしくは外傾している。底面は堅坑に向かって傾斜している。北壁に張り出し部2基を確認した。張り出し部1は北壁西端部寄りに構築されている。奥行1.20m、横幅1.60mの隅丸長方形で、主軸方向はN-33°-Wである。深さは80cmで、壁は外傾している。底面は平坦で、主室に向かって緩やかに傾斜している。張り出し部2は北壁中央部東寄りに構築されている。奥行1.90m、横幅1.46mの隅丸長方形で、主軸方向はN-0°ある。深さは54cmで、壁は外傾している。底面は平坦で、主室に向かって緩やかに傾斜している。

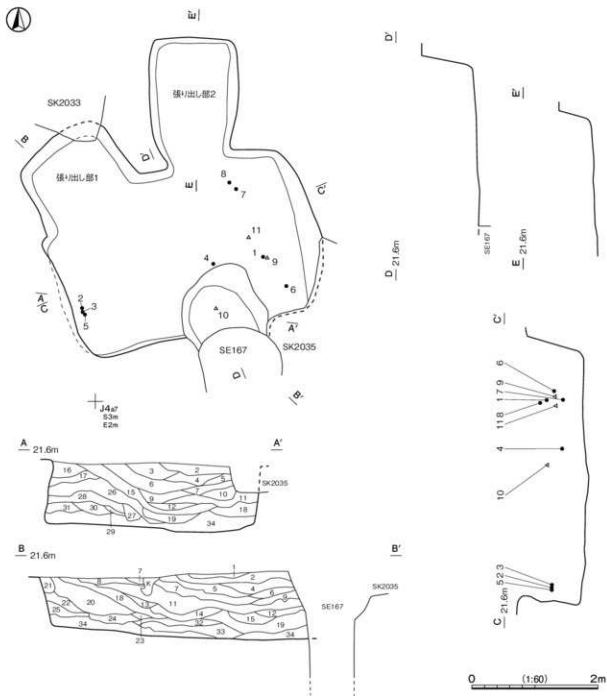
覆土 34層に分類できる。第1・2層はローム粒子を均質に含み、周囲から流入する堆積状況から自然堆積である。第3～33層はロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。第34層は大型のロームブロックを含むことから、天井部の崩落土と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片70点(皿60、搦鉢4、内耳鍋5、甕1)、陶器片9点(皿2、碗1、瓶3、片口鉢1、甕2)、土製品6点(羽口1、焼成粘土塊5)、銭貨7点が出土している。そのほか混入した土師器片21点、須恵器片4点、磁器片1点が出土している。1・4・6・11は主室南東域、2・3・5は西壁際、7・8は主室北東域、10は主室南部堅坑寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。

第60表 第26号地下式坑出土遺物一覧(第115図)

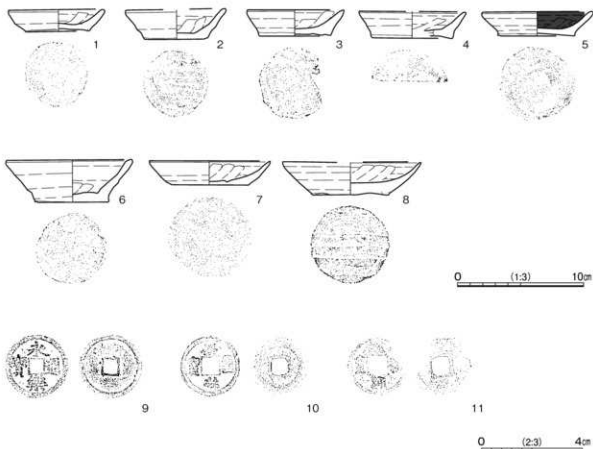
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.5	1.7	5.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土中層	100% PL58
2	土師質土器	皿	[7.9]	2.4	5.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土中層	70% 飯熱痕
3	土師質土器	皿	7.5	2.1	5.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	80% PL58
4	土師質土器	皿	[8.2]	2.1	[6.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	40%
5	土師質土器	皿	8.7	1.9	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	80% PL59 湯沸付着
6	土師質土器	皿	9.8	3.3	5.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	100% PL59
7	土師質土器	皿	9.5	1.9	6.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	100% PL59
8	土師質土器	皿	[11.0]	2.6	6.1	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土中層	60% PL59



土層解説

- | | | | | | |
|------------|------|-------------------------------|------------|-----|-----------------------------|
| 1 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム粒C、焼土粒D、炭化物D、粘B、雜B | 18 10YR4/3 | 二色性 | 白色粘土中C、小B、粒B、粘B、雜C |
| 2 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C、粒C、焼土粒D、炭化物D、粒D、粘B、雜B | 19 10YR2/2 | 黒 | ローム中C、小C、粒C、粘C、雜A |
| 3 10YR4/3 | 二色性 | ローム小C、白色粘土大C、中B、小A、粘A、雜B | 20 10YR2/1 | 黒 | ローム中C、小C、粒C、粘C、雜C |
| 4 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 白色粘土大C、中C、小A、粘A、雜B | 21 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム小B、粒A、焼土小D、粘B、雜C |
| 5 10YR3/3 | 暗褐色 | 白色粘土大C、中B、小B、粘A、雜B | 22 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム大B、小B、粒A、粘B、雜C |
| 6 10YR2/3 | 黒 | ローム小C、粒C、白色粘土大C、中C、小C、粘B、雜B | 23 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム中D、小C、粒C、粘B、雜C |
| 7 10YR3/2 | 暗褐色 | ローム小C、白色粘土大C、中D、小C、粒C、粘B、雜B | 24 10YR2/2 | 黒 | ローム小C、粒C、粘B、雜B |
| 8 10YR3/4 | 暗褐色 | 白色粘土大C、中B、小C、粘B、雜B | 25 10YR4/6 | 黄 | ローム中C、小C、粒A、粘A、雜A |
| 9 10YR4/3 | 二色性 | 白色粘土大C、中A、小A、粘A、雜A | 26 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム中C、小C、粒C、焼土粒D、粘B、雜C |
| 10 10YR2/3 | 黒 | ローム中D、粒C、炭化物D、白色粘土中C、小C、粘B、雜C | 27 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム粒C、粘B、雜C |
| 11 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C、粒C、白色粘土小C、粒C、粘B、雜B | 28 10YR5/6 | 黄褐色 | 白色粘土小B、粘A、雜B |
| 12 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小C、粒C、粘B、雜B | 29 10YR4/3 | 二色性 | ローム中B、小B、粒B、粘A、雜B |
| 13 10YR5/6 | 黄褐色 | 白色粘土中B、小A、粘A、雜B | 30 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム粒A、白色粘土大B、粘A、雜A |
| 14 10YR5/4 | 二色性 | 白色粘土中C、小B、粒B、粘B、雜C | 31 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C、粒C、白色粘土中C、小B、粒A、粘A、雜A |
| 15 10YR4/6 | 黄 | ローム粒B、白色粘土小B、粒A、粘B、雜B | 32 10YR4/3 | 二色性 | ローム中B、粒A、粘B、雜B |
| 16 10YR4/4 | 黄 | ローム中C、小B、粒A、焼土粒D、粘B、雜A | 33 10YR2/2 | 黒 | ローム中D、粒D、粘B、雜A |
| 17 10YR4/6 | 黄 | ローム中C、小D、粒A、粘B、雜A | 34 10YR4/4 | 黄 | ローム大C、中C、小B、粒B、粘A、雜A |

第114図 第26号地下式坑実測図



第115図 第26号地下式坑実測図

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初周年	特徴	出土位置	備考
9	永業通寶	25	0.5	0.1	2.40	銅	1408	明銭 真書体 無背	覆土中層	
10	嘉祐通寶	23	0.6	0.1	2.25	銅	1056	北宋銭 真書体 無背	覆土中層	
11	元祐通寶*	22	0.7	0.08	1.78	銅	1086	北宋銭 行書体 無背	覆土中層	

第27号地下式坑（第116図 第61表 PL59）

位置 調査区C区南部のJ3b5区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1628・1691号土坑、第63B・178号溝、第41号ピット群P5・P419に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた軸長は3.80mで、主軸方向はN-65°-Eである。

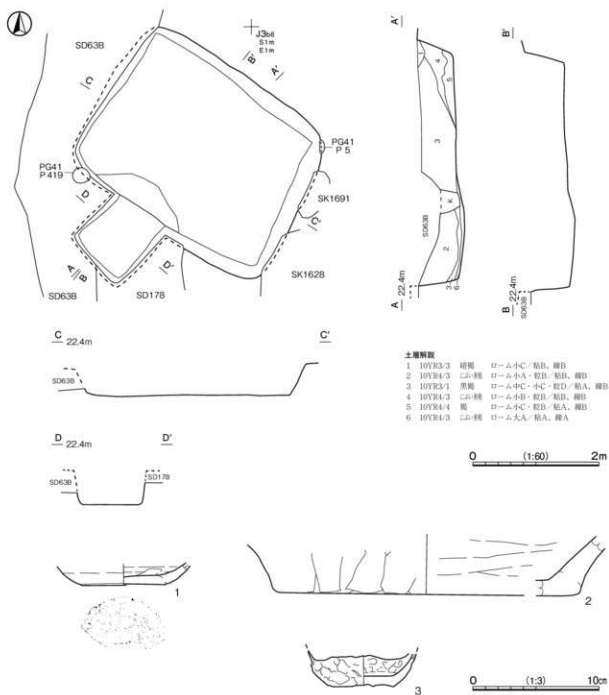
堅坑 主室の南西壁中央部北西寄りに位置し、奥行1.06m、横幅1.16mの方形で推測できる。深さは72cmで、底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 規模は奥行が2.74m、残存する横幅が3.54mの長方形である。深さは60cmで、壁は外傾している。堅坑と主室の境には15cmほどの段差があり、底面は平坦である。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックローム粒子を含み、不規則的な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片9点（Ⅲ1、鍋8）、陶器片2点（瓶1、捏鉢1）、金属製品1点（碗形製品）、碗状滓2点（388.09g）が出土している。そのほか混入した土師器片1点が出土している。

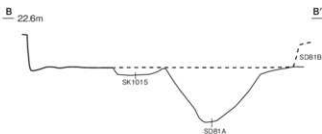
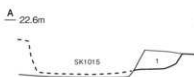
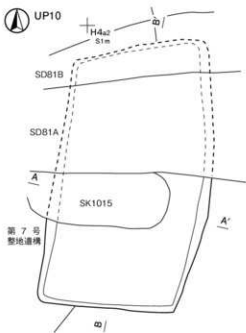
所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



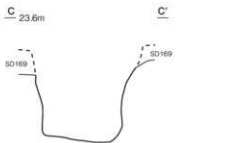
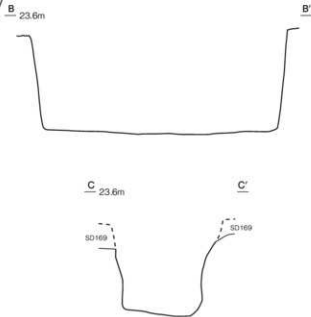
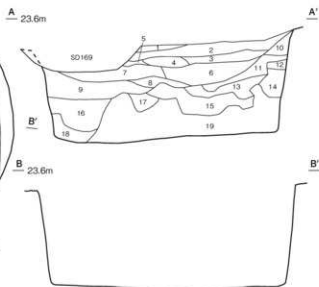
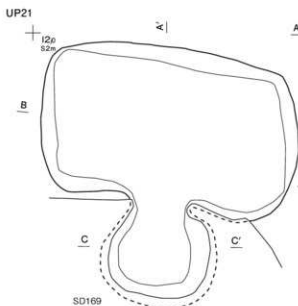
第116図 第27号地下式坑・出土遺物実測図

第61表 第27号地下式坑出土遺物一覧（第116図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	地 成	特 徴	出土位置	備 考	
1	土製土器	皿	-	(1.7)	[6.7]	長石・石英・赤色粘土	にぶい黒	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	30% 炭黒混	
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴		輪番	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	西鉢	-	(4.8)	[22.8]	磁密・にぶい赤黒	体部外面下溜り 内面横位ナデ・遺灰		自然軸	常産	覆土	10%
番号	器 種	口径	器高	底径	重量	材 質	特 徴			出土位置	備 考	
3	板形製品	-	(2.9)	4.8	(13.75)	鉄	鋳造品 体部内外面研磨 底面研磨			覆土	PL59	



第10号地下式坑土層解説
1 75YR4/3 黒 ローム中C・小A・粒A・粘C・黄A



第21号地下式坑土層解説

- 1 75YR3/2 黒 土 ローム中D・粘B・黄A
- 2 75YR3/3 暗黒 土 ローム小D・粒D・焼土粒D・粘B・黄B
- 3 75YR2/3 極暗黒 土 ローム小D・粒C・焼土粒D・粘B・黄B
- 4 75YR3/3 暗黒 土 ローム中D・小D・粒C・粘B・黄B
- 5 75YR2/3 極暗黒 土 ローム小C・粒C・粘B・黄B
- 6 75YR3/2 黒 土 ローム小D・粒D・焼土粒D・粘B・黄B
- 7 75YR4/3 黒 土 ローム中D・小C・粒C・粘B・黄B
- 8 75YR3/1 黒 土 ローム小D・粒C・粘B・黄B
- 9 75YR3/2 黒 土 ローム中D・小D・粘B・黄B
- 10 75YR3/3 暗黒 土 ローム小D・粒A・粘B・黄B
- 11 75YR3/2 黒 土 ローム中D・小D・粒D・粘B・黄B
- 12 75YR4/4 黒 土 ローム大A・粘B・黄A
- 13 75YR3/3 暗黒 土 ローム小B・粒C・粘B・黄B
- 14 75YR4/4 黒 土 ローム小B・粒A・粘B・黄A
- 15 75YR4/4 黒 土 ローム大A・粘B・黄A
- 16 75YR3/2 黒 土 ローム中C・小C・粒B・粘B・黄B
- 17 75YR3/3 暗黒 土 ローム中B・小C・粒D・焼土中D・小D・粒C・粘B・黄C
- 18 75YR3/2 黒 土 ローム中D・小C・粒C・粘B・黄B
- 19 75YR4/3 黒 土 ローム大A・中C・粘B・黄C

0 (1:50) 2m

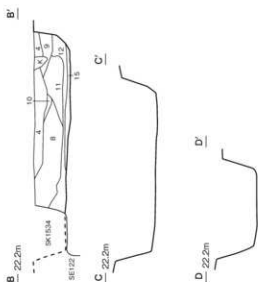
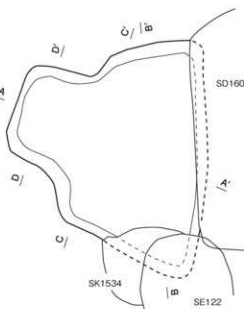
第117図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図(1)

第118図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図(2)



UP25

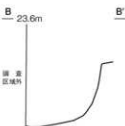
K3b7
52m
62m



UP28

K1b6

調査
区域外



第25号地下式坑土層解説

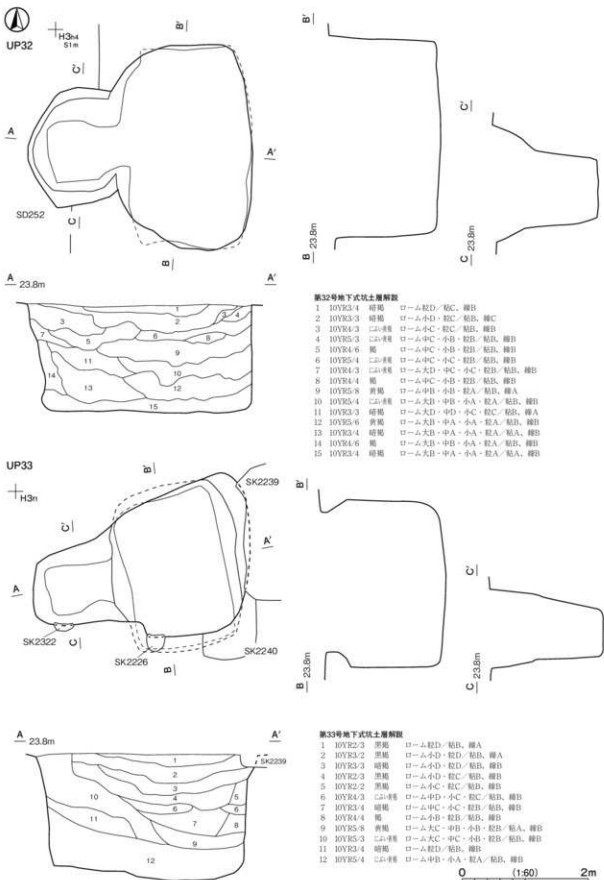
1	75YR3/3	暗褐色	ローム小C・粒C・粘土、礫目
2	75YR2/3	暗褐色	ローム小C・粒B・粘土、礫目
3	75YR4/4	褐色	ローム大C・中C・小C・粒A・粘土、礫目
4	75YR4/4	褐色	ローム粒A'、白色粘土中C・粒B、礫目
5	75YR3/4	暗褐色	ローム中D・小C・粒B・粘土A、礫目
6	75YR4/4	褐色	ローム小B・粒D、焼土粒D・粘土A、礫目
7	75YR3/2	黒褐色	ローム大C・中C・小C・粒B・粘土B、礫目
8	75YR4/4	褐色	ローム中B・粒A・粘土、礫目
9	75YR4/6	褐色	ローム粒A'・粘土A、礫目
10	75YR4/6	褐色	ローム大A・粒A・粘土A、礫目
11	75YR4/4	褐色	ローム小C・粒A・粘土A、礫目
12	75YR4/6	褐色	ローム大A'・粘土A、礫目
13	75YR4/6	褐色	ローム大A'・中・小C・粘土A、礫目
14	75YR4/6	褐色	ローム粒A、粘土粒D・粘土A、礫目
15	75YR4/4	褐色	ローム小B・粒A・粘土A、礫目

第28号地下式坑土層解説

1	10YR3/4	暗褐色	ローム中D・小C・粒C・粘土、礫目
2	10YR4/4	褐色	ローム中D・小B・粒B・粘土、礫目
3	10YR4/4	褐色	ローム中D・小C・粒B・粘土、礫目
4	10YR3/4	暗褐色	ローム中D・小C・粒B・粘土、礫目
5	10YR4/4	褐色	ローム小D・粒D、焼土粒D・粘土、礫目
6	10YR3/2	黒褐色	ローム小C・粒C、焼土粒D・粘土、礫目
7	10YR4/4	褐色	ローム小C・粒B、焼土粒D・粘土、礫目
8	10YR4/4	褐色	ローム粒B・粘土、礫目
9	10YR4/6	褐色	ローム小B・粒A・粘土、礫目
10	10YR4/4	褐色	ローム小A・粒B・粘土、礫目
11	10YR4/6	褐色	ローム小A・粒A・粘土、礫目

0 (1:60) 2m

第119図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図(3)

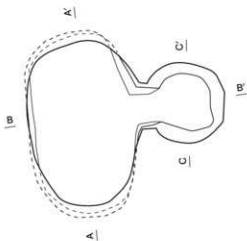


第 121 図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図(5)



UP34

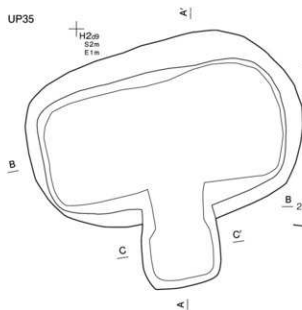
+13.0m



B 23.2m

UP35

+12.0m
52m
E 1m

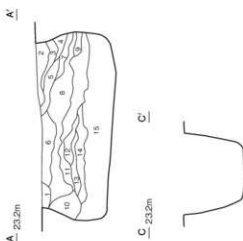


C 24.0m



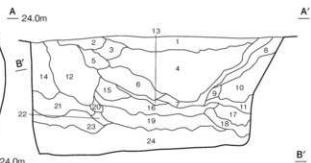
第34号地下式坑土層解説

- | | | | |
|----|---------|-----|---------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小D・粒C/粘土、細砂 |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小B・粒D/粘土、細砂 |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小B・粒C/粘土、細砂 |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色 | ローム小D・粒D、微土粒D/粘土、細砂 |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小C・粒C/粘土、細砂 |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小B・粒D/粘土、細砂 |
| 7 | 10YR2/3 | 黒褐色 | ローム中D・小D・粒C/粘土、細砂 |
| 8 | 10YR4/6 | 褐色 | ローム中D・小D・粒B/粘土、細砂 |
| 9 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒C/粘土、細砂 |
| 10 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム中C・小A/粘土、細砂 |
| 11 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小D・粒C/粘土、細砂 |
| 12 | 10YR4/6 | 褐色 | ローム中B・小B・粒B/粘土、細砂 |



第34号地下式坑土層解説

- | | | | |
|----|---------|-----|-------------------|
| 1 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム小C・粒C/粘土、細砂 |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム小D・粒C/粘土、細砂 |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小D・粒D/粘土、細砂 |
| 4 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム粒A/粘土、細砂 |
| 5 | 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム小C・粒A/粘土、細砂 |
| 6 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム小C・粒C/粘土、細砂 |
| 7 | 10YR4/6 | 褐色 | ローム小C・粒B/粘土、細砂 |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒D/粘土、細砂 |
| 9 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム小C・粒A/粘土、細砂 |
| 10 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D/粘土、細砂 |
| 11 | 10YR4/6 | 褐色 | ローム粒A/粘土、細砂 |
| 12 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム中D・小C・粒C/粘土、細砂 |
| 13 | 10YR4/6 | 褐色 | ローム小D・粒A/粘土、細砂 |
| 14 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒D/粘土、細砂 |
| 15 | 10YR4/6 | 褐色 | ローム中C・小C・粒A/粘土、細砂 |



B 24.0m



第35号地下式坑土層解説

- | | | | |
|----|---------|-----|---------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小D・粒C/粘土、細砂 |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小B・粒D/粘土、細砂 |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小B・粒C/粘土、細砂 |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色 | ローム小D・粒D、微土粒D/粘土、細砂 |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小C・粒C/粘土、細砂 |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小B・粒D/粘土、細砂 |
| 7 | 10YR2/3 | 黒褐色 | ローム中D・小D・粒C/粘土、細砂 |
| 8 | 10YR4/6 | 褐色 | ローム中D・小D・粒B/粘土、細砂 |
| 9 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒C/粘土、細砂 |
| 10 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム中C・小A/粘土、細砂 |
| 11 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小D・粒C/粘土、細砂 |
| 12 | 10YR4/6 | 褐色 | ローム中B・小B・粒B/粘土、細砂 |

- | | | | |
|----|---------|-----|-------------------|
| 13 | 10YR2/3 | 黒褐色 | ローム粒D/粘土、細砂 |
| 14 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム小B・粒C/粘土、細砂 |
| 15 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム中C・小D・粒D/粘土、細砂 |
| 16 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒C/粘土、細砂 |
| 17 | 10YR4/6 | 褐色 | ローム小B・粒A/粘土、細砂 |
| 18 | 10YR2/3 | 黒褐色 | ローム中C・小D・粒D/粘土、細砂 |
| 19 | 10YR4/6 | 褐色 | ローム小B・粒A/粘土、細砂 |
| 20 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム中D・小B・粒B/粘土、細砂 |
| 21 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒C/粘土、細砂 |
| 22 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム小C・粒B/粘土、細砂 |
| 23 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小D・粒C/粘土、細砂 |
| 24 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム中C・小C・粒B/粘土、細砂 |

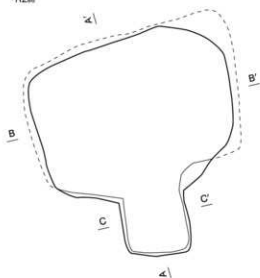
0 (1:60) 2m

第 122 図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図(6)

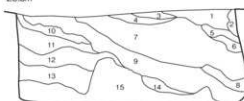


UP36

H246



A 23.8m

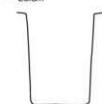


A'

第36号地下式坑土層解説

- | | | | |
|----|---------|-----|----------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小砂・粒A・粘B・細B |
| 2 | 10YR4/3 | 黒褐色 | ローム小砂・粒A・粘B・細B |
| 3 | 10YR4/6 | 黒 | ローム大砂・中砂・小A・粒A・粘B・細B |
| 4 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム中砂・小砂・粒B・粘B・細B |
| 5 | 10YR5/4 | 黒褐色 | ローム小A・粒A・粘B・細B |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム中砂・小砂・粒B・粘B・細B |
| 7 | 10YR4/6 | 黒 | ローム大砂・中A・小A・粒A・粘B・細B |
| 8 | 10YR4/3 | 黒褐色 | ローム小砂・粒B・粘B・細B |
| 9 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム中砂・小C・粒C・粘B・細B |
| 10 | 10YR4/3 | 黒褐色 | ローム中砂・小砂・粒A・粘B・細B |
| 11 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム大砂・中砂・小A・粒A・粘B・細B |
| 12 | 10YR4/4 | 黒 | ローム中砂・小A・粒A・粘B・細B |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム大A・中A・小A・粒A・粘B・細B |
| 14 | 10YR4/3 | 黒褐色 | ローム小砂・粒A・粘B・細B |
| 15 | 10YR4/6 | 黒 | ローム小A・粒A・粘B・細A |

C 23.8m



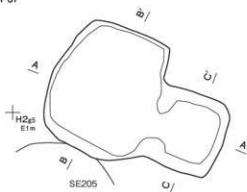
C'

B 23.8m



B'

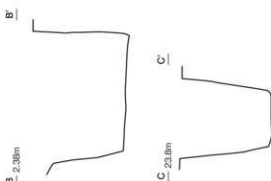
UP37



A 23.8m



A'



B 23.8m

B'

C 23.8m

C'

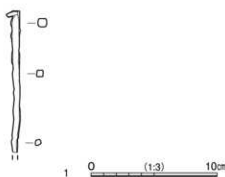
第37号地下式坑土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|----------------------|
| 1 | 10YR4/3 | 黒褐色 | ローム大B・中A・小B・粒B・粘A・細B |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色 | ローム中砂・小砂・粒D・粘B・細C |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム中砂・小砂・粒C・粘B・細B |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム中砂・小C・粒C・粘B・細B |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小C・粒C・粘B・細B |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒D・粘A・細B |

0 (1:60) 2m

第 123 図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図(7)

UP21



第124図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑出土遺物実測図

第62表 第21号地下式坑出土遺物一覧(第124図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	釘	(11.2)	1.1	0.6	(14.43)	鉄	釘頭打撃痕・扁平化 断面四角 先端部欠損	覆土	

第63表 室町時代から江戸時代地下式坑一覧

番号	位置	軸方向	平面形状		縦長 (m)	竪坑規模			土室規模			覆土	主な出土遺物	備考
			竪坑	土室		奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)			
1	F 4 Ⅱ	N-58°-W	半円形	溝丸方形	4.02	0.60	1.34	104	3.51	3.12	124	人為	-	本跡→SD 9・11
9	H 3 a Ⅱ	N-75°-W	半円形	溝丸方形	(3.23)	(0.62)	(1.08)	(10~20)	(2.54)	(3.30)	(50)	人為	土師質土器 砥石 鍬頭等	本跡→第3号平屋根出遺構、 第1号平屋根出遺構、SD49・元 本跡→SD381A-B、 SK1015、第7号平屋根出遺構
10	H 4 a Ⅱ	-	-	[長方形]	-	-	-	-	2.48	4.28	50	人為	土師質土器 陶器 砥石	
11	G 4 Ⅱ	N-8°-E	溝丸方形	溝丸方形	3.80	1.20	1.72	76	2.60	(4.00)	90	人為 崩落土	陶器	
12	K 2 b Ⅱ	N-5°-W	溝丸方形	長方形	(3.06)	(1.00)	(0.84)	(84)	2.06	3.34	96	人為 崩落土	土師質土器	本跡→SK2964、 SD148
14	K 3 b Ⅱ	N-10°-W	溝丸方形	溝丸方形	3.60	1.04	1.36	84	2.40	4.00	124	人為 崩落土 土直土	土師質土器	
15	K 2 b Ⅱ	N-4°-W	溝丸方形	不整形	3.50	1.12	1.36	92	2.38	2.50	128	人為 崩落土	土師質土器	SK1923と重複
17	J 2 c Ⅱ	N-88°-W	溝丸方形	溝丸方形	(3.44)	1.20	(1.40)	134	(2.24)	4.20	134	自然 土直土 崩落土	土師質土器 不明鉄製品 板状 鉄	本跡→SK1434、 SD149
19	I 2 b Ⅱ	N-3°-W	溝丸方形	溝丸方形	(5.00)	(1.74)	(1.30)	[145]	3.26	4.18	188	人為	土師質土器 陶器 馬歯	本跡→SD166
20	J 3 a Ⅱ	N-111°-W	溝丸方形	長方形	(3.10)	(1.32)	(1.16)	170	1.78	4.00	170	人為 崩落土	土師質土器 陶器 羽口 板状鉄	SD116→本跡→SD149
21	I 2 b Ⅱ	N-5°-E	[円形]	溝丸方形	(4.00)	(1.58)	(1.60)	[152]	2.42	4.08	162	自然 土直土 崩落土	土師質土器 陶器 釘 板状鉄	本跡→SD169
25	K 3 b Ⅱ	N-68°-W	溝丸方形	溝丸方形	3.20	0.96	1.60	66	2.24	(3.68)	54	人為	土師質土器 板状鉄 鉄 鏃	本跡→SK150、SE122、 SD180
26	J 4 a Ⅱ	N-22°-W	-	長方形	(2.70)	-	1.22	108	2.70	4.20	105	自然 土直土 崩落土	土師質土器 陶器 口付 焼成粘土 瓦片	本跡→SK150、SD181、 SK203・128、PG145・ 1439
27	J 3 b Ⅱ	N-65°-E	[方形]	[方形]	(3.80)	(1.06)	[116]	72	2.74	(3.54)	60	人為	土師質土器 陶器 板状鉄 板 状鉄	
28	K 1 b Ⅱ	-	-	溝丸方形	-	-	-	-	2.56	(1.24)	110	人為 崩落土	-	本跡→SD206・251
29	J 1 a Ⅱ	-	-	-	-	-	-	-	(2.96)	(0.55)	(110)	人為 崩落土	-	
30	J 1 b Ⅱ	-	-	-	-	-	-	-	(3.18)	(0.40)	102	人為 崩落土	-	
31	G 3 b Ⅱ	N-65°-W	溝丸方形	溝丸方形	(3.20)	(1.20)	(1.54)	98	2.00	(3.90)	146	人為	-	本跡→SD16
32	H 3 b Ⅱ	N-85°-W	楕円形	楕円形	3.55	1.40	1.85	170	2.15	3.24	170	人為 崩落土	土師質土器	SD252→本跡
33	H 3 Ⅱ	N-102°-W	溝丸方形	溝丸方形	[3.50]	1.26	1.30	186	[2.24]	2.62	198	人為 崩落土	土師質土器	SK204→本跡→SK228、 229、232 SK28と重複
34	I 3 a Ⅱ	N-84°-E	円形	楕円形	3.11	1.38	1.27	100	1.73	2.98	116	人為 崩落土	砥石	
35	H 2 b Ⅱ	N-174°-E	溝丸方形	楕円形	3.89	1.28	1.25	185	2.61	4.38	178	人為 崩落土	陶器	
36	H 2 c Ⅱ	N-6°-W	溝丸方形	溝丸方形	3.60	1.10	1.06	136	2.50	3.46	150	人為 崩落土	土師質土器 砥石	
37	H 2 Ⅱ	N-113°-E	溝丸方形	溝丸方形	2.93	1.10	1.28	143	1.83	[2.10]	148	人為	陶器	SE205と重複

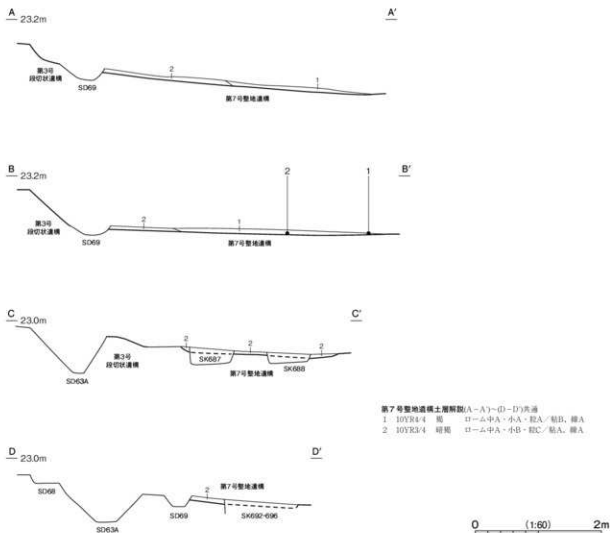
(4) 段切状遺構

第3号段切状遺構 (第125・126図 PL19)

位置 調査区C区北東部のG4j2区から北部のH3e8区にかけて、標高22～23mほどの台地平坦部から緩斜面部にかけて位置している。



第125図 第3号段切状遺構・第7号整地遺構実測図(1)



第126図 第3号段切状遺構・第7号整地遺構実測図(2)

重複関係 第9号地下式坑、第70号溝跡を掘り込み、第63A・63B号溝に掘り込まれている。第69号溝は本跡の下端に沿って掘り込まれている。

規模と形状 調査区北西部から西部にかけての平坦部と調査区東域に向かって低くなっている緩斜面部の境に沿って掘削し、平坦面を構築している。H 3e8区から北東方向(N-35°-E)へ緩やかに蛇行しながら、攪乱を受けるG 4j2区まで延びている。確認できた長さは、28.6mである。壁は外傾もしくは有段で、壁高は20～60cmである。壁が最も高いH 3b9付近から、壁は北東・南西方向に向かって徐々に低くなっている。

所見 時期は、第9号地下式坑の廃絶年代や第63A・63B号溝の廃絶年代から、16世紀前葉の構築と考えられる。本跡の下端に沿って掘り込まれている第69号溝跡とは関連性が考えられ、同時期の構築年代と考えられる。

(5) 整地遺構

4か所を確認した。このうち第7号整地遺構については、本文で説明し、その他の第4～6号整地遺構については実測図と一覧を記載する。第4号整地は第73号堀跡、79号溝跡、第5号整地は第217・225号溝跡、第6号整地遺構は第158・160・171・172・173・177溝跡の廃絶後の整地であり、覆土中には江戸時代の陶磁器や煙管が含まれている。

第7号整地遺構（第125～127図 第64表）

位置 調査区C区北東部のG 4j2区から北部のH 3h8区までの範囲に広がっている。標高22 mほどの台地緩斜面部に位置している。

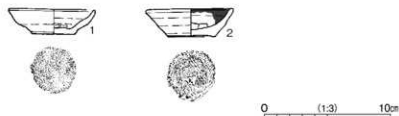
重複関係 第9・10号地下式坑の上面に構築し、第679・684・686～693・699・700～703・709・724・748・749・767・795～799・805・806・828・829・832～834・845・846・897・1015号土坑、第81A号堀、第81B号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北端部に攪乱を受けるため、確認できた範囲は長さ37.4 m、幅0.5～4.5 mで、H 3h8区からN-25°-Eの方向に弧状を呈している。層厚は5～10 cmで、引き締まった第1・2層を整地し、構築してている。面積は、約130 m²である。

覆土 2層に分層できる。各層はロームブロックや粘土ブロックを含み、締まりが強い。第69号溝の北西側から、南東方向に堆積している。

遺物出土状況 土師質土器片19点（皿7、掻鉢3、内耳鍋9）が出土している。ほかに混入した土師器片11点が出土している。

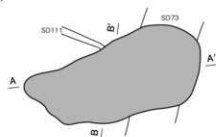
所見 時期は、出土土器や第3号段切状遺構、第69号溝跡の年代から16世紀前葉の構築と考えられる。整地の範囲が第69号溝跡に沿った南東側にあることから、第3号段切状遺構や第69号溝の掘削時の廃土を使用し、整地をした可能性がある。



第127図 第7号整地遺構出土遺物実測図

第64表 第7号整地遺構出土遺物一覧（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.1	2.0	3.5	長石・石美・赤色 粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部内外面ナデ	覆土下層	100%
2	土師質土器	皿	6.8	2.3	3.7	長石・石美	に白・黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナ デ	覆土下層	100% 油煙付着



土層解説

- 1 10YR6/1 灰灰 ローム小C・粒C、白色粘土大B・中A・小B・粒C、粘土、雑A'
2 10YR7/1 灰白 ローム中・小B・粒C、白色粘土中A・小A・粒B、粘土、雑A'

0 (1:200) 4m

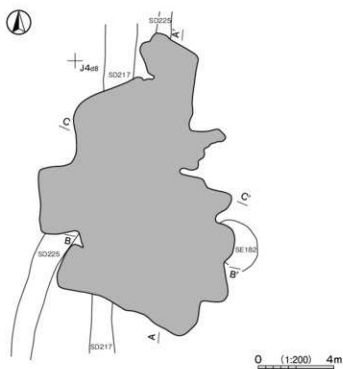


0 (1:100) 2m

第128図 第4号整地遺構実測図

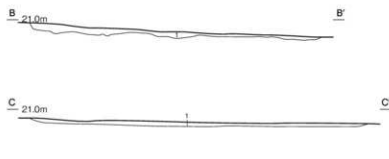
第65表 室町時代から江戸時代の整地遺構一覧

番号	位置	長軸方向	平面形	縦	横	面積 (㎡)	断面	構築土	主な出土遺物	備考
				長さ×幅 (m)	層厚 (cm)					
4	I 4a7 H 4j7	N-84°-E	不整形円形	9.0×0.9~4.4	5~28	約30.0	-	2層	土師質土器 磁石 釘 煙管	SD73, SD78 → 本跡 SD111と重複
5	J 4c8 J 4g9	N-5°-W	不整形	15.8×2.1~10.2	5~28	約96.0	-	単一層	土師質土器 陶器 磁石 鉄滓	SE170・179・182・ SK1681・1693・ 1729・1735・ SD217・225・ PG68 →本跡
6	K 4c1 K 4g2	N-3°-E	[不整形円形]	17.6×1.2~7.2	10~20	約77	-	単一層	土師質土器 陶器 輪状洋	SE176, SK1637・ SD158・160・171・ 172・173・177 → 本跡
7	G 4j2 H 3i8	N-25°-E	弧状	37.4×0.5~4.5	5~10	約130	-	2層	土師質土器	1P 9・10 →本跡 →SK679・681・686・ 687・690・706・707・ 708・724・768・769・ 770・767・769・805・ 806・823・825・832・ 833・845・846・887・ 1015, SD61A・B

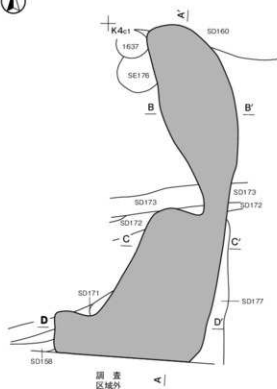


土壤解説

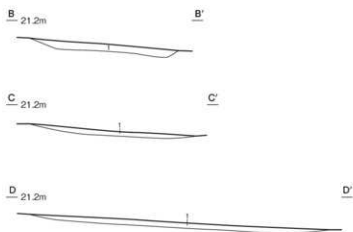
1 10YR4/1 間AC 白色粘土大A・中C・小B・粘A、雜A'



第129図 第5号整地遺構実測図



0 (1:200) 4m



土層解説

1 10YR7/2 に赤・黄褐色 白色粘土中A・小B・粒C・粗A、細A



0 (1:100) 2m

第130図 第6号整地道構実測図

(6) 井戸跡

166 基のうち、特徴的な遺物が出土している 77 基について記述し、その他は実測図と一覧で掲載する。

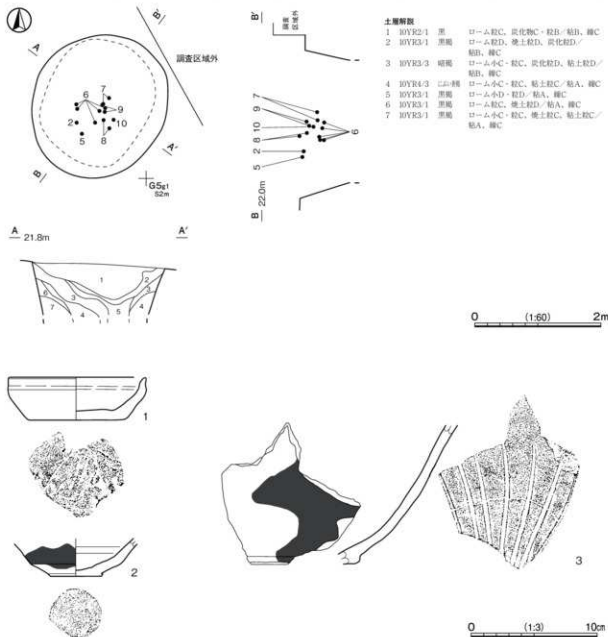
第 5 号井戸跡 (第 131 ~ 133 図 第 66 表 PL20・59)

位置 調査区 A 区南東部の G 4 g0 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

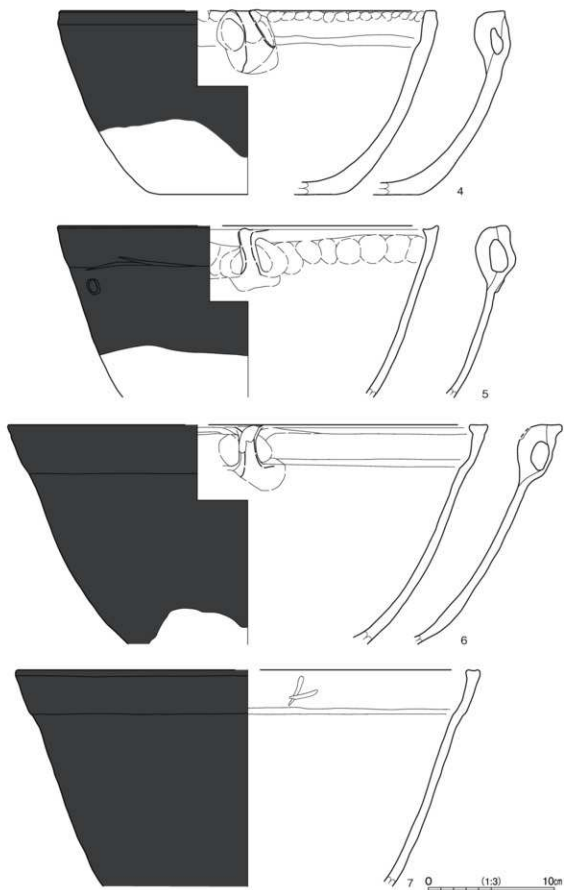
規模と形状 長径 2.34 m、短径 2.18 m の楕円形で、上部は、円筒状に掘り込み、下部の状況は不明である。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から深さ 90 cm までの調査とした。

覆土 7 層に分層できる。ロームブロック・粒子、炭化物を含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

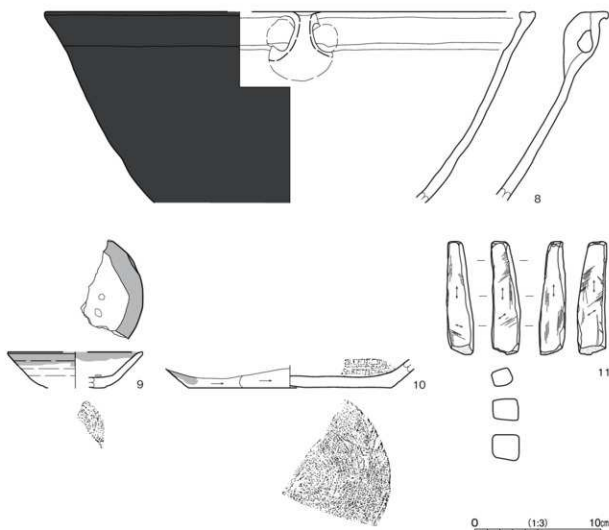
遺物出土状況 土師質土器片 205 点 (皿 12・内耳鍋 190・播鉢 2・甕 1)、陶器片 9 点 (皿 1・播鉢 1・甕 7)



第 131 図 第 5 号井戸跡・出土遺物実測図



第 132 図 第 5 号井戸跡出土遺物実測図(1)



第133図 第5号井戸跡出土遺物実測図(2)

第66表 第5号井戸跡出土遺物一覧(第131～133図)

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	10.9	3.4	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後ヘラナデ調整	覆土	50% PL59
2	土師質土器	皿	-	(3.6)	4.0	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土第1層	40% 保存着
3	土師質土器	鐏鉢	-	(11.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	1条一單位の罫目	覆土	10% 保存着
4	土師質土器	内耳鍋	[29.8]	14.6	[14.0]	長石・石英・雲母・黒色粒子・細塵	にぶい橙	普通	口縁部内面筋面直 1耳残存 体部耳部取り付け後内外面ナデ	覆土	40% 保存着 PL59
5	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	(13.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細塵	橙	普通	口縁部内面筋面直 1耳残存 体部耳部取り付け後内外面ナデ 耳部貫通先端部露出	覆土第1層	20% 保存着
6	土師質土器	内耳鍋	[38.0]	(17.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細塵	明赤褐	普通	1耳残存 体部耳部取り付け後内外面ナデ	覆土第1層	20% 保存着
7	土師質土器	内耳鍋	[36.6]	(17.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細塵	明赤褐	普通	内外面ナデ 口縁部内面へタ記号「メ」※	覆土第1層	20% 保存着
8	土師質土器	内耳鍋	[39.0]	(15.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細塵	明褐	普通	1耳残存 体部耳部取り付け後内外面ナデ	覆土第1層	30% 保存着

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴			軸 差	産 地	出土位置	備 考
9	陶器	埴輪	[10.8]	2.9	[4.8]	長石・石英・灰黄釉	ロクロ成形 底部回転糸切り	内底面トナリ痕 漬け掛け		鉄軸	瀬戸・美濃	覆土第1層	30%
10	陶器	接鉢	-	(2.3)	[16.2]	長石・灰白	10条一單位の罫目にタ条の文差の罫目 底部回転糸切り	体部下端ヘラ削り		灰軸	瀬美々	覆土第1層	40%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量(g)	材 質	特 徴			出土位置		備 考
11	砥石	9.0	2.3	2.1	57.57	砂岩	四面砥 縦・斜位磨痕	一部刃磨痕		覆土		

石器2点(砂岩製砥石)、雲母片岩片1点(板碑の一部)、鉄片1点(不明)が覆土第1層や覆土中から出土している。

1・3・4・11は、覆土中、2・5～10は、中央部から南部にかけては集中した状態で覆土第1層から、それぞれ出土している。

所見 廃絶の時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。

第7号井戸跡 (第134図 PL20)

位置 調査区A区南東部のG4e7区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

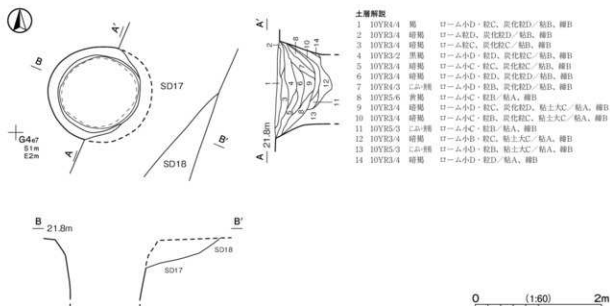
重複関係 第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた南北軸1.54m、東西軸1.44mで平面形状は、円形と推定でき、漏斗状を呈している。

湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から深さ90cmまでの調査とした。

覆土 14層に分层できる。ロームブロック・粒子を含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

所見 遺物の出土がないため、時期は不明である。



第134図 第7号井戸跡実測図

第22号井戸跡 (第135図 第67表 PL20・59)

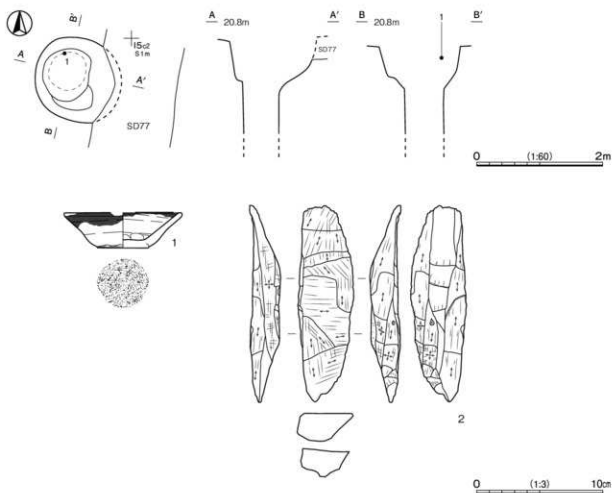
位置 調査区C区東部のI5c1区、標高20mほどの低地部に位置している。

重複関係 第77号溝跡との関係は、不明である。

規模と形状 確認できた規模は南北軸が1.38mで、東西軸は1.40mで、平面形は円形である。断面形は漏斗状で、確認面から70cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径0.70mの円筒状に掘り込んでいる。湧水や崩落の恐れがあったため、確認面から140cmまでの調査とした。

遺物出土状況 土師質土器片1点(Ⅲ)、石器1点(凝灰岩製砥石)が出土している。1は、北西部の覆土土層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第135図 第22号井戸跡・出土遺物実測図

第67表 第22号井戸跡出土遺物一覧（第135図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師瓦土器	皿	(9.4)	2.8	4.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部内面横ナデ・外面回転糸切り	覆土上層	70% 採付者

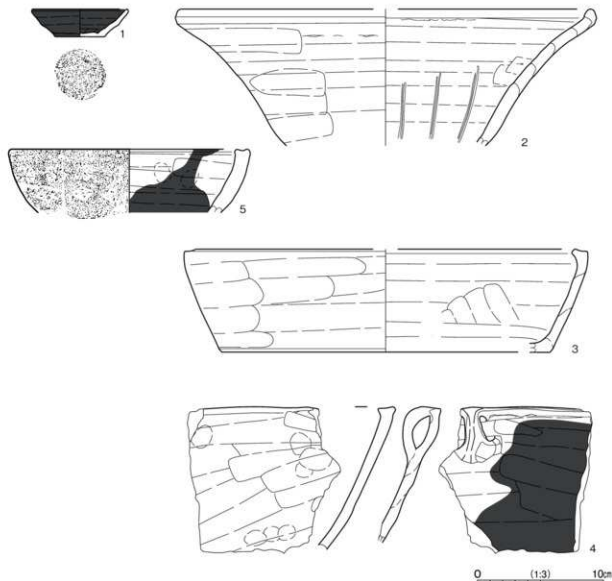
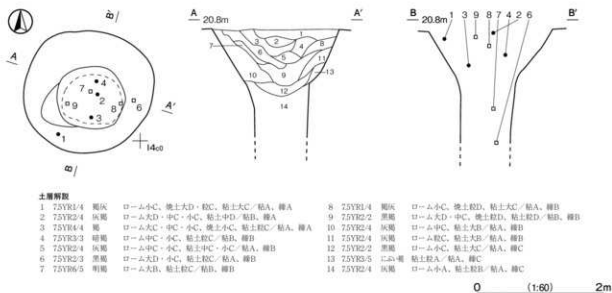
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	砥石	15.6	5.1	2.1	158.1	凝灰岩	砥面4面 表面多方向の研磨痕 側面・表面多数の割り痕	覆土	PL59

第23号井戸跡（第136・137図 第68表 PL20・59）

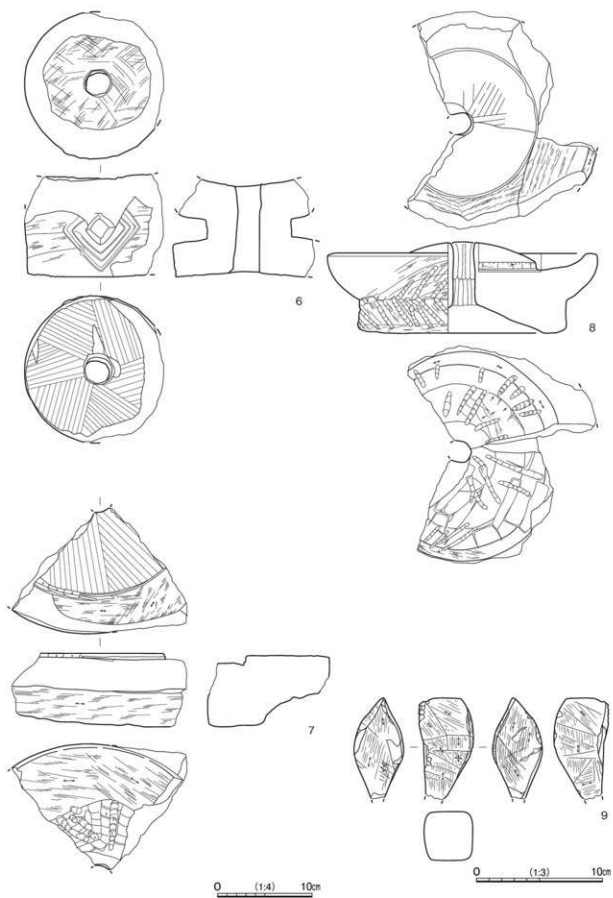
位置 調査区C区東部のI 4 b9区、標高20mほどの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径2.02m、短径1.98mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から70cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.06m、短径0.98mの円筒状に掘り込んでいる。南西壁の一部が崩落している。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から180cmまでの調査とした。

覆土 14層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。



第136図 第23号井戸跡・出土遺物実測図



第 137 图 第 23 号井戸跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 35 点（皿 1、搥鉢 4、内耳鍋 30）、瓦質土器片 1 点（香炉）、石器 4 点（安山岩製茶臼 3、凝灰岩製砥石 1）が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点が出土している。1 は南壁際、2 ～ 4・8・9 は中央部周辺の覆土上層、7 は中央部の覆土中層、6 は東壁際の覆土下層から、それぞれ出土している。8 は第 72 号堀跡から出土した茶臼と接合している。

所見 時期は、出土土器や接合した遺物の関係から 16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。第 72 号堀跡とは同時期の廃絶である。

第 68 表 第 23 号井戸跡出土遺物一覧（第 136・137 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.3	2.2	4.0	石英・雲母	黒褐色	普通	口縁ナデ 底部外周縁糸切り 内面ナデ	覆土上層	80% PL59 油漬付着
2	土師質土器	搥鉢	[33.0]	(10.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部内外面横位ナデ 内面横溝状工具による 2 条一単位の間目	覆土上層	5 %
3	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	8.2	[26.0]	長石・雲母・白色粒子	褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位ナデ 内面横・斜位ナデ	覆土上層	5 %
4	土師質土器	内耳鍋	—	(11.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部横ナデ 内面耳部貼付け 体部外面横位ナデ・指溝痕 内面横位ナデ	覆土上層	5 % 接合部
5	瓦質土器	香炉	[19.2]	(5.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部内外面横位ナデ 外面花卉・密葉の押型文	覆土	5 % PL59 後熟痕・保存重

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	茶臼	(15.5)	(14.7)	(10.9)	3.380	安山岩	上臼 上面多方向の研磨痕 下臼 10 ～ 13 条一単位の縦目・軸孔二方向からの穿孔 側面多方向張り出し・横位研磨痕・張り出し 把手孔 2 条	覆土下層	PL59 後熟痕
7	茶臼	(13.4)	(18.5)	7.8	(1.590)	安山岩	下臼 上面 11 条以上一単位の縦目・中央部二方向からの穿孔 下面窪み部張り出し・縁辺部研磨痕	覆土中層	PL59 後熟痕
8	茶臼	(23.0)	(20.0)	(9.3)	(1.480)	安山岩	下臼 上面縦目不明瞭 下面窪み部張り出し・縁辺部研磨痕・中央部二方向からの穿孔 側面張り	覆土上層	PL59 後熟痕 SD22 と接合
9	砥石	(8.0)	4.3	3.9	(157.59)	凝灰岩	砥面 4 面 多方向の研磨痕	覆土上層	

第 24 号井戸跡（第 138・139 図 第 69 表 PL20・59・60）

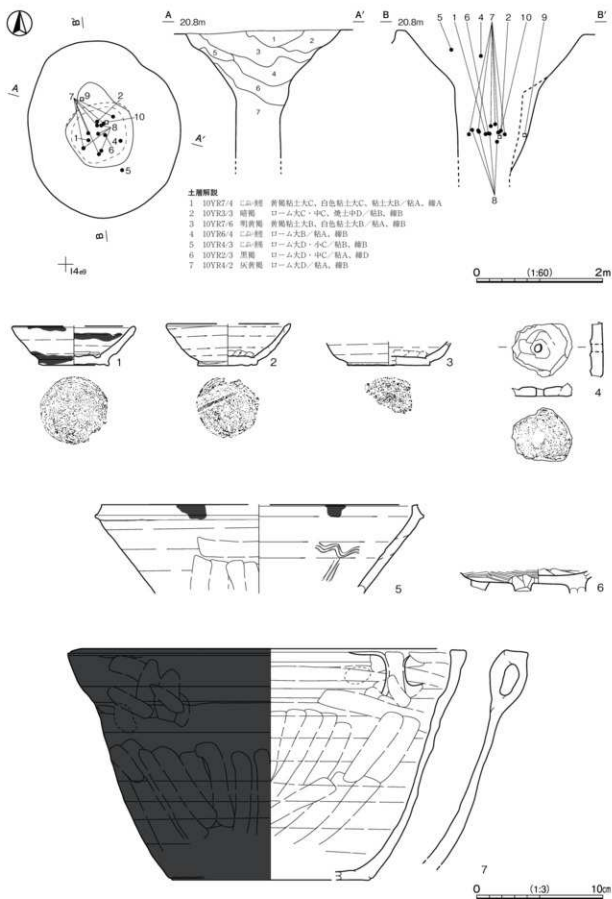
位置 調査区 C 区東部の I 4 d 区、標高 20 m ほどの低地部に位置している。

規模と形状 長径 2.84 m、短径 2.40 m の楕円形で、長径方向は N - 8° - W である。断面形は漏斗状で、確認面から 90 cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 1.10 m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 200 cm までの調査とした。

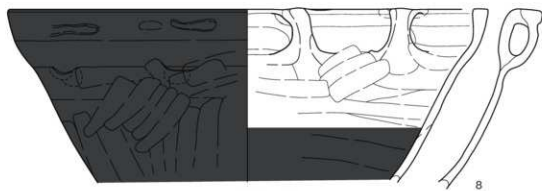
覆土 7 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 63 点（皿 4、搥鉢 2、香炉 1、内耳鍋 56）、石器 2 点（凝灰岩製砥石、砂岩製石鉢）が出土している。ほかに混入した土師器 1 点が出土している。1・2・6 ～ 10 は、中央部の覆土中層から散在した状態で出土している。4 は中央部東寄りから、5 は南東部の覆土上層から、それぞれ出土している。埋め戻しに伴って廃棄したものと考えられる。

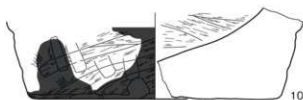
所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



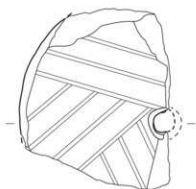
第138図 第24号井戸跡・出土遺物実測図



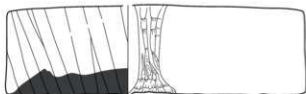
8



10



0 (1:3) 10cm



9



0 (1:4) 10cm

第 139 図 第 24 号井戸跡出土遺物実測図

第69表 第24号井戸跡出土遺物一覧(第138・139図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[9.9]	3.2	5.5	長石・雲母	灰白	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・内面ナデ	覆土中層	90% PL59 保存着
2	土師質土器	皿	[10.0]	3.3	4.9	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土中層	40%
3	土師質土器	皿	-	[1.9]	[6.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土	5%
4	土師質土器	皿	-	[1.1]	[4.8]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部回転糸切り・内面ナデ 底部中央部両方向からの穿孔・紡錘車転用	覆土上層	5% 保存着
5	土師質土器	器鉢	[25.5]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面横位ナデ後縦位ナデ 内面横位ナデ・串状工具による3条一単位の隆目・波状文施文	覆土上層	40% 保存着 口縁部結着
6	土師質土器	香炉	-	[1.9]	-	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ 体部内面下隆部を調整 底部回転糸切り・脚部貼付け 内面ナデ	覆土中層	5% 被熱痕
7	土師質土器	内耳鍋	[30.5]	18.3	[15.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・内面耳部貼付け 体部内外面縦・横位ナデ	覆土中層	40% PL60 保存着
8	土師質土器	内耳鍋	[38.0]	(13.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ・内面耳部貼付け 体部内外面多方向ナデ	覆土中層	10% 保存着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	石臼	(18.9)	(18.6)	9.6	3.86kg	安山岩	上面3・4条単位の磨目 下面磨り痕 軸穴両面からの磨りによる穿孔 側面縦位破損痕	覆土中層	PL60 保存着
10	石鉢	-	[19.6]	(7.2)	(96.35)	砂岩	外面縦位磨り痕・叩き面・研磨痕 内面研磨痕 底部磨り痕・研磨痕	覆土中層	PL60 保存着

第26号井戸跡(第140・141図 第70表 PL21・60)

位置 調査区C区北東部のH 4g9区、標高21mほどの緩斜面部に位置している。

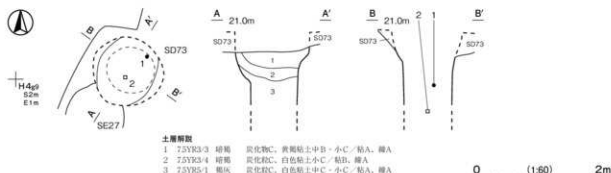
重複関係 第27号井戸跡を掘り込み、第73号堀に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第73号堀に掘り込まれているが、径1.18mの円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から40cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径0.90mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から124cmまでの調査とした。

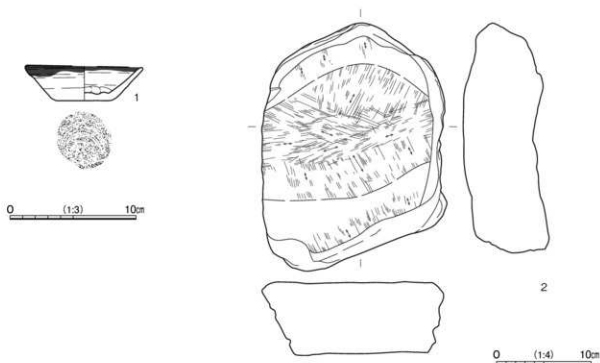
覆土 3層を確認した。各層に粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片13点(皿3、内耳鍋10)、石器1点(雲母片岩製砥石)が出土している。1は北西部の覆土中層から、出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第140図 第26号井戸跡実測図



第141図 第26号井戸跡出土遺物実測図

第70表 第26号井戸跡出土遺物一覧 (第141図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	9.4	2.8	4.3	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	95% PL60 保存着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	砥石	26.5	19.6	9.1	6.870	雲母片岩	上面多方向の研磨痕			覆土中層	PL60

第28号井戸跡 (第142図 第71表 PL21)

位置 調査区C区北東部のH 49区、標高21mほどの低地部に位置している。

規模と形状 長径1.32m、短径1.30mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から70cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径0.80mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から110cmまでの調査とした。

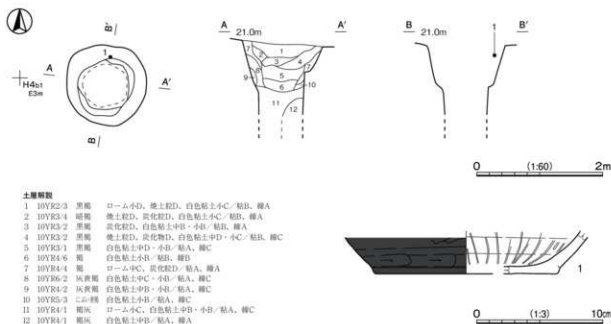
覆土 12層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿1、鐏鉢1)が出土している。1は北部の覆土上層から、出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。

第71表 第28号井戸跡出土遺物一覧 (第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	鐏鉢	—	[3.4]	[14.4]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ナデ調整後、内面中央工具による1条二単位の横目 内面ナデ 底部縦目筋・一方向ナデ	覆土上層	5% 保存着



第142図 第28号井戸跡・出土遺物実測図

第29号井戸跡 (第143・144図 第72表 PL21・60)

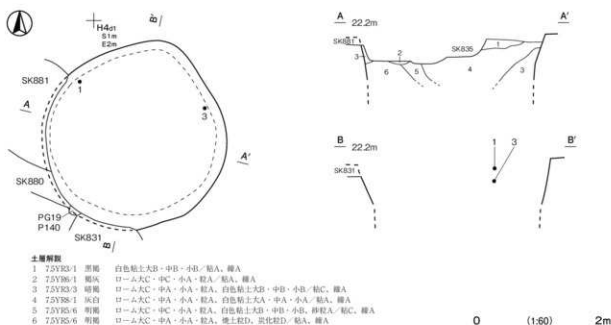
位置 調査区C区北東部のH4d1区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第831・835・880・881・883号土坑に掘り込まれている。PG19P140との関係は、不明である。

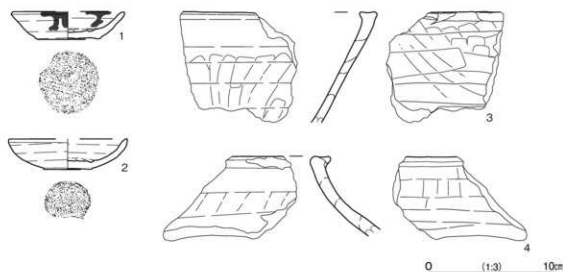
規模と形状 長径3.10m、短径2.92mの円形で、円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から80cmまでの調査とした。

覆土 6層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片25点(皿9、鉢1、擂鉢4、内耳鍋10、甕1)、鉄滓1点が出土している。ほ



第143図 第29号井戸跡実測図



第 144 図 第 29 号井戸跡出土遺物実測図

かに混入した土師器片 7 点が出土している。1 は北西部の壁際、3 は北東部の壁際の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。

第 72 表 第 29 号井戸跡出土遺物一覧 (第 144 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[90]	22	4.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目肌 内面ナデ	覆土上層	70% PL60 僅付着
2	土師質土器	皿	[94]	24	3.8	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目肌 内面ナデ	覆土	30%
3	土師質土器	鉢	—	(8.8)	—	長石・石英・雲母・黒色粒子	褐灰	普通	体部外面縦位ナデ調整 内面縦・横位ナデ	覆土上層	10%
4	土師質土器	甕	—	(6.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	ロクロナデ 内外面縦・横位ナデ	覆土	10%

第 31 号井戸跡 (第 145 図 第 73 表 PL21・60)

位置 調査区 C 区北東部の H 4 e1 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

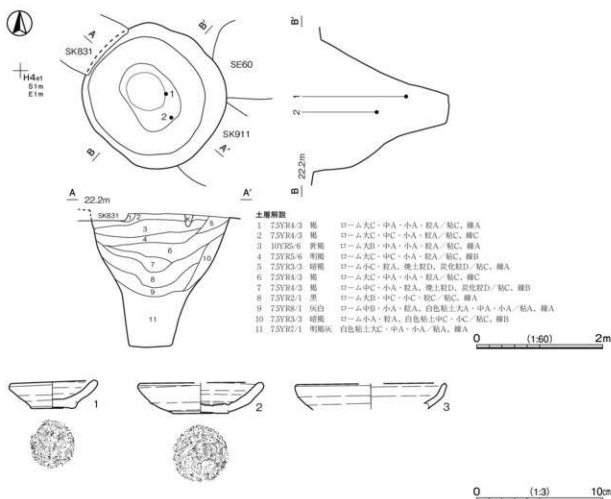
重複関係 第 911 号土坑を掘り込み、第 831 号土坑に掘り込まれている。第 60 号井戸跡との関係は、第 911 号土坑が第 60 号井戸を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と形状 第 831 号土坑に掘り込まれているが、確認できた規模は長径 2.30 m、短径 2.28 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 120cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.10 m、短径 0.74m の円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 210cm で、底面はほぼ平坦である。

覆土 11 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 23 点 (皿 10、播鉢 1、内耳鍋 11、甕 1)、陶器片 1 点 (皿) が出土している。ほかに混入した土師器片 2 点が出土している。1 は中央部東寄りの覆土下層から、2 は中央部南東寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 本跡は規模と形状から、井戸跡と判断した。底面は白色粘土層まで達していることから、溜井戸の可能性はある。時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



第145図 第31号井戸跡・出土遺物実測図

第73表 第31号井戸跡出土遺物一覧(第145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師甕土器	甕	6.7	2.3	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	100% PL60
2	土師甕土器	甕	10.5	2.4	4.4	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕	覆土中層	60% PL60

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	軸差	産地	出土位置	備考
3	陶器	甕	[120]	[20]	-	長石・黒色粒子・灰黄色	ロクロ成形 内外面施釉	灰軸	瀬戸・美濃	覆土	5% 被熱痕

第32号井戸跡(第146図 第74表 PL21・60)

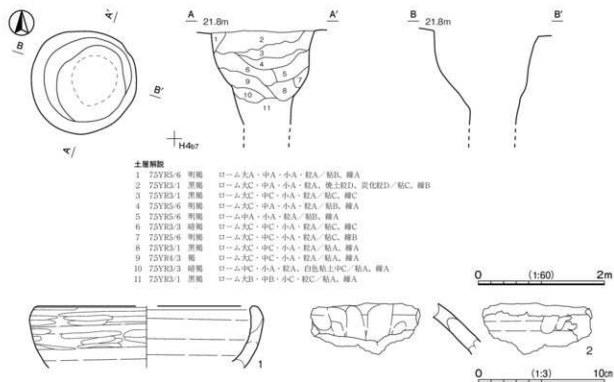
位置 調査区C区北東部のH 4 a6区、標高21 mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.72 m、短径1.70 mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から90～120 cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径0.92 m、短径0.80 mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から144 cmまでの調査とした。

覆土 11層を確認した。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片2点（内耳鍋）、瓦質土器片1点（香炉カ）、陶器片1点（甕）が出土している。
ほかに混入した土師器片1点が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第146図 第32号井戸跡・出土遺物実測図

第74表 第32号井戸跡出土遺物一覧（第146図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	瓦質土器	香炉カ	[186]	(49)	—	長石・石英・雲母	灰青	普通	ロクロナデ 外面磨き調整	覆土	5% PL60 被熱痕
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	輪業	産地	出土位置	備考
2	陶器	甕	—	(40)	—	磁赤・にじい赤褐色	体部内外面縦位ナデ	自然粘	常滑	覆土	5%

第33号井戸跡（第147図 第75表 PL21・60）

位置 調査区C区北部のH39区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

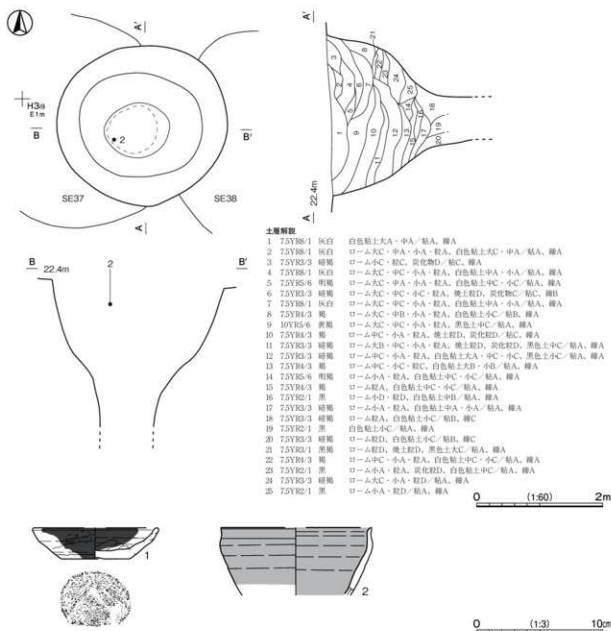
重複関係 第37・38号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.72m、短径2.54mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から150cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.0m、短径0.88mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から200cmまでの調査とした。

覆土 25層を確認した。第1～20層は井筒を抜き取った後の堆積土で、ロームブロックや粘土ブロックを多く含むことから、人為堆積である。第21～25層は井筒を設置した際の埋め土である。

遺物出土状況 土師質土器片8点（皿1、内耳鍋7）、陶器片1点（天目茶碗）、鉄滓1点が出土している。ほかに混入した土師器片6点が出土している。2は中央部南西寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後葉から17世紀前葉と考えられる。



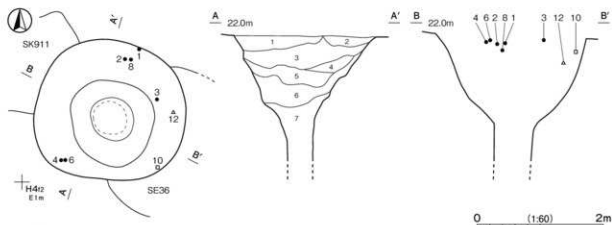
第147図 第33号井戸跡・出土遺物実測図

第75表 第33号井戸跡出土遺物一覧（第147図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	地 成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[9.8]	2.5	5.5	石英・雲母・赤色粒子	に灰黄粉	普通	ロクロナデ 底部外周粘土線金き上げ痕・指痕類 底部周縁糸切り・敷目痕 内面土テ	覆土	70% PL60 保存者

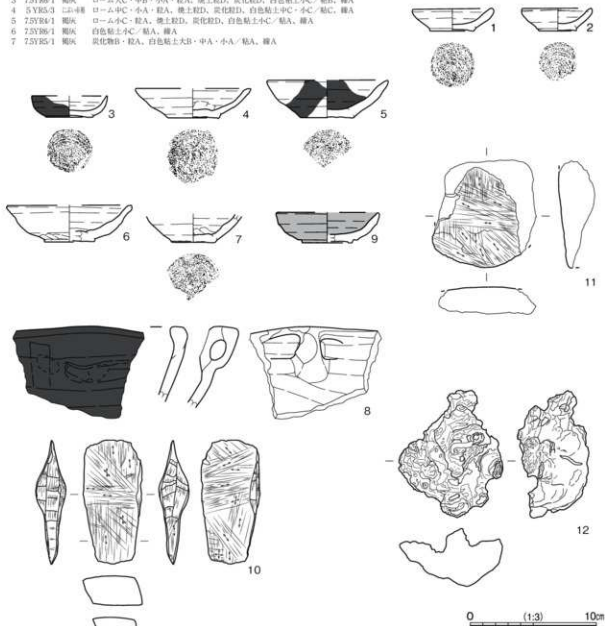
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	輪 軸	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	天目茶碗 [120]	[5.4]	—	—	緻密・淡黄	ロクロ成形 流け掛け	黒軸	瀬戸・美濃	覆土上層	5%

第34号井戸跡 (第148図 第76表 PL21・60)



土層解説

- 1 7.5YR6/2 灰白 ローム大C・中A・小A・粒A、焼土大・中・小・粒D、炭化粒D、白色粘土大C・中B・小B・粒C、雜A
 2 7.5YR6/1 焼灰 ローム小D・粒D、白色粘土中A・小A・粒B、雜A
 3 7.5YR6/1 焼灰 ローム大C・中B・小A・粒A、焼土粒D、炭化粒D、白色粘土小C・粒B、雜A
 4 5.5YR5/3 二色土ローム中C・小A・粒A、焼土粒D、炭化粒D、白色粘土中C・小C・粒C、雜A
 5 7.5YR5/3 焼灰 ローム小C・粒A、焼土粒D、炭化粒D、白色粘土小C・粒A、雜A
 6 7.5YR6/1 焼灰 白色粘土小C・粒A、雜A
 7 7.5YR5/1 焼灰 炭化物B・粒A、白色粘土大B・中A・小A・粒A、雜A



第148図 第34号井戸跡・出土遺物実測図

位置 調査区C区北東部のH 4e2区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第36号井戸跡、第911号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.44m、短径2.22mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から140cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径0.80m、短径0.66mの円形で、円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から200cmまでの調査とした。

覆土 7層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片30点(皿11、擋鉢2、内耳鍋14、甕3)、陶器片2点(碗、皿)、石器2点(凝灰岩製砥石、雲母片岩製砥石)、腕状滓1点が出土している。ほかに混入した土師器片26点、須恵器片2点が出土している。1・2・8は北壁際、3・12は東壁際、4・6は南西壁際、10は南東壁際の上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後葉から17世紀前葉と考えられる。腕状滓が出土していることから、周辺遺跡で鉄の生産がおこなわれている可能性がある。

第76表 第34号井戸跡出土遺物一覧(第148図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	6.2	1.8	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL60
2	土師質土器	皿	5.5	1.8	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL60
3	土師質土器	皿	[5.8]	1.7	3.8	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL60 炭灰痕・保存着
4	土師質土器	皿	[9.2]	2.3	4.0	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り ナデ調整 内面ナデ	覆土上層	80% PL60
5	土師質土器	皿	[9.6]	3.0	[4.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	80% 保存着
6	土師質土器	皿	[9.8]	2.9	[4.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部外面下端ナデ調整 底部回転糸切り	覆土上層	30%
7	土師質土器	皿	—	(2.2)	(3.4)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・ナデ調整 内面ナデ	覆土	40% 保存着
8	土師質土器	内耳鍋	—	(7.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	口縁部ナデ・内面耳部貼付け 外面ナデ調整・底面ナデ	覆土上層	3% 保存着
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	輪 郭	産 地	出土位置	備 考
9	陶器	丸皿	[8.0]	2.4	[4.0]	緻密・淡黄	ロクロ成形 底部削り出し 濃け削け	黄釉	瀬戸・美濃	覆土	30% PL60
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置 備 考			
10	砥石	9.8	4.7	2.3	99.09	凝灰岩	底面3面 表面面多方向の研削痕 右側面多方向の削り痕・2方方向の研削痕 左側面多方向の削り痕	覆土上層 PL60 炭灰痕			
11	砥石	(8.5)	(8.2)	(2.8)	(29.45)	雲母片岩	底面1面 表面多方向の研削痕	覆土 炭灰痕			
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置 備 考			
12	腕状滓	10.1	8.2	4.6	243.30	鉄	底面砂・粘土付着 欠陥多数	覆土上層 PL60			

第37号井戸跡(第149図 第77表 PL22・60)

位置 調査区C区北部のH 319区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

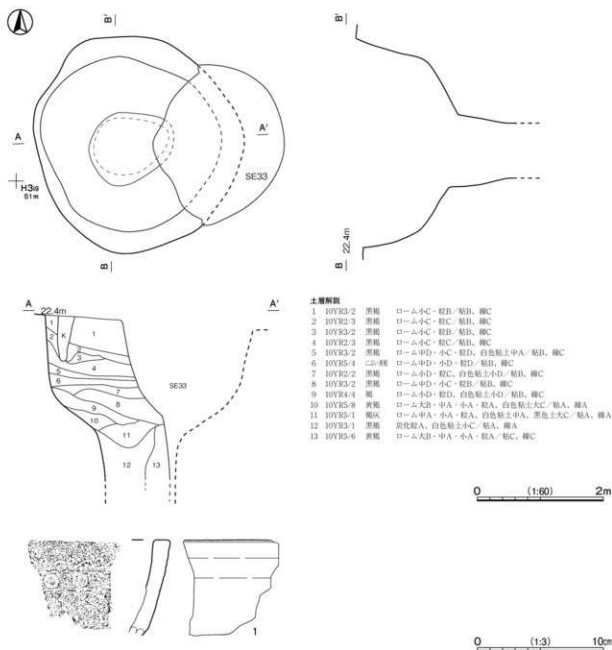
重複関係 第33号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 径3.32mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から120cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.38m、短径1.12mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から200cmまでの調査とした。

覆土 13層を確認した。第1～4層はローム粒子を均質に含むことから、自然堆積である。第5～13層はロームブロックや粘土ブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片4点（内耳鍋）、瓦質土器片1点（火鉢）、雲母片岩片2点が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



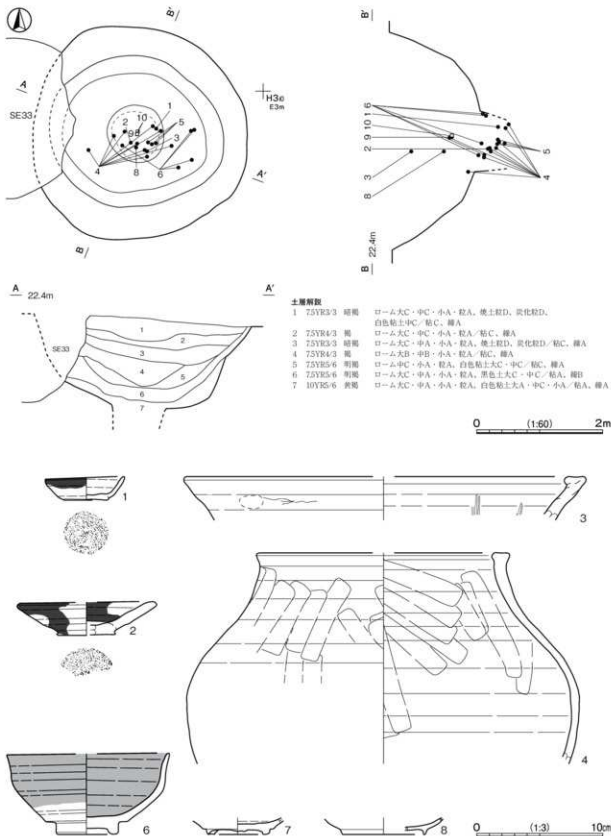
第149図 第37号井戸跡・出土遺物実測図

第77表 第37号井戸跡出土遺物一覧（第149図）

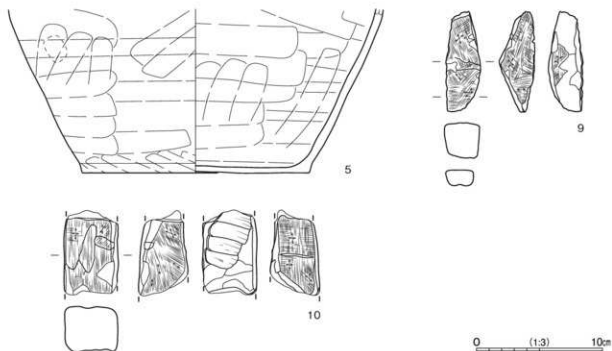
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	瓦質土器	火鉢	—	(7.5)	—	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面2条の浅彫区画・上区唐草・中区瓦文・下区雲文の押印文	掘土	5% PL60

第38号井戸跡 (第150・151図 第78表 PL22・61)

位置 調査区C区北部のH30区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。



第150図 第38号井戸跡・出土遺物実測図



第151図 第38号井戸跡出土遺物実測図

重複関係 第33号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は南北径が3.38m、東西径は2.96mである。平面形は、円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から140cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径0.94m、短径0.90mの円筒状に掘り込んでいると推定できる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から142cmまでの調査とした。

覆土 7層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片65点（皿2、播鉢2、内耳鍋10、甕51）、陶器片3点（天目茶碗1、甕2）、磁器片2点（皿）、石器2点（凝灰岩製砥石、砂岩製砥石）が出土している。ほかに混入した土師器片3点が出土している。1・2・4～6は覆土中層から、3・8～10は覆土上層から、いずれも中央部を中心に散在した状態でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

第78表 第38号井戸跡出土遺物一覧（第150・151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	62	19	34	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中層	100% PL61 保付着
2	土師質土器	皿	[106]	26	[46]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中層	30% 保付着
3	土師質土器	播鉢	[320]	(35)	—	長石・雲母・白色粒子	灰褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面輪轆轤み直・指頭痕 内面中状工具による3条一単位の間目	覆土上層	5%
4	土師質土器	甕	202	(168)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	口縁部横ナデ 体部横・斜位ナデ	覆土中層	40% PL61
5	土師質土器	甕	—	(131)	181	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部外面横・斜位ナデ・底・縦位ナデ 内面横位ナデ・底・縦位ナデ 底部内外面一方向ナデ	覆土中層	40% PL61

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	輪軸	産 地	出土位置	備 考
6	陶器	天目茶碗	129	6.4	4.7	緻密・浅黄橙	ロクロ成形 底部削り出し 漬け掛け	現軸	瀬戸・美濃	覆土中層	50% PL61
7	磁器	皿	—	(15)	[3.0]	緻密・灰白	白磁 ロクロ成形 底部削り出し・割高台	長石軸	中国清 福建省古堂	覆土	5% PL61
8	磁器	皿	—	(14)	[6.8]	緻密・灰白	白磁 ロクロナデ 底部削り出し	透明軸	中国清 福建省永樂	覆土上層	30% PL61

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
9	砥石	2.8	(2.8)	8.0	(57.18)	凝灰岩	砥面3面 表面・側面多方向の研磨痕 表面二方向の研磨痕	覆土上層	PL61
10	砥石	(6.8)	4.3	4.0	(147.78)	砂岩	砥面3面 表面・側面多方向の研磨痕 表面削り痕	覆土上層	PL61

第40号井戸跡 (第152図 第79表 PL22・61)

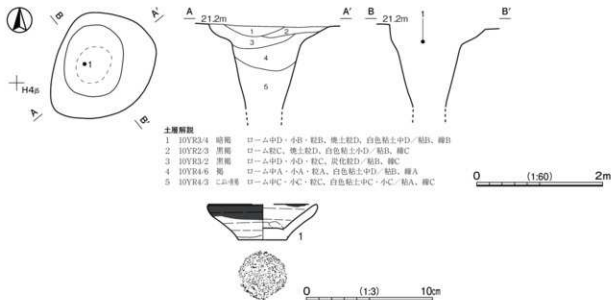
位置 調査区C区北東部のH4区、標高21mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.90m、短径1.58mの不整楕円形で、長径方向はN-20°-Eである。断面形は漏斗状で、確認面から40cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.14m、短径0.92mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から140cmまでの調査とした。

覆土 5層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片13点(皿1、掬鉢9、内耳鍋3)が出土している。ほかに混入した土師器片1点、須恵器片1点が出土している。1は中央部西寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後葉と考えられる。



第152図 第40号井戸跡・出土遺物実測図

第79表 第40号井戸跡出土遺物一覧 (第152図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[8.6]	2.9	[3.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄褐色	普通	ロクロナデ 体部外面下層ナデ調整 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土上層	60% PL61 覆付着

第41号井戸跡 (第153図 第80表 PL61)

位置 調査区C区東部のI 4b5区、標高21 mほどの台地緩斜面部に位置している。

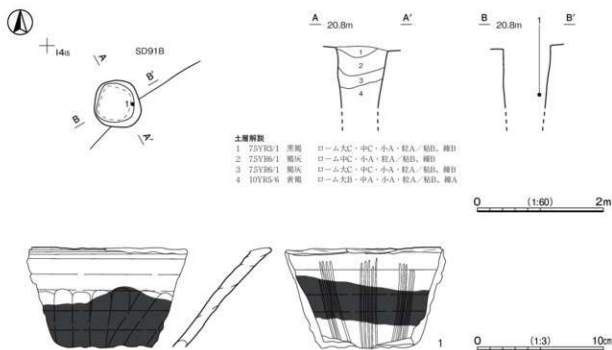
重複関係 第91B号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.80 m、短径0.76 mの円形である。確認面からは、円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から140 cmまでの調査とした。

覆土 4層を確認した。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片4点(播鉢1、内耳鍋3)が出土している。1は中央部南東寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、16世紀後半以降に廃絶したものと考えられる。



第153図 第41号井戸跡・出土遺物実測図

第80表 第41号井戸跡出土遺物一覧 (第153図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	播鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母	にひき寄	普通	外部外面割い縦位ナデ 内面半状工具による5条一単位の條目	覆土中層	5% 7.5YR6/1 黄褐色 口縁部埋

第42号井戸跡 (第154図 第81表 PL22・61)

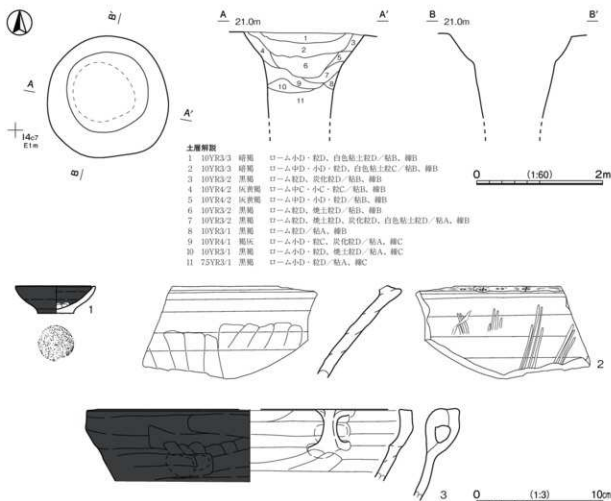
位置 調査区C区東部のI 4b7区、標高21 mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.92 m、短径1.90 mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から40 cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径1.30 mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から140 cmまでの調査とした。

覆土 11層を確認した。各層にローム粒子を均質に含むことから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 19 点（皿 4、播鉢 3、内耳鍋 1、甕 11）が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前葉と考えられる。



第 154 図 第 42 号井戸跡・出土遺物実測図

第 81 表 第 42 号井戸跡出土遺物一覧（第 154 図）

番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.3]	2.1	2.8	長石・石英・雲母に多い	褐	普通	口タコナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	30% 塗層付着
2	土師質土器	播鉢	—	(7.3)	—	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部破ナデ 体部外面弱い横位ナデ 内面串珠上具による 4 条一単位の間隔	覆土	5% PL61 口縁部破ナデ
3	土師質土器	内耳鍋	[26.0]	(5.8)	—	長石・石英・雲母に多い	赤褐	普通	口縁部破ナデ・内面耳部貼付ナデ 体部内外面ナデ	覆土	5% 塗層付着

第 46 号井戸跡（第 155 図 第 82 表 PL22・61）

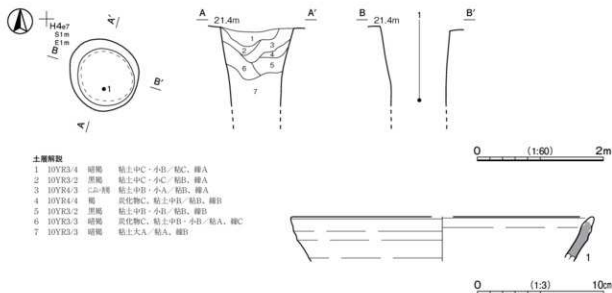
位置 調査区 C 区北東部の H 4e7 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.18 m、短径 1.12 m の円形で、円筒状に掘り込んである。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 134 cm までの調査とした。

覆土 7層を確認した。各層に粘土ブロックなどを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿、内耳鍋）、陶器1点（碗形鉢カ）が出土している。1は中央部南寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第155図 第46号井戸跡・出土遺物実測図

第82表 第46号井戸跡出土遺物一覧（第155図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	輪楽	産地	出土位置	備考
1	陶器	碗形鉢カ	[24.0]	(3.5)	—	凝密・オリーブ黄	ロクロ成形 濃け掛け	オリーブ灰	瀬戸・美濃	覆土中層	5% PL61 輪楽 付（図）付

第47号井戸跡（第156図 第83表 PL61）

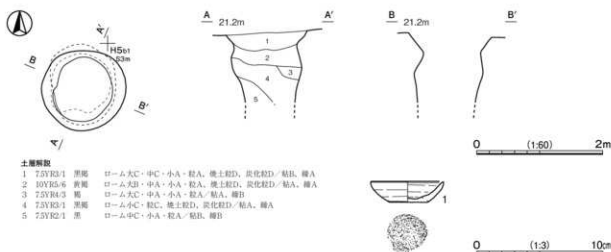
位置 調査区C区北東部のH5b1区、標高21mほどの低地部に位置している。

規模と形状 長径1.34m、短径1.26mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から30cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は円筒状に掘り込んでと推定できるが、上部は袋状を呈しており、崩落によって挟られた可能性がある。円筒部分の径は0.98～0.90mである。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から110cmまでの調査とした。

覆土 5層を確認した。第1～3層はロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。第4・5層は部分的な確認のため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿、甕）が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第156図 第47号井戸跡・出土物実測図

第83表 第47号井戸跡出土遺物一覧 (第155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	甕	5.7	1.7	3.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口クロナデ 底部回転糸切り	覆土	100% PL61

第48号井戸跡 (第157図 第84表 PL22)

位置 調査区C区中央部のI 3a0区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第57号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径2.18mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から110cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.10m、短径0.88mの楕円形で円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から170cmまでの調査とした。

覆土 15層を確認した。第1～13層は各層にロームブロックや粘土ブロック、炭化材などを含む不規則な堆積状況から、人為堆積である。第14・15層は各層にローム粒子や粘土粒子を均質に含むことから、自然堆積である。

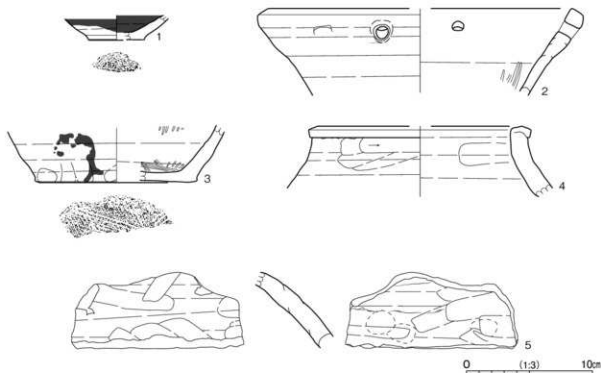
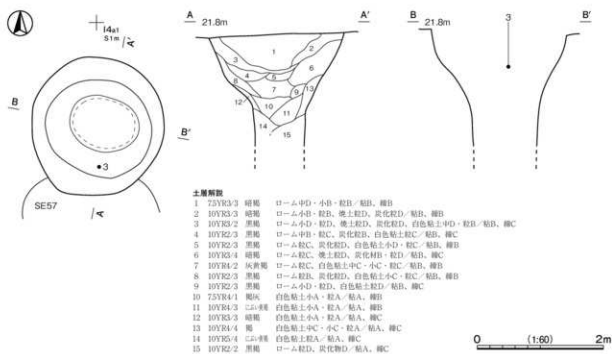
遺物出土状況 土師質土器片85点(甕10、播鉢6、内耳鍋13、甕56)、陶器片1点(甕)が出土している。3は、中央部南寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

第84表 第48号井戸跡出土遺物一覧 (第157図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	出 土 位 置	備 考	
1	土師質土器	甕	-	(1.9)	(4.5)	長石・石英・赤褐色・赤色粒子	橙 普通	口クロナデ 底部回転糸切り	覆土	5% 採付者
2	土師質土器	播鉢	[24.0]	(6.9)	-	長石・石英・赤褐色・赤色粒子	橙 普通	口縁部横ナデ 内面から一方隅の穿孔 体部内面中央上段による4条一単位の横目	覆土	5%
3	土師質土器	播鉢	-	(4.5)	(12.8)	長石・石英・赤褐色・赤色粒子	橙 普通	体部外面鋭い縦位ナデ 内面中央工具による6条一単位の横目 底部外面横目横 内面二方向の横目単位	覆土上層	5% 採付者
4	土師質土器	甕	[16.0]	(5.6)	-	長石・石英・赤褐色・赤色粒子	橙 普通	口縁部横ナデ 体部外面横位ナデ	覆土	5%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	軸 差	産 地	出 土 位 置	備 考
5	陶器	甕	-	(6.0)	-	粗密・にじみ・赤褐色	体部外面縦・斜位ナデ 内面横位ナデ、指頭痕	自然軸	常滑	覆土	5%



第157図 第48号井戸跡・出土遺物実測図

第50号井戸跡 (第158・159図 第85表 PL61)

位置 調査区C区中央部のI3d9区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

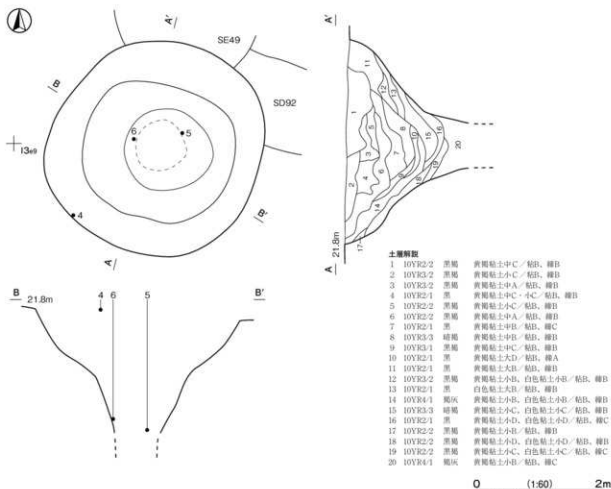
重複関係 第49号井戸跡を掘り込んでいる。第92溝跡との関係は不明である。

規模と形状 長径3.40m、短径3.30mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から120cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.42m、短径1.34mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から200cmまでの調査とした。

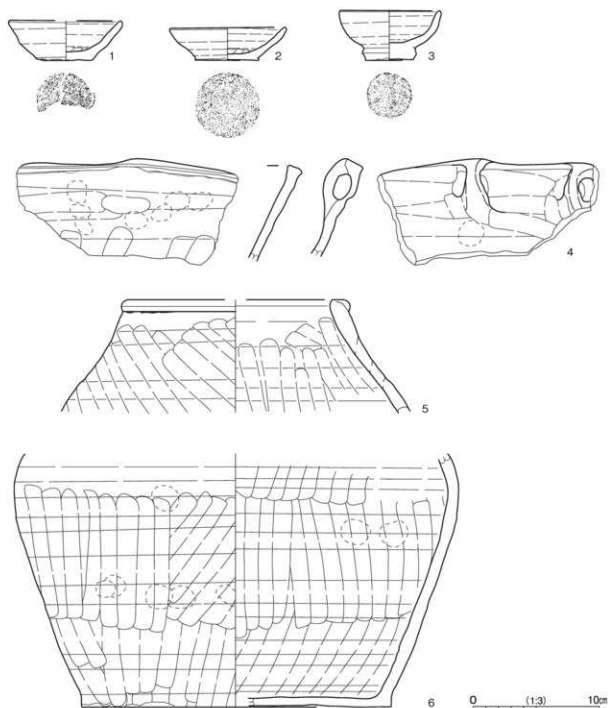
覆土 20層を確認した。各層に粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片62点(皿3、仏供1、播鉢20、内耳鍋16、甕22)、陶器片1点(碗)が出土している。4は南西縁際の覆土上層から出土している。5は中央部東寄り、6は中央部西寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第158図 第50号井戸跡実測図



第159図 第50号井戸跡出土遺物実測図

第85表 第50号井戸跡出土遺物一覧(第159図)

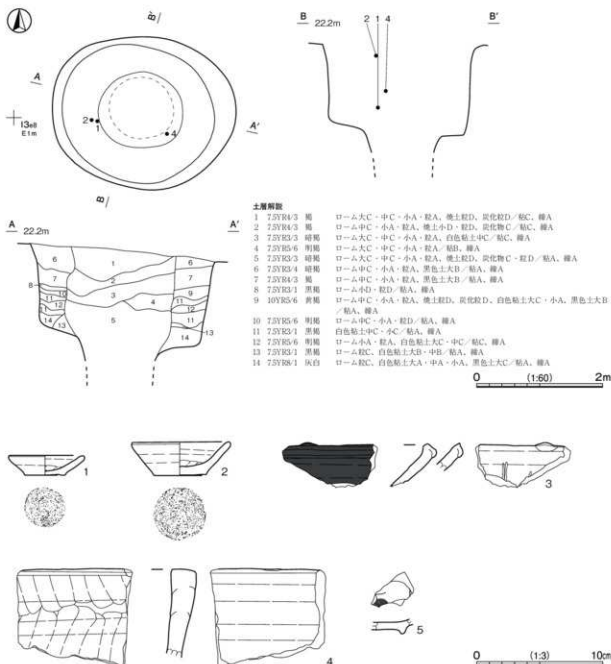
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	90	27	50	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口クロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	40%
2	土師質土器	皿	[89]	(31)	[45]	長石・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口クロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	40% PL61
3	土師質土器	仏供	78	39	38	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口クロナデ 底部回転糸切り、一方方向ナデ	覆土	80% PL61
4	土師質土器	内耳罎	-	(84)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付 内外面縦・横位ナデ、指頭痕	覆土上層	10%
5	土師質土器	甕	[162]	(90)	-	長石・石英・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内外面縦・横・斜位ナデ	覆土中層	10% PL62
6	土師質土器	甕	-	(209)	[246]	長石・石英・金雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内外面縦・横・斜位ナデ 底部板目痕	覆土中層	40% PL62

第51号井戸跡 (第160図 第86表 PL62)

位置 調査区C区中央部のI3d8区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している

規模と形状 長径290m、短径242mの楕円形で、長径方向はN-83°-Wである。断面形は逆凸字状で、確認面から140cmまでは円筒状に掘り込み、幅44~64cmの平場を構築している。以下は長径134m、短径112mの楕円形で円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から164cmまでの調査とした。

覆土 14層を確認した。第1~5層は井筒を抜き取った後の堆積で、ロームブロックや粘土ブロックなどを含



第160図 第51号井戸跡・出土遺物実測図

むことから、人為堆積である。第6～14層は井筒を設置した際の埋土である。

遺物出土状況 土師質土器片16点(皿3、楕鉢3、内耳鍋9、火鉢1)、陶器片3点(碗2、皿1)、被炭痕を受けた雲母片岩片2点が出土している。1・2・4はいずれも井筒を抜き取った後の覆土からの出土で、1・4は中層から、2は上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後葉から17世紀前半と考えられる。

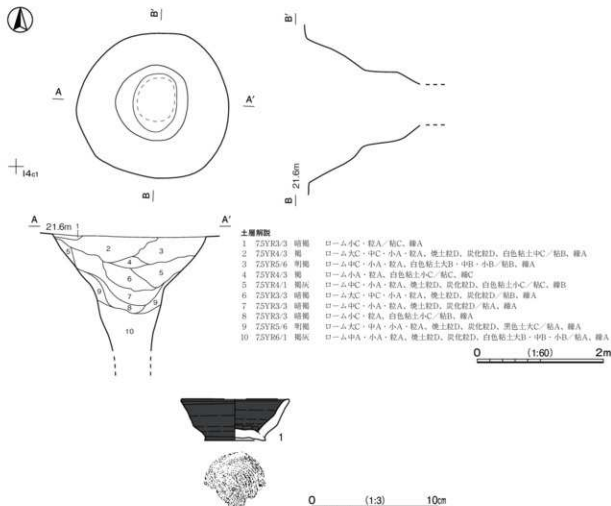
第86表 第51号井戸跡出土遺物一覧(第160図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	60	1.6	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤焼	普通 ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	90% PL62
2	土師質土器	皿	77	2.7	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通 ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	80%
3	土師質土器	楕鉢	-	(3.4)	-	石英・雲母	灰黄	普通 口縁部折り返し・片口流形 体部内面串状工具による2条一単位の様目	覆土	5% 保存者
4	土師質土器	火鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・金雲母	普通	体部外面強い縦位ナデ	覆土中層	3% 被炭痕

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	検査	産地	出土位置	備考
5	陶器	皿	-	(1.2)	-	緻密・淡黄	ロクロ流形 長石釉施釉・鉄絵筆書き	長石釉 鉄軸	瀬戸・美濃	覆土	5%

第52号井戸跡(第161図 第87表)

位置 調査区C区東部のI-4b1区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。



第161図 第52号井戸跡・出土遺物実測図

規模と形状 長径2.40 m、短径2.28 mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から80cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.22 m、短径1.14 mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から180cmまでの調査とした。

覆土 10層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片8点（皿1、内耳鍋7）、被熱痕がある雲母片岩片1点が出土している。ほかに混入した土師器片1点が出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。

第87表 第52号井戸跡出土遺物一覧（第161図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[8.6]	3.3	[4.8]	長石・雲母・赤色粒子	にふい黄褐色	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	20% 土層付着

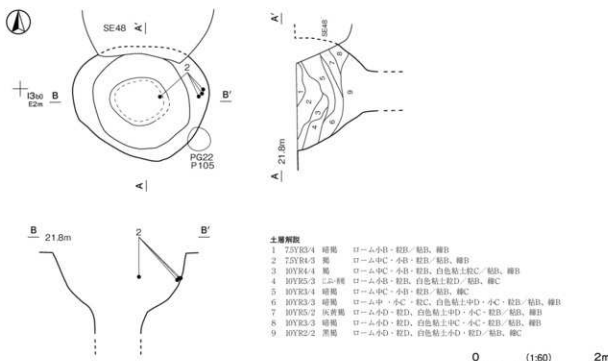
第57号井戸跡（第162・163図 第88表 PL22・62）

位置 調査区C区東部のI3b0区、標高22 mほどの台地緩斜面部に位置している。

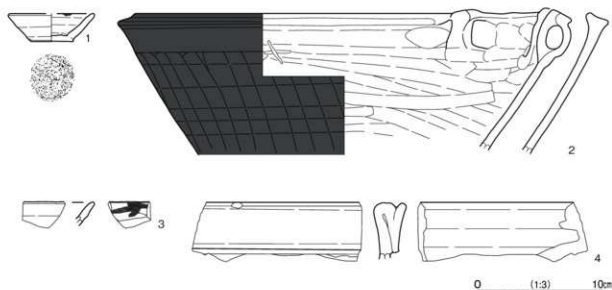
重複関係 第48号井戸、第22号ピット群のP105～P107・P170との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は長径2.14 m、短径1.78 mである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN-78°-Eである。断面形は漏斗状で、確認面から110cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径0.98 m、短径0.78 mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から170 cmまでの調査とした。

覆土 9層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。



第162図 第57号井戸跡実測図



第 163 図 第 57 号井戸跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 29 点（皿 3、播鉢 7、内耳鍋 19）、陶器片 2 点（鉄絵皿、甕）が出土している。ほかに混入した土師器片 3 点、須恵器片 1 点が出土している。2 は中央部と東壁の覆土上層から、散在した状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後葉から 17 世紀前半と考えられる。4 は 15 世紀の甕の破片で、混入と思われるが、伝世したものが廃棄された可能性もあるため、本跡に伴う遺物として掲載した。

第 88 表 第 57 号井戸跡出土遺物一覧（第 163 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[68]	22	34	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土 50% 保存者
2	土師質土器	内耳鍋	[336]	(114)	—	長石・石英・雲母	にぶい陶	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け・x のヘラ書き 外部全面深い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層 40% PL62 保存者

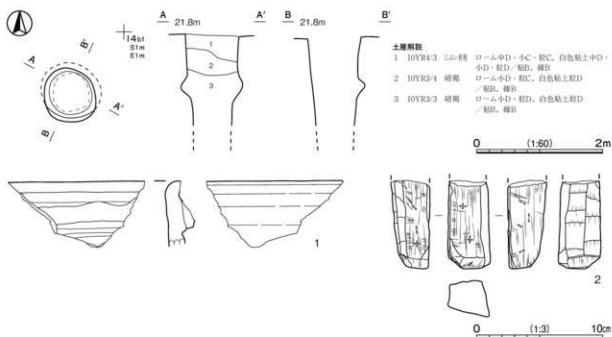
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
3	陶器	鉄絵皿	—	(19)	—	緻密・灰白	ロクロ成形 底面削り出し 掛け掛け 内面鉄絵	長石釉	瀬戸	覆土	5%
4	陶器	甕	—	(45)	—	緻密・褐色	口縁部横ナデ・折り返し	自然釉	常滑	覆土	5%

第 58 号井戸跡（第 164 図 第 89 表 PL22・62）

位置 調査区 C 区東部の I 4b1 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 0.98 m、短径 0.82 m の楕円形で、長径方向は N - 59° - W である。確認面から円筒状に掘り込んでいる。壁の中部は、崩落のため北半部に挟り込みがある。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 144 cm までの調査とした。

覆土 3 層を確認した。各層はロームブロックや粘土ブロックの含有が少量であるため、自然堆積の可能性が高い。



第164図 第58号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿1、内耳鍋3)、陶器片1点(甕)、石器1点(凝灰岩製砥石)が出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。

第89表 第58号井戸跡出土遺物一覧(第164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	甕	-	(51)	-	銀密・灰褐	口縁部横ナデ・折り返し	自然軸	常滑	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	砥石	(70)	3.4	3.0	(1002)	凝灰岩	砥面3面 上面・側面多方向の研削痕 下面多数の削り痕	覆土	PL62

第62号井戸跡(第165図 第90表 PL23・62)

位置 調査区C区中央部のI3a区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径2.34m、短径2.28mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から110cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.00m、短径0.96mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から120cmまでの調査とした。

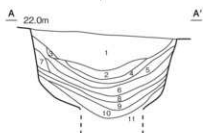
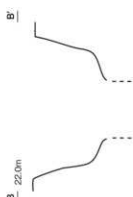
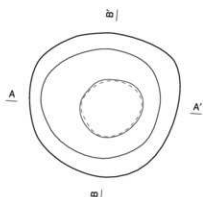
覆土 11層を確認した。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片14点(播鉢1、内耳鍋13)、陶器片1点(甕)、石器1点(凝灰岩製砥石)が出土している。ほかに混入した須恵器片1点が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。

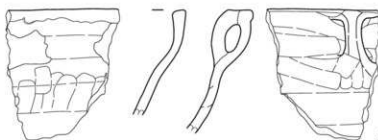
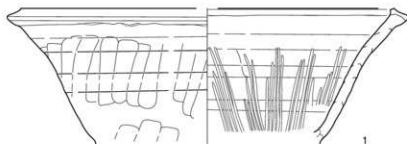


13m
51m



土層解説		
1	10YR3/4	暗褐色
2	10YR3/2	黒褐色
3	10YR2/3	黒褐色
4	10YR3/2	黒褐色
5	10YR3/3	暗褐色
6	10YR4/4	褐色
7	10YR3/3	暗褐色
8	10YR3/3	暗褐色
9	10YR3/2	黒褐色
10	10YR3/3	暗褐色
11	10YR3/2	黒褐色

0 (1:60) 2m



0 (1:3) 10cm

第 165 図 第 62 号井戸跡・出土遺物実測図

第 90 表 第 62 号井戸跡出土遺物一覧 (第 165 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土器瓦土器	横鉢	[28.8]	(10.8)	-	石英・雲母 白色粒子	灰褐色	普通	口縁部横ナデ・輪轆痕 体部外面強い縦役ナデ 内面車状工具によるら条一單位の隆目	覆土	5% P162 口縁部縦轆痕
2	土器瓦土器	内耳罎	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母 にふい黄粉	普通	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け 体部外面強い縦役 ナデ 内面縦・横筋ナデ	覆土	5%

第 63 号井戸跡 (第 166 図 第 91 表 PL23)

位置 調査区 C 区中央部の I 3a9 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

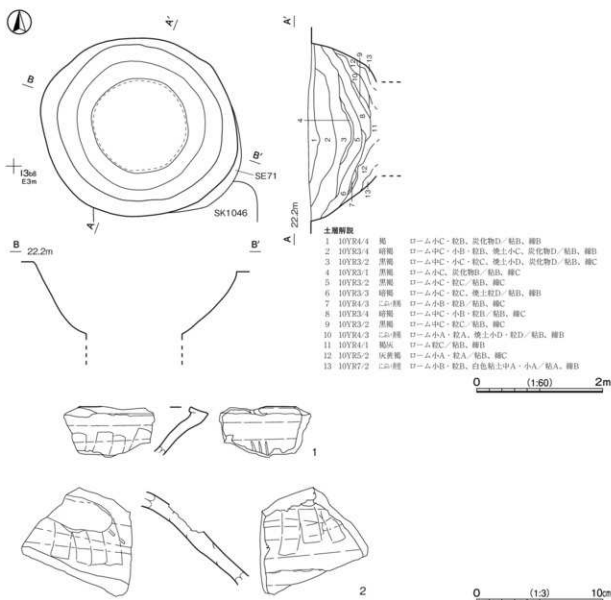
重複関係 第 71 号井戸跡、第 1046 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 3.20 m、短径 2.86 m の楕円形で、長径方向は $N-70^{\circ}-W$ である。断面形は漏斗状で、確認面から 100cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.56 m、短径 1.50m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 110cm までの調査とした。

覆土 13 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロック、焼土、炭化物を含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 9 点 (描鉢 4、内耳鍋 5) が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点、13 世紀後半の陶器片 (三耳壺) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。2 は 13 世紀後半の三耳壺の破片で、混入と思われるが、伝世したものが廃棄された可能性もあるため、本跡に伴う遺物として掲載した。



第 166 図 第 63 号井戸跡・出土遺物実測図

第91表 第63号井戸跡出土遺物一覧（第166図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師土器	深鉢	—	(38)	—	長石・石英・雲母	にふい聞	普通	口縁部横ナデ・体部外面縦ナデ・内面申状工具による3条一筆距の掻目	覆土	5%

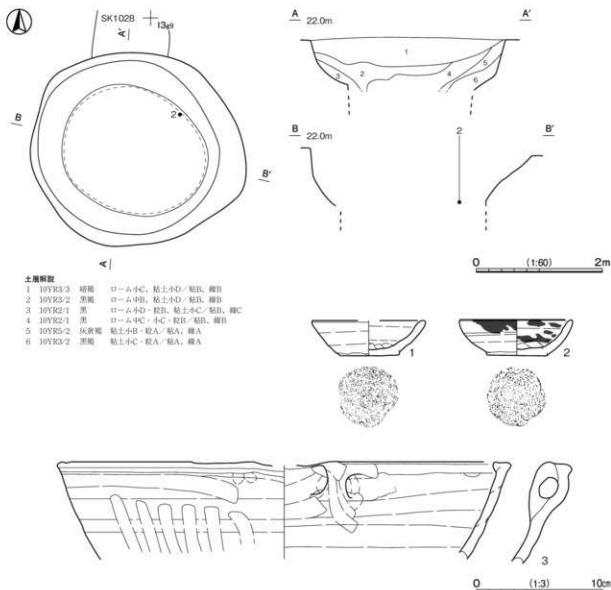
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	軸差	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	三耳壺	—	(85)	—	緻密・にふい聞	体部外面強い縦ナデ・下駄歯状の圧痕・耳部分洒磨	自然軸	常産	覆土	5%

第64号井戸跡（第167図 第92表 PL62）

位置 調査区C区中央部のI3g8区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1028号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.36m、短径3.20mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から70cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径2.38m、短径2.02mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から90cmまでの調査とした。



第167図 第64号井戸跡・出土遺物実測図

覆土 6層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片6点（皿2、内耳鍋4）が出土している。2は中央部北東寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

第92表 第64号井戸跡出土遺物一覧（第167図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[9.0]	2.7	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	80%、PL62
2	土師質土器	皿	9.0	2.9	4.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	80%、PL62 油煙付着
3	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(7.0)	—	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部塘ナデ・内面耳部貼付け 体部外面縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土	5%

第65号井戸跡（第168図 第93表）

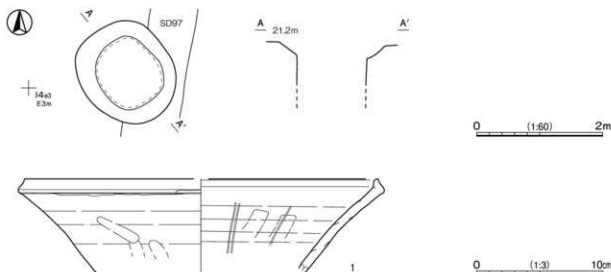
位置 調査区C区東部のI4d4区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第97号溝跡との関係は、不明である。

規模と形状 長径1.64m、短径1.46mの楕円形で、長径方向はN-45°-Wである。断面形は漏斗状で、確認面から20cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.12m、短径0.98mの円筒状に掘り込んでいる。湧水のため、確認面から60cmまでの調査とした。

遺物出土状況 土師質土器片5点（播鉢4、内耳鍋1）、陶器片1点（甕）が出土している。ほかに混入した土師器片5点が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、1.50m以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第168図 第65号井戸跡・出土遺物実測図

第93表 第65号井戸跡出土遺物一覧（第168図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	播鉢	[28.8]	(7.5)	—	長石・石英・雲母	灰・黄褐色	普通	体部内外面ナデ調整 内面半状工具による2条一単位の様目	覆土	5% 熱痕

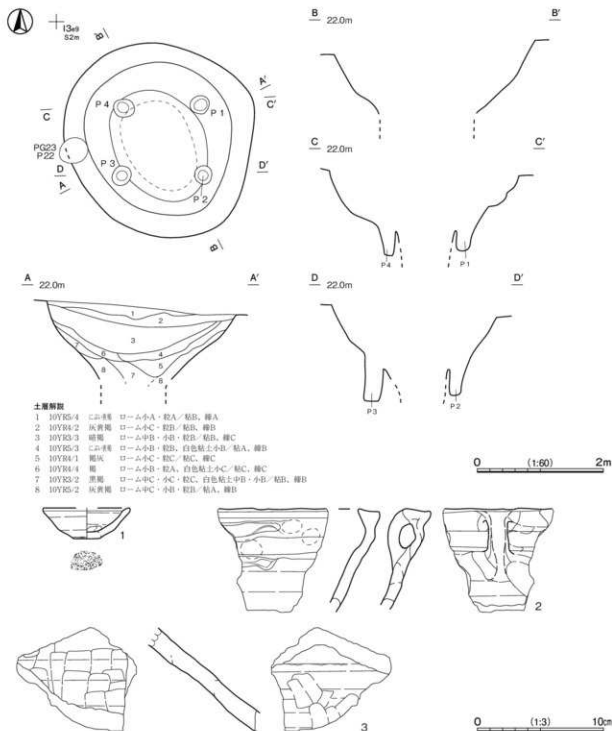
第67号井戸跡 (第169図 第94表 PL23)

位置 調査区C区中央部のI3e9区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第23号ピット群のP22～P24に掘り込まれている。

規模と形状 長径3.20m、短径2.96mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から100cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.84m、短径1.44mの楕円形で円筒状に掘り込んでいと推定できる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から110cmまでの調査とした。

ピット 4か所。P1～P4は長径0.28～0.34m、短径0.28～0.30mの円形で、確認面からの深さは120～



第169図 第67号井戸跡・出土遺物実測図

142cmである。柱穴の間隔は東西 1.30 m、南北 1.10 m で、配置から上屋の柱穴と考えられる。

覆土 8層を確認した。第1・2層は各層にローム粒子を均質に含むことから、自然堆積である。第3～8層は各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿1、播鉢1、内耳鍋4)、陶器1点(甕)が出土している。ほかに混入した土師器片1点が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。

第94表 第67号井戸跡出土遺物一覧(第169図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.4]	2.5	[2.0]	長石・石英・雲母	普通	ロクロナデ 底部回転あ切り 内面ナデ	覆土	5%
2	土師質土器	内耳鍋	-	(7.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	口縁部ナデ・内面耳部貼付け 体部内外面ナデ調整・拍頭痕	覆土	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	輪郭	産地	出土位置	備考
3	陶器	甕	-	(8.2)	-	細密・にぶい黒	体部内外面縦位ナデ		自然焼	常滑	覆土 5%

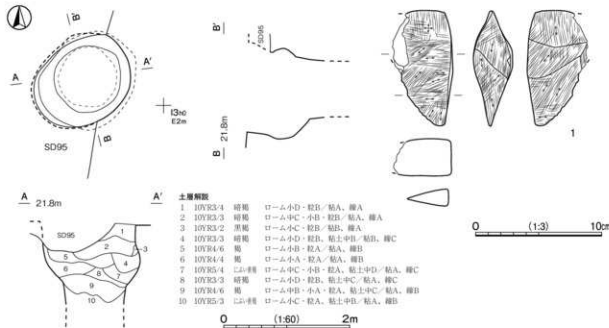
第69号井戸跡(第170図 第95表 PL23・62)

位置 調査区C区中央部のI3g0区、標高21mほどの低地部に位置している。

重複関係 第95号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.62m、短径1.22mの楕円形で、長径方向はN-33°-Eである。確認面から100cmまでは袋状を呈し、以下は長径1.06m、短径1.02mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から126cmまでの調査とした。

覆土 10層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。



第170図 第69号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)、石器1点(凝灰岩製砥石)が出土している。ほかに混入した土師器2点が出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、16世紀後半と考えられる。壁の上部が袋状を呈することから、崩落した可能性がある。

第95表 第69号井戸跡出土遺物一覧(第170図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	砥石	9.2	(4.9)	3.1	(12.77)	凝灰岩	砥面3面 表裏面・右側面多方向の研磨痕	覆土	PL62

第74号井戸跡(第171図 第96表 PL62)

位置 調査区C区中央部のI3c0区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

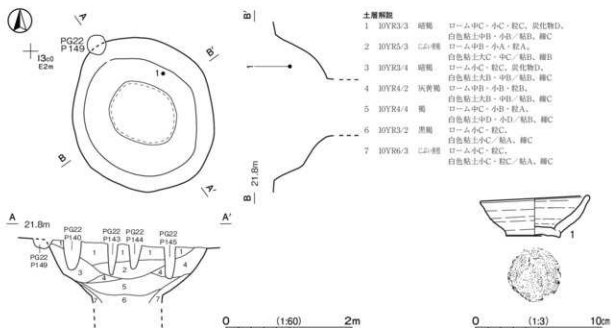
重複関係 第22号ピット群P140・P143～P145・P149に掘り込まれている。

規模と形状 長径256m、短径232mの楕円形で、長径方向はN-35°-Wである。断面形は漏斗状で、確認面から80cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.02m、短径0.94mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から90cmまでの調査とした。

覆土 7層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)が出土している。1は中央部北東寄りの覆土上層から、出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、さらに1.50m以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第171図 第74号井戸跡・出土遺物実測図

第96表 第74号井戸跡出土遺物一覧（第171図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	8.7	3.3	4.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL62

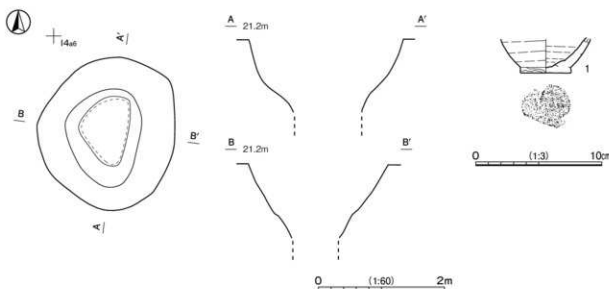
第76号井戸跡（第172図 第97表 PL23）

位置 調査区C区東部のI 4a6区、標高21 mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径2.40 m、短径2.18 mの楕円形で、長径方向はN-7°-Eである。断面形は漏斗状で、確認面から116cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.10 m、短径0.78 mの不整楕円形で、円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から120cmまでの調査とした。

遺物出土状況 土師器片5点（皿3、内耳鍋2）が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第172図 第76号井戸跡・出土遺物実測図

第97表 第76号井戸跡出土遺物一覧（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	-	(27)	4.0	長石・雲母	灰白	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・一方向ナデ	覆土	30%

第79号井戸跡（第173図 第98表 PL62）

位置 調査区C区東部のI 4f8区、標高21 mほどの低地部に位置している。

重複関係 第1003号土坑、第106号溝跡を掘り込んでいる。

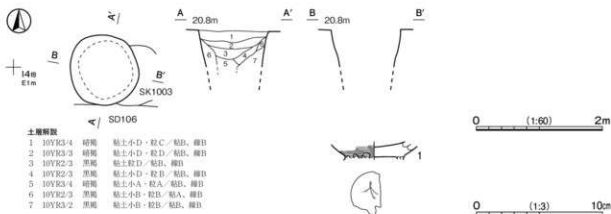
規模と形状 長径1.16 m、短径1.14 mの円形である。確認面から円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から52cmまでの調査とした。

覆土 7層を確認した。第1～4層は各層にローム粒子や粘土粒子を均質に含むことから、自然堆積である。第

5～7層は各層に粘土ブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 磁器片1点(染付碗)が出土している。

所見 時期は、出土土器から18世紀代と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、さらに1.50 m以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第173図 第79号井戸跡・出土遺物実測図

第98表 第79号井戸跡出土遺物一覧 (第173図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土・色調	特徴	検出	産地	出土位置	備考
1	磁器	碗	—	(1.4)	—	緻密・灰白	染付 底部外面圓内文・山水文・ 底部外面平花文	奈良 近明軸	奈良・平井系	覆土	5% PL62

第80号井戸跡 (第174・175図 第99表 PL62)

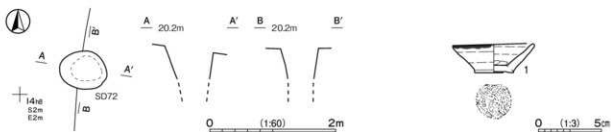
位置 調査区C区南東部の14h8区、標高20 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第72号堀跡を掘り込んでいる。

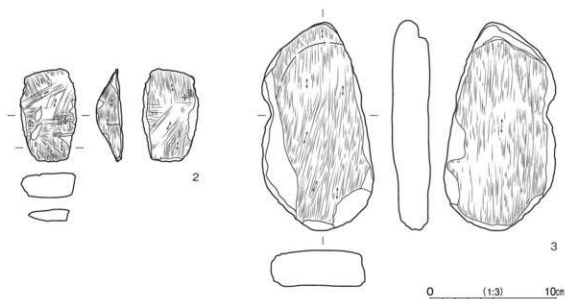
規模と形状 長径0.76 m、短径0.62 mの楕円形で、長径方向はN-80°-Wである。確認面から円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、48cmまでの調査とした。

遺物出土状況 土師質土器片9点(皿8、掻鉢1)、石器2点(凝灰岩製砥石、雲母片岩製砥石)が出土している。ほかに混入した須恵器片1点が出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から17世紀前葉以降と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、さらに1.50 m以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第174図 第80号井戸跡・出土遺物実測図



第175図 第80号井戸跡出土遺物実測図

第99表 第80号井戸跡出土遺物一覧(第174・175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.5	2.4	3.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	90% PL62 係付着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	砥石	7.4	(4.5)	2.2	(66.5)	凝灰岩	砥面3面 1面欠損	表面多方向の研磨痕	側面2方向の研磨痕	覆土	PL62
3	砥石	(16.6)	(9.0)	3.0	(63.6)	雲母片岩	砥面2面	表面2方向の研磨痕	表面1方向の研磨痕	覆土	PL62

第107号井戸跡(第176図 第100表 PL63)

位置 調査区C区西南部のK2a7区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

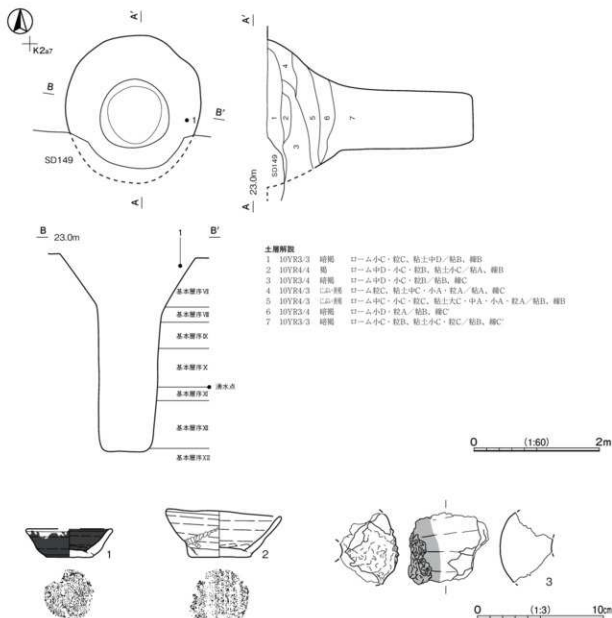
重複関係 第149号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は長径2.16m、短径2.06mである。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から100cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径1.10mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは326cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ230cmほどの基本層序第X層と基本層序第XI層の境付近で、底面は基本層序第XIII層の上面まで掘り込んでいる。

覆土 7層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片14点(皿8、内耳鍋6)、土製品1点(羽口)が出土している。ほかに混入した土師器片2点、須恵器片1点が出土している。1は南東部壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第176図 第107号井戸跡・出土遺物実測図

第100表 第107号井戸跡出土遺物一覧(第176図)

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	甕	[6.8]	2.3	3.8	長石・雲母	にぶ・黄褐色	普通	口クロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	60% 油煙付着
2	土師質土器	甕	9.1	3.8	4.8	金雲母・赤色粘土	にぶ・橙	普通	口クロナデ 体部外面に縄目圧痕 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	95% PL63

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
3	羽口	(6.4)	(5.5)	(5.8)	(104.87)	長石・石英・白色粘土	黄褐色 外面にぶ・黄褐色	先端部溶解ガラス化 外面ナデ	覆土	5%

第177图 第110号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片1点(甕)、石器1点(雲母片岩製砥石カ)が出土している。1は、中央部南東寄りの第6層から7層にかけて直立した状態で出土しており、投棄した際に突き刺さった可能性がある。

所見 時期は、出土土器や周辺の遺構の分布状況から室町時代から江戸時代の可能性がある。

第101表 第110号井戸跡出土遺物一覧(第177図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	砥石カ	(23.9)	(20.2)	8.0	(51.9g)	雲母片岩	上面鋭い研磨痕	第6・7層	保存者

第111号井戸跡(第178図 第102表 PL23・63)

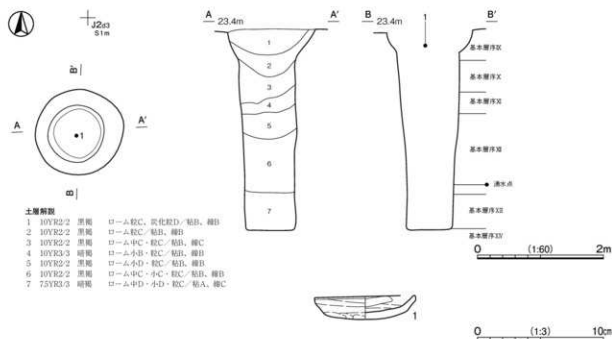
位置 調査区C区南西部のJ2d2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.40m、短径1.36mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から42cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径1.00m、の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは316cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ260cmほどの基本層序第Ⅹ層付近からで、底面は基本層序第Ⅹ層上面まで掘り込んでいる。

覆土 7層を確認した。第1・2層はローム粒子を含み、周囲から流入する堆積状況から、自然堆積である。第3～7層は各層にロームブロックを含み、層厚の堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片4点(Ⅲ2、内耳鍋2)が出土している。ほかに混入した土師器片1点、須恵器片1点が出土している。1は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。1は手捏ねによる成形であることから、北条氏系土器の影響を受けている可能性がある。



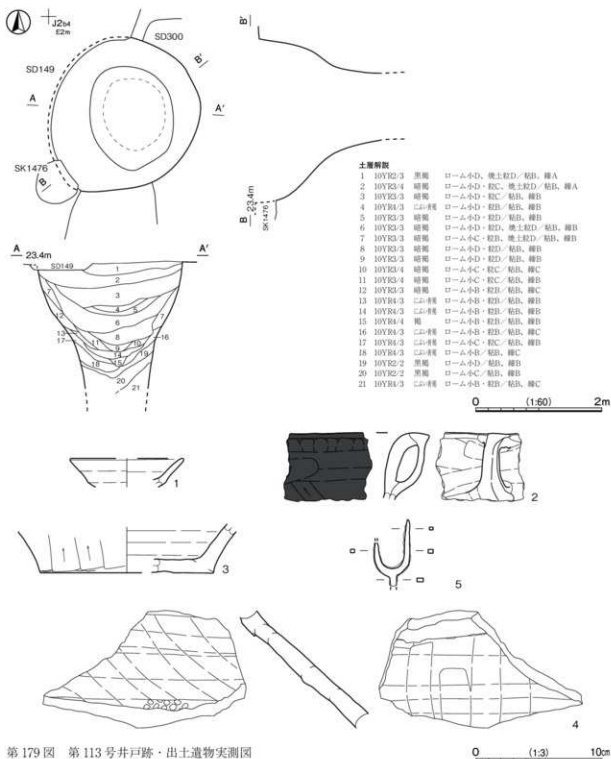
第178図 第111号井戸跡・出土遺物実測図

第102表 第111号井戸跡出土遺物一覧(第178図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師甕土器	甕	7.9	1.9	-	長石	橙	普通	手捏ね 口縁部横位ナデ 底部ナデ	覆土上層	100% PL63

第113号井戸跡(第179図 第103表 PL23・24・63)

位置 調査区C区南西部のJ2b4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。



第179図 第113号井戸跡・出土遺物実測図

重複関係 第300号溝跡を掘り込み、第149号溝に掘り込まれている。第1476号土坑との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は長径2.56m、短径2.28mである。平面形は楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。断面形は漏斗状で、確認面から120cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.62m、短径1.32mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から200cmまでの調査とした。

覆土 21層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片10点（皿1、内耳鍋9）、陶器片3点（片口鉢1、甕2）、金属製品1点（鉄鏃）、自然遺物18点（馬歯）が出土している。ほかに混入した土師器片6点、須恵器片2点、時期が異なる陶器片2点が出土している。馬歯は覆土上層から出土しているものの、遺存状態が悪く、詳細な出土状況は不明である。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。4は15世紀後半の甕片で混入と思われるが、伝世したものが廃棄された可能性もあるため、本跡に伴う遺物として掲載した。

第103表 第113号井戸跡出土遺物一覧（第179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[8.8]	(2.3)	-	長石・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ	覆土 5%
2	土師質土器	内耳鍋	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付けナデ 内面横位ナデ	覆土 5% 保存着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	軸差	産地	出土位置	備考
3	陶器	片口鉢	-	(3.9)	[13.8]	緻密・灰濁	体部外面縦位削り	無軸	常滑	覆土	5%
4	陶器	甕	-	(9.8)	-	緻密・にぶい赤褐	口縁横・斜位ナデ 内面縦・横位ナデ	自然軸	常滑	覆土	5% PL63

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	鉄鏃	(5.3)	2.8	0.3	6.40	鉄	縦設鏃 刃先端部一方欠損 鏃身部から基部・断面長方形	覆土	PL63

第114号井戸跡（第180図 第104表 PL24）

位置 調査区C区南部のJ34区、標高23mほどの台地部に位置している。

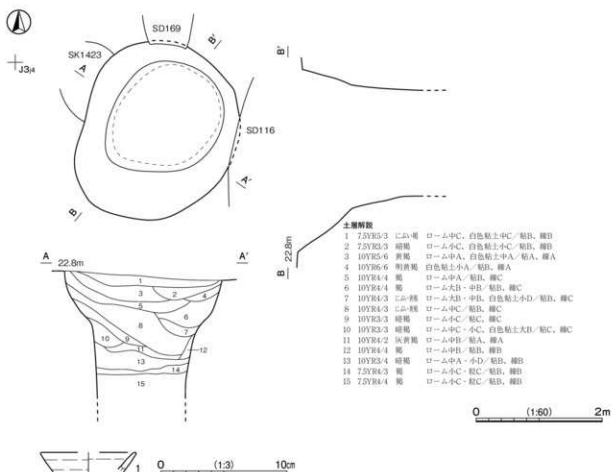
重複関係 第1423号土坑を掘り込んでいる。第116・169号溝跡との関係は、不明である。

規模と形状 長径2.92m、短径2.50mの楕円形で、長径方向はN-38°-Eである。断面形は漏斗状で、確認面から80cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径2.08m、短径1.70mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から200cmまでの調査とした。

覆土 15層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片4点（皿1、内耳鍋3）、陶器片1点（壺か）が出土している。ほかに混入した土師器片1点（甕）、須恵器片1点（杯）が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第180図 第114号井戸跡・出土遺物実測図

第104表 第114号井戸跡出土遺物一覧（第180図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	甕	〔7.6〕	〔1.6〕	—	長石・雲母	橙	普通	ロクロナデ	覆土	5%

第121号井戸跡（第181図 第105表 PL24）

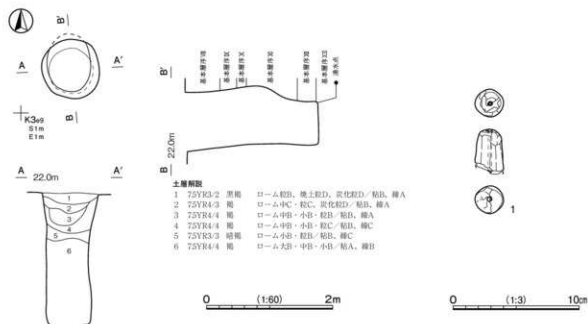
位置 調査区C区南部のK3e9区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.96m、短径0.92mの円形である。確認面から円筒状に掘り込んでいる。壁の中部は、崩落のため北壁が欠れている。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは210cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は底面で、基本層序第Ⅻ層の上位まで掘り込んでいる。

覆土 6層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片5点（甕）、土製品1点（管状土鍾）が出土している。

所見 時期は、出土土器から周辺の遺構の分布状況から室町時代から江戸時代の可能性がある。



第 181 図 第 121 号井戸跡・出土遺物実測図

第 105 表 第 121 号井戸跡出土遺物一覧 (第 181 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
1	管状土鉢	(3.6)	23	23	(17.15)	長石・石英	橙	全面ナデ 底部平滑 孔径 0.2~0.5cm・一方河か らの穿孔	覆土	

第 124 号井戸跡 (第 182 図 第 106 表 PL24・63)

位置 調査区 C 区南部の K 3a8 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

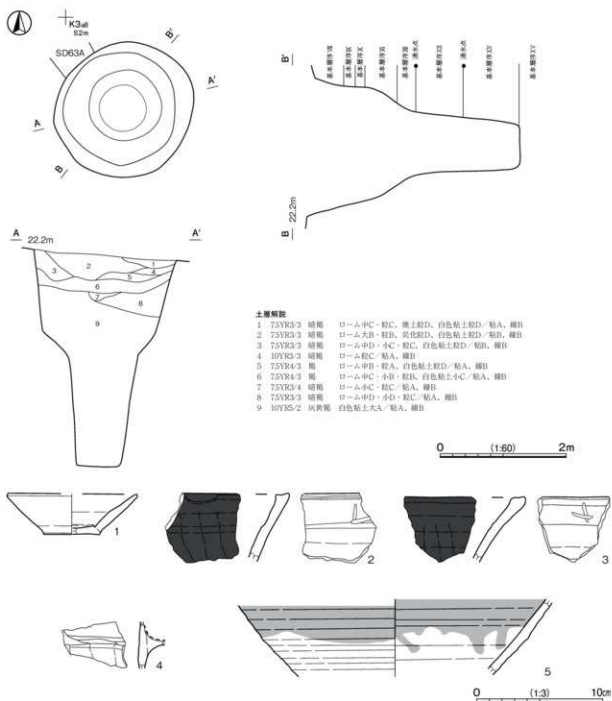
重複関係 第 63A 号溝跡との関係は不明である。

規模と形状 長径 2.28 m、短径 2.12 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 160 cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.14 m、短径 1.12 m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 335 cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 170 cm ほどの基本層序第 XII 層と基本層序第 XV 層の境付近と、深さ 250 cm ほどの基本層序第 XIII 層と基本層序第 XIV 層の境付近の 2 地点で、底面は基本層序第 XV 層上面まで掘り込んでいる。

覆土 9 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 22 点 (皿 3、搦鉢 4、内耳鍋 14、羽釜 1)、陶器片 1 点 (皿)、土製品 3 点 (羽口)、鉄滓 19 点 (253.72 g) が出土している。ほかに混入した土師器片 2 点が出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第 182 図 第 124 号井戸跡・出土遺物実測図

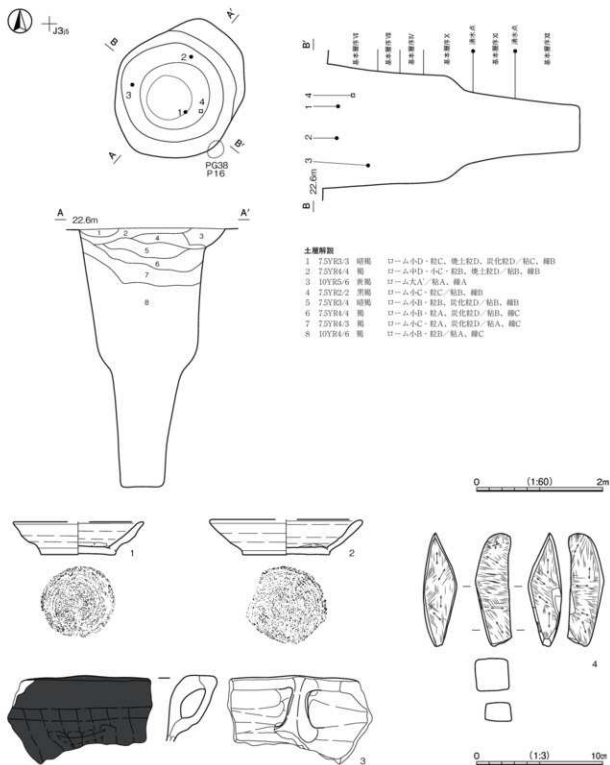
第 106 表 第 124 号井戸跡出土遺物一覧 (第 182 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	黒	[10.2]	3.3	[4.4]	長石・石英・赤色粒子	浅黄褐色	普通	口縁ナデ・底部回転糸切り	覆土	10%
2	土師質土器	内耳鍋	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口縁部ナデ・内面筋い返し・十のヘラ書き・体部外面筋いナデ・弱い縦位ナデ 内面筋位ナデ	覆土	5% PL63 保存着
3	土師質土器	内耳鍋	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部ナデ・内面筋い返し・十のヘラ書き・体部外面筋位ナデ・弱い縦位ナデ 内面筋位ナデ	覆土	5% 保存着
4	土師質土器	羽釜	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面筋位ナデ・肩部貼付け	覆土	5%
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	軸 轆	産 地	出土位置	備 考
5	陶器	黒	-	(6.0)	-	緻密・にぶい褐色	直縁大皿・口縁ナデ	ロクロ成形 内面ナデ	灰軸	瀬戸・美濃	覆土 5% PL63

第125号井戸跡 (第183図 第107表 PL24・63)

位置 調査区C区南部のJ35区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第38号ピット群P16との関係は、不明である。



第183図 第125号井戸跡・出土遺物実測図

規模と形状 長径 230 m、短径 200 m の楕円形で、長径方向は N-33°-E である。断面形は漏斗状で、確認面から 220cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.88 m、短径 1.10m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 408cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 240cm ほどの基本層序第 X 層と基本層序第 XI 層の境付近からと、深さ 310cm ほどの基本層序第 XI 層と基本層序第 XII 層の境付近の 2 地点で、底面は基本層序第 XII 層の下位まで掘り込んでいる。

覆土 8 層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 16 点（皿 2、内耳鍋 14）、陶器片 1 点（碗）、石器 2 点（凝灰岩製砥石、雲母片岩製砥石）が出土している。ほかに混入した土師器片 3 点、須恵器片 1 点が出土している。1・4 は中央部東寄り、2 は北壁寄り、3 西壁寄りの覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。

第 107 表 第 125 号井戸跡出土遺物一覧（第 183 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[102]	26	6.0	長石・石英・雲母・赤色砂子	橙	普通	口クロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	60% PL63
2	土師質土器	皿	[118]	28	6.8	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	口クロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	30%
3	土師質土器	内耳鍋	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・耳部筋付け・指頭痕 体部外面横位ナデ・底位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層	5% 係付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	砥石	90	27	28	76.34	凝灰岩	砥面 4 面 多方向の横磨痕	覆土上層	PL63

第 126 号井戸跡（第 184 図 第 108 表 PL24）

位置 調査区 C 区南部の J 3e6 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

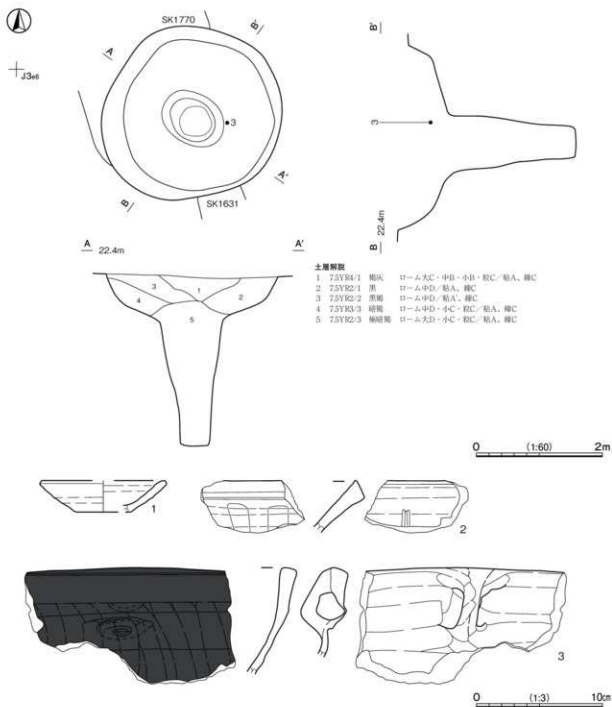
重複関係 第 1770 号土坑を掘り込んでいる。第 1631 号土坑との関係は、不明である。

規模と形状 長径 2.90 m、短径 2.76 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 70cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.04 m、短径 0.80m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 270cm で、底面は円形を呈し、平坦である。崩落の恐れがあったため、湧水点の確認はできなかった。

覆土 5 層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 25 点（皿 5、擂鉢 10、内耳鍋 10）、磁器片 1 点（染付皿）、石器 2 点（花崗岩製宝篋印塔）、雲母片岩片 1 点が出土している。ほかに混入した土師器片 8 点、須恵器片 4 点が出土している。3 は、中央部東寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



第 184 図 第 126 号井戸跡・出土遺物実測図

第 108 表 第 126 号井戸跡出土遺物一覧 (第 184 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師瓦土器	皿	[98]	25	[46]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロケロナデ 底部回転糸切り	覆土	20%
2	土師瓦土器	器跡	-	(41)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部積ナデ 体部外面弱い縦位ナデ 内面車状工具による3条一単位の間目	覆土	5%
3	土師瓦土器	内耳鍋	-	(93)	-	長石・石英・金雲母	にぶい黄	普通	口縁部積ナデ 器頭部 体部外面弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層	5% 保存者

第127号井戸跡 (第185図 第109表)

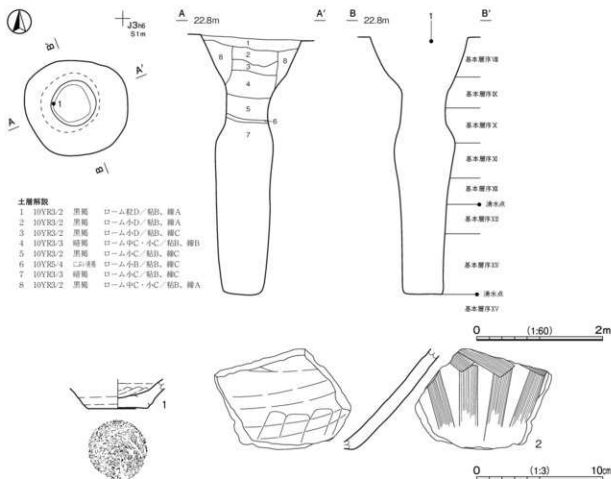
位置 調査区C区南部のJ3h5区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.66m、短径1.52mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から80cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.15m、短径1.10mの円筒状に掘り込んでいる。壁の中部は、崩落のため全面が壊れている。重機を使用して断り割り調査を実施した。確認面からの深さは408cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ270cmほどの基本層序第XII層と基本層序第XIII層の境付近と底面からで、基本層序第XV層の上面まで掘り込んでいる。

覆土 8層を確認した。第1層はローム粒子を含み、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第2～7層は各層にロームブロックを含み、筒状の堆積状況から、井筒を撤去した後の埋め戻しと考えられる。第8層はロームブロックを含む締まりの強い堆積状況であることから、井筒設置時の裏込めである。

遺物出土状況 土師質土器片17点(皿1、播鉢2、内耳鍋14)、瓦質土器片1点(播鉢)、石器1点(安山岩製石臼)、雲母片岩片1点が出土している。1は、中央部西寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



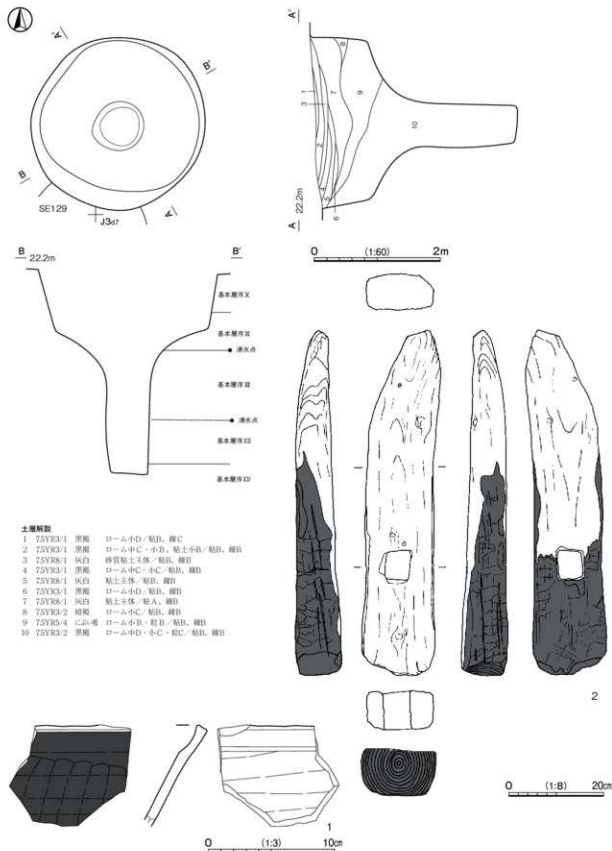
第185図 第127号井戸跡・出土遺物実測図

第109表 第127号井戸跡出土遺物一覧 (第185図)

番号	種別	図様	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	—	(23)	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	30%
2	瓦質土器	播鉢	—	(8.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面弱い縦位ナデ 内面へら状工具による11番一単位の様目	覆土	5% 被熱痕

第130号井戸跡 (第186図 第110表 PL24・63)

位置 調査区C区南部のJ3c7区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。



第186図 第130号井戸跡・出土遺物実測図

重複関係 第129号井戸跡との関係は、不明である。

規模と形状 長径2.82m、短径2.72の円形である。断面形は逆凸字状で、確認面から90cmまではほぼ垂直に掘り込み、以下は漏斗状に掘り込んでいる。円筒状の掘り込み口は径0.80mである。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは320cmほどで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ110cmほどの基本層序第Ⅺ層と基本層序第Ⅻ層の境付近と、深さ220cmほどの基本層序Ⅻ層と基本層序第Ⅼ層の境付近からで、底面は基本層序第Ⅻ層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 10層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器質土片3点（鐏鉢1、内耳鍋2）、木製品1点（部材）が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。

第110表 第130号井戸跡出土遺物一覧（第186図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	—	(8.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ・浅い返し底形・体部外面弱い縦位ナデ・内面横位ナデ	覆土	5%探着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	器種	特徴			出土位置	備考
2	部材	(72.8)	17.0	10.0	—	—	芯持ち材 切り出し・側加工 7.2cm×5.2cmのホゾ加工			覆土	PL63 照像による写

第131号井戸跡（第187図 第111表）

位置 調査区C区南部のJ3b6区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第143号井戸跡を掘り込み、第1828・1908・1913号土坑に掘り込まれている。第1830・1841・1894号土坑との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は南北径2.26m、東西径2.28mである。平面形は円形と推定できる。断面形は緩やかな漏斗状で、確認面から170cmまでは逆門錐状に掘り込み、以下は長径2.00m、短径1.78mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは326cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ200cmほどの基本層序第Ⅺ層と基本層序第Ⅻ層付近で、底面は基本層序第Ⅻ層の途中まで掘り込んでいる。

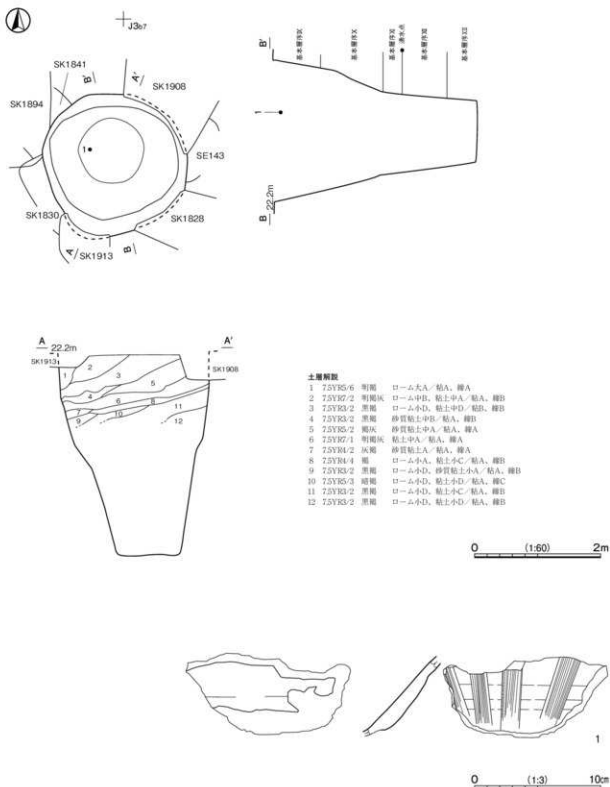
覆土 12層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片8点（Ⅲ1、鐏鉢5、内耳鍋2）、瓦質土器片1点（鐏鉢）、陶器片1点（甕）、花崗岩片3点（1.515.55g）が出土している。1は中央部西寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

第111表 第131号井戸跡出土遺物一覧（第187図）

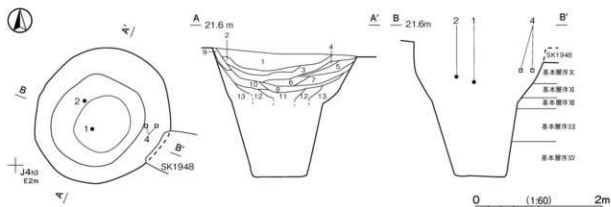
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	瓦質土器	鐏鉢	—	(6.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面横位ナデ・内面横位ナデ・板状工具による12条一単位位の條目	覆土上層	5%探着



第 187 図 第 131 号井戸跡・出土遺物実測図

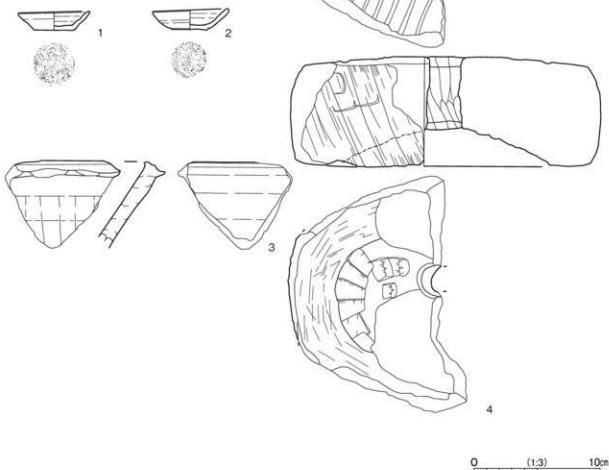
第 132 号井戸跡 (第 188 図 第 112 表 PL24・63)

位置 調査区 C 区南東部の J 4 g3 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。



土層解説

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| 1 75YK3/3 暗褐色 | ローム粒C、白色粘土大D/粘B、礫目 |
| 2 75YK2/1 黒 | ローム粒D/粘B、礫目 |
| 3 75YK2/2 黒褐色 | ローム中D・小C・粒D、白色粘土小D/粘A、礫目 |
| 4 75YK2/1 黒 | ローム小D・粒D、粘B、礫目 |
| 5 75YK3/3 暗褐色 | ローム小D・粒D、白色粘土小D/粘B、礫目 |
| 6 75YK3/4 暗褐色 | ローム大D、白色粘土大A・中B・小B/粘B、礫目 |
| 7 75YK2/2 黒褐色 | ローム小C・粒D、白色粘土中B/粘B、礫目 |
| 8 75YK4/1 黄褐色 | ローム小C・粒D、白色粘土中B・小B/粘A、礫目 |
| 9 75YK3/3 暗褐色 | ローム粒D、白色粘土粒D/粘B、礫目 |
| 10 75YK6/1 灰褐色 | 白色粘土大A/粘A、礫目 |
| 11 75YK3/3 暗褐色 | ローム小D・粒D、白色粘土中B・小C・砂C/粘A、礫目 |
| 12 75YK2/1 黒 | ローム粒D、白色粘土中B・小B/粘A、礫目 |
| 13 75YK3/3 暗褐色 | ローム小D・粒D、白色粘土中C/粘A、礫目 |



第188図 第132号井戸跡・出土遺物実測図

重複関係 第1948号土坑との関係は、不明である。

規模と形状 長径2.18m、短径2.06mの楕円形で、長径方向はN-40°-Eである。断面形は漏斗状で、確認面から90cmまではほぼ垂直に掘り込み、以下は長径1.40m、短径1.30mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは210cmで、底面は楕円形を呈し、平坦である。基本層序第XIV層の途中まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 13層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片82点（皿33、搥鉢18、鉢11、内耳鍋20）、陶器片1点（搥鉢）、磁器片1点（青磁碗）、石器2点（安山岩製石臼、砂岩製砥石）が出土している。ほかに混入した土師器片6点、須恵器片1点、磁器片1点、石器1点が出土している。1は中央部西寄り、2は中央部北西寄り、4は東壁際の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。小片のため図示できなかったが、磁器片は14世紀代の竈連弁文を施した青磁碗で、伝製品の廃棄や混入と考えられる。

第112表 第132号井戸跡出土遺物一覧（第188図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	地成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	5.6	1.6	3.3	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	明赤釉	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り、一方向のナデ	覆土上層	100% PL63
2	土師質土器	皿	6.0	1.8	2.8	長石・石英・雲母	にぶい釉	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	100% PL63

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
3	陶器	片口鉢	—	(6.9)	—	麻密・橙	緑部模ナデ 内面磨面	体部外面黄い板瓦ナデ	自然釉	常滑	覆土 5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	石臼	(25.0)	(19.2)	11.7	(6.12g)	安山岩	下臼 上面半通1条に見びる縦溝7条の窪み 上臼 上縁茎状突起 腹面縦溝・凹み 輪孔周面からの穿孔	下底面厚砂・掘り 覆土上層	PL63

第134号井戸跡（第189図 第113表）

位置 調査区C区南部のJ3a8区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

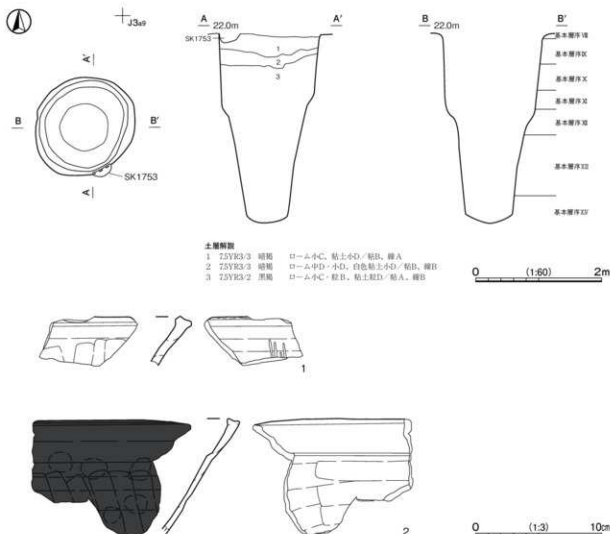
重複関係 第1753号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.68m、短径1.56mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から130cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.34m、短径1.24mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは298cmで、底面は円形を呈し、皿状に窪んでいる。湧水点は、深さ200cmほどの基本層序第XIV層と基本層序第XV層付近で、底面は基本層序第XIV層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 3層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、層厚ではほぼ平坦な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片33点（搥鉢1、内耳鍋32）が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第 189 図 第 134 号井戸跡・出土遺物実測図

第 113 表 第 134 号井戸跡出土遺物一覧 (第 189 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	指鉢	—	(3.9)	—	長石・石英・雲母	に灰・黄褐色	普通	口縁部横ナデ・体部外面弱い縦位ナデ・内面横位ナデ・腰曲状工具による4条の線目	覆土	5% 口縁部破損直
2	土師質土器	内耳罎	—	(9.1)	—	長石・石英・雲母	に灰・赤褐色	普通	口縁部横ナデ・指鉢前・浅い返し成形・体部外面弱い縦位ナデ・内面横位ナデ	覆土	5% 破片着

第 136 号井戸跡 (第 190 図 第 114 表 PL64)

位置 調査区 C 区南部の J 3 b9 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1738 号土坑を掘り込んでいる。第 1811 号土坑、第 41 号ビット群 P 59 との関係は、不明である。

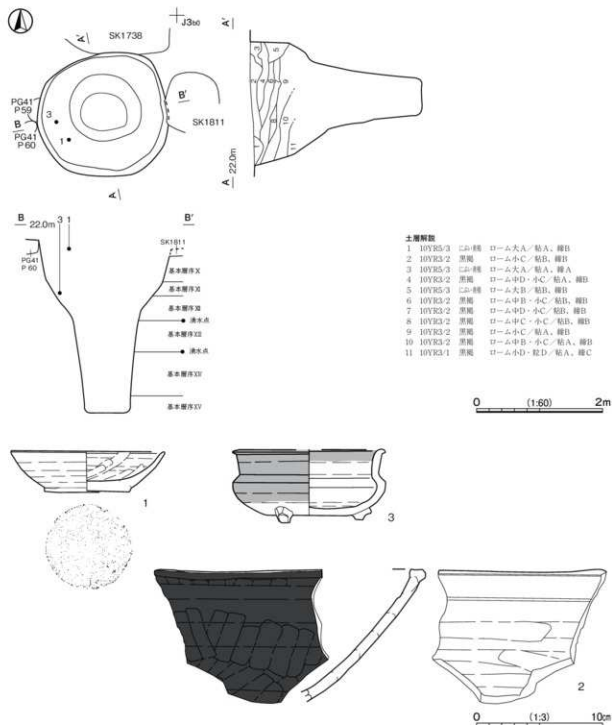
規模と形状 長径 2.08 m、短径 1.98 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 120 cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 1.00 m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 270 cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 90 cm ほどの基本層序第 XII 層と基本層序第 XIII 層の境付近と、深さ 150 cm ほどの基本層序第 XII 層と基本層序第 XIII 層の境付近の 2 点からで、底面は基本

層序第XV層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 11層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿1、内耳鍋1）、陶器片1点（腰筒形香炉）が出土している。1は南西壁寄りの覆土上層から、3は西壁際の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。3は15世紀前葉の香炉であることから伝製品と考えられ、本跡の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。



第190図 第136号井戸跡・出土遺物実測図

第114表 第136号井戸跡出土遺物一覧(第190図)

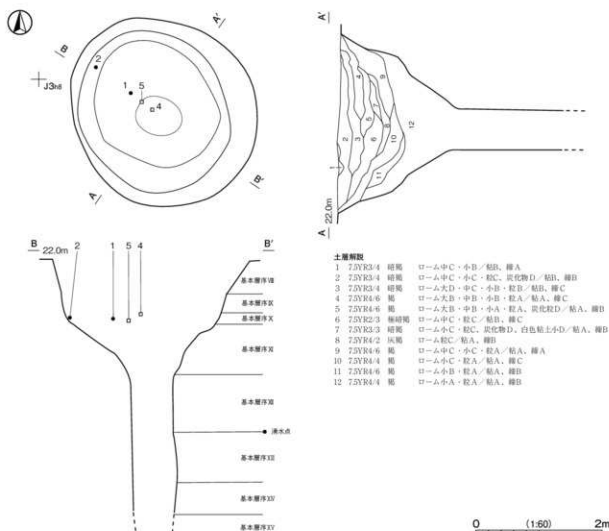
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	121	3.4	6.8	長石・石英・黒雲母・赤色粒子	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	80% PL64
2	土師質土器	内耳鍋	-	(106)	-	長石・石英・黒雲母・赤色粒子	赤陶	口縁部横ナデ・浅い流し成形 体部弱い縦位ナデ	覆土	5% 埋付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
3	陶器	腰持形各片	[112]	59	[72]	緻密・灰白	ロクロ成形 底部回転糸切り・脚部貼付け 溝け削け	灰軸	瀬戸・美濃	覆土中層	50% PL64

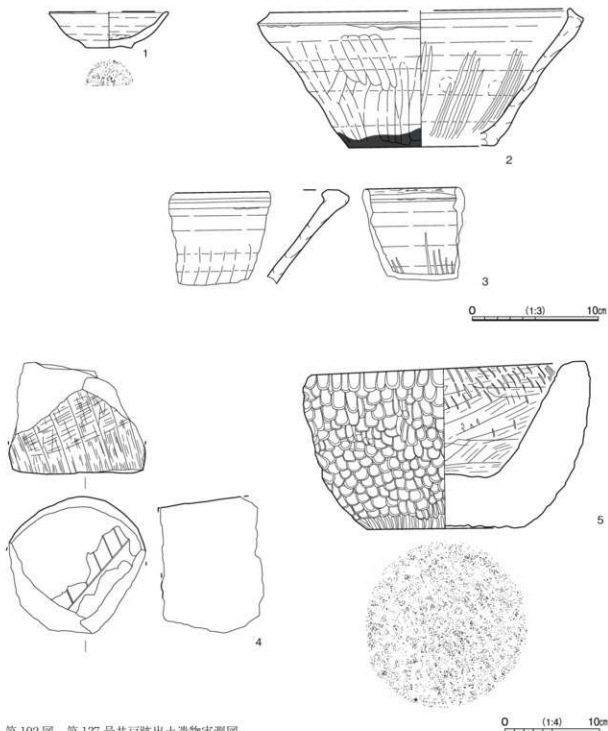
第137号井戸跡(第191・192図 第115表 PL25・64)

位置 調査区C区南部のJ3h8区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径3.12m、短径2.88mの楕円形で、長径方向はN-52°-Wである。断面形は漏斗状で、確認面から120cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径0.80mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して安全に断ち割り調査を実施したが、確認面から深さ400cmまでの調査とした。湧水点は、深さ360cmほどの基本層序第Ⅻ層と基本層序第Ⅺ層の境付近からである。



第191図 第137号井戸跡実測図



第 192 図 第 137 号井戸跡出土遺物実測図

覆土 12層を確認した。各層にロームブロックやローム粒子、粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 51 点（皿 1、播鉢 6、内耳鍋 43、甕 1）、石器 5 点（安山岩製石臼 1、安山岩製茶臼 1、花崗岩製槌臼 1、凝灰岩製砥石 1、砂岩製砥石 1）、雲母片岩片 3 点（888.50g）、金属製品 1 点（不明）が出土している。ほかに混入した土師器片 22 点、須恵器片 1 点が出土している。1・4・5 は中央部周辺、2 は北西壁際の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。

第115表 第137号井戸跡出土遺物一覧(第192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	甕	[9.2]	29	3.7	長石・石英・金 赤鉄・赤色粘土	橙	普通	口クロナデ 底部回転糸切り・内面ナデ	甕土上層	30%
2	土師質土器	甕鉢	[23.8]	10.8	[11.6]	長石・石英・金 赤鉄・赤色粘土	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦位ナデ 内面横 面状工具による5条1単位の掻目	甕土上層	20% PL64 埋付着
3	土師質土器	甕鉢	-	[7.4]	-	長石・石英・金 赤鉄・赤色粘土	にぶい赤黒	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦位ナデ 内面横 面状工具による7条の掻目	甕土上層	5% PL64 口縁部に縦位着

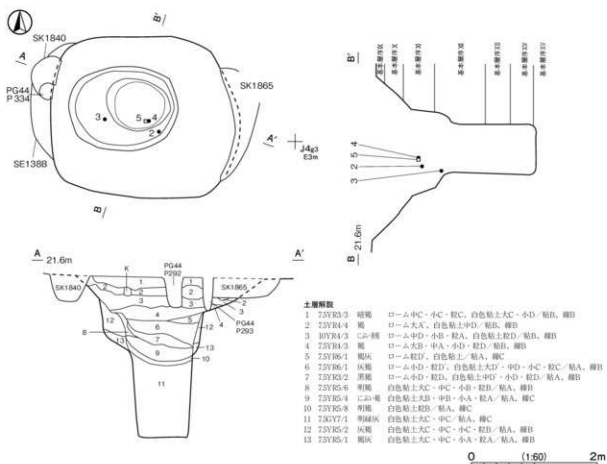
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	紫白	[14.5]	[14.5]	[11.9]	[2.0kg]	安山岩	上白 上面破損 下面破損のため篠目条数不明 無面2方向の 研磨痕	甕土上層	PL64 被覆痕
5	紫白	28.9	16.5	16.8	16.6kg	花崗岩	口縁部上面研磨 縦磨痕・削り痕	甕土上層	PL64

第138A号井戸跡(第193・194図) 第116表 PL25・64)

位置 調査区C区南東部のJ 4区3区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第138B号井戸跡を掘り込み、第1840・1865号土坑、第44号ピット群P 292・293に掘り込まれている。第44号ピット群P334との関係は、不明である。

規模と形状 長軸2.95m、短軸2.55m、深さ68cmの隅丸長方形の掘り込み内に、長径1.72m、短径1.35mの楕円形を呈している。長径方向はN-90°である。断面形は漏斗状と推定でき、確認面から118cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.04m、短径0.82mの円筒状に掘り込んでいく。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは254cmで、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第XIV層の上面まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

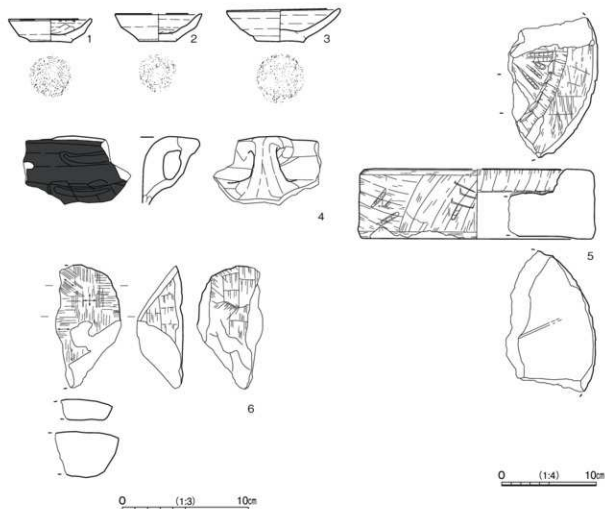


第193図 第138A号井戸跡実測図

覆土 13層を確認した。第1～11層は井筒を抜き取った後の堆積土で、粘土ブロックを多く含むことから人為堆積である。このうち第1～4層は掘り込みの埋め戻しに伴う覆土で、井筒の抜き取りの際に周辺を掘り込んだ痕跡と考えられる。第12・13層は、井筒を設置した際の埋め土である。

遺物出土状況 土師質土器片40点（皿15、播鉢7、内耳鍋18）、陶器片1点（甕）、石品4点（安山岩製石臼1、凝灰岩製砥石2、砂岩製砥石1）、凝灰岩片5点（161.81g）、砂岩片1点（882.29g）、鉄滓1点（12.66g）が出土している。ほかに混入した土師器片2点、須恵器片4点が出土している。2は南西壁際、3は中央部南西寄り、4・5は中央部南東寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第194図 第138A号井戸跡出土遺物実測図

第116表 第138A号井戸跡出土遺物一覧（第194図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.6	1.9	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転赤切り 内面ナデ	覆土	100% PL64 油膜付着
2	土師質土器	皿	6.8	2.2	3.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	に濃い黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転赤切り 内面ナデ	覆土中層	80%
3	土師質土器	皿	8.9	2.7	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転赤切り 内面ナデ	覆土中層	90% PL64 直熱底
4	土師質土器	内耳鍋	-	(27)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	上縁部横ナデ・耳部貼付け・指頭痕 体部外面 弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土中層	5% 僅付着

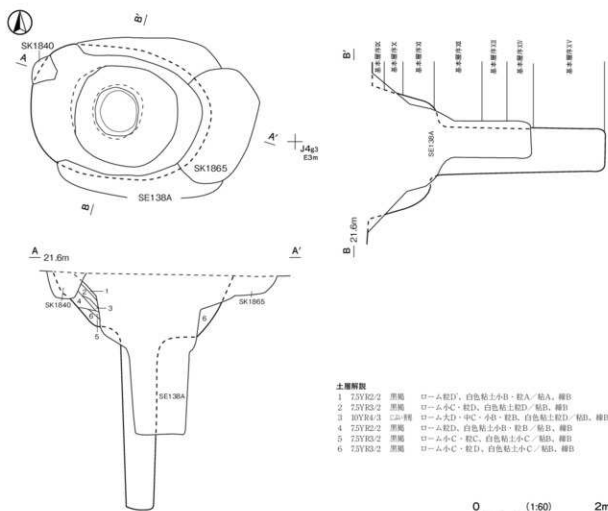
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
5	石臼	(149)	(95)	7.4	(129g)	安山岩	上臼 上面土縁部研磨痕・周り痕・窪部周り痕 側面研磨痕・周り痕 下面磨減	甕土中層	
6	砥石	(102)	(3.2)	(3.7)	(161g)	凝灰岩	砥面上面 表面多方向の研磨痕 裏面・側面周り痕	甕土中層	

第138B号井戸跡（第195図 PL25）

位置 調査区C区南東部のJ 4区、標高21 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第138A号井戸、第1840・1865号土坑に掘り込まれている。第44号ビット群P334との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は長径2.90 m、短径1.88 mである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN-72°-Wである。断面形は漏斗状と推定でき、確認面から95 cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は推定長径0.86 m、推定短径0.76 mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断割り調査を実施した。確認面からの深さは372 cmで、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第XV層の底面まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。



第195図 第138B号井戸跡実測図

覆土 6層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

所見 時期は、重複関係から16世紀前半以前と考えられる。

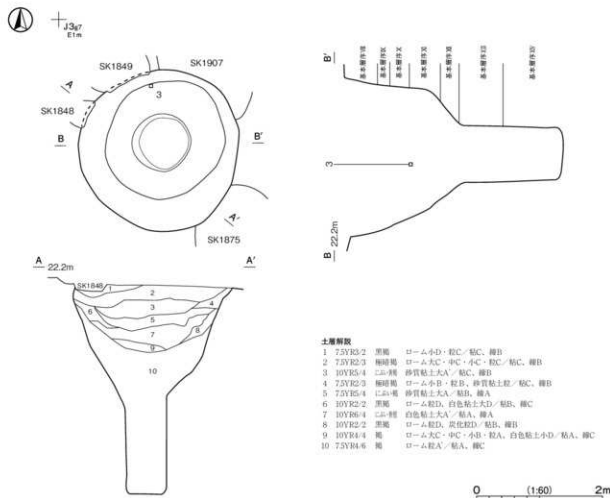
第140号井戸跡 (第196・197図 第117表 PL25・64)

位置 調査区C区南部のJ3g7区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1875・1907号土坑を掘り込み、第1848・1849号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複しているが、長径2.54m、短径2.52mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から170cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径0.96mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断り割り調査を実施した。確認面からの深さは332cmで、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第XIV層の途中まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

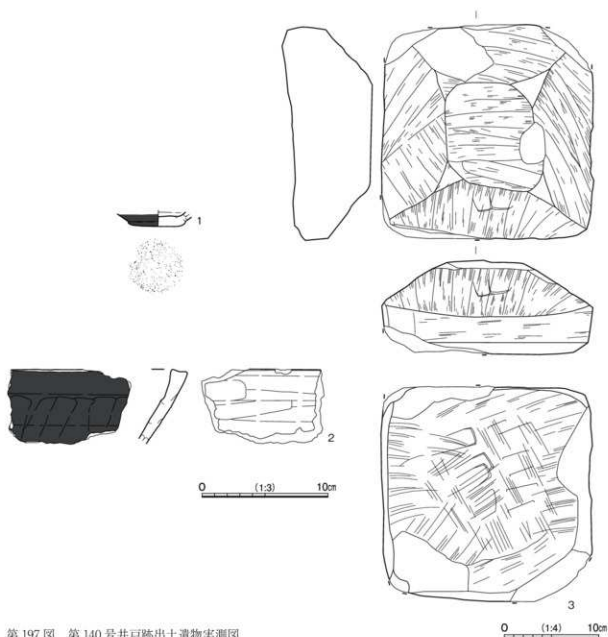
覆土 10層を確認した。各層にはロームブロックや粘土ブロックを含む層位が多く、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。



第196図 第140号井戸跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 10 点（捏鉢 1、内耳鍋 9）、石製品 1 点（花崗岩製五輪塔）、雲母片岩片 1 点（13.880 g）が出土している。ほかに混入した須恵器片 1 点が出土している。3 は、北壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



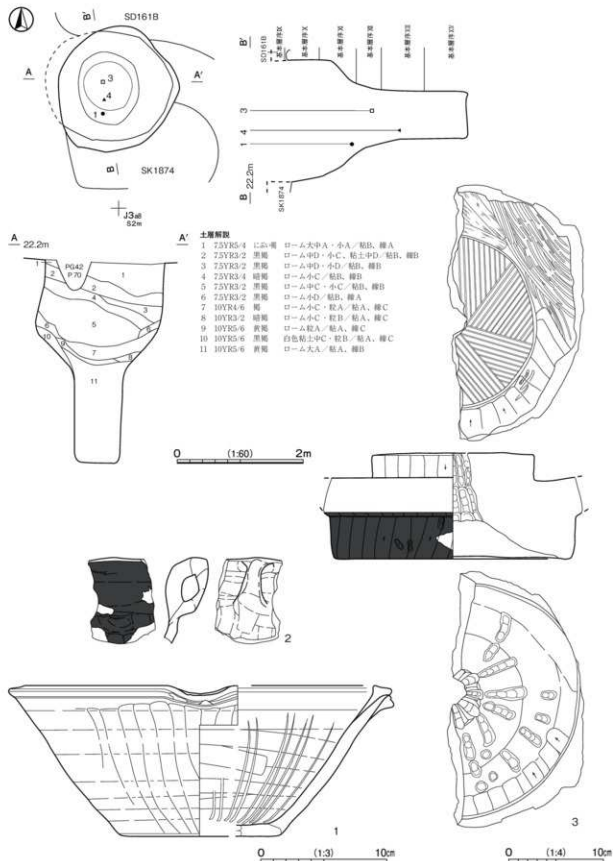
第 197 図 第 140 号井戸跡出土遺物実測図

第 117 表 第 140 号井戸跡出土遺物一覧（第 197 図）

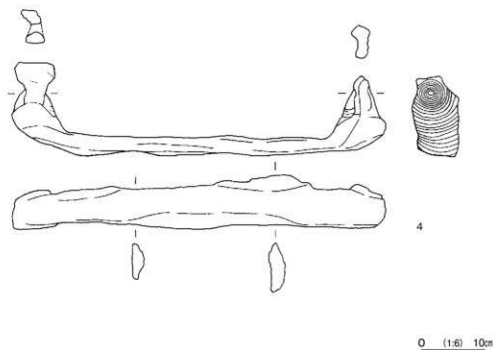
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	-	(1.3)	4.1	長石・石英・雲母	灰青褐色	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	20% 漆喰付着
2	土師質土器	内耳鍋	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	褐色	普通	口縁部硝子ナデ、浅い返し成形 底ナデ 内面硝子ナデ	覆土	5% 漆喰付着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
3	五輪塔	226	224	99	3050g	花崗岩	大輪 上面一方向の縦磨痕・側面多方向の縦磨痕・下層部横位の縦磨痕 小輪 上面一方向の縦磨痕・側面多方向の縦磨痕・下層部横位の縦磨痕			覆土上層	PL64

第141号井戸跡 (第198・199図 第118表 PL25・64・65)

位置 調査区C区中央部のJ3a8区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。



第198図 第141号井戸跡・出土遺物実測図



第199図 第141号井戸跡出土遺物実測図

重複関係 第42号ピット群P70に掘り込まれている。第1874号土坑、第161B号堀跡との関係は、不明である。

規模と形状 長径2.00m、短径1.90mの不整な円形である。断面形は確認面から86cmまではほぼ垂直に、以下は漏斗状に掘り込んでいる。円筒状の掘り込み口は径0.78mである。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは320cmで、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第Ⅹ層まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 11層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片4点（播鉢1、内耳鍋3）、石器1点（安山岩製茶臼）、木製品1点（不明）が出土している。1・3・4は中央部周辺の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

第118表 第141号井戸跡出土遺物一覧（第198・199図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	播鉢	[278]	119	[120]	長石・石英・雲母・赤色粒子	に、灰・赤褐色	普通	口縁部破片ナデ・片口成形 体部弱い破片ナデ・内面破片ナデ・車状工具による2条一単位の様目	覆土中層	10% PL64
2	土師質土器	内耳鍋	-	(69)	-	長石・石英・雲母	に、白・黄褐色	普通	口縁部破片ナデ・耳部破片ナデ・指頭痕 体部外面弱い破片ナデ・内面破片ナデ	覆土	5% 産白着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
3	茶臼	(270)	(145)	11.2	(479g)	安山岩	下白 上面8～13条一単位の縦目 断面部縦目痕・一部に横目痕	下黒 下面縦目・叩き痕 断面縦目痕	交直部縦目痕・一部に横目痕	覆土中層	PL65 産白着・産白着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	器種	特徴			出土位置	備考
4	不明品	99.2	15.0	8.6	-	マブ科マブ属 二葉松製	芯持ち材 切り出し・削り加工			覆土中層	PL65

第142号井戸跡 (第200～202図 第119表 PL25・26・65・66)

位置 調査区C区南部のJ3g8区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

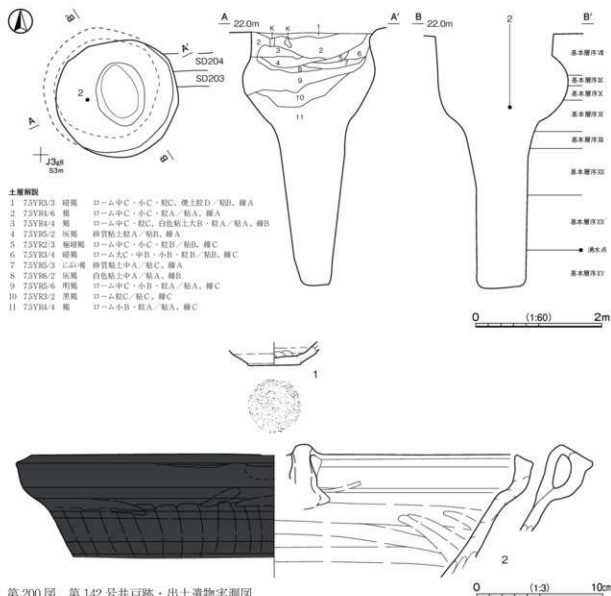
重複関係 第203・204号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.88m、短径1.76mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から130cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.00m、短径0.76mの円筒状に掘り込んでいる。壁の上部は、崩落のため西側半部が壊れている。重機を使用して断り割り調査を実施した。確認面からの深さは400cmで、底面は楕円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ340cmほどの基本層序第XV層と基本層序第XIV層の境付近からで、底面は基本層序第XV層の途中まで掘り込んでいる。

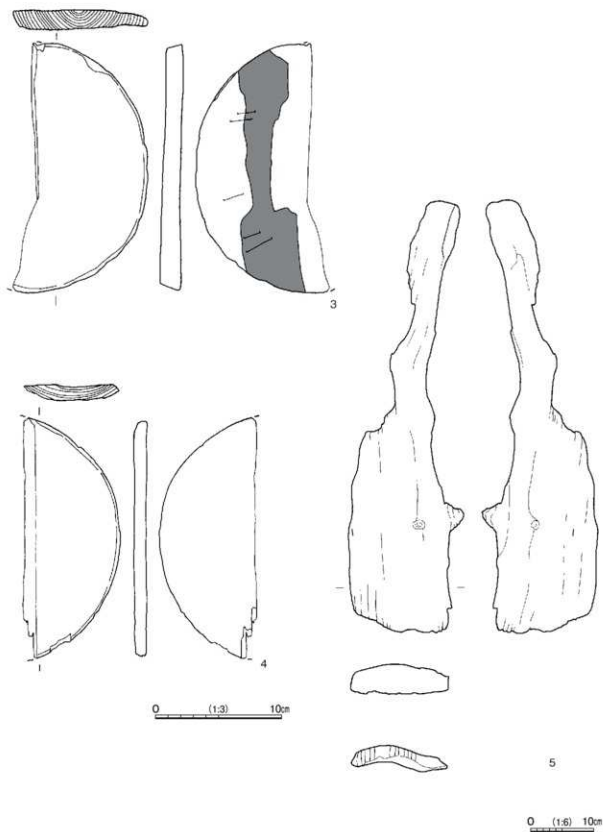
覆土 11層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片12点(皿2、鏃鉢1、内耳鍋9)、木製品4点(曲物2、不明品2)が出土している。ほかに混入した土師器片2点が出土している。2は、中央部西寄りの覆土中層から出土している。

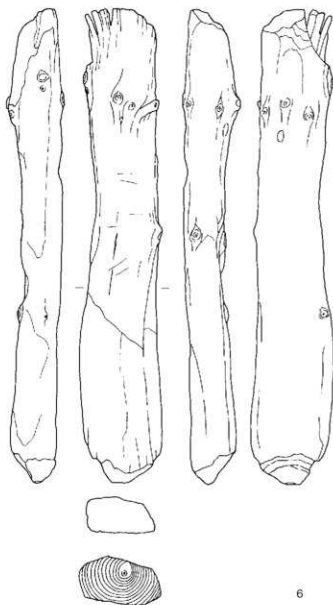
所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第200図 第142号井戸跡・出土遺物実測図



第 201 図 第 142 号井戸跡出土遺物実測図(1)



6

0 1.6 10cm

第 202 図 第 142 号井戸跡出土遺物実測図(2)

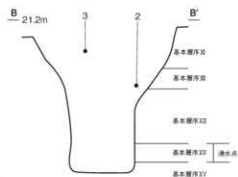
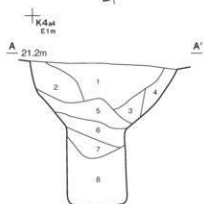
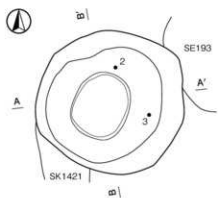
第 119 表 第 142 号井戸跡出土遺物一覧 (第 200 ~ 202 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土胎質土器	甗	-	(19)	[42]	長石・石英・重母・赤色粒子	橙	普通	ロケロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土	29%
2	土胎質土器	内耳鍋	[38.4]	(97)	-	長石・石英・重母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け・深い返し底形 体部外面筋い・縦筋ナデ 内面横筋ナデ	覆土中層	21% PL66 漆台香

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
3	漆物	198	-	1.6	-	-	板目 重板々 切り出し・削り加工 外面削り痕	覆土	PL65 漆位置々
4	漆物	(19.1)	-	1.2	-	-	板目 底板々 切り出し・削り加工 内外面劣化	覆土	
5	不明品	68.2	18.2	4.8	-	-	板目 切り出し・削り加工 一部腐食	覆土	PL65
6	不明品	75.0	13.2	9.0	-	-	芯持ち材 切り出し・削り加工 一部未加工	覆土	PL65

第 145 号井戸跡 (第 203 図 第 120 表 PL26・66)

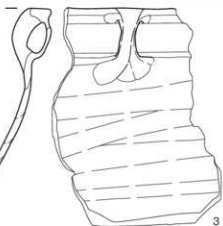
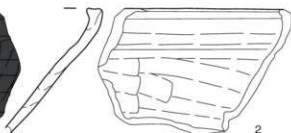
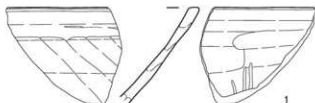
位置 調査区 C 区南東部の J 4 j4 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。



土層解説

- | | | | |
|---|----------|------|--|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム大C・中B・小A・粒D、白色粘土大A・中A・小A・粒C / 粘A、雜A |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム大C・中B・小A・粒D、白色粘土大A・中A・小A・粒C / 粘A、雜A |
| 3 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | ローム大C・中B・小A・粒D、白色粘土大A・中A・小A・粒C / 粘A、雜A |
| 4 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム大C・中C・小A・粒D、白色粘土大A・中A・小A・粒C / 粘A、雜A |
| 5 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | ローム大C・中B・小A・粒D、白色粘土大A・中A・小A・粒C / 粘A、雜B |
| 6 | 10YR5/4 | 灰色 | 白色粘土中B・粒A・雜C |
| 7 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | 黄褐色粘土粒A / 粘A、雜C |
| 8 | 2.5Y4/1 | 黄褐色 | 黄褐色土層、粘土粒A / 粘A、雜C |

0 (1:50) 2m



0 (1:3) 10cm

第 203 図 第 145 号井戸跡・出土遺物実測図

重複関係 第193号井戸跡を掘り込んでいる。第1421号土坑との関係は不明である。

規模と形状 長径228m、短径220mの円形で、断面形は漏斗状である。確認面から110cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.10m、短径0.90mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは228cmで、底面は楕円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ190cmほどの基本層序第XIV層中からで、底面は基本層序第XV層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 8層を確認した。1～7層はロームブロックや粘土ブロックを多量に含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。第8層は木片などを含む腐食土層である。

遺物出土状況 土師質土器片54点（播鉢7、内耳鍋33、甕14）、陶器片2点（大皿、甕）が出土している。2は北壁際の覆土中層から、3は中央部東壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。4は15世紀後葉の古瀬戸の大皿の破片であることから、伝製品の廃棄や混入と考えられる。

第120表 第145号井戸跡出土遺物一覧（第203図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	地肌	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	播鉢	—	(77)	—	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい腔 普通	口縁部横ナデ・内面横ナデ・器底状工具による3本の線目	覆土	5%
2	土師質土器	内耳鍋	—	(100)	—	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	明赤釉 普通	口縁部横ナデ・浅い返し成形 内面横ナデ	覆土中層	5% PL66 保付着
3	土師質土器	内耳鍋	—	(173)	—	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	明赤釉 普通	口縁部横ナデ・浅い返し成形 内面横ナデ	覆土上層	10% 保付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	地肌	産地	出土位置	備考
4	陶器	大皿	—	(60)	—	磁青・灰白	口縁口成形 遺り掛け	灰釉	瀬戸・美濃	覆土	5%

第147号井戸跡（第204図 第121表 PL26）

位置 調査区C区南東部のJ44区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1974号土坑、第44号ビット群P489・P490・P502・P503・P509・P510に掘り込まれている。

規模と形状 径224mの円形で、断面形は漏斗状である。確認面から80cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径90mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは250cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ140cmほどの、基本層序第XIII層と基本層序第XIV層の境付近と、深さ200cmほどの基本層序第XIV層と基本層序第XV層の境付近の2地点からで、底面は基本層序第XIV層まで掘り込んでいる。

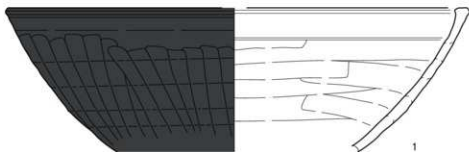
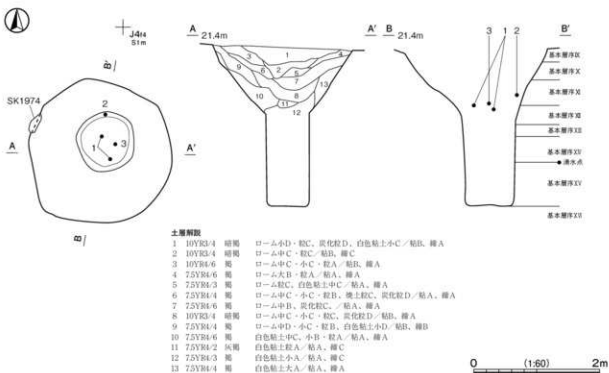
覆土 13層を確認した。各層にロームブロックや白色粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片15点（内耳鍋）、雲母片岩片1点（85.58g）が出土している。1・3は中央部付近、2は北壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。

第121表 第147号井戸跡出土遺物一覧（第204図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	地肌	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	(340)	(115)	—	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	暗赤釉 普通	口縁部横ナデ・内面に深い返し成形 内面横ナデ	覆土中層	20% 保付着
2	土師質土器	内耳鍋	—	(108)	—	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	暗赤釉 普通	口縁部横ナデ・浅い返し成形 内面横ナデ	覆土中層	10% 保付着
3	土師質土器	内耳鍋	—	(70)	—	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい腔 普通	口縁部横ナデ・器底貼付け 内面横ナデ	覆土中層	5% 保付着



0 (1:3) 10cm

第204図 第147号井戸跡・出土遺物実測図

第149号井戸跡 (第205図 第122表 PL26・66)

位置 調査区C区南部のJ3b7区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

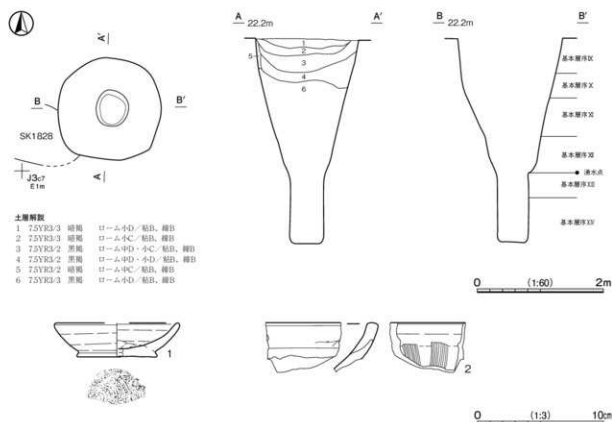
重複関係 第1828号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.62m、短径1.60mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から210cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径0.62mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは322cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ210cmほどの基本層序第Ⅺ層と基本層序第Ⅻ層付近で、底面は基本層序第Ⅻ層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 6層を確認した。各層にロームブロックを含み、不均質な層位であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片7点(皿1、播鉢2、内耳鍋4)、瓦質土器片1点(播鉢)、花崗岩片1点(14.08g)が出土している。ほかに混入した土師器片5点が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第205図 第149号井戸跡・出土遺物実測図

第122表 第149号井戸跡出土遺物一覧 (第205図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[96]	27	[62]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	25% PL66
2	瓦質土器	播鉢	-	(39)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ 底部内面横位ナデ 板状工具による11条一単位の横溝	覆土	5% PL66

第152号井戸跡 (第206図 第123表 PL26)

位置 調査区C区南部のJ3e8区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

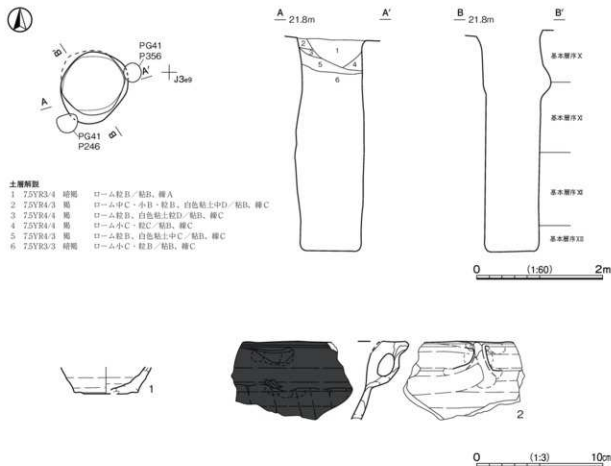
重複関係 第41号ピット群P246・P356に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.12m、短径1.00mの楕円形で、長径方向はN-42°-Eである。断面形は円筒状である。壁の中部は、崩落のため北西部が欠れている。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは336cmで、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第Ⅲ層まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 6層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片7点(皿1、播鉢1、内耳鍋5)が出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第206図 第152号井戸跡・出土遺物実測図

第123表 第152号井戸跡出土遺物一覧 (第206図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	-	(21)	[5.2]	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	ロウソクナデ 底部回転糸切り	覆土	5%
2	土師質土器	内耳鍋	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母 にふい粉	普通	普通	口縁部縁ナデ・耳部縁ナデ・内面高み成形 口縁外面縁ナデ 内面縁ナデ	覆土	5% 面付着

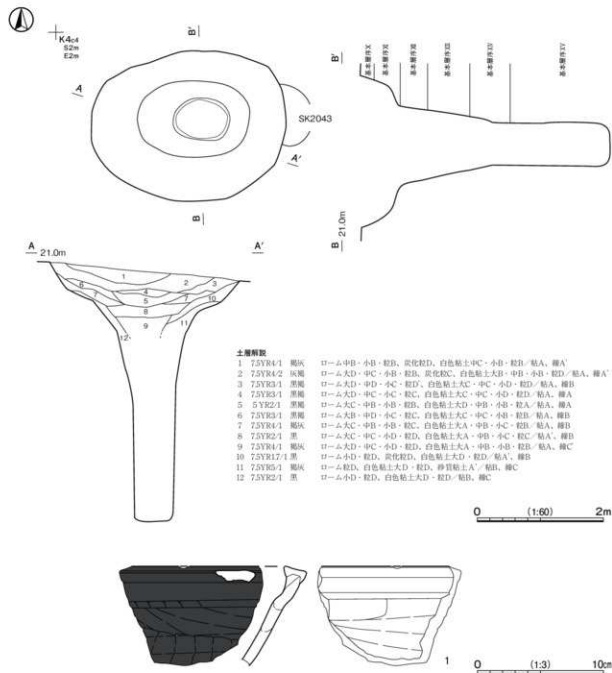
第153号井戸跡 (第207図 第124表 PL26・66)

位置 調査区C区南東部のK4c5区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第2043号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.10m、短径2.41mの楕円形で、長径方向はN-88°-Eである。断面形は漏斗状で、確認面から50cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.78m、短径1.20mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは395cmで、底面は楕円形を呈し、平坦である。基本層序第XV層の途中まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 12層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。



第207図 第153号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片5点(内耳鍋)が出土している。ほかに混入した土師器片1点が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。

第124表 第153号井戸跡出土遺物一覧(第207図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	—	(7.9)	—	長石・石英・雲母・赤鉄鉱子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ・内面盛り成形 体部外面縦・斜 線ナデ 内面横線ナデ	覆土	10% PL66 産付着

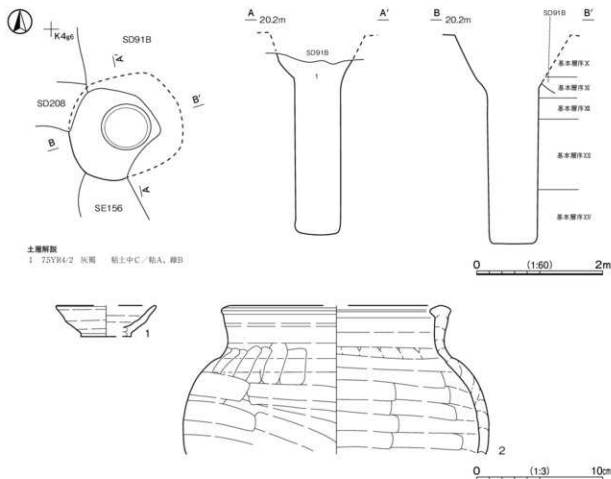
第154号井戸跡(第208図 第125表 PL66)

位置 調査区C区南東部のK4g6区、標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第156号井戸跡を掘り込み、第91A・B号堀、第208号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は南北径1.43m、東西径1.45mである。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から80cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径0.82mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは316cmで、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第ⅩⅩ層の途中まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 単一層を確認した。粘土ブロックを含むことから人為堆積である。



第208図 第154号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 21 点 (皿 1、内耳鍋 17、壺 3)、陶器片 1 点 (甕)、土製品 1 点 (羽口)、石器 1 点 (砥石)、雲母片岩片 1 点 (40.87g) が出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 15 世紀後半と考えられる。

第 125 表 第 154 号井戸跡出土遺物一覧 (第 208 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	甕	[79]	25	[40]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロケロナデ	覆土	5%
2	土師質土器	壺	[166]	(118)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位ナデ 内面縦・横位ナデ	覆土	30% PL66

第 165 号井戸跡 (第 209・210 図 第 126 表 PL27・66)

位置 調査区 C 区南東部の K 4b9 区、標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

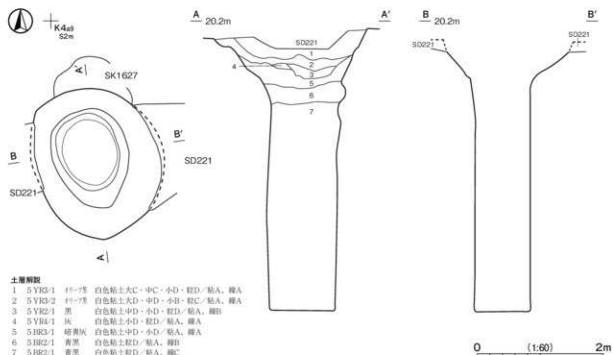
重複関係 第 1627 号土坑を掘り込み、第 221 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は長径 2.39 m、短径 1.92 m である。平面形は楕円形と推定でき、長径方向は N-7°-W である。断面形は漏斗状で、確認面から 110 cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.12 m、短径 0.96 m の円筒状に掘り込んでいく。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 442 cm で、底面は円形を呈し、平坦である。

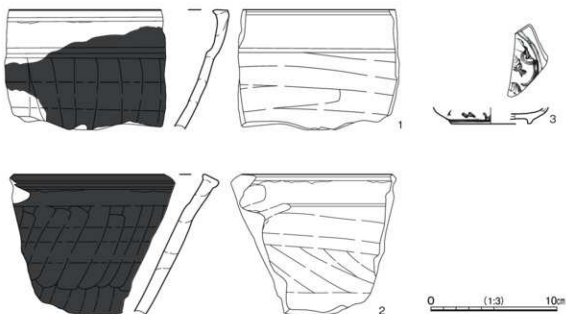
覆土 7 層を確認した。各層に粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 2 点 (内耳鍋)、磁器片 1 点 (皿)、砂岩片 1 点 (80.00g) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 209 図 第 165 号井戸跡実測図



第210図 第165号井戸跡出土遺物実測図

第126表 第165号井戸跡出土遺物一覧（第210図）

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土・色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師土器	内耳鍋	—	(9.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	口縁部横ナデ・内面返し成形 体部外面弱い縦筋ナデ・内面横筋ナデ	覆土	5% PL66 破片着
2	土師土器	内耳鍋	—	(11.5)	—	長石・石英・雲母	灰褐色	口縁部横ナデ・内面返し成形 体部外面弱い縦筋ナデ・内面横筋ナデ	覆土	5% PL66 破片着

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	軸差	産 地	出土位置	備考
3	銅器	皿	—	(13)	(60)	緻密・灰白	染付 底部周りに出し 見込二重内・底無文※ 外面内文・草花文※	鉄製 透明軸	中国産 福建省系※	覆土	10% PL66

第166号井戸跡（第211図 第127表 PL27・67）

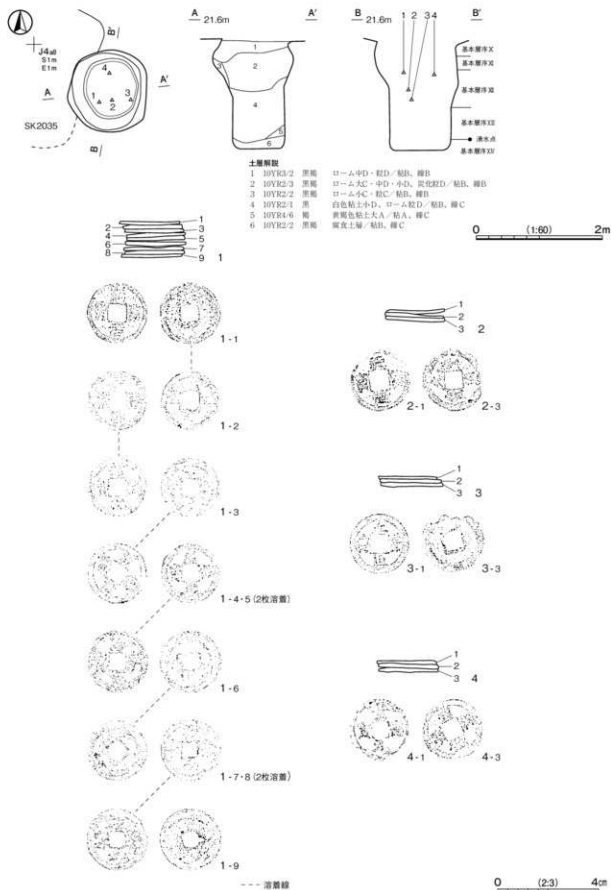
位置 調査区C区南東部のJ4a8区、標高21mほどの台地傾斜面部に位置している。

重複関係 第2035号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.24m、短径1.08mの楕円形で、長径方向はN-9°-Wである。確認面から30～70cmまでは崩落のため内湾状に抉れ、以下は円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは170cmである。底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ110cmほどの基本層序第Ⅷ層と基本層序第Ⅸ層の境付近からで、底面は基本層序第Ⅹ層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 6層を確認した。第1～5層は、ロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積や厚い堆積がみられることから、人為堆積である。第6層は腐食土層である。

遺物出土状況 土師質土器片1点（皿）、銭貨19点が出土している。ほかに混入した土師器片8点、須恵器片1点が出土している。1～4は中央部周辺の覆土中層から竪着した状態で出土している。1については、保存処理委託の際に可能なものについては分離作業をおこなっている。



第 211 図 第 166 号井戸跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器や遺構の分布状況から、16世紀代と考えられる。多くの銭貨が出土していることから、本跡を廃絶する際に何らかの儀礼をおこなった可能性がある。

第127表 第166号井戸跡出土遺物一覧（第211図）

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
1-1	順聖通寶	24	0.7	0.1	2.31	銅	1049	北宋銭 篆書体	覆土中層	PL67
1-2	元豊通寶	23	0.7	0.2	3.83	銅	1078	北宋銭 篆書体	覆土中層	PL67
1-3	淳熙元寶	23	0.7	0.2	2.44	銅	1174	南宋銭 真書体 裏面月星	覆土中層	PL67
1-4	開元通寶	23	0.7	0.1		銅	960	唐銭 隸書体 1-5と並着	覆土中層	PL67
1-5	開元通寶	23	0.7	0.1	6.42	銅	960	唐銭 隸書体 1-4と並着	覆土中層	PL67
1-6	治平元寶	24	0.7	0.2	3.60	銅	1064	北宋銭 真書体	覆土中層	PL67
1-7	不明	24	0.7	0.1		銅	-	1-8と並着	覆土中層	PL67
1-8	聖宋元寶	24	0.6	0.1	7.43	銅	1101	北宋銭 行書体 1-7	覆土中層	PL67
1-9	政和通寶	24	0.6	0.1	2.93	銅	1111	北宋銭 隸書体 裏面に並着痕	覆土中層	PL67
2-1	天聖元寶	24	0.8	0.1		銅	1023	北宋銭 篆書体 2-2・3と並着	覆土中層	PL67
2-2	不明	24	-	0.1		銅	-	2-1・3と並着	覆土中層	PL67
2-3	元豊通寶	24	0.7	0.1	7.62	銅	1078	北宋銭 行書体 2-2・3と並着	覆土中層	PL67
3-1	元豊通寶	23	0.8	0.1		銅	1078	北宋銭 行書体 3-1・2と並着	覆土中層	PL67
3-2	不明	24	-	0.1		銅	-	3-1・3と並着	覆土中層	PL67
3-3	不明	25	0.7	0.1	7.09	銅	-	3-1・2と並着	覆土中層	PL67
4-1	景徳元寶	25	0.7	0.1		銅	1004	北宋銭 真書体 4-2・3と並着	覆土中層	PL67
4-2	不明	24	-	0.1		銅	-	4-1・3と並着	覆土中層	PL67
4-3	嘉祐通寶	23	0.7	0.1	7.43	銅	1056	北宋銭 真書体 4-1・2と並着	覆土中層	PL67

第168号井戸跡（第212図 第128表 PL27・67）

位置 調査区C区南東部のK 4b8区、標高19mほどの台地緩斜面部に位置している。

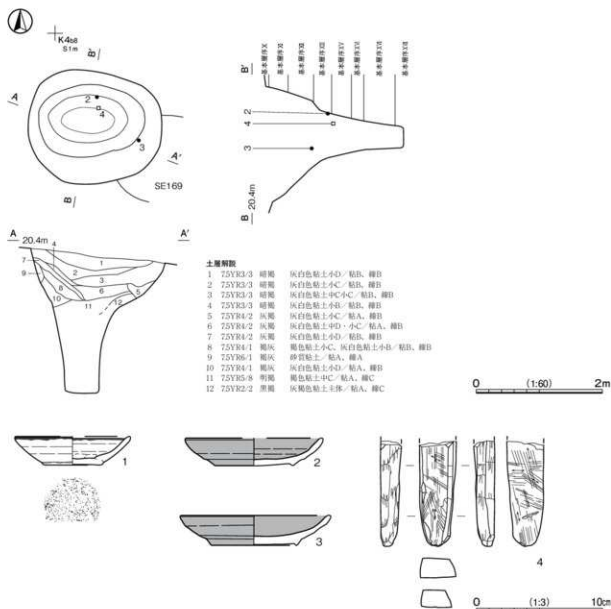
重複関係 第169号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.12m、短径1.87mの楕円形で、長径方向はN-88°-Wである。断面形は漏斗状で、確認面から80cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.20m、短径0.76mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断り割り調査を実施した。確認面からの深さは230cmで、底面は楕円形を呈し、平坦である。基本層序第X層の途中まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 12層を確認した。各層に粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片14点（皿3、撚鉢1、内耳鍋10）、陶器片3点（丸皿2、皿1）、石器3点（凝灰岩製砥石2、雲母片岩製台石1）、瑪瑙片1点（8.05g）、雲母片岩片2点（957.03g）、凝灰岩片1点（200.48g）が出土している。ほかに混入した土師器片1点、須恵器片1点が出土している。2・4は北壁際、3は東壁際の覆土中層から、それぞれ出土している。3は、破損後に被熱痕を受けている。

所見 時期は、出土土器から16世紀後葉から17世紀前葉と考えられる。



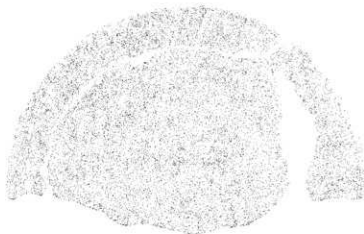
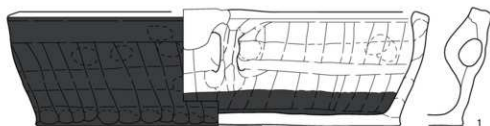
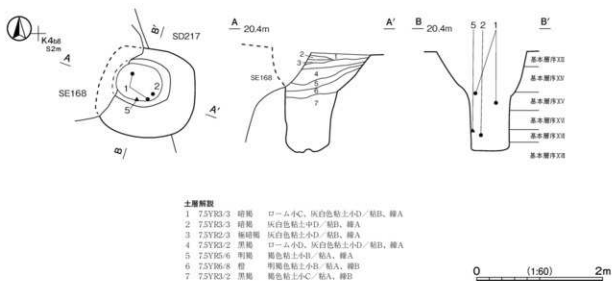
第 212 図 第 168 号井戸跡・出土遺物実測図

第 128 表 第 168 号井戸跡出土遺物一覧 (第 212 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	地 文	特 徴	出土位置	備 考	
1	土師質土器	甕	[91]	23	4.5	長石・石英・重砂・赤色粒子	に広い腔	普通	ロケロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	30% PL67 保存者	
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴		軸差	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	丸皿	[108]	22	6.2	磁青・灰ナリ	ロケロ成形	底部削り出し	灰軸	瀬戸・美濃	覆土中層	60%
3	陶器	丸皿	118	24	6.8	磁青・灰白	ロケロ成形	底部削り出し	灰軸	瀬戸・美濃	覆土中層	75% PL67 被熱痕
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴			出土位置	備 考	
4	砥石	(8.3)	24	1.6	(55.10)	凝灰岩	砥面 2 面	表面面多方向の研磨痕	側面削り痕	覆土中層	PL67	

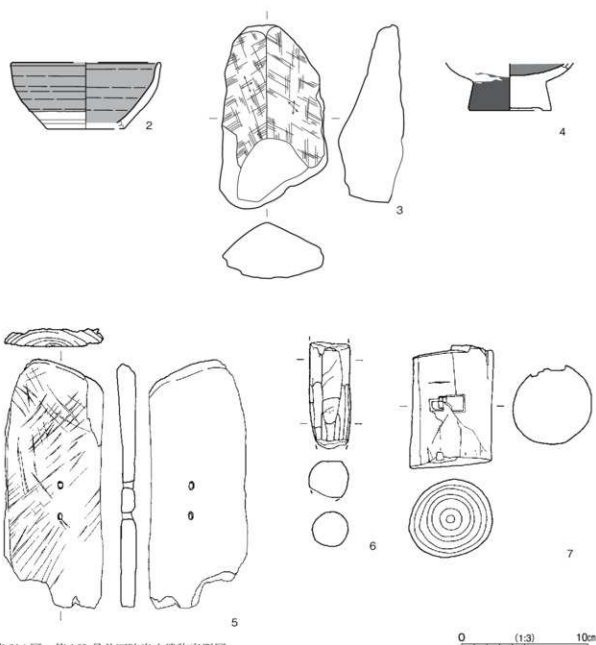
第 169 号井戸跡 (第 213・214 図 第 129 表 PL27・67・68)

位置 調査区 C 区南東部の K 4b8 区、標高 19 m ほどの台地緩斜面部に位置している。



0 (1:3) 10cm

第 213 図 第 169 号井戸跡・出土遺物実測図



第214図 第169号井戸跡出土遺物実測図

重複関係 第217号溝跡を掘り込み、第168号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は南北径1.40m、東西径1.30mである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN-70°-Wである。断面形は漏斗状で、確認面から60cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径0.90m、短径0.76mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは160cmで、底面は円形で凹凸がある。基本層序第Ⅺ層の途中まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 7層を確認した。各層に粘土ブロックを含み、第1～5層が版築のような引き締まった層位であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片23点（播鉢2、内耳鍋21）、陶器片2点（天目茶碗1、片口鉢1）、石器6点（安山岩製石臼1、雲母片岩製砥石4、砂岩製砥石1）、木製品4点（漆器椀1、鍋蓋か1、栓1、不明品1）、雲

母片岩片1点(2,405.57g)、安山岩片1点(168.20g)、凝灰岩片1点(168.33g)が出土している。ほかに混入した瓦片1点(丸瓦)が出土している。1は中央部周辺の覆土中層から散在した状態で出土している。2は、中央部南東壁際の覆土下層、5は南壁際の覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

第129表 第169号井戸跡出土遺物一覧(第213・214図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	出土位置	備考
1	土師器土器	内耳鍋	[33.4]	9.4	28.8	長石・石灰・赤母・赤色粘土	にぶい粗 普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け 体部縦・横位ナデ 外面に指痕 底部敷目痕	覆土中層 50% PL67 塚付着
2	陶器	天目茶碗	[117]	5.3	[6.2]	緑青・にぶい粗	口縁成形 体部下端削り出し	裾輪 瀬戸・美濃	覆土下層 20% PL67
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	砥石	(146)	8.6	5.0	[67.1]	砂岩	紙面2面 表面二方向の研削痕 表面自然面	覆土	PL67 砥石痕
番号	器種	口径	器高	底径	重量	器種	特徴	出土位置	備考
4	漆器碗	-	[3.8]	[6.4]	-	-	彫木取り 口縁脱き 外面黒漆 内面茶漆	覆土	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	器種	特徴	出土位置	備考
5	銅蓋	(197)	(7.9)	1.4	-	天平科天平属 天平	板目 上面中央部穿孔2か所・縦条痕	覆土下層	PL68 鉄泡による痕
6	栓	(84)	3.2	2.8	-	-	木取り不明 両端部切断 側面削り面	覆土	PL68
7	不明品	9.6	径 6.2	-	-	-	両端部切断 側面ホゾ孔加工痕	覆土	

第170号井戸跡(第215～217図 第130表 PL27・68・69)

位置 調査区C区南東部のJ4d8区、標高20mほどの緩斜面部に位置している。

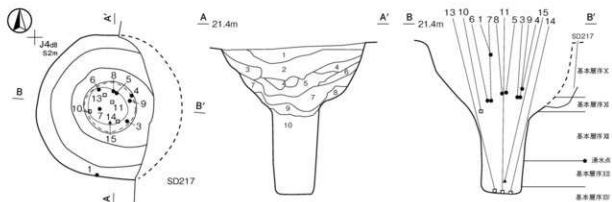
重複関係 第217号溝跡との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は南北径2.28m、東西径1.80mである。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から100cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径0.80mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断り割り調査を実施した。確認面からの深さは240cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ190cmほどの基本層序第Ⅷ層と基本層序第Ⅸ層の境付近からで、底面は基本層序第Ⅹ層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 10層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロック、粘土粒子を含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片70点(皿4、搦鉢14、内耳鍋49、甕2、風炉カ1)、瓦質土器片1点(搦鉢)陶器片11点(天目茶碗3、鉄絵皿1、片口鉢2、甕5)、石器13点(花崗岩製臼1、安山岩製臼1、雲母片岩製砥石5、砂岩製砥石3、凝灰岩製砥石3)、石製品3点(花崗岩製五輪塔2、花崗岩製宝篋印塔1)、雲母片岩片2点(17.24g)、砂岩片1点(73.98g)、凝灰岩片1点(229.72g)、木製品2点(箱物、木材)、鉄滓2点(244.60g)が出土している。ほかに混入した土師器片1点、須恵器片1点が出土している。1は南壁際の覆土上層、3～10は中央部周辺の覆土中層、11・13・14は中央部周辺の底面、15は中央部周辺の覆土下層から、それぞれ出土している。

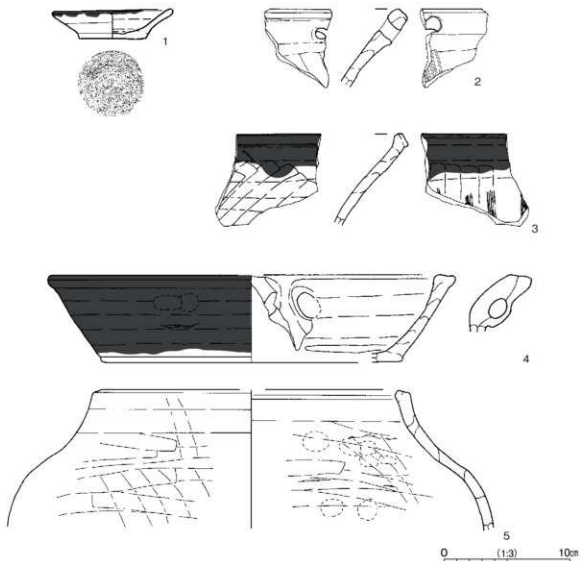
所見 時期は、出土土器から16世紀後半から17世紀前半と考えられる。



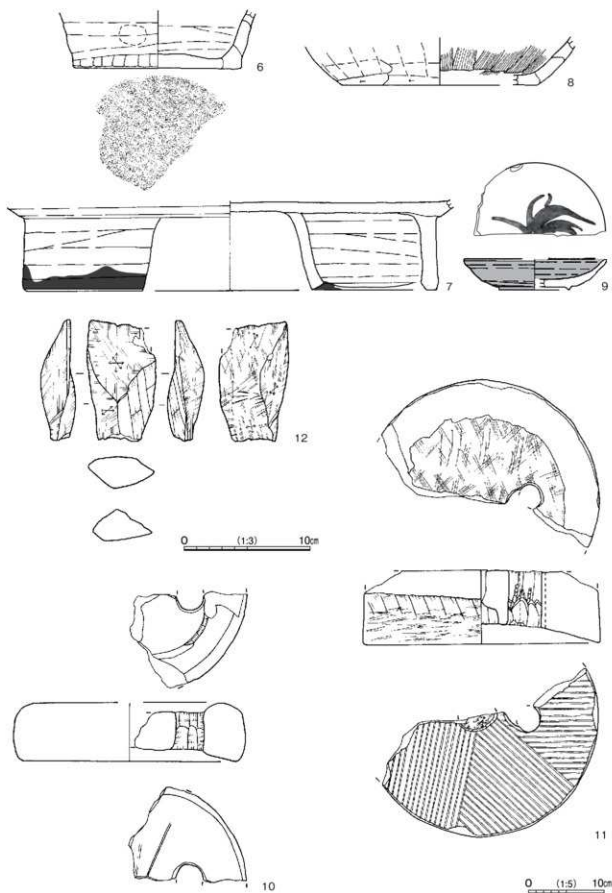
土層解説

- | | | | |
|--------------|-------------------------------|--------------|-----------------|
| 1 75YR4/4 陶 | ローム小C・粒C、白色粘土中D・小B、炭化粒C/粘土、緑A | 6 75YR4/3 陶 | 粘土粒子D/粘土、緑B |
| 2 75YR4/2 灰陶 | 白色粘土小B・粒B/粘土、緑A | 7 75YR5/3 石灰 | 白色粘土小D・粒C/粘土、緑A |
| 3 75YR4/2 陶 | 白色粘土粒D/粘土、緑B | 8 75YR5/3 石灰 | 白色粘土小C・粒B/粘土、緑A |
| 4 75YR4/3 灰陶 | 白色粘土中D・粒C/粘土、緑B | 9 75YR5/2 灰陶 | 粘土粒子主体/粘土、緑B |
| 5 75YR4/2 灰陶 | 白色粘土中C・粒C/粘土、緑B | 10 75YR5/1 陶 | 粘土粒子主体/粘土、緑B |

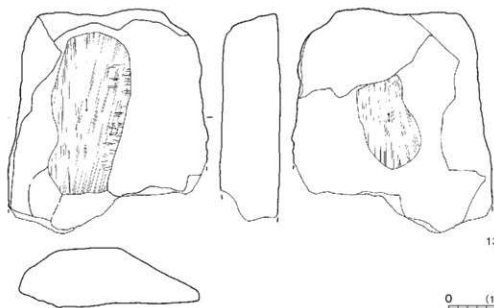
0 (1:60) 2m



第 215 図 第 170 号井戸跡・遺物実測図

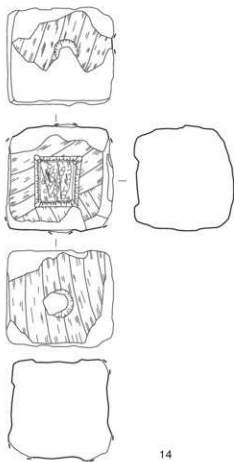


第 216 图 第 170 号井戸跡出土遺物実測図(1)



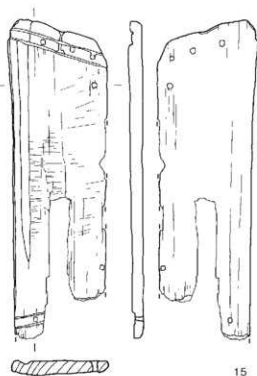
13

0 (1:4) 10cm



14

0 (1:6) 10cm



15

0 (1:3) 10cm

第 217 図 第 170 号井戸跡出土遺物実測図(2)

第130表 第170号井戸跡出土遺物一覧(第215～217図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	9.3	2.4	5.3	長石・石美・雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	口縁部ナデ 底部回転糸切り	覆土中層 95% PL68 油煙付着
2	土師質土器	深鉢	—	(6.3)	—	長石・石美・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部ナデ・内面からの穿孔 体部外面縦位ナデ 内面横位ナデ・體部工具による5条の掻目	覆土 5% PL68
3	土師質土器	深鉢	—	(7.3)	—	長石・石美・雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	口縁部ナデ 体部内外面縦位ナデ 内面横位ナデ・工具による5条一単位の掻目	覆土中層 5% PL68 炭灰 保存着
4	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	6.9	[23.8]	長石・石美・金雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	口縁部ナデ 内面耳部貼付け 体部内外面横位ナデ 底部ナデ	覆土中層 10% 保存着
5	土師質土器	甕	[23.2]	(11.0)	—	長石・石美・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部ナデ・体部外面縦位ナデ 内面縦位ナデ・横位ナデ 底部縦位ナデ	覆土中層 20%
6	土師質土器	甕	—	(4.6)	13.4	長石・石美・雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	体部外面縦位ナデ・口縁ナデ・下腹部縦位ナデ 内面縦位ナデ・横位ナデ 底部縦位ナデ	覆土中層 5% 炭灰
7	土師質土器	風印	—	(7.0)	[32.5]	長石・石美・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下腹部ナデ 底部ナデ 脚部貼付け・横位ナデ・透かし部へう切り	覆土中層 10% PL68 保存着
8	瓦質土器	深鉢	—	(3.8)	[15.6]	長石・石美・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面縦位ナデ・下腹部縦位ナデ 内面横位ナデ・工具による10条一単位の掻目	覆土中層 5% PL68

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
9	陶器	鉄絵皿	[11.2]	2.4	[5.6]	緻密・淡黄	口縁成形 底面削り出し 横軸 縦軸	長石軸 鉄軸	瀬戸・美濃	覆土中層 50% PL68	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
10	石臼	[30.8]	—	7.6	(167g)	花崗岩	上白 上面土縁部割り痕 窪部・側面劣化 下面窪目残存・磨滅 供給孔両面方向からの穿孔・磨蝕痕・割り痕	覆土中層	PL68 炭灰
11	石臼	[31.6]	—	9.7	(692g)	安山岩	上白 上面土縁部欠損 窪部・側面磨蝕痕・割り痕 下面15～20条の掻目 軸孔・供給孔両面からの割り痕	底面	PL68
12	砥石	(9.6)	5.5	2.9	(121.4g)	凝灰岩	砥面2面 表面多方向の磨蝕痕・割り痕 裏面多方向の磨蝕痕	覆土	PL68
13	砥石	(23.8)	21.2	6.4	(463g)	雲母片岩	砥面2面 表面多方向の磨蝕痕 裏面一方向の磨蝕痕	底面	PL68
14	宝篋印塔	(17.2)	17.2	16.0	(9.29g)	花崗岩	塔身部 上・下面中央部に突起部欠損・磨蝕痕・割り痕 側面一重の輪筋・磨蝕痕・割り痕	底面	PL68

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	器種	特徴	出土位置	備考
15	植物	25.4	8.0	1.1	—	—	柱目 内面ホゾ溝2条 草孔6か所 竹釘3か所残存 線条痕無数	覆土下層	PL68

第172号井戸跡(第218図 第131表 PL27・69)

位置 調査区C区中央部の139区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

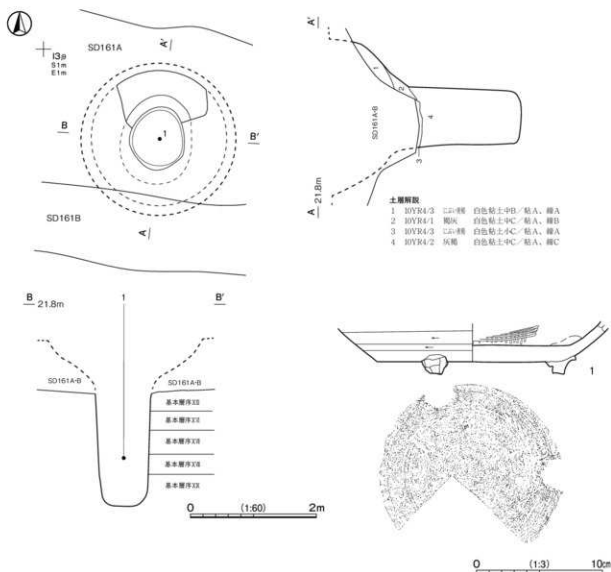
重複関係 第161A・B号堀に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は南北1.74m東西径0.88mである。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から110cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.00m、短径0.88mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは296cmで、底面は円形を呈し、皿状である。湧水点是不明瞭で、底面は基本層序第Ⅷ層まで掘り込んでいる。

覆土 4層を確認した。各層に白色粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)、陶器片1点(鉚目大皿)、石器1点(安山岩製石臼)が出土している。1は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第 218 図 第 172 号井戸跡・出土遺物実測図

第 131 表 第 172 号井戸跡出土遺物一覧 (第 218 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	陶器	深皿大皿	—	(42)	146	緻密・淡黄	口ケロ成形 底部張り出し、縁け縁付 内面下部に交差状の押目 底部腹面貼付	灰輪	瀬戸・美濃	覆土下層	50% PL69

第174号井戸跡 (第219図 第132表 PL28・69)

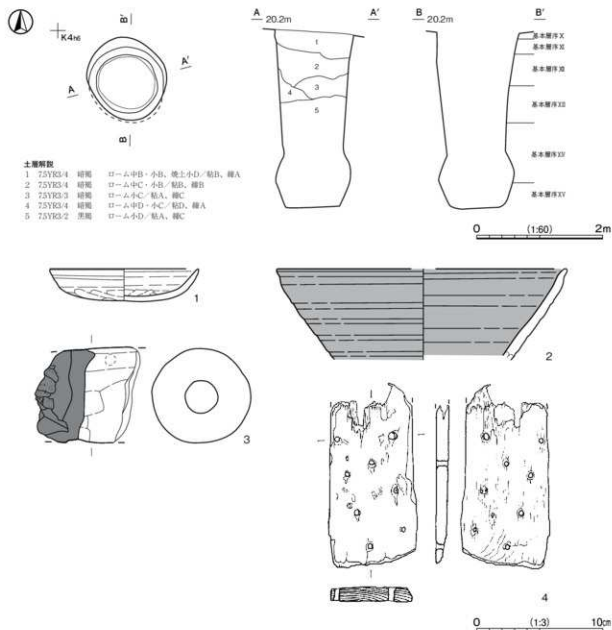
位置 調査区C区南東部のK4h6区、標高20mほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 長径1.34m、短径1.30mの円形で、断面形は円筒状である。重機を使用して断り割り調査を実施した。壁の下部は、崩落のため全面が欠れている。確認面からの深さは280cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は不明瞭で、底面は基本層序第XV層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 5層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿)、陶器片1点(鉢)、土製品1点(羽口)、木製品1点(不明品)、木製品1点(不明品)が出土している。ほかに混入した須恵器片1点が出土している。2は15世紀前半の平碗であることから、混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第219図 第174号井戸跡・出土遺物実測図

第132表 第174号井戸跡出土遺物一覧(第219図)

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師重土器	甕	11.7	2.6	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 口縁部外面沈線1条 体部内外面横ナデ 底部ナデ	覆土	100% PL69

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	軸差	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	鉢	[230]	(7.7)	—	緻密・灰白	ロクロ成形 漢け掛け	灰輪	瀬戸・美濃	覆土	10% PL69

番号	器 種	長さ	径	口径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
3	羽口	(8.4)	7.6	2.6	[386.9]	長石・石英・雲母	にぶい橙	先端部磨減・欠損 残存部溶解ガラス化 体部ナデ	覆土	PL69

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
4	不明品	(12.5)	7.1	1.1	—	—	板目 板状に加工 穿孔7か所	覆土	

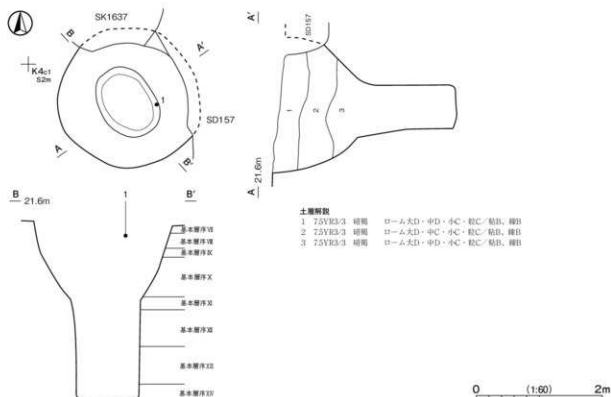
第176号井戸跡(第220・221図 第133表 PL29・69)

位置 調査区C区南東部のK4c1区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第157号溝に掘り込まれている。第1637号土坑との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は長径2.26m、短径2.00mである。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、壁は確認面から150cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.40m、短径0.88mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは290cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は不明瞭で、底面は基本層序第Ⅺ層まで掘り込んでいる。

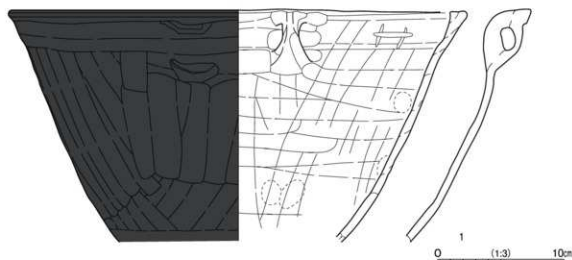
覆土 3層を確認した。各層にロームブロックを含み、層厚のあるほぼ水平な堆積状況から人為堆積である。



第220図 第176号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片 17 点（内耳鍋）が出土している。1 は、中央部南東寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第 221 図 第 176 号井戸跡出土遺物実測図

第 133 表 第 176 号井戸跡出土遺物一覧（第 22 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	360	(185)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付・内面へう記号 体部 外面縦筋ナデ 内面縦・横筋ナデ・指頭痕	覆土上層	80%、PL69 係付着

第 181 号井戸跡（第 222 図 第 134 表 PL28・70）

位置 調査区 C 区南東部の J 5 fl 区、標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

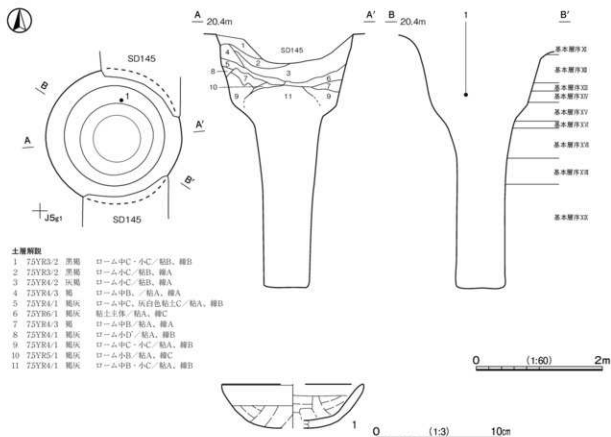
重複関係 第 145 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は南北径 1.90 m、東西径 2.13 m である。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から 130cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.16 m、短径 1.12m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 381cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は不明瞭で、底面は基本層序第Ⅷ層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 11 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロック、粘土を含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（皿）が出土している。ほかに混入した須恵器片 1 点が出土している。1 は中央部北寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第222図 第181号井戸跡・出土遺物実測図

第134表 第181号井戸跡出土遺物一覧（第222図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土製土器	甕	[11.2]	3.5	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部ナデ	覆土中層	30% PL70

第182号井戸跡（第223図 第135表 PL70）

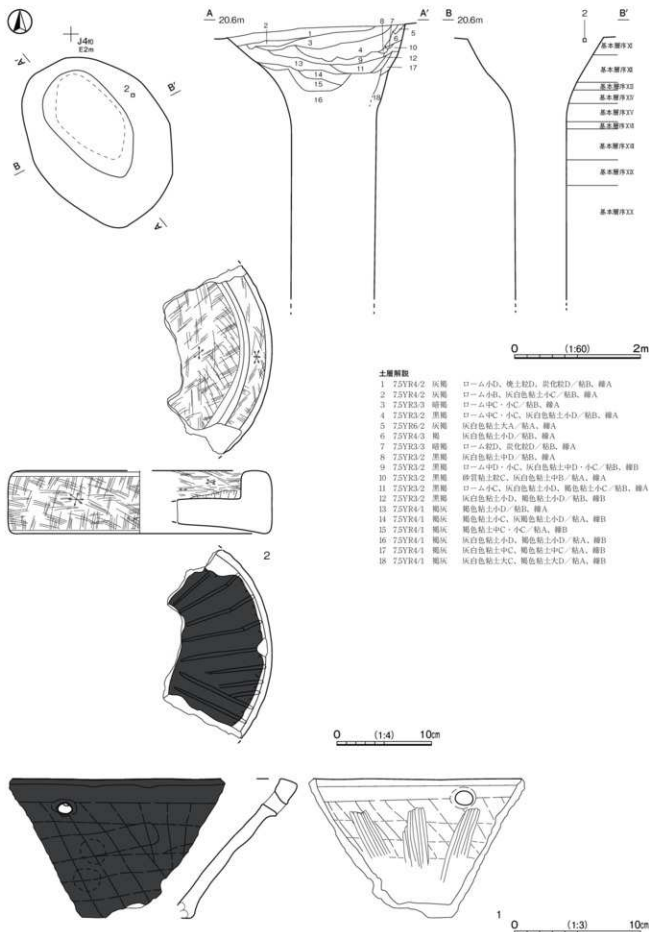
位置 調査区C区南東部のJ40区、標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径2.80m、短径2.16mの楕円形で、長径方向はN-40°-Wである。断面形は漏斗状で、確認面から120cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.86m、短径1.06mの円筒状に掘り込んでいた。重機を使用して断り割り調査を実施した。底面を確認できなかったため、確認面から428cmまでの調査とした。

覆土 18層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片2点（櫛鉢、内耳鍋）、石器1点（安山岩製石臼）、雲母片岩片1点（5.77g）、斑れい岩片1点（9.98g）、木片1点が出土している。2は、北東壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第 223 図 第 182 号井戸跡・出土遺物実測図

第135表 第182号井戸跡出土遺物一覧(第223図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	甕	—	[110]	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい	普通	口縁部破ナデ 内面からの草孔 底部内外面・内面瓶状工具による6条一帯位の幅目	覆土	10% PL20 破片着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	石臼	[280]	—	6.7	[120g]	安山岩	上白	上面上縁部・底部研ぎ面・側面	側面研ぎ面 下面10cm位の幅目	覆土上層	PL20 破片着・破片着

第194号井戸跡(第224図 第136表 PL28)

位置 調査区C区南西部のJ2h4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

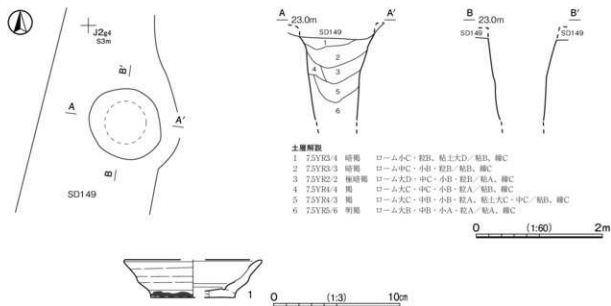
重複関係 第149号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は長径120m、短径110mである。平面形は円形と推定できる。断面形は円筒状である。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から130cmまでの調査とした。

覆土 6層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿2、内耳鍋1)が出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、150cm以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第224図 第194号井戸跡・出土遺物実測図

第136表 第194号井戸跡出土遺物一覧(第224図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[116]	3.0	[66]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部ナデ 底部回転糸切り・ナデ	覆土	3% 破片着・破片着

第198号井戸跡 (第225図 第137表 PL28・70)

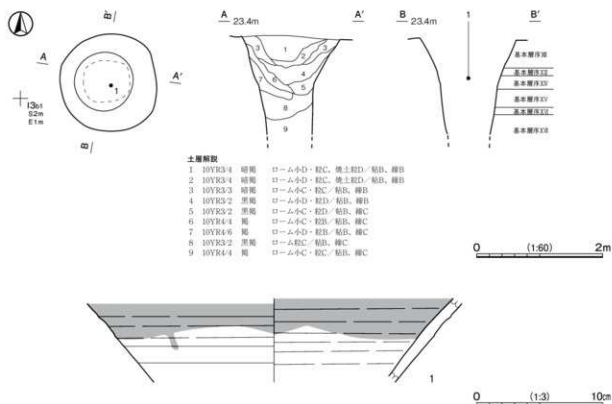
位置 調査区C区中央部のI3b1区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.60m、短径1.57mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から70cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径0.92mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から157cmまでの調査とした。

覆土 9層を確認した。各層にロームブロックやローム粒子を含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 陶器片1点(直縁大皿カ)が中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、150cm以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第225図 第198号井戸跡・出土遺物実測図

第137表 第198号井戸跡出土遺物一覧 (第225図)

番号	種別	厚さ	口径	底径	底高	底径	土質・色調	特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	直縁大皿カ	—	(5.6)	—	—	緻密・浅黄褐色	口口成形 漬け掛け	灰軸	瀬戸・美濃	覆土上層	10% PL70

第210号井戸跡（第226図 第138表 PL28・70）

位置 調査区D区東部のJ5a7区、標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

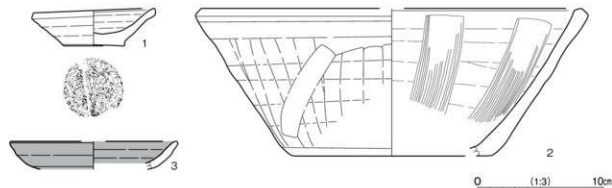
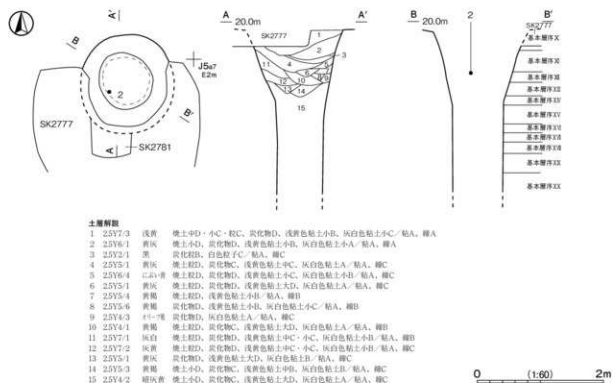
重複関係 第2781号土坑を掘り込み、第2777号土坑に掘り込まれている。第286号溝との関係は不明である。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は南北径1.42m、東西径1.26mである。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から110cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径0.92m、短径0.86mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して安全に断ち割り調査を実施したが、確認面から253cmまでの調査とした。湧水点は不明である。

覆土 15層を確認した。各層に粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片7点（皿2、播鉢1、内耳鍋4）、瓦質土器片1点（播鉢）、陶器片1点（志野丸皿）、土製品1点（羽口）、枕状滓1点（5241g）が出土している。2は中央部南西よりの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第226図 第210号井戸跡・出土遺物実測図

第138表 第210号井戸跡出土遺物一覧(第226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	9.6	3.0	4.8	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい・橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・一方向のナデ	覆土 70% PL70
2	土師質土器	深鉢	[30.2]	11.7	[16.0]	長石・石英・金・赤色砂子	にぶい・赤黒	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・横段ナデ 内面横段ナデ・板状工具による9条一単位の様目	覆土上層 10% PL70 口縁部破損

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
3	陶器	志野丸皿	[13.2]	(2.2)	—	緻密・にぶい・橙	ロクロ成形 漬け掛け 体部外面下縁部削り出し	長石釉	瀬戸・美濃	覆土 5% PL70	

第212号井戸跡(第227図 第139表 PL70)

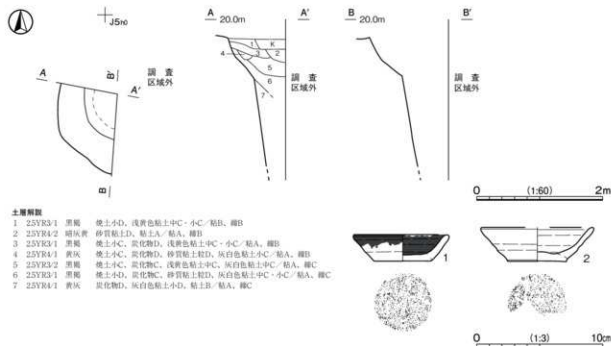
位置 調査区D区東部のI 5h9区、標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 調査区域外に延びていることから、確認できた規模は南北径1.26m、東西径0.91mである。平面形は円形もしくは楕円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から60cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径1.40mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面からの深さは200cmまでの調査とした。

覆土 7層を確認した。各層に粘土ブロックや粘土を含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片14点(皿10、鉢4)が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第227図 第212号井戸跡・出土遺物実測図

第139表 第212号井戸跡出土遺物一覧(第227図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.4	2.1	4.6	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい・橙	普通	ロクロナデ 底部一方向のナデ	覆土 100% PL70 保封蓋
2	土師質土器	皿	[8.8]	2.7	4.6	長石・石英・雲母・赤色砂子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部一方向のナデ	覆土 50% PL70

第 224 号井戸跡 (第 228 図 第 140 表 PL70)

位置 調査区 C 区南西部の J 2 d9 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

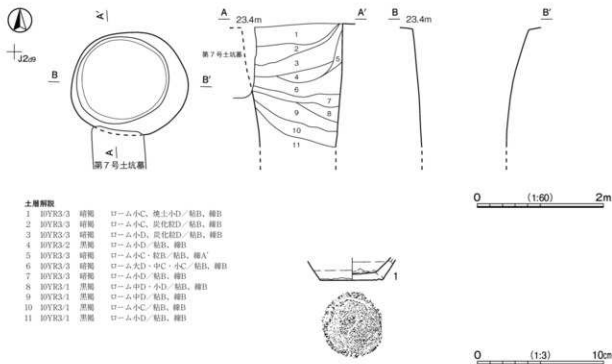
重複関係 第 7 号土坑墓に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.84 m、短径 1.62 m の円形で、円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 192 cm までの調査とした。

覆土 11 層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (皿) が出土している。

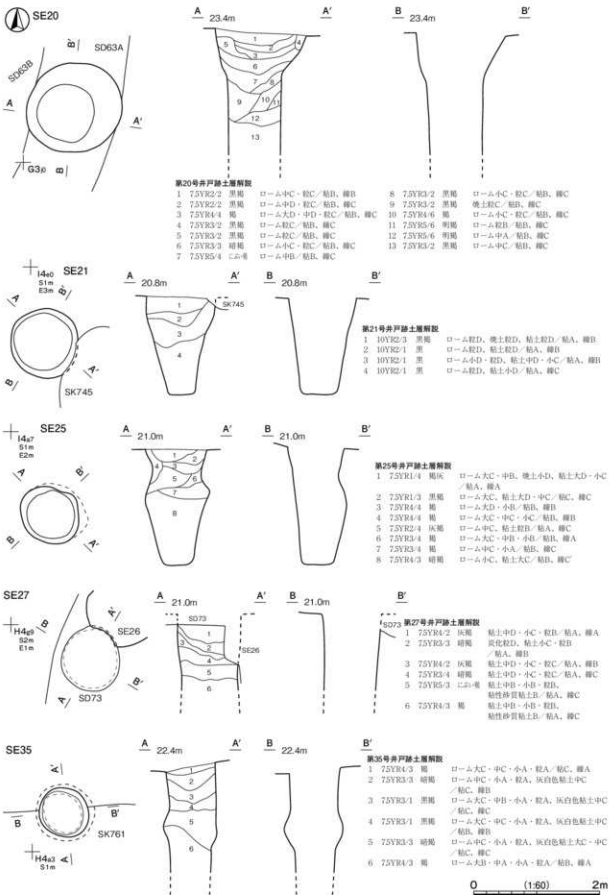
所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



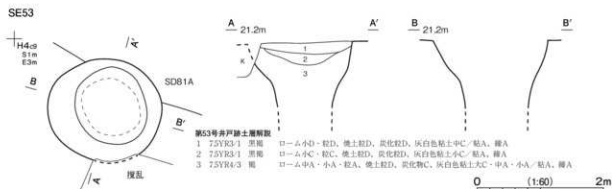
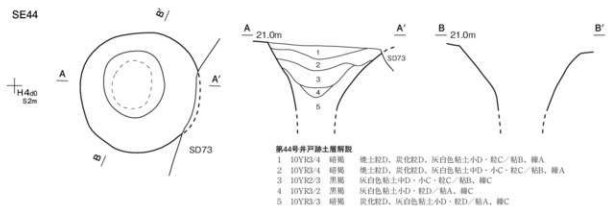
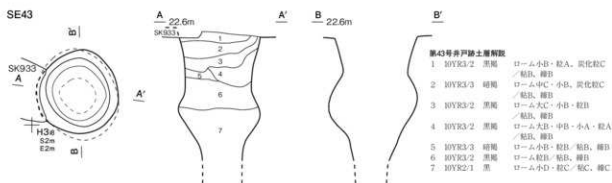
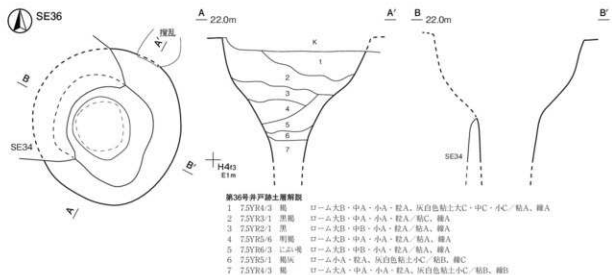
第 228 図 第 224 号井戸跡・出土遺物実測図

第 140 表 第 224 号井戸跡出土遺物一覧 (第 228 図)

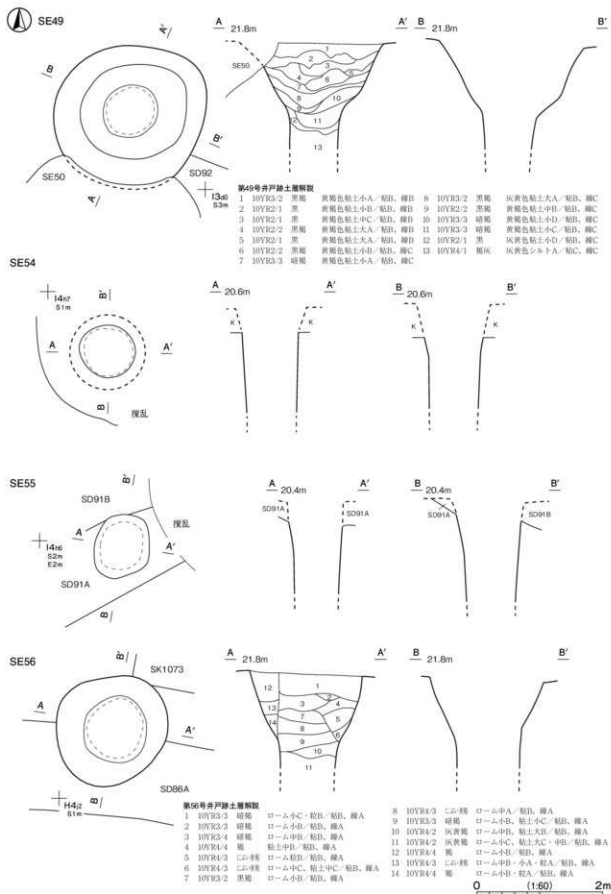
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	—	(1.8)	4.9	長石	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・一方向のナデ 内面ナデ	覆土	30% PL70



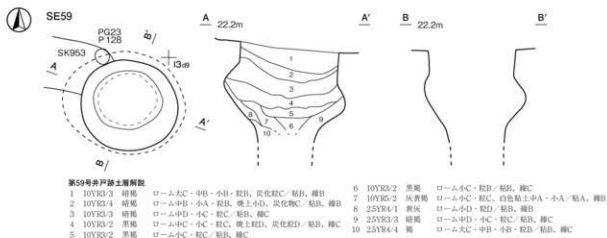
第 229 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (1)



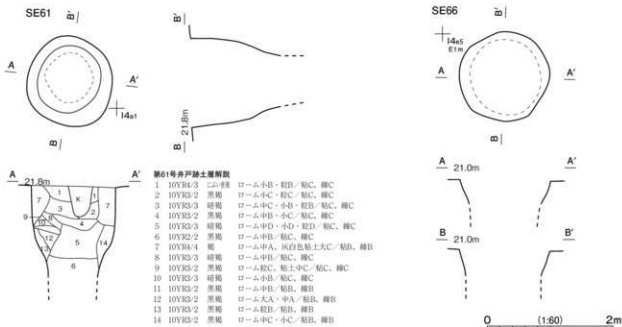
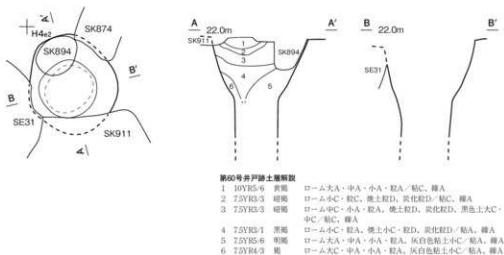
第 230 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (2)



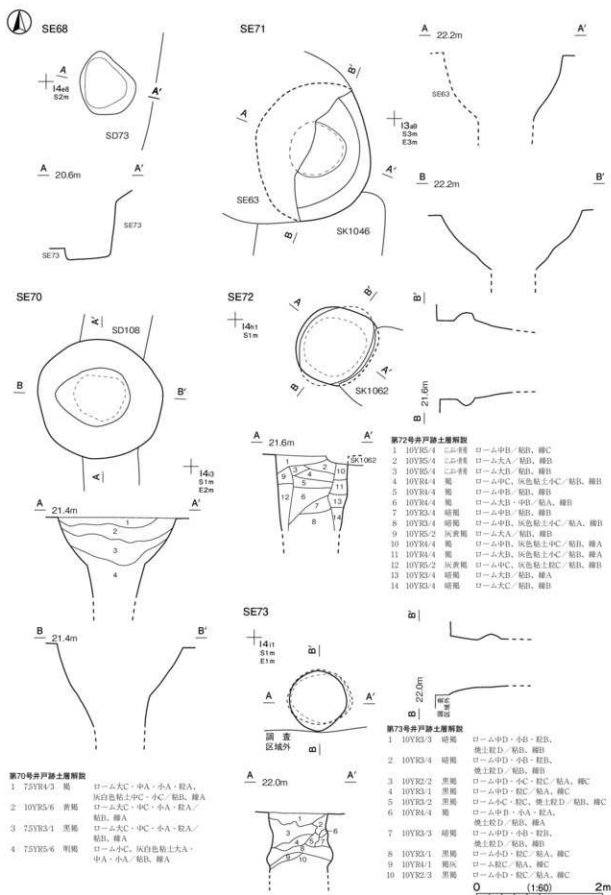
第 231 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (3)



SE60

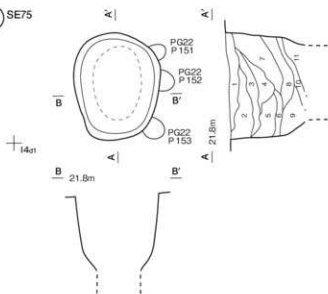


第 232 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図(4)



第 233 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図(5)

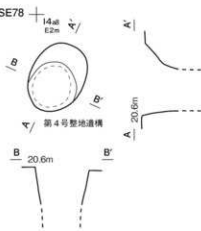
SE75



第75号井戸跡土層解説

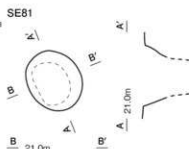
- 1 10YR5-4 褐色 土層 土層中心・粘土、白色粘土小D・粘土・粘土、粘土
- 2 10YR4-4 褐色 土層 土層中心・粘土、白色粘土小D・粘土、粘土
- 3 10YR5-3 褐色 土層 土層中心・粘土、白色粘土小D・粘土、粘土
- 4 10YR5-3 褐色 土層 土層中心・粘土、白色粘土小D・粘土、粘土
- 5 10YR2-1 赤 土層 土層中心・粘土、粘土、粘土
- 6 10YR3-1 赤褐色 土層 土層中心・粘土、粘土、粘土
- 7 10YR4-4 褐色 土層 土層中心・粘土、粘土、粘土
- 8 10YR5-4 褐色 土層 土層中心・粘土、粘土、粘土
- 9 10YR4-3 褐色 土層 土層中心・粘土、粘土、粘土
- 10 10YR4-1 褐色 土層 土層中心・粘土、粘土、粘土
- 11 10YR5-2 灰黄褐色 土層 土層中心・粘土、粘土、粘土

SE78

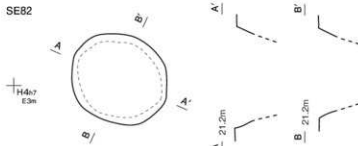


第4号整地遺構

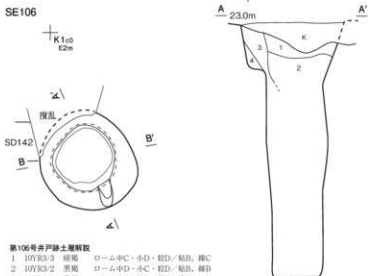
SE81



SE82



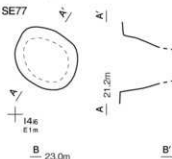
SE106



第106号井戸跡土層解説

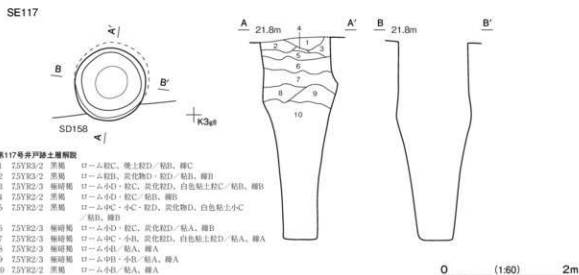
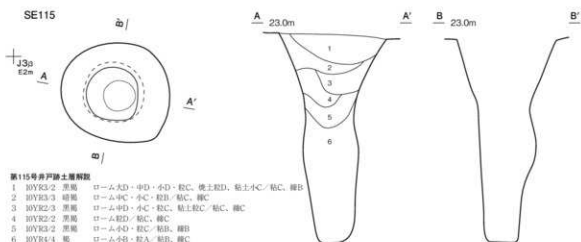
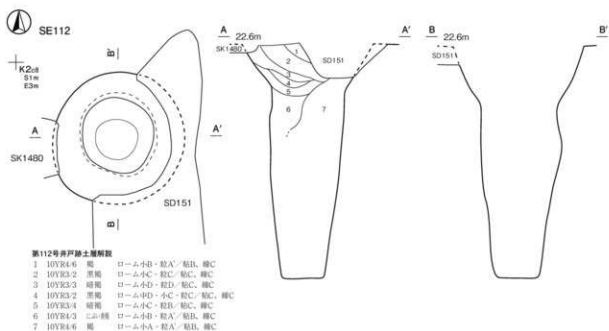
- 1 10YR3-3 褐色 土層 土層中心・粘土、粘土、粘土
- 2 10YR3-2 褐色 土層 土層中心・粘土、粘土、粘土
- 3 10YR3-3 褐色 土層 土層中心・粘土、粘土、粘土
- 4 10YR3-4 褐色 土層 土層中心・粘土、粘土、粘土

SE77



0 (1:60) 2m

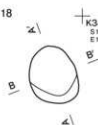
第234図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図(6)



第235図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図(7)

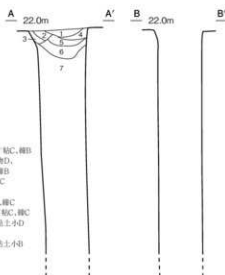


SE118

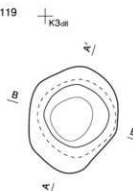


第118号井戸跡土層解説

- 1 75YK3/2 黒褐色 ローム粒C、炭化粒D、粘B、礫B
- 2 75YR4/3 黒 ローム小粒粒B、炭化物D、白色粘土粒C、粘B、礫B
- 3 75YR6/3 白濁帯 炭化粒D、白色粘土中C、粘A、礫A
- 4 75YK3/3 暗褐色 ローム小粒粒D、粘C、礫C
- 5 75YK3/4 暗褐色 ローム大粒小粒粒B、粘C、礫C
- 6 75YK3/2 黒褐色 ローム小粒粒B、白色粘土小D、粘B、礫C
- 7 75YK5/4 白濁帯 ローム大粒中C、白色粘土小粒、粘B、礫B

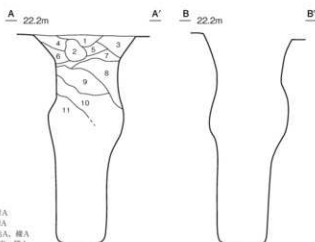


SE119

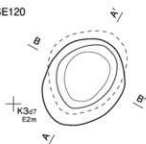


第119号井戸跡土層解説

- 1 75YK3/2 黒褐色 ローム小粒・粒B、粘C、礫A
- 2 75YR4/4 黒 ローム小粒・粒B、粘B、礫A
- 3 75YR4/4 黒 ローム中粒・小粒・粒A、粘A、礫A
- 4 75YK3/3 暗褐色 ローム中粒・小粒・粒B、粘B、礫A
- 5 75YK3/2 黒褐色 ローム粒C、炭化粒D、白色粘土小D、粘B、礫B
- 6 75YK3/3 暗褐色 ローム小粒・粒B、粘C、礫C
- 7 75YK3/3 暗褐色 ローム小粒・粒C、粘B、礫C
- 8 75YR4/4 黒 ローム大粒・中粒・小粒・粒A、炭化粒B、粘A、礫B
- 9 75YK3/3 暗褐色 ローム中粒・小粒・粒B、粘B、礫B
- 10 75YK3/3 暗褐色 ローム中粒・粒C、粘A、礫B
- 11 75YK3/3 暗褐色 ローム小粒・粘A、礫B

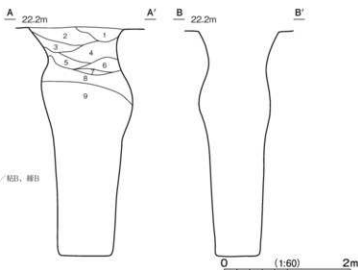


SE120



第120号井戸跡土層解説

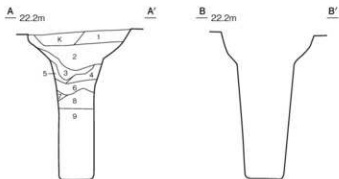
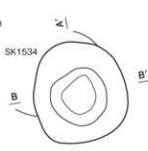
- 1 75YK3/2 黒褐色 ローム小粒・粒B、焼土粒D、炭化粒D、粘B、礫B
- 2 75YK3/3 暗褐色 ローム中粒・小粒・粒B、粘C、礫A
- 3 75YR4/3 黒 ローム中粒・小粒・粒C、粘B、礫B
- 4 75YK3/3 暗褐色 ローム小粒・粒B、粘B、礫B
- 5 75YK2/2 黒褐色 ローム小粒・粒C、粘B、礫B
- 6 75YK3/4 暗褐色 ローム中粒・小粒・粒A、粘C、礫B
- 7 75YK3/2 黒褐色 ローム粒A、粘C、礫C
- 8 75YR4/3 黒 ローム小粒・粒A、粘A、礫B
- 9 75YK3/3 暗褐色 ローム小粒・粒B、粘A、礫B



第 236 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (8)



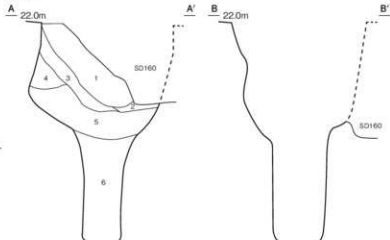
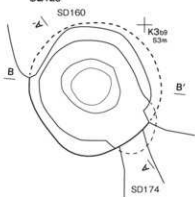
SE122



第122号井戸跡土層解説

- | | | | |
|----------------|---------------------|----------------|----------------|
| 1 75YR3/2 黒褐色 | ローム粒C/粘土、礫B | 6 75YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粒A/粘土、礫C |
| 2 75YR3/2 黒褐色 | ローム小D・粒C、炭化粒D/粘土、礫B | 7 75YR4/3 黒 | ローム粒A/粘土、礫C |
| 3 75YR4/4 黒 | ローム大C・中B・粒B/粘土、礫A | 8 75YR2/3 極暗褐色 | ローム小B・粒C/粘土、礫B |
| 4 75YR2/3 極暗褐色 | ローム粒C、白色粘土粒C/粘土、礫C | 9 75YR4/3 黒 | ローム小C・粒A/粘土、礫B |
| 5 75YR3/3 暗褐色 | ローム粒A・粘土、礫C | | |

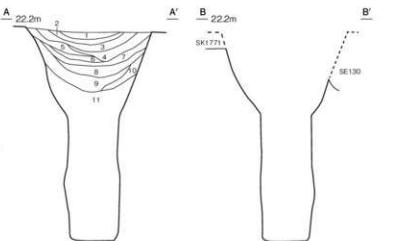
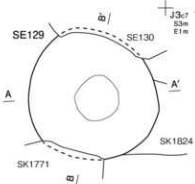
SE123



第123号井戸跡土層解説

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 75YR2/2 黒褐色 | ローム小C・粒C/粘土、礫A |
| 2 75YR3/1 黒褐色 | ローム大B・中A・小A・粒A/粘土、礫B |
| 3 75YR3/3 暗褐色 | ローム大B・中B・小B・粒A/粘土、礫B |
| 4 75YR3/2 黒褐色 | ローム大A・中B・小B・粒B・粘土、礫B |
| 5 75YR3/1 黒褐色 | ローム中D・小C・粒C/粘土、礫B |
| 6 75YR3/4 暗褐色 | ローム小A・粒A/粘土、礫B |

SE129

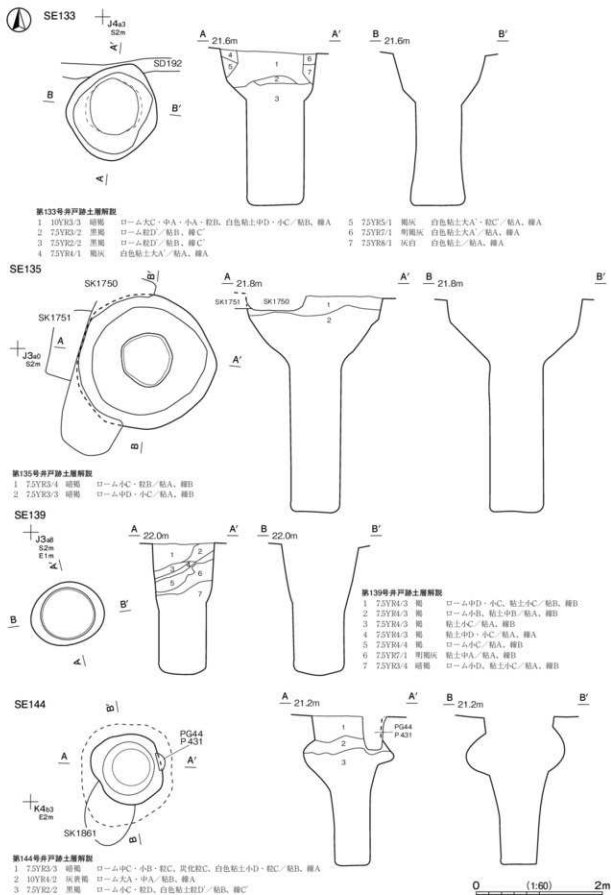


第129号井戸跡土層解説

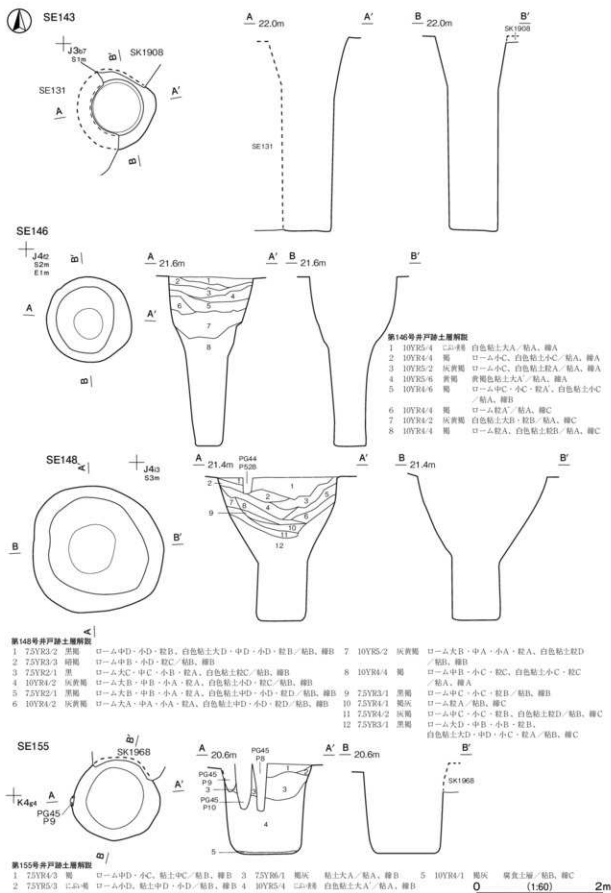
- | | |
|----------------|---------------------|
| 1 75YR3/4 暗褐色 | ローム小D・粒D/粘土、礫B |
| 2 75YR3/4 暗褐色 | ローム中D・小C・粒B、礫A |
| 3 75YR3/4 暗褐色 | ローム小D・粒D/粘土、礫B |
| 4 75YR3/3 暗褐色 | ローム中D・小C・粒B、礫C |
| 5 75YR3/4 暗褐色 | ローム小D・粒D/粘土、礫C |
| 6 75YR3/4 暗褐色 | ローム大D・小D、粘土中D/粘土、礫C |
| 7 75YR4/5 黒 | ローム中D・小D、粘土、礫C |
| 8 75YR3/2 黒褐色 | ローム粒D/粘土、礫C |
| 9 75YR3/3 暗褐色 | ローム粒D/粘土、礫C |
| 10 75YR3/2 黒褐色 | ローム小D・粒D/粘土、礫B |
| 11 75YR3/2 黒褐色 | ローム粒D/粘土、礫C |

0 (1:60) 2m

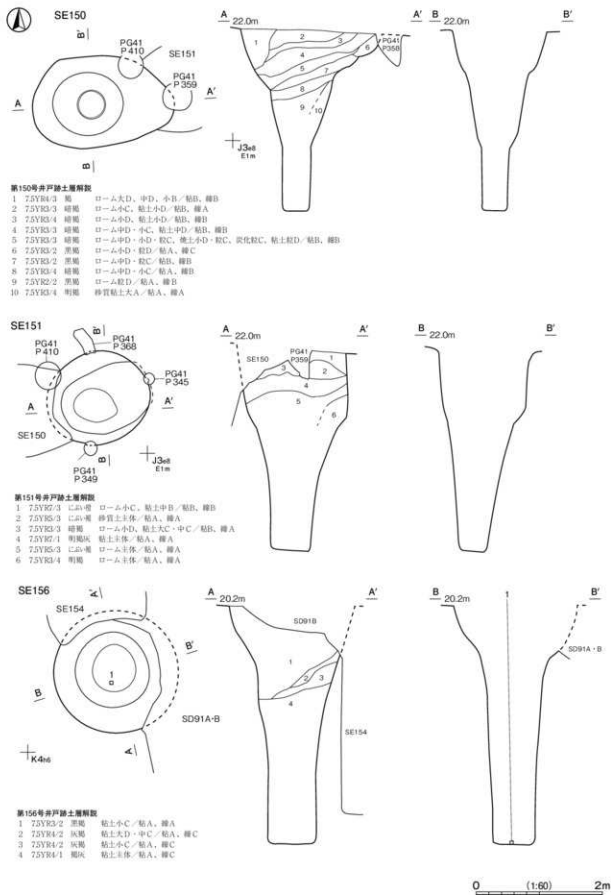
第 237 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (9)



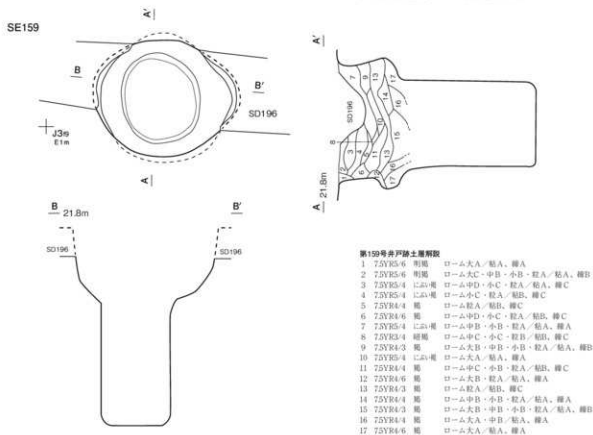
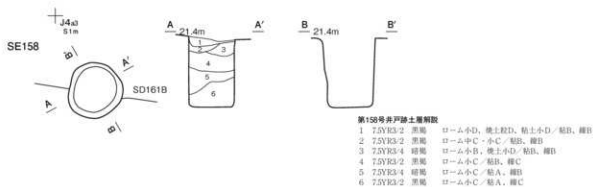
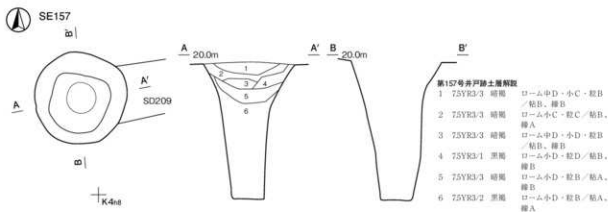
第238図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図(10)



第239図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図(11)

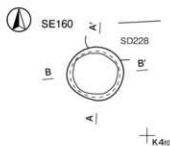


第 240 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (12)



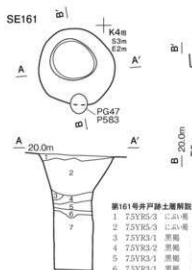
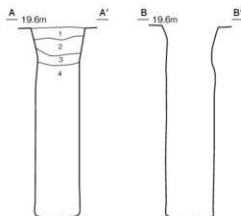
0 (1:60) 2m

第241図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図(13)



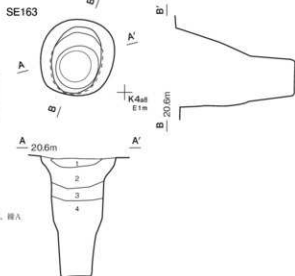
第160号井跡土層解説

- 1 25Y4/1 黄灰 ローム中D、白色粘土中C
- 2 25Y3/1 黒褐 白色粘土大A粒C/粘土、礫B
- 3 25Y2/1 黒 白色粘土小C粒D/粘土、礫B
- 4 25Y2/1 黒 白色粘土小D粒D/粘土、礫C



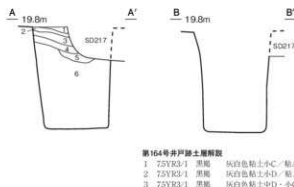
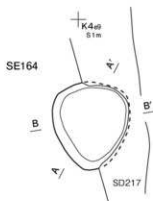
第161号井跡土層解説

- 1 75YR5/3 に灰褐 ローム中B、灰白色粘土小C/粘土、礫A
- 2 75YR5/3 に灰褐 明褐色粘土中A/粘土、礫B
- 3 75YR3/1 黒褐 灰白色粘土中C/粘土、礫B
- 4 75YR3/2 黒褐 明褐色粘土中C/粘土、礫B
- 5 75YR3/1 黒褐 明褐色粘土中D/粘土、礫B
- 6 75YR3/1 黒褐 明褐色粘土中C/粘土、礫B
- 7 75YR3/1 黒褐 明褐色粘土小C/粘土、礫C



第163号井跡土層解説

- 1 75YR3/3 暗褐 ローム大D・中D・小D・粒C、炭化粒D、白色粘土中D・小D・粒D/粘土、礫A
- 2 75YR3/1 黒褐 ローム小D・粒D、炭化粒D、白色粘土中D・小D・粒D/粘土、礫A
- 3 75YR3/1 黒褐 ローム小D・粒D、炭化粒D、白色粘土中C・小D・粒D/粘土、礫A
- 4 75YR2/1 黒 ローム小D・粒D、炭化粒D、白色粘土中D・粒D/粘土、礫B

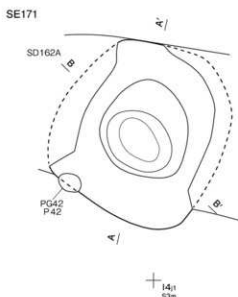
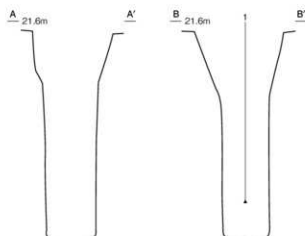
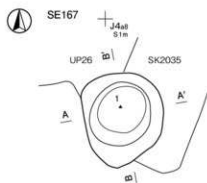


第164号井跡土層解説

- 1 75YR3/1 黒褐 灰白色粘土小C/粘土、礫A
- 2 75YR3/1 黒褐 灰白色粘土小D/粘土、礫A
- 3 75YR2/1 黒褐 灰白色粘土中D・小C/粘土、礫A
- 4 75YR4/3 暗 灰白色粘土小D、黄褐色粘土小C/粘土、礫A
- 5 75YR4/2 灰褐 灰白色粘土小D/粘土、礫B
- 6 75YR4/1 褐灰 灰白色粘土小D/粘土、礫B

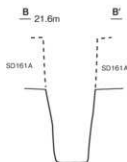
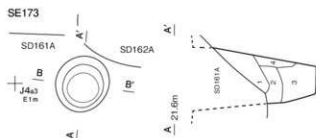
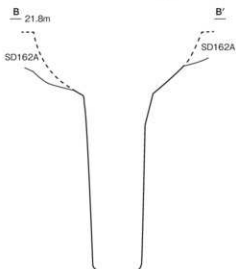
0 (1:60) 2m

第 242 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (14)



第171号井戸跡土層解説

- 1 10YR4/4 褐色 ローム中C・小C・粒B、白色粘土小C・粒C／粘B、雜A
- 2 10YR2/3 黒褐色 白色粘土中D・粒C／粘B、雜C
- 3 10YR3/1 黒褐色 ローム中C・小C・粒C／粘A、雜C
- 4 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒B、白色粘土粒C／粘A、雜C
- 5 10YR3/1 黒褐色 ローム粒C、白色粘土中C・小C・粒C／粘A、雜C



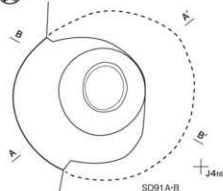
第173号井戸跡土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C、白色粘土粒D／粘A、雜A
- 2 10YR4/1 暗褐色 ローム粒D、白色粘土小D・粒C／粘A、雜A
- 3 10YR4/2 灰青褐色 白色粘土小C・粒D／粘A、雜C
- 4 10YR5/2 灰黄褐色 白色粘土中C・小B／粘A、雜B

0 (1:60) 2m

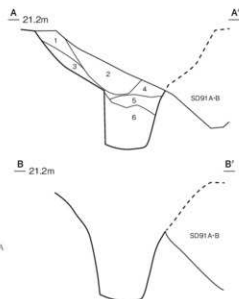
第 243 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (15)

SE175

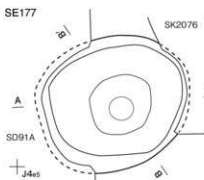


第175号井戸跡土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|------------------------------------|
| 1 | 75YR4/4 | 泥 | ローム中D'・小D'・粒D、白色粘土中D'・小D'・粒D/粘土、緑A |
| 2 | 75YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒D、白色粘土中D'・中C'・小D'・粒B、粘土、緑A |
| 3 | 75Y4/1 | 黄灰色 | 白色粘土粒D'/粘土、緑B |
| 4 | 75Y4/1 | 黄灰色 | 白色粘土中C'・粒B/粘土、緑B |
| 5 | 75Y4/1 | 黄灰色 | 白色粘土中D'・中C'・小C'・粒B/粘土、緑B |
| 6 | 75Y4/1 | 黄灰色 | 白色粘土中D'・小C'・粒B/粘土、緑B |

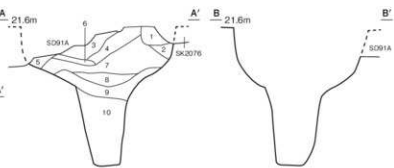


SE177

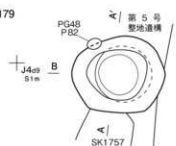


第177号井戸跡土層解説

- | | | | |
|----|---------|-----|-----------------------------|
| 1 | 75YR4/4 | 泥 | ローム大A・中A・小B・粒B/粘土、緑B |
| 2 | 75YR4/3 | 泥 | ローム大A・中B・小B・粒B/粘土、緑B |
| 3 | 75YR3/3 | 緑褐色 | ローム中D・小C'・粒C/粘土、緑B |
| 4 | 75YR3/3 | 緑褐色 | ローム大D・中B・小B・粒C/粘土、緑B |
| 5 | 75YR3/3 | 緑褐色 | ローム中C'・小C'・粒B/粘土、緑B |
| 6 | 75YR3/3 | 緑褐色 | ローム大D・中C'・小C'・粒C/粘土、緑B |
| 7 | 75YR3/3 | 緑褐色 | ローム中D・小C'・粒B/粘土、緑B |
| 8 | 75YR3/3 | 緑褐色 | ローム大D・中C'・小B・粒B/粘土、緑B |
| 9 | 75YR4/3 | 泥 | ローム小D・粒D、白色粘土粒D/粘土、緑C |
| 10 | 75YR4/4 | 泥 | ローム大C・中D・小D・粒D、白色粘土粒D/粘土、緑C |



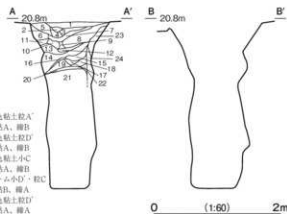
SE179



第179号井戸跡土層解説

- | | | | |
|----|---------|-----|--------------------------|
| 1 | 75YR3/4 | 緑褐色 | ローム粒C、白色粘土粒D/粘土、緑 |
| 2 | 75YR3/2 | 黒褐色 | ローム中C・粒C/粘土、緑A |
| 3 | 75YR2/3 | 緑褐色 | ローム粒C、晩土粒D'、白色粘土中D/粘土、緑A |
| 4 | 75YR3/3 | 緑褐色 | ローム中C'・粒C、白色粘土粒D/粘土、緑B |
| 5 | 75YR4/6 | 泥 | ローム中B・小A・粒A、白色粘土粒C/粘土、緑A |
| 6 | 75YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒D/粘土、緑A |
| 7 | 75YR4/4 | 泥 | ローム中C'・粒B/粘土、緑A |
| 8 | 75YR3/2 | 黒褐色 | ローム小D'・粒D/粘土、緑A |
| 9 | 75YR3/3 | 緑褐色 | ローム粒D/粘土、緑A |
| 10 | 75YR3/4 | 緑褐色 | ローム小D'・粒C/粘土、緑A |
| 11 | 75YR2/3 | 緑褐色 | ローム粒D'/粘土、緑A |
| 12 | 75YR2/3 | 緑褐色 | ローム粒D'/粘土、緑A |
| 13 | 75YR2/2 | 黒褐色 | ローム粒C/粘土、緑A |
| 14 | 75YR3/2 | 黒褐色 | ローム中D'・小D'・粒D'/粘土、緑A |
| 15 | 75YR4/1 | 泥 | ローム中C'・粒D/粘土、緑B |
| 16 | 75YR2/1 | 泥 | ローム粒D/粘土、緑B |
| 17 | 75YR3/3 | 緑褐色 | ローム中C'・中C'・粒C/粘土、緑A |
| 18 | 75YR2/3 | 緑褐色 | ローム中C'・粒C/粘土、緑B |
| 19 | 75YR2/3 | 緑褐色 | ローム小D'・粒D/粘土、緑A |

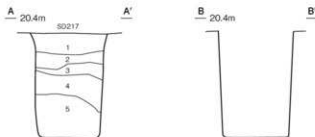
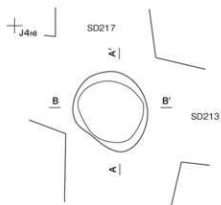
- | | | | |
|----|---------|-----|-----------------|
| 20 | 75YR5/2 | 灰褐色 | 白色粘土粒A'/粘土、緑B |
| 21 | 75YR2/2 | 黒褐色 | 白色粘土粒D'/粘土、緑B |
| 22 | 75YR3/1 | 黒褐色 | 白色粘土中C'/粘土、緑B |
| 23 | 75YR3/4 | 緑褐色 | ローム小D'・粒C/粘土、緑A |
| 24 | 75YR2/2 | 黒褐色 | 白色粘土粒D'/粘土、緑A |



第244図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図(16)



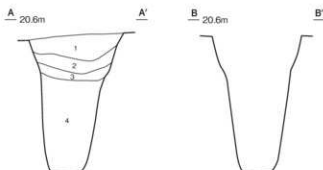
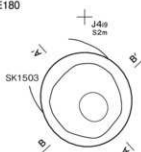
SE178



第178号井戸跡土層解説

- 1 7.5YR5/4 灰色 白色粘土中C・粘A・雑A
- 2 7.5YR6/2 灰黒 砂質粘土大A・粘B・雑B
- 3 7.5YR5/3 灰色 砂質粘土大A・粘B・雑C
- 4 7.5YR5/2 灰黒 砂質粘土中B・粘A・粘B・雑C
- 5 7.5YR5/1 黒灰 砂質粘土中B粘A・粘A・雑C

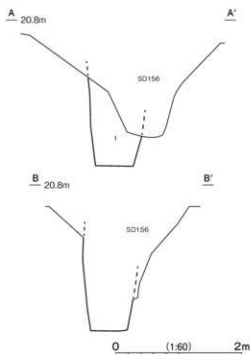
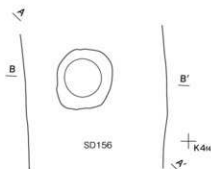
SE180



第180号井戸跡土層解説

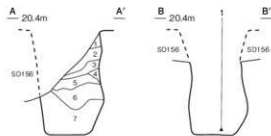
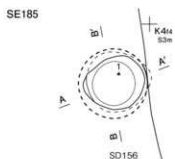
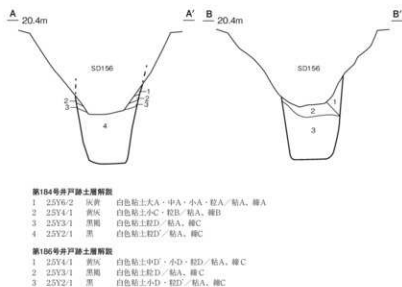
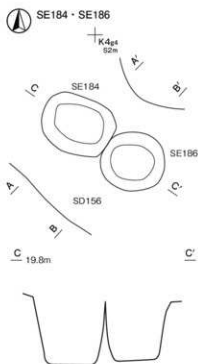
- 1 7.5YR4/1 黒灰 ローム小C・粘C・白色粘土大C・中B・小C・粘C・粘B・雑B
- 2 7.5YR3/2 黒 土 ローム粒D・白色粘土大D・中C・小C・粘C・粘B・雑B
- 3 7.5YR2/1 黒 土 ローム粒D・白色粘土大D・中D・小D・粘D・粘B・雑B
- 4 7.5YR2/1 黒 土 ローム粒D・白色粘土大C・中C・粘A・雑C

SE183



第183号井戸跡土層解説

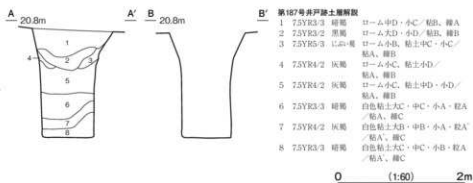
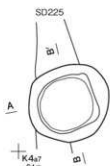
- 1 7.5YR3/2 黒 土 ローム粒D・白色粘土大D・中D・小D・粘C・粘A・雑C



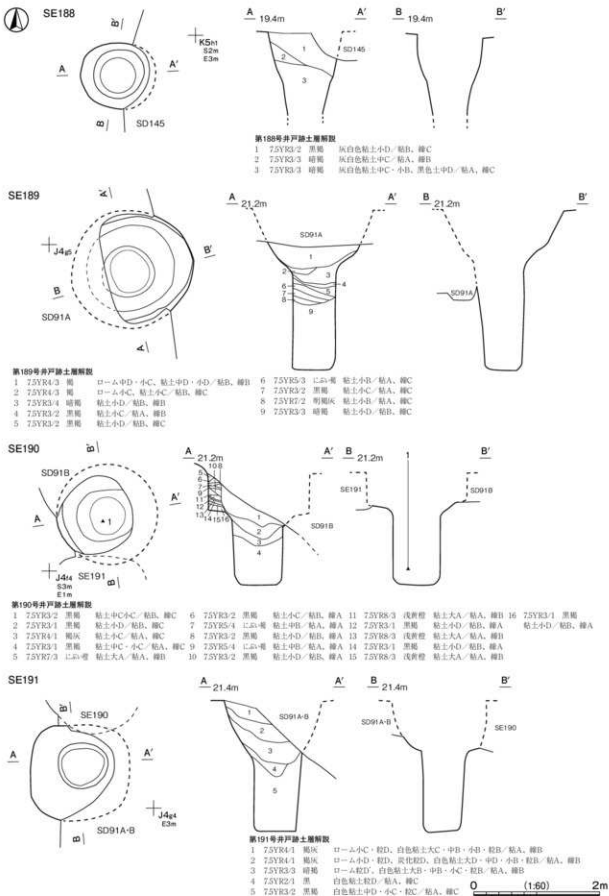
第185号井戸跡土層解説

- | | | | |
|---|----------|------|---|
| 1 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | ローム小C・粒C・炭化粒D・粘B・雜B |
| 2 | 10YR6/3 | ニイ半黄 | ローム小D・粒D、白色粘土大B・中A・小A・粒A・粘A・雜B |
| 3 | 10YR3/1 | 黑褐 | ローム小D・粒D、白色粘土中D・小D・粒D・粘A・雜B |
| 4 | 10YR8/1 | 灰白 | 炭化物D・粒C、白色粘土大A・中A・小A・粒A・粘A・雜B |
| 5 | 10YR4/3 | ニイ半黄 | ローム大C・中C・小D・粒C、白色粘土小C・粒C・粘A・雜B |
| 6 | 10YR4/2 | 灰黄褐 | ローム中D・小C・粒C、炭化物C・粒C、白色粘土大C・中C・小B・粒B・粘A・雜C |
| 7 | 5Y4/1 | 灰 | 白色粘土粒D・粘A・雜C |

SE187



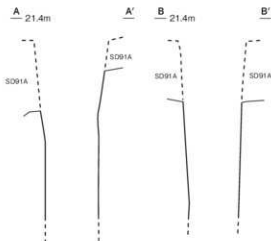
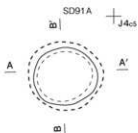
第 246 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (18)



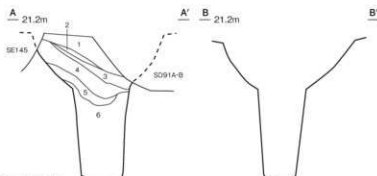
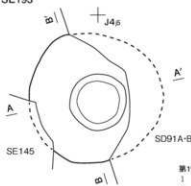
第 247 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (19)



SE192



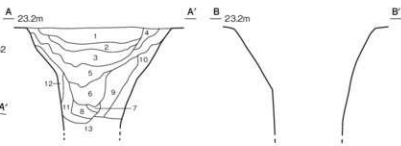
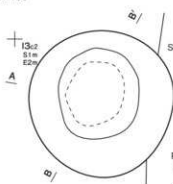
SE193



第193号井戸跡土層解説

- | | | | |
|--------------|----------------------|--------------|----------------|
| 1 75YR4/3 黒 | 灰白色粘土・中B・小A・粘A、粘B、粘C | 4 75YR4/3 黒 | ローム中D・粘A、粘B |
| 2 75YR4/1 黒灰 | 黒白色粘土・中D・小D・粘A、粘B | 5 75YR3/3 暗黒 | 灰白色粘土・小C・粘A、粘B |
| 3 75YR4/1 黒灰 | 灰白色粘土・小D・粘A、粘B | 6 75YR3/3 暗黒 | 灰白色粘土・小C・粘A、粘B |

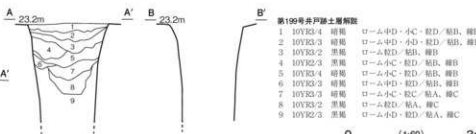
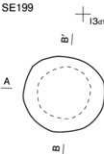
SE195



第195号井戸跡土層解説

- | | | | |
|---------------|---------------------------|---------------|----------------|
| 1 10YR5/4 黒・粘 | ローム大C・中C・小B・粘B、粘土大B、粘B、粘C | 8 10YR5/6 黄黒 | ローム中D・小C・粘B、粘C |
| 2 10YR4/3 黒 | ローム大C・中B・小B・粘A・粘B、粘C | 9 10YR4/6 黒 | ローム中C・小C・粘B、粘C |
| 3 10YR3/2 黒黒 | ローム小C・粘B・粘B、粘B | 10 10YR5/6 黄黒 | ローム小C・粘B・粘B、粘B |
| 4 10YR3/3 暗黒 | ローム小C・粘B・粘B、粘B | 11 10YR3/3 暗黒 | ローム中C・小B・粘B、粘B |
| 5 10YR3/4 暗黒 | ローム中C・小B・粘B・粘B、粘B | 12 10YR4/6 黒 | ローム小B・粘B・粘B、粘B |
| 6 10YR3/4 暗黒 | ローム大D・中C・小B・粘B・粘B、粘B | 13 10YR5/6 黄黒 | ローム中C・小B・粘B、粘B |
| 7 10YR4/4 黒 | ローム小C・粘B・粘B、粘B | | |

SE199

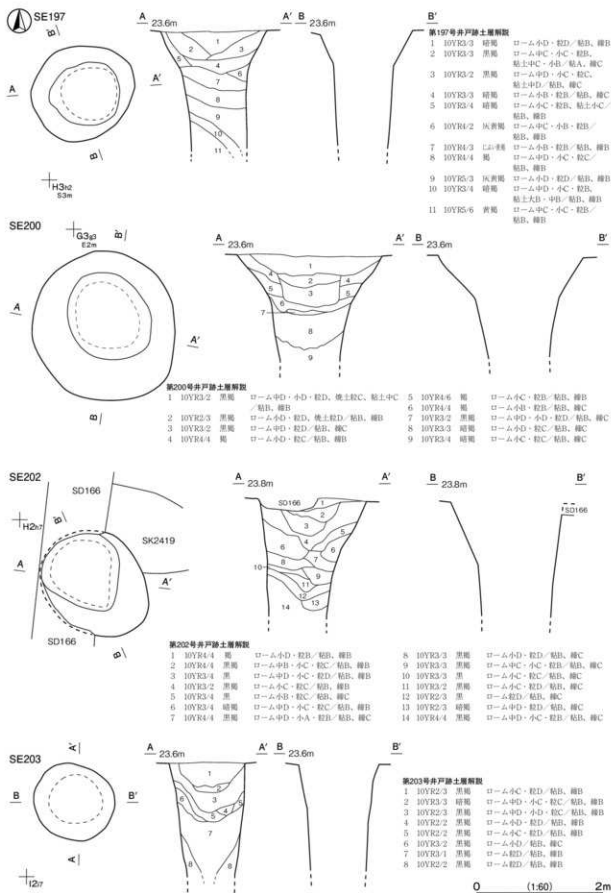


第199号井戸跡土層解説

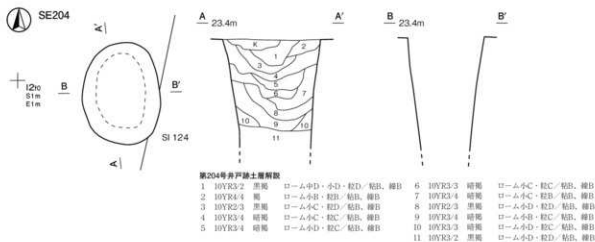
- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 10YR4/4 暗黒 | ローム中D・小C・粘D・粘B、粘B |
| 2 10YR3/3 暗黒 | ローム中D・小D・粘D・粘B、粘B |
| 3 10YR3/2 黒黒 | ローム粘D・粘B、粘B |
| 4 10YR2/3 黒黒 | ローム小C・粘D・粘B、粘B |
| 5 10YR3/4 暗黒 | ローム小C・粘D・粘B、粘B |
| 6 10YR3/3 暗黒 | ローム中D・粘D・粘B、粘B |
| 7 10YR3/3 暗黒 | ローム中C・粘C |
| 8 10YR3/2 黒黒 | ローム粘D・粘A、粘C |
| 9 10YR2/3 黒黒 | ローム小D・粘D・粘A、粘C |

0 (1:60) 2m

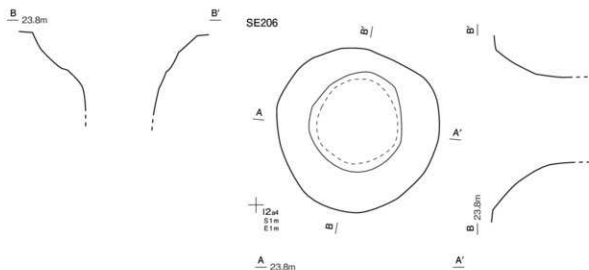
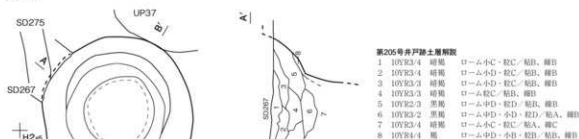
第248図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図(20)



第 249 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (21)



SE205

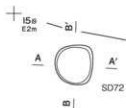


第206号井戸跡土層解説

1	10YR3/2	黒泥	ローム小D・粒C・黄土粒D/粘B、雜B
2	10YR3/2	黒泥	ローム粒C/粘B、雜B
3	10YR3/4	暗褐色	ローム小C・粒C/粘B、雜B
4	10YR4/6	黒	ローム小C・粒B/粘B、雜C
5	10YR2/3	黒褐色	ローム小D・粒C/粘B、雜B
6	10YR2/3	黒褐色	ローム小C・粒C/粘B、雜B
7	10YR3/4	暗褐色	ローム小C・粒D/粘B、雜B
8	10YR2/2	黒褐色	ローム小D・粒D/粘B、雜C
9	10YR4/6	黒	ローム小C・粒C/粘B、雜B
10	10YR3/3	暗褐色	ローム小C・粒D/粘A、雜C
11	10YR4/4	暗褐色	ローム小D・粒B/粘A、雜C

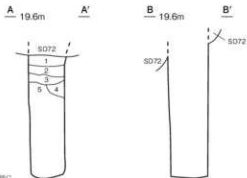
0 (1:60) 2m

第 250 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (22)

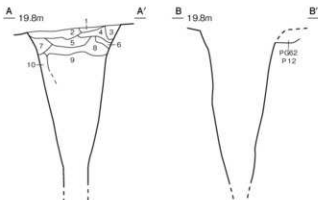
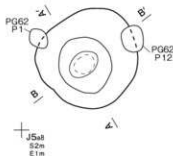


第213号井跡土層解説

- 1 25Y3-2 黒地 焼土小D、炭化物D、浅黄色粘土小D/粘A、礫B
- 2 25Y3-1 黒地 焼土小D、炭化物D、浅黄色粘土中C・小D/粘A、礫C
- 3 25Y4-1 黄灰 焼土小D、炭化物D、砂質粘土C・粒D/粘A、礫B
- 4 25Y4-2 暗黄灰 焼土小D、炭化物D、砂質粘土粒D、浅黄色粘土小C、灰白色粘土中C/粘A、礫B
- 5 25Y2-1 黒 焼土小D、炭化物D、砂質粘土粒D/粘A、礫C



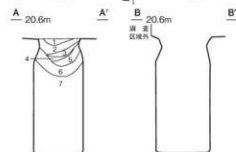
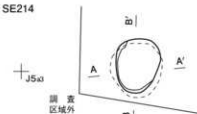
SE211



第211号井跡土層解説

- 1 25YK3-2 黒地 焼土小D、炭化物C、浅黄色粘土大D・小C/粘B、礫B
- 2 25YK2-3 浅黄 焼土小D、炭化物D、浅黄色粘土大A・中A・小A、砂質粘土D/粘A、礫A
- 3 25YK4-2 暗黄灰 焼土小C、炭化物D、灰白色粘土中D、砂質粘土C/粘B、礫A
- 4 25YK3-2 黒地 焼土中C、炭化物D、浅黄色粘土小C/粘B、礫A
- 5 25YK3-1 黒地 焼土小C、浅黄色粘土中D、灰白色粘土中D/粘B、礫A
- 6 25YK2-1 黒 焼土小C、炭化物C、灰白色粘土小C/粘A、礫A
- 7 25YK2-1 黒 焼土小C、炭化物D、灰白色粘土小C/粘B、礫A
- 8 25YK3-1 黒地 焼土小D、炭化物C、灰白色粘土小C/粘B、礫B
- 9 25YK4-1 黄灰 浅黄色粘土小C/粘A、礫C
- 10 25YK2-1 黒 焼土粒D、炭化物D、灰白色粘土小D/粘A、礫B

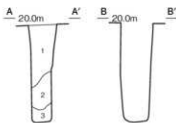
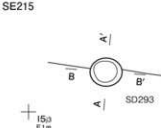
SE214



第214号井跡土層解説

- 1 25YK3-3 黄11-7 焼土小D、炭化物D、灰白色粘土小D/粘B、礫A
- 2 25YK4-3 黄11-7 焼土小D、炭化物C、灰白色粘土小D/粘B、礫A
- 3 25YK4-2 暗黄灰 焼土小D、炭化物C、浅黄色粘土小C、灰白色粘土中D/粘B、礫A
- 4 25YK4-1 黄灰 炭化物A・粒C、灰白色粘土小D/粘B、礫A
- 5 25YK6-2 灰黄 炭化物C、灰白色粘土大D・中B・小B/粘B、礫B
- 6 25YK6-3 灰黄 炭化物C、灰白色粘土小C、浅黄色粘土中C・小C/粘B、礫A
- 7 25YK8-2 灰白 灰白色粘土大B・中B・小B/粘A、礫A

SE215



第215号井跡土層解説

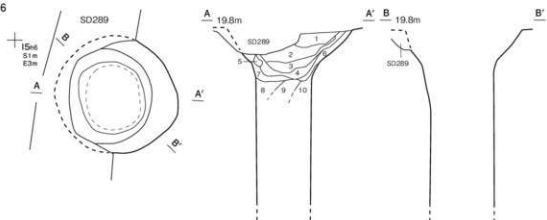
- 1 10YK3-1 黒地 焼土中D・粒C/粘B、礫C
- 2 10YK5-1 暗灰 焼土小C・粒A・粘C、礫C
- 3 10YK6-1 暗灰 焼土粒A・粘B、礫C

0 (1:60) 2m

第 251 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (23)



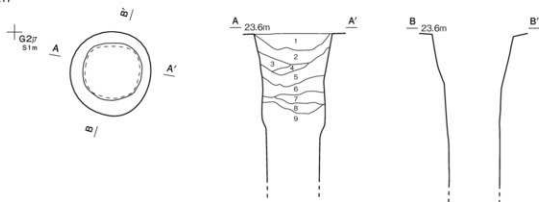
SE216



第216号井戸跡土層解説

- | | | | |
|----|--------|-----|-------------------------------|
| 1 | 25Y6/4 | にみま | 浅黄色粘土大A、灰白色粘土大C/粘土B、緑A |
| 2 | 25Y3/2 | 黒褐色 | 浅黄色粘土大C、灰白色粘土大C/粘土B、緑A |
| 3 | 25Y3/1 | 黒褐色 | 浅黄色粘土大C、灰白色粘土大C、粘土C/粘土A、緑B |
| 4 | 25Y4/1 | 黄灰 | 浅黄色粘土大C、灰白色粘土大C、粘土C/粘土A、緑C |
| 5 | 25Y3/1 | 黄灰 | 浅黄色粘土小D、灰白色粘土小D、粘土A/粘土A、緑B |
| 6 | 25Y6/4 | にみま | 浅黄色粘土中B・小B、灰白色粘土小C、粘土C/粘土B、緑B |
| 7 | 25Y4/2 | 暗灰黄 | 浅黄色粘土中D・小D、灰白色粘土中D、粘土C/粘土A、緑C |
| 8 | 25Y4/1 | 黄灰 | 浅黄色粘土小C、灰白色粘土中C、粘土A/粘土A、緑C |
| 9 | 25Y3/1 | 黒褐色 | 浅黄色粘土中D、灰白色粘土中D、粘土A/粘土A、緑B |
| 10 | 25Y3/1 | 黒褐色 | 浅黄色粘土小B、灰白色粘土小B、緑C/粘土B、緑C |

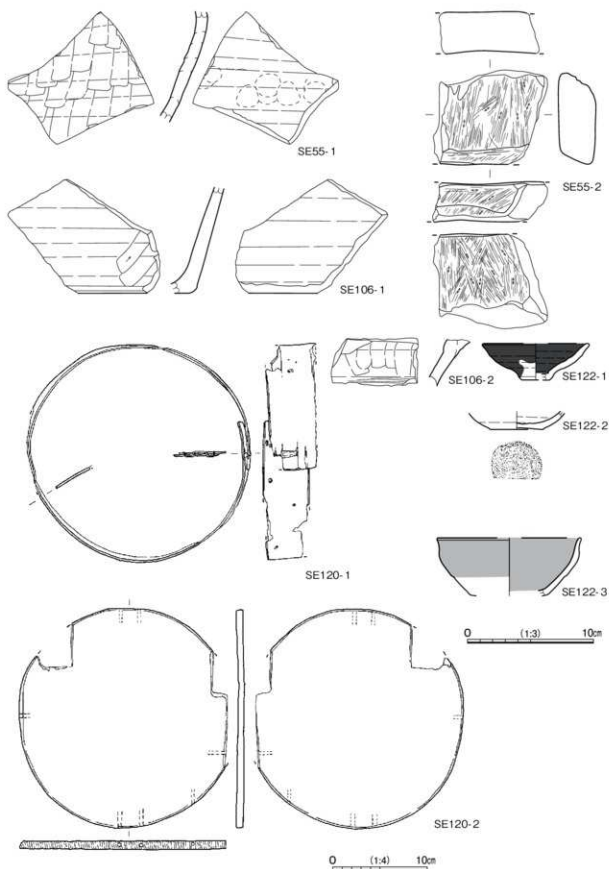
SE217



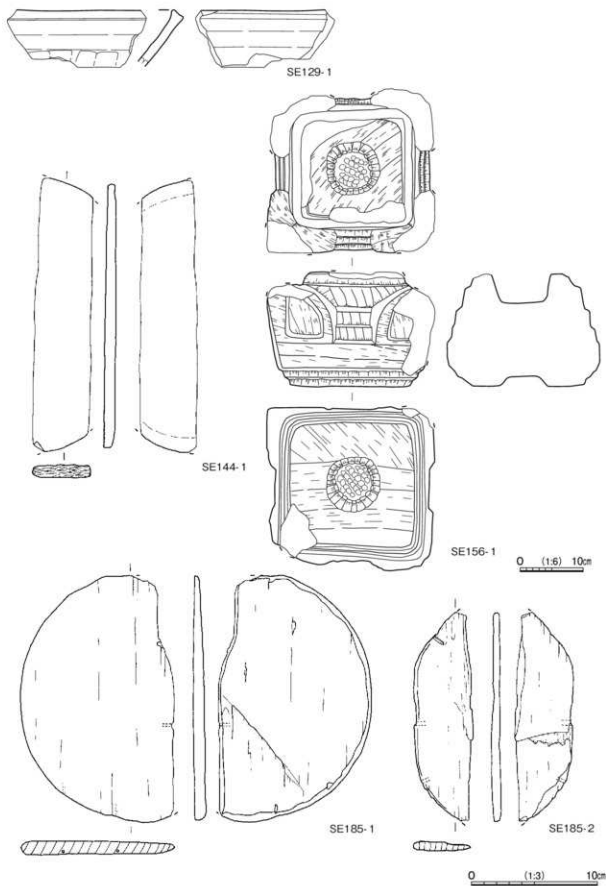
第217号井戸跡土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|---------------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム中C・小C・粒D、炭化物D/粘土B、緑B |
| 2 | 10YR5/4 | にみま | ローム大C・中B・小B・粒B/粘土B、緑B |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム中C・小B・粒B/粘土B、緑C |
| 4 | 10YR6/4 | にみま | ローム中A・粒D、粘土B、緑B |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム小D・粒D、炭土小D、炭化物D/粘土B、緑C |
| 6 | 10YR2/1 | 黒褐色 | ローム中D・小C・粒C/粘土B、緑C |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム中D・小B・粒C/粘土B、緑C |
| 8 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム中C・小B・粒C/粘土B、緑C |
| 9 | 10YR1/4 | 黒 | ローム中B・小A・粒B/粘土B、緑C |

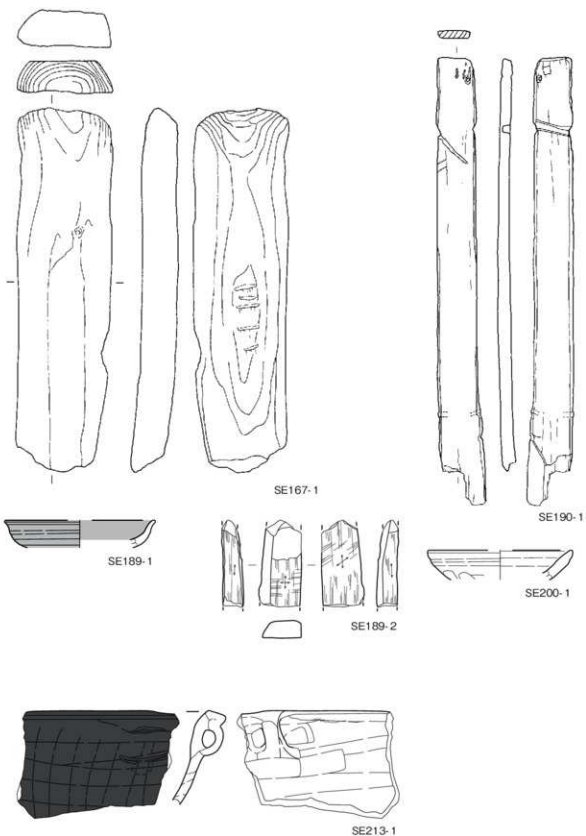
0 (1:60) 2m



第 253 図 室町時代から江戸時代その他の井戸遺物実測図(1)



第 254 図 室町時代から江戸時代その他の井戸遺物実測図(2)



第 255 図 室町時代から江戸時代その他の井戸遺物実測図(3)

第141表 第55号井戸跡出土遺物一覧第253図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
1	陶器	甕	—	(10.5)	—	緻密・褐灰	体部外面縦位ナデ 内面指頭痕	自然釉	常滑	覆土	5%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	紙石	(75)	(90)	3.3	(3263)	砂岩	紙面3面 多方向の縦横痕	覆土	PL61

第142表 第106号井戸跡出土遺物一覧(第254図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	大鉢*	—	(9.1)	—	長石・雲母	橙	普通	体部外面下端部斜位ナデ 底部砂目痕	覆土	5%
2	土師質土器	羽釜*	—	(3.4)	—	長石・雲母・赤色粘土	にぶい橙	普通	体部外面横位ナデ・弱い縦位ナデ・肩部か耳部貼付け	覆土	5%

第143表 第120号井戸跡出土遺物一覧(第253図)

番号	器 種	径	器高	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
1	曲物	22.9	5.6	0.1~0.25	—	—	板目 側板 張り・曲げ加工 表皮を用いた編み止め	底面	PL63
2	曲物	23.1	—	1.0	—	—	板目 底板 切り出し・張り加工 外面装着物 側面釘穴7か所	底面	PL63

第144表 第122号井戸跡出土遺物一覧(第253図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[8.4]	2.9	[2.2]	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	口クロナデ	覆土	10% 埋付着
2	土師質土器	皿	—	(1.4)	4.2	長石・雲母	橙	普通	口クロナデ 底部回転赤切り	覆土	10%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
3	陶器	天目茶碗	[11.2]	4.6	—	緻密・黄橙	口クロナデ 貼付け	体部下端張り出し 漬	褐釉	瀬戸・美濃	覆土 30%

第145表 第129号井戸跡出土遺物一覧(第254図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	内耳鍋	—	(4.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦位ナデ	覆土	5%

第146表 第144号井戸跡出土遺物一覧(第254図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
1	曲物	(21.6)	(4.6)	1.0	—	—	板目 内面縁辺部圧痕 藁*	覆土	

第147表 第156号井戸跡出土遺物一覧(第254図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
1	宝篋印塔	26.8	26.2	18.5	(21.7g)	花崗岩	上部・上・下面中央部受け穴・縦溝・張り痕 側面縦溝・隅飾 衣衾部上部欠損・鈴盤・蓋部張り痕	底面	

第148表 第167号井戸跡出土遺物一覧(第255図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
1	板材	57.6	15.2	7.4	-	-	板目 切り出し・削り加工 端部切断痕	覆土	

第149表 第185号井戸跡出土遺物一覧(第254図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
1	曲物	19.5	-	1.0	-	-	板目 底板 切り出し・削り加工 外面砥直着物 側面釘穴3か所	覆土	
2	曲物	(16.5)	(4.8)	0.7	-	-	板目 底板 切り出し・削り加工 側面釘穴3か所 内1か所に竹釘残存	覆土	

第150表 第189号井戸跡出土遺物一覧(第255図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	輪軸	産 地	出土位置	備 考
1	陶器	端反皿	[118]	(22)	-	緻密・にぶい黄褐色	ロクロ成形 横付け掛け 体部下端削り出し	灰軸	瀬戸・美濃	覆土	10%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	砥石	(6.9)	3.4	1.8	(51.84)	凝灰岩	砥面4面 表裏面二方向の研磨痕 側面一方向の研磨痕	覆土	

第151表 第190号井戸跡出土遺物一覧(第255図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
1	板材	(25.4)	3.8	1.4	-	-	板目 切り出し・削り加工・樹皮編込み 内面圧痕 側面鉄釘打ち込み	覆土下層	

第152表 第200号井戸跡出土遺物一覧(第255図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[114]	(24)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	溝ロクロ成形 口縁部横ナデ、外面横位沈線状のナデ 体部下端ナデ	覆土	10%

第153表 第213号井戸跡出土遺物一覧(第255図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	内耳皿	-	(8.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	口縁部横ナデ 耳部筋付け 体部外面縦・横位ナデ 内面横位ナデ	覆土	10% 埋付着

第154表 室町時代から江戸時代井戸跡一覧

番号	位置	長短方向	平面形	概 概		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
5	G 4 g0	N - 37° - E	楕円形	2.34 × 2.18	(90)	円筒状	-	人爲	土師質土器 陶器	
7	G 4 e7	-	[円形]	1.54 × (1.44)	(90)	漏斗状	-	人爲	-	本跡→SD17
20	G 3 d0	-	円形	1.50 × 1.40	(186)	漏斗状	-	人爲	土師質土器	SD63A・B→本跡
21	I 4 e0	-	円形	1.10 × (1.10)	152	円筒状	平坦	自然	土師質土器	本跡→SK745 掘井F10
22	I 5 c1	-	円形	[1.40] × 1.38	(140)	漏斗状	-	-	土師質土器 磁石	SD77と重複
23	I 4 b9	-	円形	2.02 × 1.98	(180)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 瓦質土器 黑白 磁石 五輪塔	
24	I 4 d9	N - 8° - W	楕円形	2.84 × 2.40	(200)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 磁石	
25	I 4 a7	-	円形	1.02 × (0.96)	194	円筒状	平坦	人爲	土師質土器	掘井F10
26	H 4 g9	-	[円形]	[1.18] × [1.18]	(124)	漏斗状	-	人爲	土師質土器	SE27→本跡 →SD73
27	H 4 g9	N - 1° - E	楕円形	1.04 × 0.92	(130)	円筒状	-	人爲	-	本跡→SE26・ SD73
28	H 4 b9	-	円形	1.32 × 1.30	(110)	漏斗状	-	人爲	土師質土器	
29	H 4 d1	-	円形	3.10 × 2.92	(80)	円筒状	-	人爲	土師質土器 鉄滓	本跡→SK33・825・ 860・881・883 PG9P10と重複
31	H 4 e1	-	円形	2.30 × 2.28	210	漏斗状	ほぼ平坦	人爲	土師質土器 陶器	SB0、SK91→本跡 →SK31 掘井F10
32	H 4 a6	-	円形	1.72 × 1.70	(141)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 瓦質土器	
33	H 3 b9	-	円形	2.72 × 2.54	(200)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 陶器 鉄滓	SE37・38→本跡
34	H 4 e2	-	円形	2.44 × 2.22	(200)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 陶器 石器 板状土	SE36、SK911→ 本跡
35	H 4 a3	-	円形	0.80 × 0.74	(186)	円筒状	-	人爲	-	SK761→本跡
36	H 4 e2	-	[円形]	2.40 × (2.40)	(196)	漏斗状	-	人爲	土師質土器	本跡→SE34
37	H 3 b9	-	[円形]	3.32 × (3.32)	(200)	漏斗状	-	自然 人爲	土師質土器 石片	本跡→SE33
38	H 3 b0	-	[円形]	3.38 × (2.96)	(142)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 陶器 磁器 磁石	本跡→SE33
40	H 4 i5	N - 20° - E	不整形円形	1.90 × 1.58	(140)	漏斗状	-	人爲	土師質土器	
41	I 4 i5	-	円形	0.80 × 0.76	(140)	(円筒状)	-	人爲	土師質土器	SD91B→本跡
42	I 4 i5	-	円形	1.92 × 1.90	(140)	漏斗状	-	自然	土師質土器	
43	H 3 i8	-	円形	1.34 × 1.30	(200)	円筒状	-	人爲	土師質土器	本跡→SK933
44	H 4 d0	-	[円形]	1.96 × [1.94]	(108)	漏斗状	-	自然	-	本跡→SD73
46	H 4 e7	-	円形	1.18 × 1.12	(134)	円筒状	-	人爲	土師質土器 陶器	
47	H 5 i1	-	円形	1.34 × 1.26	(110)	漏斗状	-	人爲 不明	土師質土器	
48	I 3 a0	-	円形	2.18 × 2.18	(170)	漏斗状	-	人爲 自然	土師質土器 陶器	SE57→本跡
49	I 3 d9	N - 36° - E	楕円形	2.54 × 2.30	(200)	漏斗状	-	人爲	土師質土器	本跡→SE50 SD92と重複
50	I 3 d9	-	円形	3.40 × 3.30	(200)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 陶器	SE49→本跡 SD92と重複
51	I 3 d8	N - 83° - W	楕円形	2.90 × 2.42	(164)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 陶器 石片	
52	I 4 b1	-	円形	2.40 × 2.28	(180)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 石片	
53	H 4 c0	-	円形	1.80 × 1.64	(120)	漏斗状	-	人爲	-	SD81A→本跡
54	I 4 b7	-	[円形]	(1.04) × (0.92)	(125)	(円筒状)	-	-	-	
55	I 4 b6	-	[円形]	(1.28) × (0.86)	(110)	(円筒状)	-	-	土師質土器 陶器 磁石	本跡→SD91A・B
56	H 4 i2	-	円形	1.88 × 1.74	(140)	漏斗状	-	人爲	土師質土器	SD86A→本跡 SK1073と重複
57	I 3 b0	N - 78° - E	[楕円形]	2.14 × (1.78)	(170)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 陶器	本跡→SE48 PG22と重複
58	I 4 b1	N - 59° - W	楕円形	0.98 × 0.82	(144)	円筒状	-	自然	土師質土器 陶器 磁石	
59	I 3 d8	-	円形	1.54 × 1.42	(144)	円筒状	-	人爲	陶器	SK963→本跡
60	H 4 e2	N - 8° - W	[楕円形]	1.58 × (1.36)	(150)	漏斗状	-	人爲	土師質土器	本跡→SE3、SK37・ 882・884・911
61	H 3 j0	-	円形	1.44 × 1.36	(141)	漏斗状	-	人爲	土師質土器	
62	I 3 a0	-	円形	2.34 × 2.28	(120)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 陶器 磁石	
63	I 3 a9	N - 70° - W	楕円形	3.20 × 2.86	(110)	漏斗状	-	人爲	土師質土器 陶器	SE71、SK1046→ 本跡

番号	位置	長短方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 要 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
64	I 3g8	-	円形	3.36 × 3.20	(90)	漏斗状	-	人為	土師質土器	SK1028 → 本跡
65	I 4d4	N-45°-W	楕円形	1.64 × 1.46	(60)	漏斗状	-	-	土師質土器 陶器	SD97 と重複
66	I 4e5	-	円形	1.48 × 1.48	(142)	漏斗状	-	-	-	-
67	I 3e9	-	円形	3.20 × 2.96	(110)	漏斗状	-	自然 人為	土師質土器 陶器	本跡 → PC23P22 ~ P24
68	I 4e8	N-15°-W	[楕円形]	(1.02) × (0.86)	(90)	円筒状	平坦	-	-	SD73 と重複
69	I 3g0	N-33°-E	楕円形	1.62 × 1.22	(136)	漏斗状	-	人為	土師質土器 磁石	本跡 → SD95
70	I 4h3	-	円形	1.98 × 1.90	(113)	漏斗状	-	人為	土師質土器	SD108 → 本跡
71	I 3a9	N-10°-W	[楕円形]	[2.14] × [1.96]	(94)	漏斗状	-	-	-	本跡 → SE63、 SK1046
72	I 4h1	N-35°-E	楕円形	1.28 × 1.04	(132)	円筒形	-	人為	-	本跡 → SK1062
73	I 4i1	-	円形	0.84 × 0.80	(90)	円筒状	-	人為	土師質土器	-
74	I 3c0	N-35°-W	楕円形	2.56 × 2.32	(90)	漏斗状	-	人為	土師質土器	本跡 → PC22、P140、 P10、P19
75	I 4c1	-	円形	1.70 × 1.34	(120)	円筒状	-	-	-	PC22 P151 ~ P153 と重複
76	I 4a6	N-7°-E	楕円形	2.40 × 2.18	(120)	漏斗状	-	-	土師質土器	-
77	I 4a6	N-45°-W	楕円形	1.08 × 0.90	(155)	円筒状	-	-	土師質土器 磁石	-
78	I 4a8	N-25°-E	楕円形	1.16 × 0.86	(156)	円筒状	-	-	-	本跡 → 第4号壁 地遺構
79	I 4e8	-	円形	1.16 × 1.14	(52)	円筒状	-	自然 人為	磁器	SK1003、SD106 → 本跡
80	I 4b8	N-80°-W	楕円形	0.76 × 0.62	(48)	円筒状	-	-	土師質土器 磁石	SD72 → 本跡
81	H 4j8	N-44°-W	楕円形	1.00 × 0.84	(136)	円筒状	-	-	-	-
82	H 4g8	N-62°-W	楕円形	1.60 × 1.40	(128)	円筒状	-	-	-	-
106	K 1c0	-	[円形]	[1.60] × 1.48	440	円筒状	平坦	人為	土師質土器	SD142 と重複
107	K 2a7	-	[円形]	2.16 × (2.06)	336	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 羽口	本跡 → SD149
110	J 2b6	N-34°-E	楕円形	2.02 × 1.70	(428)	漏斗状	-	自然 人為	土師質土器 台石	-
111	J 2d2	-	円形	1.40 × 1.36	316	漏斗状	平坦	自然 人為	土師質土器	-
112	K 2c9	-	[円形]	[2.10] × [2.10]	370	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 磁石	本跡 → SK1480、 SD151
113	J 2b4	N-50°-E	[楕円形]	2.56 × (2.28)	(200)	漏斗状	-	人為	土師質土器 陶器 鉄線 馬 歯	SD300 → 本跡 → SD149 SK1456 と重複
114	J 3j4	N-38°-E	楕円形	2.92 × 2.50	(200)	漏斗状	-	人為	土師質土器 陶器	SK1423 → 本跡 SK1436、149 と重複
115	J 3j3	N-80°-W	楕円形	1.73 × 1.54	328	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 羽口	-
117	K 3f7	-	円形	1.14 × 1.12	320	漏斗状	平坦	自然 人為	土師質土器	SD158 → 本跡
118	K 3e8	N-20°-W	楕円形	0.94 × 0.78	(368)	円筒状	-	自然 人為	土師質土器 磁石	-
119	K 3d8	N-15°-E	楕円形	1.70 × 1.42	330	漏斗状	平坦	自然 人為	土師質土器 羽口	-
120	K 3c7	N-27°-E	楕円形	1.50 × 1.22	360	漏斗状	平坦	人為	-	-
121	K 3e9	-	円形	0.96 × 0.92	210	円筒状	平坦	人為	土師質土器 管状土罐	-
122	K 3c8	N-10°-W	楕円形	1.60 × 1.48	226	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 石臼 五 輪塔	SK1534 → 本跡
123	K 3b8	-	[円形]	[2.12] × [2.10]	346	円筒状	平坦	人為	土師質土器 鉄滓	SD171 → 本跡 → SD160
124	K 3a8	-	円形	2.28 × 2.12	335	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 羽口	SD63A と重複
125	J 3j5	N-33°-E	楕円形	2.30 × 2.00	230	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 磁石	PC38P16 と重複
126	J 3e6	-	円形	2.90 × 2.76	270	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 宝篋印塔	SK1770 → 本跡 SK1631 と重複
127	J 3h5	-	円形	1.66 × 1.52	408	漏斗状	-	自然 人為	土師質土器 石臼	-
129	J 3e6	-	[円形]	2.04 × [2.04]	330	漏斗状	平坦	自然	土師質土器 五輪塔	SK1824 → 本跡 → SK1771 SE130 と重複
130	J 3c7	-	円形	2.82 × 2.72	320	逆凸字状	平坦	人為	土師質土器	SE129 と重複
131	J 3b6	-	[円形]	(2.28) × 2.26	336	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 瓦質土器 陶器	SE143 → 本跡 → SK1828、 1908、1913、 SK1830、1811、 1894 と重複
132	J 4g3	N-40°-E	楕円形	2.18 × 2.06	210	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 石臼	SK1948 と重複

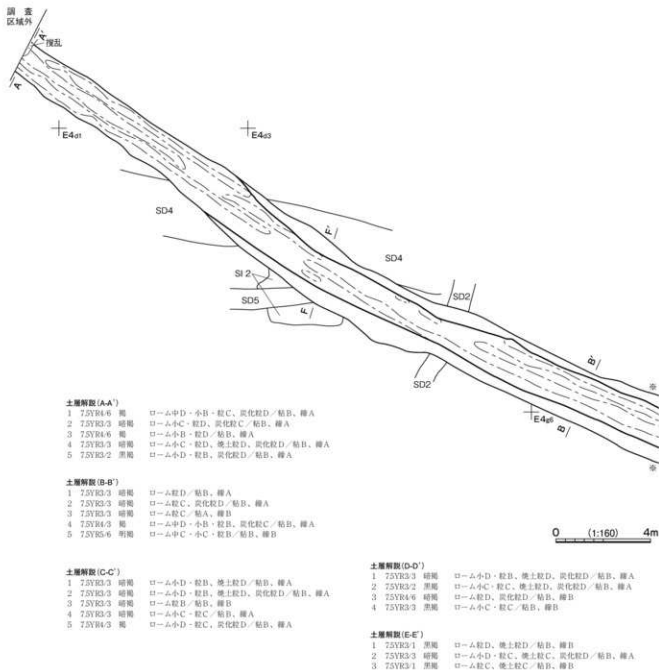
番号	位置	長短方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
133	J 4 a3	N-20°-E	楕円形	1.58 × 1.42	240	漏斗状	平坦	自然入為	-	SD192 → 本跡
134	J 3 a8	-	円形	1.68 × 1.56	208	漏斗状	凹状	人為	土師質土器	本跡→SK1753
135	J 3 a0	-	[円形]	2.22 × (2.16)	342	漏斗状	平坦	人為	-	本跡→SK1730・1751
136	J 3 i9	-	円形	2.08 × 1.98	270	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器	本跡→SK1738・SK1801、PG11と重複
137	J 3 i8	N-52°-W	楕円形	3.12 × 2.88	(400)	漏斗状	-	人為	土師質土器 灰白 手本跡 底石	本跡→SK1738・SK1801、PG11と重複
138A	J 4 i3	N-90°	[隅丸長方形]	(2.95) × 2.55	254	[漏斗状]	平坦	人為	土師質土器 石白 底石 鉄	SE1381 → 本跡 → SK1840・1865 PG44P282・P283・ PG44P284と重複
138B	J 4 i3	N-72°-W	[楕円形]	(2.90) × (1.88)	372	[漏斗状]	平坦	人為	-	本跡→SE138A・SK1840・1865 PG44と重複
139	J 3 a8	N-80°-E	円形	1.18 × 0.98	204	漏斗状	凹状	人為	-	掘井戸
140	J 3 g7	-	円形	2.54 × 2.52	332	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 瓦輪塔	SK1875・1897 → 本跡 → SK1848・1849
141	J 3 a8	-	不整形円形	2.00 × 1.90	320	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 灰白	本跡→PG42P7 SK1874・SK1875と重複
142	J 3 g8	-	円形	1.88 × 1.76	400	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	SD103・204 → 本跡
143	J 3 i7	-	[円形]	1.26 × (1.32)	300	円筒状	-	人為	-	本跡→SE131・SK1908
144	K 4 a3	-	円形	1.12 × 1.10	238	[円筒状]	平坦	人為	鉄滓	SK1861 → 本跡 → PG44P431
145	J 4 i4	-	円形	2.28 × 2.20	228	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器	SE193 → 本跡 SK1421と重複
146	J 4 i2	-	円形	1.38 × 1.32	364	漏斗状	平坦	人為	-	-
147	J 4 i4	-	円形	2.24 × 2.24	250	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK1974・ PG44P489・490・ 502・503・509・510
148	J 4 i2	N-52°-W	楕円形	2.20 × 2.06	224	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	本跡→PG44P493・ 528
149	J 3 i7	-	円形	1.62 × 1.60	322	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 灰質土器	SK1828 → 本跡
150	J 3 d7	N-87°-E	[楕円形]	[2.18] × 1.48	288	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	SE131 → 本跡 PG11・259・410
151	J 3 d8	N-42°-E	[楕円形]	[1.62] × 1.48	318	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	本跡→SE131・ PG11・259・410
152	J 3 e8	N-42°-E	楕円形	1.12 × 1.00	336	円筒形	平坦	人為	土師質土器	本跡→PG41P246・ 266
153	K 4 c5	N-88°-E	楕円形	3.10 × 2.41	395	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	SK2043 → 本跡
154	K 4 g6	-	[円形]	(1.43) × (1.45)	316	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 須口 底石	SE136 → 本跡 → SD161・B・288
155	K 4 g4	-	[円形]	1.39 × (1.30)	140	円筒状	平坦	人為	-	本跡→SK1864・PG42P4 手本跡
156	K 4 g6	-	[円形]	(1.80) × (1.68)	370	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 宝篋印塔	本跡→SE154・ SD91A・B
157	K 4 g7	-	円形	1.50 × 1.48	221	漏斗状	平坦	人為	-	SD209 → 本跡
158	J 4 a3	-	円形	0.88 × 0.82	108	円筒状	平坦	人為	土師質土器	SD161B → 本跡 掘井戸
159	J 3 e9	N-85°-W	[楕円形]	(2.22) × 1.82	308	漏斗状	平坦	人為	-	本跡→SK1803・SK1804・ PG28P236・237
160	K 4 e9	-	円形	0.91 × 0.87	304	円筒状	平坦	人為	-	SD228 → 本跡
161	K 4 f8	-	円形	1.26 × 1.22	182	円筒状	平坦	人為	-	PG47P583と重複
163	J 4 j8	N-40°-E	楕円形	1.31 × 1.18	187	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	-
164	K 4 e9	N-5°-W	[不整形円形]	1.38 × [1.24]	160	円筒形	平坦	人為	土師質土器 鉄貨	本跡→SD217 PG47P22・P229・ P281・P284と重複 掘井戸
165	K 4 i9	N-7°-W	[楕円形]	2.39 × (1.92)	442	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 磁器	SK1627 → 本跡 → SD221
166	J 4 a8	N-9°-W	楕円形	1.24 × 1.08	170	円筒形	平坦	人為	土師質土器 鉄貨	SK2035 → 本跡
167	J 4 a8	N-8°-E	楕円形	1.52 × 1.28	328	漏斗状	平坦	-	土師質土器	UP26・SK2035 → 本跡
168	K 4 i8	N-88°-W	楕円形	2.12 × 1.87	230	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 底石 台石	SE169 → 本跡
169	K 4 i8	N-70°-W	[楕円形]	(1.40) × (1.30)	160	漏斗状	円凸	人為	土師質土器 陶器 石白 底石	SD217 → 本跡 → SE168
170	J 4 d8	-	[円形]	2.28 × (1.80)	240	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 土師質土器 陶器 石白 底石 瓦輪塔 瓦管筒 鉄貨 木製品	SD217と重複
171	I 3 i0	-	[円形]	2.80 × (2.62)	380	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	本跡→SD162A PG42と重複
172	I 3 i9	-	[円形]	(1.74) × (0.88)	296	漏斗状	凹状	人為	土師質土器 陶器 石白	本跡→SD161A・B
173	J 4 a3	N-5°-E	[楕円形]	(0.90) × (0.86)	(116)	円筒状	平坦	人為	-	本跡→SD161A・B
174	K 4 i6	-	円形	1.34 × 1.30	280	円筒状	平坦	人為	土師質土器 陶器 須口 石	-
175	J 4 g4	N-78°-E	[楕円形]	(2.12) × (1.38)	184	円筒状	凹状	人為	土師質土器 石白	本跡→SD91A・B

番号	位置	長短方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 要 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
176	K 4c1	-	[円形]	2.26 × (2.00)	290	漏斗状	平坦	人瓦	土師質土器	本跡→SD157 SK1637と重複
177	J 4d5	N-57°-E	[楕円形]	2.34 × 1.98	220	漏斗状	平坦	人瓦	土師質土器 陶器 砥石	本跡→SD91A、 SK2076
178	J 4b8	N-42°-W	[楕円形]	(1.27) × (1.06)	(170)	(円筒状)	平坦	人瓦	-	本跡→SD213・ 217
179	J 4d9	N-89°-W	[楕円形]	1.48 × 1.21	258	円筒状	平坦	人瓦	土師質土器	SK1757→本跡→ 第5号要地遺構 IV-682と重複
180	J 4i7	-	[円形]	1.50 × 1.42	217	漏斗状	平坦	人瓦	-	SK1563→本跡
181	J 5f1	-	[円形]	2.13 × (1.90)	381	漏斗状	平坦	人瓦	土師質土器	本跡→SD145
182	J 4d9	N-40°-W	[楕円形]	2.80 × 2.16	(428)	漏斗状	-	人瓦	土師質土器 石臼	-
183	K 4e3	-	[円形]	(1.04) × (0.92)	(150)	(円筒状)	平坦	人瓦	-	本跡→SD156
184	K 4g3	N-68°-W	[楕円形]	(1.10) × 0.90	(122)	(円筒状)	-	人瓦	-	本跡→SD156 SE186と重複
185	K 4d1	-	[円形]	(0.98) × (0.82)	166	(円筒状)	平坦	人瓦	緑釉	本跡→SD156
186	K 4g3	-	[円形]	(1.06) × (0.98)	(132)	(円筒状)	平坦	自然 人瓦	-	本跡→SD156 SE184と重複
187	K 4a7	-	[円形]	1.28 × 1.20	170	漏斗状	平坦	人瓦	-	SD225→本跡
188	K 5h1	-	[円形]	(1.08) × 1.02	(127)	漏斗状	-	人瓦	陶器	本跡→SD145
189	J 4g5	N-71°-E	[楕円形]	(1.98) × [1.88]	253	漏斗状	平坦	人瓦	土師質土器 陶器 石臼 砥 石	本跡→SD91A
190	K 4d4	-	[円形]	[1.60] × [1.60]	177	漏斗状	平坦	人瓦	土師質土器 砥石 木材	本跡→SD91B SE191と重複
191	J 4f4	-	[円形]	[1.56] × [1.51]	206	漏斗状	平坦	人瓦	-	本跡→SD91A・B SE190と重複
192	J 4e4	N-85°-E	[楕円形]	[1.18] × [1.05]	(298)	円筒状	-	-	-	本跡→SD91A
193	J 4j4	-	[円形]	2.10 × [2.10]	224	漏斗状	平坦	人瓦	-	本跡→SE145、 SD91A・B
194	J 2b4	-	[円形]	(1.20) × (1.10)	(150)	(円筒状)	-	人瓦	土師質土器	本跡→SD149
195	I 3c2	-	[円形]	2.30 × 2.27	(166)	漏斗状	-	人瓦	土師質土器	SD252→本跡
197	H 3h2	N-61°-E	[楕円形]	1.65 × 1.48	(183)	漏斗状	-	人瓦	-	-
198	I 3b1	-	[円形]	1.60 × 1.57	(157)	漏斗状	-	人瓦	陶器	-
199	I 3d0	-	[円形]	1.30 × 1.20	(154)	円筒状	-	人瓦	-	-
200	G 3g3	N-32°-W	[楕円形]	2.40 × 2.24	(164)	漏斗状	-	人瓦	土師質土器 陶器	-
202	H 2h7	N-50°-W	[楕円形]	(1.84) × (1.46)	(180)	漏斗状	-	人瓦	土師質土器	SK2419→本跡→ SD166
203	I 2a6	-	[円形]	1.28 × 1.23	(175)	円筒形	-	人瓦	土師質土器 鉄滓	-
204	I 2d0	N-5°-W	[楕円形]	1.62 × 1.22	(170)	円筒形	平坦	人瓦	-	SD124→本跡 SE36と重複
205	H 2g5	N-31°-E	[楕円形]	2.62 × (2.38)	(120)	漏斗状	-	人瓦	陶器	本跡→SD257・275 U737と重複
206	I 2a4	-	[円形]	2.60 × 2.57	(129)	漏斗状	-	人瓦	土師質土器	-
210	J 5a7	-	[円形]	(1.42) × (1.26)	(253)	漏斗状	-	人瓦	土師質土器 瓦質土器 陶器 須口 陶炊埴	SK2781→本跡→ SK2777 SD286と重複
211	J 5a8	-	[円形]	[1.60] × 1.52	(242)	漏斗状	-	人瓦	-	本跡→IVG62P1・ P12
212	I 5b9	不 明	[円形] [楕円形]	(1.26) × (0.91)	(200)	漏斗状	-	人瓦	土師質土器	-
213	I 5g9	N-2°-E	[楕円形]	(0.64) × (0.58)	(213)	円筒状	圓状	人瓦	土師質土器	本跡→SD72
214	J 5a3	N-5°-E	[楕円形]	0.86 × 0.71	182	円筒状	平坦	人瓦	-	-
215	I 5j3	N-74°-W	[楕円形]	0.51 × 0.44	155	円筒状	平坦	自然 人瓦	-	SD293→本跡
216	I 5b7	-	[円形]	[1.96] × [1.87]	(272)	漏斗状	-	人瓦	-	本跡→SD289
217	G 2j7	N-12°-E	[楕円形]	1.30 × 1.25	(220)	円筒状	-	人瓦	-	-
224	J 2d9	-	[円形]	1.84 × 1.62	192	円筒状	-	人瓦	土師質土器	本跡→第7号土 坑底

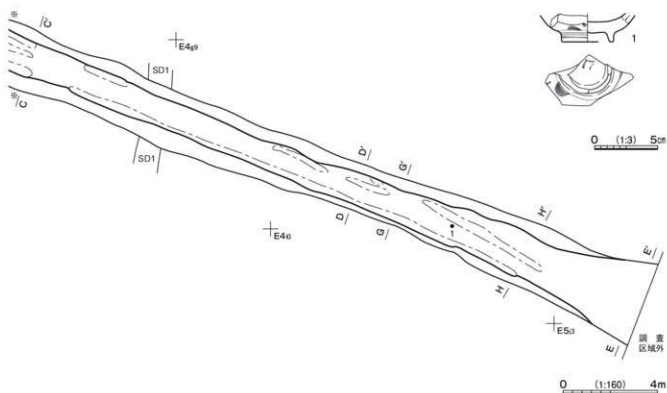
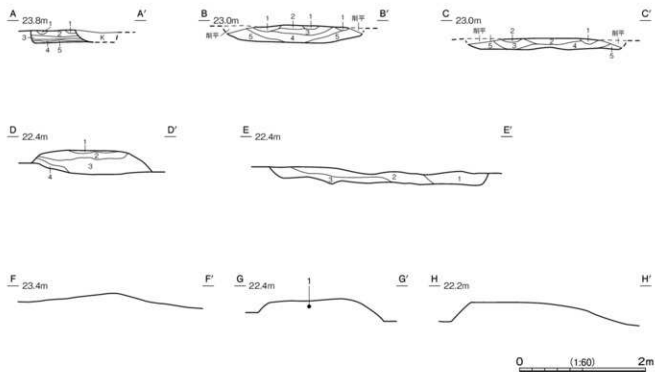
(7) 道路跡

第1号道路跡 (第256・257図 第155表 PL71)

位置 調査区A区北部のE3c0～E5j3区、標高22～23mの台地平坦部に位置している。



第256図 第1号道路跡実測図



第 257 图 第 1 号道路迹·出土文物实测图

重複関係 第1・2・4・5号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認できた範囲では、切り土によりハードローム層まで掘り込み、断面形は浅いU字状である。東・西側が調査区域外のため、確認できた長さは29.72 m、幅は0.64～2.12 mで、平均1.38 mである。E 3 c0 からE 4 e3区まで直線状に延び、その先は緩やかに湾曲して東側へ直線状に延びている。北西側から南東側に向かって緩やかに下っている。

構築土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含んだ褐色系の土を充填しており、硬く締まっている。路面は蒲鉾状であるが、壁から中心に向かって堆積している状況から、路側は削平されている。路面には轍状の硬化面が顕著にみられた。

遺物出土状況 陶器片27点（碗）、磁器片25点（碗）、瓦片6点（平瓦）が構築土内から出土している。

所見 構築時期は、出土陶磁器から18世紀後葉～19世紀前葉と考えられる。

第155表 第1号道路路出土遺物一覧（第257図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	磁器	碗	—	(23)	—	緻密・ 明オリーブ灰	染付 唐様 体部梅花文 高台内記号	下部面線 高台部二重	透明軸 肥前	構築土第2層	30% PL71

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 11 Pro
	編集	Adobe InDesign 2025
	図版作成	Adobe Illustrator 2025
	写真調整	Adobe Photoshop 2025
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL、太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign 2025 でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第476集

つくば市

島名本田遺跡 3

島名・福田坪一体型特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXX

上巻

令和7（2025）年 3月21日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <https://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 柳あけほの印刷社
〒310-0804 水戸市白梅1-2-11
TEL 029-227-8284